

大学等名	津田塾大学
プログラム名	総合政策学部データサイエンス応用基礎プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 申請単位

学部・学科単位のプログラム

③ 教育プログラムの修了要件

② 対象となる学部・学科名称

総合政策学部

④ 修了要件

「データ・サイエンス入門」「統計A」「統計B」「プログラミング基礎」「アルゴリズム」「経営情報システム」(5科目、10単位)すべてで単位修得し、「データ政策科学」「インターネット概論」「プログラミング実践」「プログラミング入門」「経済分析」「多変量解析と公的統計」「アプリケーション開発」「計算社会科学」から1科目2単位以上修得すること。
※「計算社会科学」は令和6年度より選択科目に追加。

必要最低単位数

12

単位

履修必須の有無

令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

⑤ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
統計A	2	○	○										
統計B	2	○	○										
プログラミング基礎 アルゴリズム	2	○	○	○	⊖	○							
インターネット概論	2				○								
プログラミング実践 プログラミング入門	2			○	○	○							

⑥ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
データ・サイエンス入門	2	○		○		○	○	○			計算社会科学	2		○	○	○	○		○		
統計A	2	○		○																	
プログラミング基礎 アルゴリズム	2	○				○		○													
統計B	2	○		○				○		⊖											
経営情報システム	2	○	○		○	○	⊖	○	○	○											
データ政策科学	2		○		○	○	○	○		○											
経済分析	2			○																	
プログラミング実践 プログラミング入門	2							○	○												
アプリケーション開発	2				○																

⑦ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
データ・サイエンス入門	2	○			
統計A	2	○			
プログラミング基礎 アルゴリズム	2	○			
統計B	2	○			
経営情報システム	2	○			
データ政策科学	2				
プログラミング実践 プログラミング入門	2				
多変量解析と公的統計	2				
計算社会科学	2				

⑧ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	平均、分散「統計A」(第3回)、相関係数、相関関係と因果関係「統計A」(第5,6回) 確率分布、正規分布「統計A」(第9,10回)、カイニ乗検定、t検定「統計A」(第11,12回)・「統計B」(第1,2回)、 ベイズの定理とその応用「プログラミング基礎 アルゴリズム」(第15回)
	1-7	アルゴリズムの表現(フローチャート)「 プログラミング基礎 アルゴリズム 」(第1,3,5回) 探索アルゴリズム「 プログラミング基礎 アルゴリズム 」(第10回) ソートアルゴリズム「 プログラミング基礎 アルゴリズム 」(第11,12回)、 アルゴリズムの理解「 プログラミング実践 プログラミング入門 」(第2回)
	2-2	コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「インターネット概論」(第3,5,6回)、「 プログラミング実践 プログラミング入門 」(第11,12回) 情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「インターネット概論」(第3回) 配列、グラフ「アルゴリズム」(第3～4回) 画像の符号化、画素(ピクセル)、色の3要素(RGB)「インターネット概論」(第15回)
	2-7	文字型「 プログラミング基礎 アルゴリズム 」(第9回)、変数「 プログラミング基礎 アルゴリズム 」(第3回)、関数、引数、戻り値「 プログラミング基礎 アルゴリズム 」(第4,8回)、「 プログラミング実践 プログラミング入門 」(第5,6回)、順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「 プログラミング基礎 アルゴリズム 」(第5回)、「 プログラミング実践 プログラミング入門 」(第3,4回)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	データ駆動型社会、Society5.0「データ政策科学」(第1,2回) データを活用した新しいビジネスモデル「データ政策科学」(第3～5回)、「経営情報システム」(第1～4回)、「 計算社会科学(第1回)
	1-2	分析目的の設定、データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データ・サイエンス入門」(第3回)、「経営情報システム」(第4回)「統計A」(第1～4回)、様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「データ・サイエンス入門」(第15回)「統計A」(第13,14回)「統計B」(第3回～第6回、第11回・第12回)「経済分析」(第3～6回) 様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「データ・サイエンス入門」(第5～7回、第11～13回)「統計A」(第7,8回)、データの収集、加工、分割/統合「統計B」(第7,8回)、「 計算社会科学(第3,4回)
	2-1	ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「データ政策科学」(第1,2回)、「アプリケーション開発」(第1回) ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「データ政策科学」(第6,7回)、「経営情報システム」(第6回)、「アプリケーション開発」(第10～12回)、ビッグデータ活用事例「データ政策科学」(第3～5回)「経営情報システム」(第2,3回) 人の行動ログデータ「データ政策科学」(第13～16回)、「 計算社会科学(第13,14回)
	3-1	AIの歴史と応用分野「データ・サイエンス入門」(第15回)、「 プログラミング基礎 アルゴリズム 」(第13回)、「データ政策科学」(第1,2回)、「経営情報システム」(第1～3回)、「 計算社会科学(第11回) AI技術の活用領域の広がり「データ・サイエンス入門」(第15回)、「 プログラミング基礎 アルゴリズム 」(第13回)、「データ政策科学」(第1,2回)、「経営情報システム」(第1～3回)、「 計算社会科学(第11回)
	3-2	プライバシー保護、個人情報の取り扱い「データ・サイエンス入門」(第15回)、「 経営情報システム(第5回) 」、「データ政策科学」(第11,12回)
	3-3	実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など)「データ・サイエンス入門」(第15回)、「データ政策科学」(第1,2回)、「経営情報システム」(第1～3回) 機械学習、教師あり学習、教師なし学習「統計B」(第13,14回)、「 プログラミング基礎 アルゴリズム 」(第13～16回)「 計算社会科学(第11,12回) 」、「 プログラミング実践 プログラミング入門 」(第9回)、学習データと検証データ、過学習「統計B」(第13,14回)
	3-4	実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「経営情報システム」(第1～3回)、「 プログラミング実践 プログラミング入門 」(第10～13回)
	3-9	AIの学習と推論、評価、再学習「統計B」(第13、14回) 、AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み「データ政策科学」(第3～5回)、「経営情報システム」(第1～4回)

(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実施・評価」から構成される。	I	・分析手法の実践 「データ・サイエンス入門」(第1～16回)、「統計A」(第1～16回)、「統計B」(第1～16回)、「 計算社会科学 」(第1～16回):授業は講義・演習とセットで行われる。演習においてデータ分析を実践する。 ・実践的なプログラミング実習「 プログラミング基礎 アルゴリズム 」(第1～16回)、「 プログラミング実践 プログラミング入門 」(第1～16回)、「アプリケーション開発」(第1～18回): 授業は講義・演習とセットになっており、演習において実際実践的なプログラミングを修得する。単なる開発にとどまらず、上流設計から開発、テストの一連のプロセスを経験する。
	II	・公的統計データを用いた実践的なデータ分析演習:「多変量解析と公的統計」(第1～18回) 公的統計データを用い、必要なデータの加工・分析を行うためのソフトRのプログラミングスキルを身につけるとともに、多変量解析手法について理解を深める。演習ではグループワークも取り入れる。 ・ビッグデータを用いた演習「データ政策科学」(第13～18回):イベントの人流データを分析し政策立案のための実践的な演習を行う。論文、公的統計などを調査研究し科学的根拠データに基づく地方創生、地域活性化の企画立案を行う。 ・企業見学を含めた実践の場の提供:「経営情報システム」(第1～ 16 18 回) IT企業での学外実習(会社見学)を行い、AI、データ、セキュリティなどが実用化されている事例を学ぶ。さらに、PBL、グループワーク形式でアプリの開発演習を行う。

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

政策やビジネス場面での課題解決におけるデータサイエンスの利活用方法について実践的に習得することで、データを用いた課題解決を考案し、実施する能力を身につける。統計分析や機械学習の基礎数理やプログラミング理論の学習と合わせて、統計解析ソフトRやプログラミング言語pythonを用いた実践力も身につける。実際に社会で活用されている事例を用いた解説も交えることで、各自が設定した課題に対してデータサイエンスを活用した解決策やビジネスモデルの提案や実践までを行う人材を育成する。

大学等名 **津田塾大学**

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) **100-105** 人 (非常勤) **444 457** 人② プログラムの授業を教えている教員数 **18 15** 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) **森川 美絵**(役職名) **総合政策学部長**

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

総合政策学部データサイエンス応用基礎プログラムワーキンググループ(責任者名) **伊藤由希子 奥脇奈津美**(役職名) **総合政策学科主任**

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

津田塾大学総合政策学部データサイエンス応用基礎プログラム 運営ワーキンググループに関する内規

⑥ 体制の目的

現代社会にはあらゆる課題が山積している。これからの時代に求められるのは、こうした課題を解決する力であることから、総合政策学部では課題解決能力を培う土台として「英語」「ソーシャル・サイエンス」「データ・サイエンス」を必修とし、PBL(課題解決型学習)の手法を活用しながら、学生自ら課題を発見し、その解決に向けて調査・研究を行うといった主体的な学びを展開している。

本学学科会議規程第2条には「学科の将来計画に関すること」「学科の教育課程に関すること」については学科会議にて審議すると規定されており、本規程に基づき総合政策学部データサイエンス応用基礎プログラムの改善・進化に関する審議を行う。なお、検討を機動的に行うため運営ワーキンググループ(WG)を設置し、プログラムの改善・進化のための企画・立案、科目の具体的な内容を検討する。

⑦ 具体的な構成員

(2024年度)(2023年度)

総合政策学部データサイエンス応用基礎プログラム運営ワーキンググループ構成員

総合政策学科主任 **伊藤由希子** —**奥脇奈津美**

総合政策学部教授 新海 尚子

総合政策学部教授 深谷 健

総合政策学部准教授 鈴木 貴久

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	31%	令和5年度予定	58%	令和6年度予定	86%
令和7年度予定	100%	令和8年度予定		収容定員(名)	440
具体的な計画					
毎年オンデマンド形式の説明会(新入生向け、在学生向け)を実施する。データサイエンスの重要性については初年度の必修の科目などでも度々説明され、データサイエンスを学習することを促している。データサイエンス系科目(必修:データ・サイエンス入門、統計A、統計B、選択:プログラミング基礎 アルゴリズム、経済分析、計算社会科学)は、いずれも演習が行われ、その内容についてTAや上級生メンターに相談することができる体制が整っており、苦手意識を持つ学生の学習も促すことが可能となっている。それ以外の選択科目でも演習などが行われ、各自の到達レベルを確認可能な仕組みがある。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

津田塾大学総合政策学部は総合政策学科1学科で構成されている。3年次に4つの課題領域(コース)を選択し専門的な科目を学ぶことになるが、1年次において「データ・サイエンス」に関する科目(データ・サイエンス入門、統計A、B、)6単位が必修となっており、本プログラムの認定に必要な必須な6科目のうち3科目が必修となっている。また、本プログラム認定に必要な選択科目はコース選択に関わらず履修できるようになっており、希望する学生全員が受講可能な体制となっている。
--

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

毎年オンデマンド形式の説明会(新入生向け、在学生向け)を実施する。データサイエンスの重要性については初年度の必修の科目などでも度々説明され、データサイエンスを学習することを促している。このほか、本学公式ウェブサイト、学部のSNSにて告知を行うとともに本学ポータルサイト「TsudaNet」を利用し学生への一斉メール送信によって告知を行う。
--

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

総合政策学部ではデータサイエンスを必修科目としており、一年次から基礎から体系的に学習できるようになっている。データサイエンスやそれ以外の科目の中で、データサイエンスの重要性や活用可能性が説明されると共に、本プログラムを修得するまでの履修の流れが説明される。また、⑫で後述するように、授業時間内外において授業内容に対する質問を受け付ける仕組みを提供していることを徹底的に周知しており、苦手意識を持っている学生でも科目の履修と修得を支援するサポート体制が整っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

演習付きの科目ではTAを配置し、授業時間の前後に授業内容や演習課題についての質問を行うことができる。また、学生はデータサイエンスに特化した上級生メンター制度も設けており、毎日相談コーナーを開催している。受講生は予約等することなしに、不明点などを自由に相談することができる。教員のオフィスアワーにも、相談や質問を行うことができるほか、LMS上のチャット機能や会議機能を用いた質問にも対応している。



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

- 基本情報／Basic Information
- 詳細情報／Detailed Information
- 授業計画詳細情報／Class Schedule Details

基本情報／Basic Information

開講科目名 ／Course	データ・サイエンス入門／Introduction to Data Science		
時間割コード ／Course Code	41A01		
ナンバリングコード ／Numbering Code	IFM1001		
開講所属 ／Course Offered by	総合政策学部／College of Policy Studies		
ターム・学期 ／Term・Semester	2024年度／Academic Year 第1ターム／T1		
曜限 ／Day, Period	木／Thu 1, 木／Thu 2		
開講区分 ／semester offered	第1ターム／T1		
単位数 ／Credits	2.0		
学年 ／Year	1,2,3,4		
主担当教員 ／Main Instructor	小舘 亮之／KODATE AKIHISA		
科目区分 ／Course Group	必修科目 基礎科目：データ・サイエンス／REQUIRED SUBJECTS 基礎科目：データ・サイエンス		
教室 ／Classroom	SA305／SA305		

担当教員情報／Instructor Information

教員名 ／Instructor	教員所属名 ／Affiliation
小舘 亮之／KODATE AKIHISA	総合政策学科

閉じる

授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information		詳細情報／Detailed Information	授業計画詳細情報／Class Schedule Details
講義の目的と内容 ／Course Purpose and Content	「データ・サイエンス」は、本学科において、「英語」「ソーシャル・サイエンス」とともに課題解決能力を培う土台となる3つの基礎科目の1つである。 「データ・サイエンス」は、収集されたデータを科学的に分析し、課題を具体的に特定するために必要なスキルであり、本学科では、1-2年次の2年間にわたって、演習付科目として演習課題に取り組みながら実践的に学ぶ。 本科目は、1年次第3タームの「統計A(演習付)」、1年次第4タームの「統計B（演習付）」へ連なる基礎的な科目であり、以下の3つのスキルの基礎について、コンピュータを用いて実践的に学ぶ。 ・データを読む（理解する、評価する）スキル ・データから情報を生成する（データを適切に取り扱い、分析する）スキル ・情報を伝える（整形する、表現する）スキル		
	本学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に以下の2つの力 ・データを活用して、社会の実態や諸課題に対する客観的な調査・分析・評価をおこなう能力 ・分析によって得られた社会的課題の要点やその解決案を適切かつ論理的に提示し、伝達する能力 ・社会的な課題に対して具体的な解決策を構想する力と、それを実現するための行動力の基礎力を身につけることを目標に、下記の事項を着実に達成することを目指す。 ・コンピュータについての基礎知識と基本的な使い方を身につけること ・データを読む（理解する、評価する）ための基礎的なスキルを身につけること ・データから情報を生成する（分析し、結果を整理する）ための基礎的なスキルを身につけること ・情報を伝える（整形する、表現する）ための基礎的なスキルを身につけること		
	テキスト ／Textbooks		
	参考書 ／Reference Books		
	準備学習（予習・復習等）の内容 ／Supplementary Individual Study		
評価方法・基準 ／Evaluation Method	1. 講義・演習における平常点: 10% 2. 演習課題（原則として全ての課題を提出する）: 40% 3. 期末試験: 50% ※出席は原則として全体の3分の2以上必要である。 演習課題はオンラインでの提出とする。 また、課題を遅刻で提出した場合は減点対象とする。		
	課題に対するフィードバック ／Task Feedback		
	オフィスアワー ／Office Hours		
	授業の特色 ／Characteristics of Class		
	PBLの実施 ／PBL implementation		
実施内容 ／Incorporate PBL	ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate		
	実施内容 ／Incorporate discussion or debate		
	プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation		
	実施内容 ／Incorporate presentation		
	反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching		
実施内容 ／Incorporate flip teaching	グループワークの実施 ／Incorporate group work		
	実施内容 ／Incorporate group work		
	実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork		

	実施内容 ／Incorporate practical training or fieldwork	実施する・Y e s
	実技、実験の実施 ／Incorporate practice or experiment	
	実施内容 ／Incorporate practice or experiment	
使用言語 ／Language	日本語 / Japanese	
その他 ／Note	ノートPCを利用するので、毎回必ず持参すること。	

閉じる

授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

N o.	回（日時） ／Time (date and time)	主題と内容 ／Subjects and contents	学習方法 ／Methods	備考 ／Notes	授業方法 ／Class format
1	第1回 / Class 1	オリエンテーション ・コンピュータとは ・AIとは ・社会におけるデータ・AIの活用について ・課題の提出方法について ・Microsoft Excel: 基本操作			対面授業/Face-to-face classes
2	第2回 / Class 2	1回目の授業内容に関する演習課題			対面授業/Face-to-face classes
3	第3回 / Class 3	データリテラシー（その1） ・データと情報 ・社会調査 ・ソーシャルメディアとビッグデータ ・母集団と標本抽出（その1） ・Microsoft Excel: データの入力と編集			対面授業/Face-to-face classes
4	第4回 / Class 4	3回目の授業内容に関する演習課題			対面授業/Face-to-face classes
5	第5回 / Class 5	データリテラシー（その2） ・データの種類 ・変数と値、尺度について ・度数分布表 ・グラフによるデータの表現 ・Microsoft Excel: 数式と関数 ・Microsoft Excel: 覚えておくと便利な基本関数			対面授業/Face-to-face classes
6	第6回 / Class 6	5回目の授業内容に関する演習課題			対面授業/Face-to-face classes
7	第7回 / Class 7	データリテラシー（その3） ・指数と対数 ・データの分布と代表値 ・基本統計量について ・外れ値とは ・データクレンジングとは ・Microsoft Excel: グラフの描画			対面授業/Face-to-face classes
8	第8回 / Class 8	7回目の授業内容に関する演習課題			対面授業/Face-to-face classes
9	第9回 / Class 9	データリテラシー（その4） ・データのばらつき（その1） ・母集団と標本抽出（その2） ・Microsoft Excel: データの分析と関数 ・統計解析向けプログラミング言語：R			対面授業/Face-to-face classes
10	第10回 / Class 10	9回目の授業内容に関する演習課題			対面授業/Face-to-face classes
11	第11回 / Class 11	データリテラシー（その5） ・データのばらつき（その2） ・度数分布とクロス集計（その1） ・相関と因果（その1）			対面授業/Face-to-face classes
12	第12回 / Class 12	11回目の授業内容に関する演習課題			対面授業/Face-to-face classes
13	第13回 / Class 13	データリテラシー（その6） ・散布図 ・相関と因果（その2） ・相関・単回帰分析（その1）			対面授業/Face-to-face classes
14	第14回 / Class 14	13回目の授業内容に関する演習課題			対面授業/Face-to-face classes
15	第15回 / Class 15	データリテラシー（その7） ・相関・単回帰分析（その2） 社会におけるデータ・AI活用 ・社会とデータサイエンス、データ駆動型社会 ・ビッグデータと機械学習			対面授業/Face-to-face classes

		データ・AI活用における留意事項 ・個人情報保護、GDPR、忘れられる権利 ・データ倫理			
16	第16回 / Class 16	15回目の授業内容に関する演習課題			対面授業/Face-to-face classes
17	第17回 / Class 17	定期試験			対面授業/Face-to-face classes

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

- 基本情報／Basic Information
- 詳細情報／Detailed Information
- 授業計画詳細情報／Class Schedule Details

基本情報／Basic Information

開講科目名 ／Course	統計 A／Statistics A		
時間割コード ／Course Code	23N09		
ナンバリングコード ／Numbering Code	IFM1024		
開講所属 ／Course Offered by	総合政策学部／College of Policy Studies		
ターム・学期 ／Term・Semester	2024年度／Academic Year 第3ターム／T3		
曜限 ／Day, Period	火／Tue 3, 火／Tue 4		
開講区分 ／semester offered	第3ターム／T3		
単位数 ／Credits	2.0		
学年 ／Year	1,2,3,4		
主担当教員 ／Main Instructor	鈴木 貴久／SUZUKI TAKAHISA		
科目区分 ／Course Group	必修科目 基礎科目：データ・サイエンス／REQUIRED SUBJECTS 基礎科目：データ・サイエンス		
教室 ／Classroom	SA305／SA305		

担当教員情報／Instructor Information

教員名 ／Instructor	教員所属名 ／Affiliation
鈴木 貴久／SUZUKI TAKAHISA	総合政策学科

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information		詳細情報／Detailed Information	授業計画詳細情報／Class Schedule Details
講義の目的と内容 ／Course Purpose and Content	社会が抱える課題の解決に向けて、客観的なデータから導かれる根拠に基づいた議論の必要性が高まっている。特に、人々の行動記録や社会調査によって得られる量的なデータを分析し、社会の実態を把握することは不可欠である。本科目では、基礎的な統計的分析手法の理解とその実践方法を習得し、現実社会の中で収集される様々なデータに対して統計的な手法を適用できるようになることを目指す。 本科目では講義形式と演習形式の授業を交互に行う。講義形式の授業では基礎的な統計的手法について具体例を用いつつ解説する。演習形式の授業では、講義に対応した内容について統計解析ソフトRを用いて実際に分析を行い、分析の結果について正しく説明する能力を養う。		
授業の到達目標 ／Learning Objectives	1. 統計の基礎的な概念について理解すること 2. 統計解析ソフトの使い方を習得すること 3. 統計的分析を行えるようになること 4. 自らデータを取得し、適切な分析を行えるようになること（社会の実態や諸課題に対する客観的な調査・分析・評価を行う能力を身につける） 5. 分析結果が何を意味するのかを説明できるようになること（社会課題の要点やその解決策を適切かつ論理的に示し、伝達する能力を身につける）		
テキスト ／Textbooks			
参考書 ／Reference Books	【全体】 山田剛史, 杉澤武俊, 村井潤一郎 著, Rによるやさしい統計学, オーム社, 2008年 【Rの操作について】 Jared P. Lander 著, Tokyo.R 著, 高柳慎一 訳, 牧山幸史 訳, 簗田高志 訳, みんなのR ; データ分析と統計解析の新しい教科書, マイナビ出版, 2015年 金城俊哉 著, R統計解析パーフェクトマスター, 秀和システム, 2017年 【入門者向け】 小島寛之 著, 完全独習 統計学入門, ダイアモンド社, 2006年 石井俊全 著, 意味がわかる統計学, ベレ出版, 2012年 【理論的背景】 東京大学教養学部統計学教室 編, 統計学入門（基礎統計学）, 東京大学出版会, 1991年		
準備学習（予習・復習等）の内容 ／Supplementary Individual Study	毎回の講義と演習は、前回の内容を理解していることが前提で行われる。次の回までに講義の復習と演習中に出される課題を解いておくこと（180分）。		
評価方法・基準 ／Evaluation Method	毎週のレポート（60%） 期末試験（40%）		
課題に対するフィードバック ／Task Feedback	授業内で解説する		
オフィスアワー ／Office Hours	火曜昼休み（12:00～13:00）千駄ヶ谷キャンパスSA520 オンラインでの質問や、授業後の質問も受け付ける		
授業の特色 ／Characteristics of Class	PBLの実施 ／PBL implementation	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate PBL		
	ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate discussion or debate		
	プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate presentation		
	反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate flip teaching		
	グループワークの実施 ／Incorporate group work	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate group work		
	実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate practical tra		

	ining or fieldwork	実施する・Y e s
	実技、実験の実施 ／Incorporate practice or experiment	
	実施内容 ／Incorporate practice or experiment	
使用言語 ／Language	日本語 / Japanese	
その他 ／Note	ノートPCを利用するので、毎回必ず持参すること。 レポートは全て提出すること。	

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

N o.	回 (日時) ／Time (date and time)	主題と内容 ／Subjects and contents	学習方法 ／Methods	備考 ／Notes	授業方法 ／Class format
1	第1回 / Class 1	イントロダクション 統計が用いられる場面、統計を学習することの意義について理解する。			対面授業/Face-to-face classes
2	第2回 / Class 2	〈演習〉データの操作 Rの基礎的な操作、データ処理を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
3	第3回 / Class 3	記述統計（その1） 平均や分散について理解する。			対面授業/Face-to-face classes
4	第4回 / Class 4	〈演習〉記述統計の出力（その1） Rを用いて記述統計を出力する方法を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
5	第5回 / Class 5	記述統計（その2） 二変数の関連や相関の概念について理解する。			対面授業/Face-to-face classes
6	第6回 / Class 6	〈演習〉記述統計の出力（その2） 二変数のクロス表と相関係数を出力する方法を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
7	第7回 / Class 7	データの可視化 グラフ描画方法について理解する。			対面授業/Face-to-face classes
8	第8回 / Class 8	〈演習〉グラフの作成 様々なデータに対して適切なグラフの作成方法を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
9	第9回 / Class 9	確率分布 確率分布や標本などについて理解する。			対面授業/Face-to-face classes
10	第10回 / Class 10	〈演習〉確率の計算 確率分布の可視化や確率の計算について習得する。			対面授業/Face-to-face classes
11	第11回 / Class 11	検定 χ^2 検定やt検定などについて理解する。			対面授業/Face-to-face classes
12	第12回 / Class 12	〈演習〉検定の実施 χ^2 検定やt検定などの実施方法を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
13	第13回 / Class 13	回帰分析 回帰分析について理解する。			対面授業/Face-to-face classes
14	第14回 / Class 14	〈演習〉回帰分析 回帰分析の実施方法を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
15	第15回 / Class 15	講義のまとめ これまでの講義で解説した手法で明らかにできる範囲を理解する。			対面授業/Face-to-face classes
16	第16回 / Class 16	〈演習〉演習のまとめ これまでの演習で習得した手法を組み合わせ、複数の側面からデータを分析する方法を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
17	第17回 / Class 17	定期試験			対面授業/Face-to-face classes
18	第18回 / Class 18	定期試験			対面授業/Face-to-face classes

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

- 基本情報／Basic Information
- 詳細情報／Detailed Information
- 授業計画詳細情報／Class Schedule Details

基本情報／Basic Information

開講科目名 ／Course	統計 B／Statistics B
時間割コード ／Course Code	51R01
ナンバリングコード ／Numbering Code	IFM1025
開講所属 ／Course Offered by	総合政策学部／College of Policy Studies
ターム・学期 ／Term・Semester	2024年度／Academic Year 第4ターム／T4
曜限 ／Day, Period	金／Fri 1, 金／Fri 2
開講区分 ／semester offered	第4ターム／T4
単位数 ／Credits	2.0
学年 ／Year	1,2,3,4
主担当教員 ／Main Instructor	鈴木 貴久／SUZUKI TAKAHISA
科目区分 ／Course Group	必修科目 基礎科目：データ・サイエンス／REQUIRED SUBJECTS 基礎科目：データ・サイエンス
教室 ／Classroom	SA305／SA305

担当教員情報／Instructor Information

教員名 ／Instructor	教員所属名 ／Affiliation
鈴木 貴久／SUZUKI TAKAHISA	総合政策学科

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information	詳細情報／Detailed Information	授業計画詳細情報／Class Schedule Details
------------------------	---------------------------	---------------------------------

講義の目的と内容 ／Course Purpose and Content	社会が抱える課題の解決に向けて、客観的なデータから導かれる根拠に基づいた議論の必要性が高まっている。特に、人々の行動記録や社会調査によって得られる量的なデータを分析し、社会の実態を把握することは不可欠である。本科目では、統計Aに引き続き基礎的な統計的分析手法の理解を深め、その実践範囲を広げる。現実社会の中で収集される多様な形式のデータに対して適切な統計的分析が行えるようになることを目指す。 本科目では講義形式と演習形式の授業を交互に行う。講義形式の授業では各種統計の手法について具体例を用いつつ解説する。演習形式の授業では、講義に対応した内容について統計解析ソフトRを用いて実際に分析を行い、分析の結果について正しく説明する能力を養う。	
授業の到達目標 ／Learning Objectives	1. 統計の様々な手法について理解すること 2. データに合った統計的分析手法を選択し、自ら行えるようになること 3. 自らデータを取得し、適切な分析を行えるようになること（社会の実態や諸課題に対する客観的な調査・分析・評価を行う能力を身につける） 4. 分析結果が何を意味するのかを説明できるようになること（社会課題の要点やその解決策を適切かつ論理的に示し、伝達する能力を身につける）	
テキスト ／Textbooks		
参考書 ／Reference Books	山田剛史, 杉澤武俊, 村井潤一郎 著, Rによるやさしい統計学, オーム社, ISBN-13: 978-4274067105, 2008年 Jared P. Lander 著, Tokyo.R 著, 高柳慎一 訳, 牧山幸史 訳, 養田高志 訳, みんなのR ; データ分析と統計解析の新しい教科書, マイナビ出版, ISBN-13: 978-4839955212, 2015年 Brett Lantz 著, 長尾高弘 訳, Rによる機械学習, 翔泳社, ISBN-13: 978-4798145112, 2017年 今井耕介, 社会科学のためのデータ分析入門, 岩波書店, ISBN-13: 978-4000612456, 2018年	
準備学習（予習・復習等）の内容 ／Supplementary Individual Study	毎回の講義と演習は、前回の内容を理解していることが前提で行われる。次の回までに講義の復習と演習中に出される課題を解いておくこと（180分）。	
評価方法・基準 ／Evaluation Method	学期末試験40% レポート60%	
課題に対するフィードバック ／Task Feedback	授業内で解説する	
オフィスアワー ／Office Hours	火曜昼休み（12:00~13:00）千駄ヶ谷キャンパスSA520 オンラインでの質問や、授業後の質問も受け付ける	
授業の特色 ／Characteristics of Class	PBLの実施 ／PBL implementation	実施しない・No
	実施内容 ／Incorporate PBL	
	ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate	実施しない・No
	実施内容 ／Incorporate discussion or debate	
	プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation	実施しない・No
	実施内容 ／Incorporate presentation	
	反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	実施しない・No
	実施内容 ／Incorporate flip teaching	
	グループワークの実施 ／Incorporate group work	実施しない・No
	実施内容 ／Incorporate group work	
	実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork	実施しない・No
	実施内容 ／Incorporate practical training or fieldwork	
	実技、実験の実施 ／Incorporate practice or experiment	実施する・Yes
	実施内容 ／Incorporate practice or	統計解析ソフトウェアRを用いた分析を行う。

	experiment	
使用言語 /Language	日本語 / Japanese	
その他 /Note	ノートPCを利用するので、毎回必ず持参すること。 レポートは全て提出すること。	

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

N o.	回 (日時) ／Time (date and time)	主題と内容 ／Subjects and contents	学習方法 ／Methods	備考 ／Notes	授業方法 ／Class format
1	第1回 / Class 1	統計Aの復習 1 統計Aで学習した内容の復習を行い、その注意点について理解する。 平均値、分散、標準偏差、検定 (t検定、カイ二乗検定)			対面授業/Face-to-face classes
2	第2回 / Class 2	(演習) Rによる検定の実施 Rを用いて各種検定 (t検定、カイ二乗検定) の実施方法を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
3	第3回 / Class 3	重回帰分析 重回帰分析について理解する。			対面授業/Face-to-face classes
4	第4回 / Class 4	(演習) 重回帰分析 Rを用いて重回帰分析の実施方法を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
5	第5回 / Class 5	離散変数の回帰分析 (ロジスティック回帰) 従属変数が離散型である場合の回帰分析について理解する。			対面授業/Face-to-face classes
6	第6回 / Class 6	(演習) 離散変数の回帰分析 (その2) ロジスティック回帰の実施方法を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
7	第7回 / Class 7	データ分析の実践 実際のデータを分析する際の注意点について理解する。			対面授業/Face-to-face classes
8	第8回 / Class 8	(演習) データの取得と分析 データの取得、データクリーニング、分析、結果報告の一連の作業を行う。			対面授業/Face-to-face classes
9	第9回 / Class 9	分散分析 分散分析について理解する。			対面授業/Face-to-face classes
10	第10回 / Class 10	(演習) 分散分析 分散分析の実施方法を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
11	第11回 / Class 11	クラスター分析 クラスター分析について理解する。			対面授業/Face-to-face classes
12	第12回 / Class 12	(演習) クラスター分析 クラスター分析の実施方法を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
13	第13回 / Class 13	機械学習 機械学習の考え方を理解する。 決定木、SVM			対面授業/Face-to-face classes
14	第14回 / Class 14	(演習) 機械学習 機械学習 (決定木) の実施方法を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
15	第15回 / Class 15	講義のまとめ これまでの講義で解説した手法で明らかにできる範囲を理解する。			対面授業/Face-to-face classes
16	第16回 / Class 16	(演習) 演習のまとめ これまでの演習で習得した手法を組み合わせ、複数の側面からデータを分析する方法を習得する。			対面授業/Face-to-face classes
17	第17回 / Class 17	定期試験			対面授業/Face-to-face classes
18	第18回 / Class 18	定期試験			対面授業/Face-to-face classes

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

- 基本情報／Basic Information
- 詳細情報／Detailed Information
- 授業計画詳細情報／Class Schedule Details

基本情報／Basic Information

開講科目名 ／Course	プログラミング基礎／Fundamentals of Programming		
時間割コード ／Course Code	14N02		
ナンバリングコード ／Numbering Code	IFM2031		
開講所属 ／Course Offered by	総合政策学部／College of Policy Studies		
ターム・学期 ／Term・Semester	2024年度／Academic Year 第3ターム／T3		
曜限 ／Day, Period	月／Mon 4, 月／Mon 5		
開講区分 ／semester offered	第3ターム／T3		
単位数 ／Credits	2.0		
学年 ／Year	2,3,4		
主担当教員 ／Main Instructor	小舘 亮之／KODATE AKIHISA		
科目区分 ／Course Group	選択科目 基幹科目：データ・サイエンス／ELECTIVE SUBJECTS 基幹科目：データ・サイエンス		
教室 ／Classroom	SA305／SA305		

担当教員情報／Instructor Information

教員名 ／Instructor	教員所属名 ／Affiliation
小舘 亮之／KODATE AKIHISA	総合政策学科

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information		詳細情報／Detailed Information	授業計画詳細情報／Class Schedule Details
講義の目的と内容 ／Course Purpose and Content	本講義の目的は、総合政策学を学ぶ大学生が情報技術を活用し、データ分析や政策実装において効果的にプログラミングを利用できる基礎的なスキルを身につけることである。 ビッグデータ時代が到来し、コンピュータはデータを処理するだけでなく、社会のさまざまな現場における意思決定支援のツールとして広く活用されるようになった今、コンピュータの仕組みと採用されているアルゴリズム（「コンピュータで計算や処理を行うときの手順、方法」）について理解するとともに、プログラミングを通してアルゴリズムを表現することは、コンピュータを主体的に利用するために非常に重要になっている。 一般に、問題解決の過程は、1. 問題の発見、2. 問題の分析、3. 問題の抽出、4. 問題の解決 の4段階に分けられる。このうち、コンピュータは 2.問題の分析 と 4. 問題の解決 において、特に活用されてきたが、今後は1. 問題の発見、 3. 問題の抽出においても活用が進んでいくことが予想されている。 本講義では、最初にコンピュータの仕組みと役割、プログラム、OS、プログラミングについて学んだ後、この問題解決の過程の「2. 問題の分析」 に焦点をあて、抽象化によって問題の本質を明確にするためのモデル化の方法、さらにモデルを用いてコンピュータによって問題を解決する手順を示すアルゴリズムの考え方について学ぶ。		
	本学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に以下の2つの力 ・データを活用して、社会の実態や諸課題に対する客観的な調査・分析・評価をおこなう能力 ・分析によって得られた社会的課題の要点やその解決案を適切かつ論理的に提示し、伝達する能力 ・社会的な課題に対して具体的な解決策を構想する力と、それを実現するための行動力の基礎力を身につけることを目標に、下記の事項を着実に達成することを目指す。 1. コンピュータの仕組みと役割について理解すること 2. 簡単なプログラミングを通してプログラミング言語について理解すること 3. アルゴリズムについて理解すること 4. 社会で活用されているアルゴリズムの概要を理解すること 5. 簡単なアルゴリズムを図やプログラミング言語によって説明できること		
テキスト ／Textbooks	「教養のコンピュータサイエンス 情報科学入門 第3版」（丸善出版、2020年）、ISBN: 978-4-621-30503-4 他に、用意した講義資料をオンラインで配布する。		
参考書 ／Reference Books	1. “Scratchではじめよう! プログラミング入門”, 杉浦学(著), 阿部和宏(監修), 日経BP社, ISBN-10: 4822297748, 2015年 2. “いちばんやさしいPython入門教室”, 大澤文孝(著), ソーテック社, ISBN-10: 4800711592, 2017年		
準備学習（予習・復習等）の内容 ／Supplementary Individual Study	課題に取り組むことが次週の講義の準備学習につながるため、課題に取り組むとともに、十分に復習をしてのこと。 ・実施した授業内容についての復習（90分） ・授業内で課す課題についての作業（270分）		
評価方法・基準 ／Evaluation Method	1. 講義・演習における平常点: 10% 2. 演習課題（原則として全ての課題を提出する）: 40% 3. 定期試験: 50% ※出席は原則として全体の3分の2以上必要である。 演習課題はオンラインでの提出とする。 また、課題を遅刻で提出した場合は減点対象とする。		
課題に対するフィードバック ／Task Feedback	授業中に、適宜フィードバックを行うほか、最終授業において全体に対するフィードバックを行う。		
オフィスアワー ／Office Hours	原則として、以下の通りとする。 時間：毎週水曜日お昼休み(12:15-12:45) 場所：アリス・メイベル・バーコン記念館 5 階研究室またはこれに相当するオンライン環境		
授業の特色 ／Characteristics of Class	PBLの実施 ／PBL implementation	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate PBL		
	ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate discussion or debate		
	プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate presentation		
	反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate flip teaching		
	グループワークの実施 ／Incorporate group work	実施しない・No	

	実施内容 ／Incorporate group work	実施しない・No
	実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork	
	実施内容 ／Incorporate practical training or fieldwork	実施する・Yes
	実技、実験の実施 ／Incorporate practice or experiment	
	実施内容 ／Incorporate practice or experiment	授業内で取り上げる例題や課題のプログラミングを行う。
使用言語 ／Language	日本語 / Japanese	
その他 ／Note	ノートPCを利用するので、毎回必ず持参すること。 継続的に学びたい学生には、2年次の第4タームに開講される「プログラミング実践」との継続履修を薦める。 また、3年次の「アプリケーション開発」「経営情報システム」などの関連科目を履修することで継続的に学習を深めることを期待する。	

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

N o.	回 (日時) ／Time (date and time)	主題と内容 ／Subjects and contents	学習方法 ／Methods	備考 ／Notes	授業方法 ／Class format
1	第1回 / Class 1	・オリエンテーション ・ソフトウェアの開発工程 ・アルゴリズムの表現 (フローチャート)			対面授業/Face-to-face classes
2	第2回 / Class 2	・プログラミング言語とは ・Pythonについて ・実習環境の設定 (その1) ・プログラミング実習 (その1)			対面授業/Face-to-face classes
3	第3回 / Class 3	・アルゴリズムとフローチャート ・アルゴリズムの基本構造 ・変数とは ・データ構造 (配列)			対面授業/Face-to-face classes
4	第4回 / Class 4	・Pythonにおける演算子 ・関数と引数と戻り値 (その1) ・実習環境の設定 (その2) ・プログラミング実習 (その2)			対面授業/Face-to-face classes
5	第5回 / Class 5	・アルゴリズムの基本構造 (順次、選択、繰り返し) とフローチャート			対面授業/Face-to-face classes
6	第6回 / Class 6	・Pythonと文字列処理 ・Pythonにおける基本関数 ・制御構文とプログラム (その1) ・プログラミング実習 (その3)			対面授業/Face-to-face classes
7	第7回 / Class 7	・制御構文とプログラム (その2) ・集合と論理 ・論理演算 (論理積和)			対面授業/Face-to-face classes
8	第8回 / Class 8	・関数と引数と戻り値 (その2) ・変数と適用範囲 ・Pythonとモジュール ・オブジェクトとクラス ・プログラミング実習 (その4)			対面授業/Face-to-face classes
9	第9回 / Class 9	・データ構造 ・リストについて ・文字列の操作			対面授業/Face-to-face classes
10	第10回 / Class 10	・2次元リストについて ・辞書型について ・プログラムとエラー ・例外処理について ・探索アルゴリズムについて ・リスト探索、木探索 ・プログラミング実習 (その5)			対面授業/Face-to-face classes
11	第11回 / Class 11	・再帰 ・計算量とは ・整列アルゴリズムについて (その1)			対面授業/Face-to-face classes
12	第12回 / Class 12	・整列アルゴリズムについて (その2) ・選択ソート ・バブルソート ・挿入ソート ・クイックソート ・ヒープソート ・プログラミング実習 (その6)			対面授業/Face-to-face classes
13	第13回 / Class 13	・アルゴリズムの応用 (その1) ・人工知能とは ・機械学習とは ・分類問題の基礎			対面授業/Face-to-face classes
14	第14回 / Class 14	・プログラミング実習 (その7)			対面授業/Face-to-face classes
15	第15回 / Class 15	・アルゴリズムの応用 (その2) ・分類問題の応用 ・ベイズの定理とその応用 ・機械学習とは			対面授業/Face-to-face classes
16	第16回 / Class 16	・まとめ ・プログラミング実習 (その8)			対面授業/Face-to-face classes

17	第17回 / Class 17	定期試験			対面授業/Face-to-face c lasses
----	-----------------	------	--	--	-------------------------------

閉じる



授業情報／Class Information

2024/09/02 現在

- 基本情報／Basic Information
- 詳細情報／Detailed Information
- 授業計画詳細情報／Class Schedule Details

基本情報／Basic Information

開講科目名 ／Course	経営情報システム／Administrative Information Systems
時間割コード ／Course Code	53N08
ナンバリングコード ／Numbering Code	IFM3015
開講所属 ／Course Offered by	総合政策学部／College of Policy Studies
ターム・学期 ／Term・Semester	2024年度／Academic Year 第3ターム／T3
曜限 ／Day, Period	金／Fri 3, 金／Fri 4
開講区分 ／semester offered	第3ターム／T3
単位数 ／Credits	2.0
学年 ／Year	3,4
主担当教員 ／Main Instructor	五月女 雄一／SAOTOME YUICHI
科目区分 ／Course Group	選択科目 基幹科目：課題解決関連科目／ELECTIVE SUBJECTS 基幹科目：課題解決関連科目
教室 ／Classroom	SA207／SA207

担当教員情報／Instructor Information

教員名 ／Instructor	教員所属名 ／Affiliation
伊藤 みなみ／ITO MINAMI	総合政策学科
佳山 こうせつ／KAYAMA KOSETSU	総合政策学科
三浦 真樹／MIURA MASAKI	総合政策学科
宮浦 恭弘／MIYaura TAKAHIRO	総合政策学科
笈田 佳彰／OIDA YOSHIAKI	総合政策学科
五月女 雄一／SAOTOME YUICHI	総合政策学科
田中 秀和／TANAKA HIDEKAZU	総合政策学科

閉じる



授業情報／Class Information

2024/09/02 現在

基本情報／Basic Information		詳細情報／Detailed Information	授業計画詳細情報／Class Schedule Details
講義の目的と内容 ／Course Purpose and Content	サステナビリティを高めるため、企業や社会のDX化が喫緊の課題となっている昨今、DXとは何か、Xを推進する最先端のIT技術にはどのようなものがあるか、また、それらが社会でどのように活用されているか、エンジニアはどのような想いをもって開発に取り組んでいるかを知る必要がある。 講座前半では、IT技術の5分野（AI、データ、セキュリティ、プロジェクトマネジメント、クラウド）ら、日本を代表するIT企業のトップエンジニアを講師に招き、各々の専門分野について、初心者にも分かり易く解説する。中盤では、IT企業を講義室へのオンライン中継による社会見学（オンライン見学）し、それらが実用化されている事例を見学し、企業や社会へITを役立てている現場を知る。後半で、グループワーク形式での開発演習「自分だけのスマホアプリを作ってみよう！」と題して、実際に動作するアプリケーションを企画から開発までを行う。演習では、開発ツールを使用し、全くのプログラム未経験者でも、モノ作りの基本や流れを理解し、体験することができる。これらにより、各人がDX社会で働くうえで基本となる知見を修得し、IT技術への心の障壁を取り除いて意欲的に学ぶ契機とする。		
	・ 社会のDX化を推進する最先端技術の概要と、トップエンジニアの想いを知る ・ 技術がどのような場面で社会に役立っているかを理解する ・ ツールを使うことによって、IT初心者でも容易にモノ作りができることを体験する ・ メンバーが協力し合うことによって、より優れたモノ作りができることを体験する ・ 一人ひとりのアイデアや想いが、社会に貢献できる時代であることを理解する		
	テキスト ／Textbooks		
	参考書 ／Reference Books		
	準備学習（予習・復習等）の内容 ／Supplementary Individual Study		
評価方法・基準 ／Evaluation Method	・ 講義（対面6回＋講義室へのオンライン中継による社会見学1回＝7回）について、講義終了後1週間以内に別途指定する方法にてレポート（200 文字程度）を提出頂きます（30分×7回＝210分） ・ Class9開講以降、Class18までの期間は、グループメンバー間で講義時間外に連携してチーム開発および発表準備に取り組むこと（240分）		
	・ 出席およびレポート提出：最大49％（7Class×@7ポイント） ・ アプリ開発演習の成果物およびプレゼン：最大51％（成果物の内容とチームへの貢献度合いに応じてポイント評価）		
	課題に対するフィードバック ／Task Feedback		
	・ 各講義のレポートへの個別フィードバック ・ アプリ開発演習の成果発表会		
	オフィスアワー ／Office Hours		
授業の特色 ／Characteristics of Class	PBLの実施 ／PBL implementation	実施する・Yes	
	実施内容 ／Incorporate PBL	・ 計9日間（全18Class）で、『PBL』『ディスカッション、ディベート、討議』『プレゼンテーション、発表』『グループワーク』『フィールドワーク（講義室へのオンライン中継による社会見学）』『実技』をおこなう	
	ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate	実施する・Yes	
	実施内容 ／Incorporate discussion or debate	・ 計9日間（全18Class）で、『PBL』『ディスカッション、ディベート、討議』『プレゼンテーション、発表』『グループワーク』『フィールドワーク（講義室へのオンライン中継による社会見学）』『実技』をおこなう	
	プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation	実施する・Yes	
	実施内容 ／Incorporate presentation	・ アプリ開発演習の成果発表会では、全受講生と講師が参加して、演習の成果物発表会（プレゼンテーション）を行い評価する	
	反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate flip teaching		
	グループワークの実施 ／Incorporate group work	実施する・Yes	
	実施内容 ／Incorporate group work	・ 計9日間（全18Class）で、『PBL』『ディスカッション、ディベート、討議』『プレゼンテーション、発表』『グループワーク』『フィールドワーク（講義室へのオンライン中継による社会見学）』『実技』をおこなう	
	実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork	実施する・Yes	
	実施内容 ／Incorporate practical training or fieldwork	・ 富士通株式会社 本店から講義室へのオンライン中継による社会見学では、実用化事例についてデモを用いて解説し、テクノロジーを活用し新規ビジネスを立ち上げた事例から事業立ち上げの勘所を解説する	
	実技、実験の実施 ／Incorporate practice or	実施する・Yes	

	experiment	・ アプリ開発演習では、実際に動作するアプリケーションを企画から開発までを行う ・ 演習では、開発ツールを使用し、全くのプログラム未経験者でも、モノ作りの基本や流れを理解し、体験することができる
	実施内容 ／Incorporate practice or experiment	
使用言語 ／Language	日本語 / Japanese	
その他 ／Note	・ 講義は大学から特別な案内が無い限り基本対面で行う ・ 講義中の参考文献をオンラインで提供するため、ブラウザが利用可能なノートパソコンを必ず持参すること ・ 講義中にGoogle Chromeを利用するため、持参するノートパソコンへ最新版をインストールしておくこと ・ 富士通株式会社 本店から講義室へのオンライン中継による社会見学においては、現地訪問せず、キャンパス講義室にて、現地からのオンライン中継により実施します。 ★担当教員の以下の実務経験を踏まえた授業です。 インフラエンジニア（五月女雄一）、XR（VR/AR/MR）エンジニア（宮浦恭弘）、AIエンジニア（三浦真樹）、 データサイエンティスト（笈田佳彰）、サイバーセキュリティ研究者（佳山こうせつ）、 エンジニア・デザイナー・コンサルタント（田中秀和）	

閉じる



授業情報／Class Information

2024/09/02 現在

基本情報／Basic Information			詳細情報／Detailed Information			授業計画詳細情報／Class Schedule Details		
N o.	回 (日時) ／Time (date and time)	主題と内容 ／Subjects and contents	学習方法 ／Methods	備考 ／Notes	授業方法 ／Class format			
1	第1回 / Class 1	・開講，講師紹介 ・XR(VR/AR/MR)技術とAIの活用事例 ～現実と仮想が相互作用する世界は新しい生活スタイルをもたらすのか～ メタバースにも関連する先進技術の1つXR技術について解説するとともに、我々の日常にどう活用できる/されているのか事例を交えて解説する			対面授業/Face-to-face classes			
2	第2回 / Class 2	・AIの映像解析への活用事例について ディープラーニングを道路や車など社会インフラの映像認識に適用した、実際の開発事例を取り上げ、AI開発の重要なポイントを解説する			対面授業/Face-to-face classes			
3	第3回 / Class 3	・データを活用した業務改革事例について			対面授業/Face-to-face classes			
4	第4回 / Class 4	・アジャイルな仮説検証と事業推進について ～起業家は新しいビジネスをどうやって始めるか～ アイデアをアイデアのまま終わらせず、いかに事業化するか、効果的な仮説検証の方法論を事例も交えながら解説する			対面授業/Face-to-face classes			
5	第5回 / Class 5	・ゼロからはじめるサイバーセキュリティワークショップ ～起業時のために押さえておきたいスレットハンティング基礎の基礎～ 新たなアイデアが盛り込まれた競争力と影響力のあるサービスこそサイバー攻撃に狙われています。サイバーセキュリティはどこか専門家の仕事と思われがちですが、実は考え方をまなぶことでできることがたくさんあるということに気づくことができます。今回はグループでのワークショップを通して、サイバーセキュリティの考え方を学びます。			対面授業/Face-to-face classes			
6	第6回 / Class 6	・クラウドとは何か？ ～スマホやパソコンから繋がる「インターネット」の裏側を紹介～ 良く聞く「クラウド」について、その実体や活用例を実例を交えながら解説する			対面授業/Face-to-face classes			
7	第7回 / Class 7	・アプリ開発演習 インプット（概要説明とアイデア出し） 実際に動作するアプリケーションの開発演習を行います。			対面授業/Face-to-face classes			
8	第8回 / Class 8	・アプリ開発演習 インプット残り、サンプルアプリ開発			対面授業/Face-to-face classes			
9	第9回 / Class 9	・アプリ開発演習 サンプルアプリ開発			対面授業/Face-to-face classes			
10	第10回 / Class 10	・アプリ開発演習 サンプルアプリ開発残り、チーム開発			対面授業/Face-to-face classes			
11	第11回 / Class 11	・富士通株式会社 本店・川崎工場での学外実習 ～IT技術の実用化事例について紹介／富士通川崎テクノロジーホール見学～ IT技術の実用化事例について、現地からのオンライン中継によりデモを用いて解説し、テクノロジーを活用し新規ビジネスを立ち上げた事例から事業立ち上げの勘所を解説する			対面授業/Face-to-face classes			
12	第12回 / Class 12	・富士通株式会社 本店・川崎工場での学外実習 ～IT技術の実用化事例について紹介／富士通川崎テクノロジーホール見学～ IT技術の実用化事例について、現地からのオンライン中継によりデモを用いて解説し、テクノロジーを活用し新規ビジネスを立ち上げた事例から事業立ち上げの勘所を解説する			対面授業/Face-to-face classes			
13	第13回 / Class 13	・アプリ開発演習 チーム開発			対面授業/Face-to-face classes			
14	第14回 / Class 14	・アプリ開発演習 チーム開発			対面授業/Face-to-face classes			
						28		

15	第15回 / Class 15	・アプリ開発演習 チーム開発			対面授業/Face-to-face c lasses
16	第16回 / Class 16	・アプリ開発演習 チーム開発、プレゼン資料作成			対面授業/Face-to-face c lasses
17	第17回 / Class 17	・アプリ開発演習 演習課題の成果発表会 ※通常講義ではなく試験に準じる内容を実施			対面授業/Face-to-face c lasses
18	第18回 / Class 18	・アプリ開発演習 演習課題の成果発表会 ※通常講義ではなく試験に準じる内容を実施			対面授業/Face-to-face c lasses

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

- 基本情報／Basic Information
- 詳細情報／Detailed Information
- 授業計画詳細情報／Class Schedule Details

基本情報／Basic Information

開講科目名 ／Course	★データ政策科学／Data Policy Studies
時間割コード ／Course Code	53R08
ナンバリングコード ／Numbering Code	IFM3013
開講所属 ／Course Offered by	総合政策学部／College of Policy Studies
ターム・学期 ／Term・Semester	2024年度／Academic Year 第4ターム／T4
曜限 ／Day, Period	金／Fri 3, 金／Fri 4
開講区分 ／semester offered	第4ターム／T4
単位数 ／Credits	2.0
学年 ／Year	3,4
主担当教員 ／Main Instructor	曽根原 登／SONEHARA NOBORU
科目区分 ／Course Group	選択科目 基幹科目：課題解決関連科目／ELECTIVE SUBJECTS 基幹科目：課題解決関連科目
教室 ／Classroom	---／---

担当教員情報／Instructor Information

教員名 ／Instructor	教員所属名 ／Affiliation
曽根原 登／SONEHARA NOBORU	総合政策学科

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information		詳細情報／Detailed Information		授業計画詳細情報／Class Schedule Details	
講義の目的と内容 ／Course Purpose and Content		高度な情報通信技術(ICT: Information and Communication Technology)によって、あらゆる情報機器やセンサーがネットワークへ接続され、情報がデジタル化されて流通し、いつでも、誰もが、どこからでもアクセスすることが可能となりつつある。この結果、情報空間 (cyber-space)と実世界 (real-world) が運動)あるいは統合したサイバー・フィジカル融合社会 (Cyber-Physical Integrated Society) と呼ぶべき社会が形成されようとしている。 この融合社会では、物的世界における人やモノの活動や状態は、スマートホンなどのライフログ(Life-log)やIoT (Internet of Things) データセンシングを介して、情報空間に投影される。情報空間では、物的世界の人やモノの変化は、情報の変化となる。この変化をデータ分析し、科学的根拠に基づいた情報サービスを合し、情報機器を介して、人と社会に迅速かつタイムリーにフィードバックする。これにより融合社会システムの制御が可能となる。 このような現実世界と情報空間の間で繰り返される情報の循環は、社会の様々な問題を解決し、人々の生活をより良いものとする。この情報循環は、新たな価値を創生し、知的情報産業や知識サービス産業への産業構造転換を可能とし、雇用機会を創出する。 このためには、公共性の高い膨大な量の社会データの収集と分析を行い、科学的根拠データに基づいて、質の高い知識サービスを合成し、適切に融合社会にフィードバックする社会的、技術的な仕組みが必要となる。 本講義は、融合社会の課題解決のためのデータ駆動意思決定システムについて学ぶ。まず、Webデータを用いた地域データ管理手法を習得する。次に、Wi-Fiシステムログデータを用い、人や集団の動きを可視化する人流データ解析を習得する。具体的には、インバウンド観光客の動線可視化、通信事業者と鉄道事業者間での異業種データ共有、局所的・短時間的に膨大な人が集まるイベントでの政策決定支援について、具体的事例を挙げて実践的演習をする。最後に、これからの融合社会を支えるデータ活用人材育成について議論する。 ※この授業は「メディアを高度に利用した」です。シラバス記載されている、授業方法等を確認のうえ受講してください。			
		融合社会では、自然環境・エネルギー・食糧問題、防災・減災への対応、医療・介護問題といった様々な社会問題の解決が期待される。そのためには、膨大かつ複雑なデジタルデータ群(digital data set)から知識や見識を抽出する能力の強化が不可欠である。そして、情報の量から質への転換を図り、知的情報産業や知識サービス産業化を行って持続社会の実現を目指した、データを活用した総合政策決定支援の方法論を習得することを目標とする。 従来の意思決定は、部分的でしかも不完全なデータを基に、主観的な決定や判断に頼ってきた。現在は、ネットワークを介して、多種多様なデジタルビッグデータが利用できるようになった。しかし、人や社会の情報分析力には限界がある。このため、データの量的な増加にともなう分析力の相対的な低下により、意思決定の質の低下が生じるという問題がある。 この問題を解決するには、エビデンスに基づいて意思決定を行う必要がある。そこで、情報機器や多様なセンサーで得られるビッグデータを取集・分析して、タイムリーに施策立案を行い、意思決定を支援する必要がある。このように合理的な意思決定を行い、適切に社会にフィードバックするデータ駆動意思決定システム(data-driven decision making system s)が必要である。データ駆動の意思決定は、政策立案や経営判断ばかりでなく、一般の消費者や利用者が行う意思決定の質を高める。 スマートフォンなど携帯情報通信機器やWeb、SNSをセンサーとして利用する。このセンサーで集められるデータは、社会生活やビジネス、コミュニケーションなどのライフログである。このライフログにより、実世界の人の行動をセンシングして、情報空間に投影する。情報空間でのライフログ・データの分析を行って、質の高い情報サービスを合成する。その情報サービスは、人やモノ、社会へタイムリーにフィードバックされる。この結果、従来の社会調査や公的統計では実現出来なかった実時間性や施策の迅速なPlan Do Check Act cycleの実行を可能とする。 このデータ駆動の政策決定システムが設計できることを目標とする。			
		地方自治体、観光地、競技場、交通機関、通信事業者と連携し、論文、現地調査、公的統計、アンケート、ヒヤリングなど、自ら社会データを収集する。また、津田塾大学総合政策研究所が保有する人流データ教材を提供する。学生は、データ分析ツールを使ってデータ分析を実施する。			
		公的統計データなど			
		公的データ、研究論文、社会調査報告、研究会報告、国際会議論文などを自ら探し、読み込んで、調査すること。また、データ可視化、データ分析などビジネスインテリジェンスツールを習熟しておくこと。それぞれ90分程度の時間を要します。			
授業の到達目標 ／Learning Objectives					
テキスト ／Textbooks		地方自治体、観光地、競技場、交通機関、通信事業者と連携し、論文、現地調査、公的統計、アンケート、ヒヤリングなど、自ら社会データを収集する。また、津田塾大学総合政策研究所が保有する人流データ教材を提供する。学生は、データ分析ツールを使ってデータ分析を実施する。			
参考書 ／Reference Books		公的統計データなど			
準備学習（予習・復習等）の内容 ／Supplementary Individual Study		公的データ、研究論文、社会調査報告、研究会報告、国際会議論文などを自ら探し、読み込んで、調査すること。また、データ可視化、データ分析などビジネスインテリジェンスツールを習熟しておくこと。それぞれ90分程度の時間を要します。			
評価方法・基準 ／Evaluation Method		出席、授業態度、レポート、プレゼン、政策提言内容を総合的に判断して、評価する。 以下の重みとする。 ・講義と予習復習：20% ・レポート課題の内容：40% ・提言プレゼンテーション：40% ※期末試験は行わない。 課題を締切以降に提出した場合は減点対象とする。			
課題に対するフィードバック ／Task Feedback		適宜、全員にフィードバックを行うほか、最終授業において全体に対するフィードバックを行う			
オフィスアワー ／Office Hours		木曜と金曜の昼休み・18時以降Zoom面談（事前にメールでアポイントが必要）			
授業の特色 ／Characteristics of Class		PBLの実施 ／PBL implementation		実施しない・No	
		実施内容 ／Incorporate PBL			
		ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate		実施しない・No	
		実施内容 ／Incorporate discussion or debate			
		プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation		実施しない・No	

31

	実施内容 ／Incorporate presentation	実施しない・No
	反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	
	実施内容 ／Incorporate flip teaching	
	グループワークの実施 ／Incorporate group work	
	実施内容 ／Incorporate group work	
	実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork	
	実施内容 ／Incorporate practical training or fieldwork	
	実技、実験の実施 ／Incorporate practice or experiment	
	実施内容 ／Incorporate practice or experiment	
使用言語 ／Language		日本語 / Japanese
その他 ／Note		毎回の講義でノートPCを利用するので、必ず持参してください。 メールやコミュニケーションツールにて、適宜質問を受け付ける。 ★担当教員のNTT研究所ならびに国立情報学研究所での実務経験を踏まえた授業です。

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information			詳細情報／Detailed Information			授業計画詳細情報／Class Schedule Details		
N o.	回 (日時) ／Time (date a nd time)	主題と内容 ／Subjects and contents	学習方法 ／Methods	備考 ／Notes	授業方法 ／Class format			
1	第1回 / Class 1	データ駆動社会の理解 高度な情報通信技術(ICT: Information and Communication Technology)によって、あらゆる情報機器やセンサーがネットワークへ接続され、情報がデジタル化されて流通し、いつでも、誰もが、どこからでもアクセスすることが可能となりつつある。この結果、情報空間 (cyber-space)と実世界 (real-world) が連動あるいは統合したサイバー・フィジカル融合社会 (Cyber-Physical Integrated Society) と呼ぶべき社会が形成されようとしている。			同時双方向型授業 (オンライン授業) /online classes			
2	第2回 / Class 2	データ駆動政策科学の理解 従来の意思決定は、部分的でしかも不完全なデータを基に、主観的な決定や判断に頼ってきた。現在は、ネットワークを介して、多種多量なデジタルビッグデータ(digital big data)が利用できるようになった。しかし、人や社会の情報分析力には限界がある。このため、データの量的な増加にともなう分析力の相対的な低下により、意思決定の質の低下が生じるという問題がある。 そこで、エビデンス(evidence-based)に基づいて意思決定を行う必要がある。そこで、情報機器や多様なセンサーで得られるビッグデータを収集・分析して、タイムリーに施策立案を行い、意思決定を支援する必要がある。このように合理的な意思決定を行い、適切に社会にフィードバックするデータ駆動意思決定システム(data-driven decision making systems)が必要である。データ駆動の意思決定は、政策立案や経営判断ばかりでなく、一般の消費者や利用者が行う意思決定の質を高める。			同時双方向型授業 (オンライン授業) /online classes			
3	第3回 / Class 3	地方創生とデータ活用 我が国は、人口の急速な減少と大都市への集中による地方衰退のリスクが増大している。日本創成会議が2014年に発表した報告書によると、2040年までに若年女性人口が5割以上減少する自治体が相対数見込まれている。この結果、多くの地域で将来の自治体の消滅が懸念されている。この地方衰退リスクを回避し、地域経済を活性化する施策の一つに観光ビジネスがある。訪日客数は、2018年には韓国、中国を筆頭に、過去最高の3119万人に達し、その消費額は既に約4.7兆円(平均消費額14万を仮定)に達している。政府は2020年までに年間訪日客数4000万人、市場規模8兆円の達成を政策目標の一つとしている。さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピックでは、国内外からの会場来客数が1000万人以上と予想されている。双方を合わせると、日本の人口の40%に当たる人数が、観光・観戦を楽しむことになる。まず、初めに、地方創生に向けた地域データ管理基盤(Destination data management systems)について学ぶ。			同時双方向型授業 (オンライン授業) /online classes			
4	第4回 / Class 4	地域の観光のために観光資源を効率的に運用、管理する仕組みの理解 従来の観光ビジネスは、どのような利用者が、どのようなサービスを好み、どのような交通機関を利用するか調査分析が行われてきた。これらの多くは、交通、宿泊、娯楽、観光、土産物販売、飲食など各分野で、それぞれ独自に特定の商品とサービスの視点からデータの収集や分析が進められた。しかし、交通手段、宿泊や購買場所などに関するライフログが欠落していた。従来の観光政策の課題について学ぶ。			同時双方向型授業 (オンライン授業) /online classes			
5	第5回 / Class 5	地域の観光のためにデータ駆動観光政策 現在の観光ビジネスは、消費者を長くその地域に滞留・回遊させ、より多くの支出を誘発することである。その際、交通や宿泊のみのデータや、流通や消費のみのデータから得られる知見では十分ではなく、広告や情報検索、交通や駐車場など移動手段、観光や観戦、飲食や宿泊、物販などを合わせた社会データを収集し、事業者を横断したデータの共有と分析が不可欠となる。こうすることで、網羅性の高いデータ基盤が実現できれば、どのようにして訪問者を回遊させ、より多く支出してもらい、満足度を高めるか、といった観光政策立案や決定を支援できる。データ駆動セ観光政策について学ぶ。			同時双方向型授業 (オンライン授業) /online classes			
6	第6回 / Class 6	地域の観光政策のPlan Do Check Act cycleを実行するための地域データ管理 システムは、Web予約データを用いた地域観光資源データ基盤WoR (Web of Resources) とWi-Fiシステムログを用いたパーソントリップデータIoP (Internet of Persons) から構成される。このシステムにより、移動や購買のみでない、楽しい参加、体験型の新たな観光サービスをデザインできる。また、利用者、消費者に関する網羅性の高い、人それぞれのライフログを体系的に収集・分析することで、個別サービスの連携が可能となり、よ			同時双方向型授業 (オンライン授業) /online classes			

		り魅力的な地域の観光サービスを合理的にデザイン手法について学ぶ。			
7	第7回 / Class 7	地域観光資源データ基盤WoRとパーソントリップデータIoP サービス提供者も利用者も、データに基づいた合理的な観光・回遊行動を支援できる。以下では、地方創生に向け、地域の観光政策立案のための地域観光資源データ基盤WoRとパーソントリップデータIoPを用いた具体的研究開発と社会実験の事例について学ぶ。			同時双方向型授業（オンライン授業）/online classes
8	第8回 / Class 8	地域の観光政策のDestination data management 移動や購買のみでない、楽しい参加、体験型の新たな観光サービスをデザインできる。また、利用者、消費者に関する網羅性の高い、人それぞれのライフログを体系的に収集・分析することで、個別サービスの連携が可能となり、より魅力的な地域の観光サービスを合理的にデザインできる。また、サービス提供者も利用者も、データに基づいた合理的な観光・回遊行動を支援について学ぶ。			同時双方向型授業（オンライン授業）/online classes
9	第9回 / Class 9	地域の観光政策データ活用事例 地方創生に向け、地域の観光政策立案のための地域観光資源データ基盤WoRとパーソントリップデータIoPを用いた具体的研究開発と社会実験の事例について学ぶ。地方創生に向け、地域の観光政策立案のための地域観光資源データ基盤WoRとパーソントリップデータIoPを用いた具体的研究開発と社会実験の事例について学ぶ。			同時双方向型授業（オンライン授業）/online classes
10	第10回 / Class 10	地域の観光政策データ活用事例 地方創生に向け、地域の観光政策立案のための地域観光資源データ基盤WoRとパーソントリップデータIoPを用いた具体的研究開発と社会実験の事例について学ぶ。地方創生に向け、地域の観光政策立案のための地域観光資源データ基盤WoRとパーソントリップデータIoPを用いた具体的研究開発と社会実験の事例について学ぶ。			同時双方向型授業（オンライン授業）/online classes
11	第11回 / Class 11	異業種を分野横断するデータ共有課題① データの付加価値を高めるには、異なる事業者間でのデータ共有や統合的なデータ分析が重要である。しかし、個人情報の保護、プライバシーの保護や消費者意識に対する配慮に欠けるなどの批判や不安視 などのために、各事業者が保有するデータを突合し、補完しあうことでデータの価値を高める試みは、これまで殆ど行われていない。そこで、鉄道事業者と通信事業者がそれぞれ保有するデータを統合的に分析し突合することにより、鉄道事業者のデータに属性情報を付与する方法や、異なる事業者間データの突合によって分析精度を高める方法、新たなデータ価値付加やデータ活用サービスについて学ぶ。 通事業者に講演を依頼する予定。			同時双方向型授業（オンライン授業）/online classes
12	第12回 / Class 12	異業種を分野横断するデータ共有政策② データの付加価値を高めるには、異なる事業者間でのデータ共有や統合的なデータ分析が重要である。しかし、個人情報の保護、プライバシーの保護や消費者意識に対する配慮に欠けるなどの批判や不安視 などのために、各事業者が保有するデータを突合し、補完しあうことでデータの価値を高める試みは、これまで殆ど行われていない。そこで、鉄道事業者と通信事業者がそれぞれ保有するデータを統合的に分析し突合することにより、鉄道事業者のデータに属性情報を付与する方法や、異なる事業者間データの突合によって分析精度を高める方法、新たなデータ価値付加やデータ活用サービスについて学ぶ。 交通業者に講演を依頼する予定。			同時双方向型授業（オンライン授業）/online classes
13	第13回 / Class 13	秩父宮ラグビー場スーパーラグビー2019人流データ、東京2020 2021年オリパラ人流データ、2022神宮外苑花祭り人流データ分析と政策課題① データ駆動のイベント政策立案支援への活用事例を述べる。2018年10月31日、渋谷区でハロウィーンの参加者による自主開催がされた。渋谷区には、当日だけでなくその前日から多くの人が集まって混雑し、一部の人が路上で騒ぐなどトラブルも相次ぎ、逮捕者までも出た。このため、渋谷区は具体的な対策として、イベントの有料化や代々木公園の使用という可能性を示唆した。一方で、渋谷ハロウィーンの参加者は区外の人々が多いことから、対策に区民の税金を投じることへの懸念なども示された。このような局所的で短時間の大規模イベントの開催に、いつ、どこから、どのような人が何人渋谷に来ているのかという施策立案のための科学的根拠データを用いて、政策立案演習を行う。			同時双方向型授業（オンライン授業）/online classes
14	第14回 / Class 14	秩父宮ラグビー場スーパーラグビー2019人流データ、東京2020 2021年オリパラ人流データ、2022神宮外苑花祭り人流データ分析と政策立案演習② データ駆動のイベント政策立案支援への活用事例を述べる。2018年10月31日、渋谷区でハロウィーンの参加者による自主開催がされた。渋谷区には、当日だけでなくその前日から多くの人が集まって混雑し、一部の人が路上で騒ぐなどトラブルも相次ぎ、逮捕者までも出た。このため、渋谷区は具体的な対策として、イベントの有料化や代々木公園の使用という可能性を示唆した。一方で、渋谷ハロウィーンの参加者は区外の人々が多いことから、対策に区民の税金を投じることへの懸念なども示された。このような局所的で短時間の大規模イベントの開催に、いつ、どこから、どのような人が何人渋谷に来ているのかという施策立案のための科学的根拠データを用いて、政策立案演習を行う。			同時双方向型授業（オンライン授業）/online classes
15	第15回 / Class 15	秩父宮ラグビー場スーパーラグビー2019人流データ、東京2020 2021年オリパラ人流データ、2022神宮外苑花祭り人流データ分析と政策立案演習① 2020東京オリパラや訪日観光客のように、短期間かつ特定の			同時双方向型授業（オンライン授業）/online classes

		エリアに膨大な数の人が集まる状況下では、適切で迅速な観光や防災の政策立案と実行が求められる。しかし現状では、科学的根拠データに基づいて、合理的な観光・防災政策の立案と実行を支援する基盤となるデータがわが国にはない。そのため、国土交通省国土技術政策総合研究所と津田塾大学総合政策研究所の企画・提案により、地域社会と国の研究所、大学と産業界の連携協力により、公共性の高い社会データ計測を行いたいと考えています。尚、国土交通省指導の下、明治神宮外苑、津田塾大学、東京メトロ地下鉄駅、千駄ヶ谷商店街などのご協力を得て公共性の高い社会データ（スマホの数や環境騒音）、人手による人数計測（手力チ）データを用いてスポンサー広告型のスポーツイベント企画演習を行う。			
16	第16回 / Class 16	秩父宮ラグビー場スーパーラグビー2019人流データ、東京2020 2021年オリパラ人流データ、2022神宮外苑花火祭り人流データ分析と政策立案演習② 2020東京オリパラや訪日観光客のように、短期間かつ特定のエリアに膨大な数の人が集まる状況下では、適切で迅速な観光や防災の政策立案と実行が求められる。しかし現状では、科学的根拠データに基づいて、合理的な観光・防災政策の立案と実行を支援する基盤となるデータがわが国にはない。そのため、国土交通省国土技術政策総合研究所と津田塾大学総合政策研究所の企画・提案により、地域社会と国の研究所、大学と産業界の連携協力により、公共性の高い社会データ計測を行いたいと考えています。尚、国土交通省指導の下、明治神宮外苑、津田塾大学、東京メトロ地下鉄駅、千駄ヶ谷商店街などのご協力を得て公共性の高い社会データ（スマホの数や環境騒音）、人手による人数計測（手力チ）データを用いてスポンサー広告型のスポーツイベント企画演習を行う。			同時双方向型授業（オンライン授業）/online classes
17	第17回 / Class 17	データ駆動政策科学のレポート作成 人流データ教材を提供するので、論文や公的統計などを調査研究し、科学的根拠データに基づく、地方創生や地域活性化政策の企画立案を行う。レポートは、全員が作成する。 実習課題は、以下を予定している。 ・秩父宮ラグビー場スーパーラグビー2019人流データ ・東京2020 2021年オリパラ人流データ ・2022神宮外苑花火祭り人流データ など			同時双方向型授業（オンライン授業）/online classes
18	第18回 / Class 18	データ駆動政策科学のレポート発表 人流データ教材を提供するので、論文や公的統計などを調査研究し、科学的根拠データに基づく、地方創生や地域活性化政策の企画立案を行う。レポートは、全員が作成し、プレゼン演習を行う。 実習課題は、以下を予定している。 ・秩父宮ラグビー場スーパーラグビー2019人流データ ・東京2020オリパラ人流データ ・神宮外苑花火祭り人流データ など			同時双方向型授業（オンライン授業）/online classes

閉じる

授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

基本情報／Basic Information

開講科目名 ／Course	★インターネット概論／Introduction to the Internet		
時間割コード ／Course Code	99A01		
ナンバリングコード ／Numbering Code	IFM1008		
開講所属 ／Course Offered by	総合政策学部／College of Policy Studies		
ターム・学期 ／Term・Semester	2024年度／Academic Year 第1ターム／T1		
曜限 ／Day, Period	他／etc		
開講区分 ／semester offered	第1ターム／T1		
単位数 ／Credits	2.0		
学年 ／Year	1,2,3,4		
主担当教員 ／Main Instructor	小舘 亮之／KODATE AKIHISA		
科目区分 ／Course Group	選択科目 基幹科目：課題解決関連科目／ELECTIVE SUBJECTS 基幹科目：課題解決関連科目		
教室 ／Classroom	---／---		

担当教員情報／Instructor Information

教員名 ／Instructor	教員所属名 ／Affiliation
小舘 亮之／KODATE AKIHISA	総合政策学科

閉じる

授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

講義の目的と内容 ／Course Purpose and Content	インターネットは、1969年に米国で主要な大学と研究機関のコンピュータを相互に接続したコンピュータネットワークのARPANETを発祥とする。その後、1986年に米国政府機関のNSF(National Science Foundation)が始めた研究と教育利用に限定されたNSFNETを経て、1990年代に商用化が進み、現在は、人々の日常生活に必要な不可欠な社会基盤となっている。 この講義では、インターネットの歴史、これを構成するコンピュータネットワークの基本的な仕組み（TCP/IP、HTTPなどの主要プロトコル）、有線および各種無線通信(携帯電話、無線LAN、Bluetoothなど)の仕組み、インターネット上で通信される文字、音声、音楽、画像、映像などのマルチメディア情報の仕組みとこれらを用いたサービス、インターネットが社会にもたらした影響について学び、今後の社会とインターネットの関係について考える。 授業はオリエンテーション（2回）、コンピュータにおける情報表現（6回）、コンピュータネットワーク（4回）、社会におけるインターネット（4回）の合計16回で構成されている。 ※ この授業は「メディアを高度に利用した授業」です。シラバスに記載されている授業方法等を確認の上、受講してください。 オンデマンド型（非同期型）の授業となります。 授業の開示方法については、学習管理システムを確認してください。 開示された教材は、開示後1週間のうち、都合が良い時間に受講し、指定された期日までにフィードバックを提出してください。								
授業の到達目標 ／Learning Objectives	本学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に以下の2つの力 ・データを活用して、社会の実態や諸課題に対する客観的な調査・分析・評価をおこなう能力 ・分析によって得られた社会的課題の要点やその解決案を適切かつ論理的に提示し、伝達する能力 ・社会的な課題に対して具体的な解決策を構想する力と、それを実現するための行動力の基礎力を身につけることを目標に、下記の事項を着実に達成することを目指す。 1. 情報通信の歴史について理解すること 2. コンピュータの基本的な仕組みについて理解すること 3. インターネットの基本的な仕組みについて理解すること 4. インターネット上で通信されるマルチメディア情報の仕組みについて理解すること 5. インターネットによって実現されるサービスの基本的な仕組みについて理解すること 6. インターネットが社会にもたらした影響について説明できるようになること								
テキスト ／Textbooks	「教養のコンピュータサイエンス 情報科学入門 第3版」（丸善出版、2020年）、ISBN: 978-4-621-30503-4 他に、用意した講義資料をオンラインで配布する。								
参考書 ／Reference Books	1. 井上伸雄, "カラー図解でわかる通信のしくみ", SBクリエイティブ, ISBN: 978-4797348743, 2013年 2. 戸根勤, "ネットワークはなぜつながるのか 第2版 知っておきたいTCP/IP, LAN, 光ファイバの基礎知識", 日経BP社, ISBN: 978-4822283117, 2007年 3. ロン・ホワイト, "コンピューター&テクノロジー解体新書 ビジュアル版", SBクリエイティブ, ISBN: 978-4797384291, 2015年 4. 小泉宣夫, 圓岡 偉男, "情報メディア論 テクノロジー・サービス・社会", 講談社, ISBN: 978-4061538269, 2016年 5. 藤代裕之編, "ソーシャルメディア論・改訂版 つながり方を再設計する", 青弓社, ISBN: 978-4787234490, 2019年								
準備学習（予習・復習等）の内容 ／Supplementary Individual Study	前回の範囲についての復習をしてくる。こと。（90分） 次週の内容については、十分に予習をしてくる。こと。（90分） 次週の学習内容については基本的に毎週指示する。 前回の範囲についての理解度を確認するフィードバックの提出を行う。								
評価方法・基準 ／Evaluation Method	1. 平常点: 10% 3. 理解度を確認するオンラインによる提出物: 40% 3. 課題レポート: 50% 平常点は、講義への参加状況などで総合的に判断する。								
課題に対するフィードバック ／Task Feedback	最終授業で全体に対するフィードバックを行う。								
オフィスアワー ／Office Hours	原則として、以下の通りとする。 時間：毎週水曜日お昼休み(12:15-12:45) 場所：アリス・メイベル・ペーコン記念館 5 階研究室またはこれに相当するオンライン環境								
授業の特色 ／Characteristics of Class	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="399 1628 683 1749"> PBLの実施 ／PBL implementation 実施内容 ／Incorporate PBL </td><td data-bbox="683 1628 1396 1749"> 実施しない・No </td></tr> <tr> <td data-bbox="399 1749 683 1919"> ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate 実施内容 ／Incorporate discussion or debate </td><td data-bbox="683 1749 1396 1919"> 実施しない・No </td></tr> <tr> <td data-bbox="399 1919 683 2072"> プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation 実施内容 ／Incorporate presentation </td><td data-bbox="683 1919 1396 2072"> 実施しない・No </td></tr> <tr> <td data-bbox="399 2072 683 2154"> 反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching </td><td data-bbox="683 2072 1396 2154"> 実施しない・No </td></tr> </table>	PBLの実施 ／PBL implementation 実施内容 ／Incorporate PBL	実施しない・No	ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate 実施内容 ／Incorporate discussion or debate	実施しない・No	プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation 実施内容 ／Incorporate presentation	実施しない・No	反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	実施しない・No
PBLの実施 ／PBL implementation 実施内容 ／Incorporate PBL	実施しない・No								
ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate 実施内容 ／Incorporate discussion or debate	実施しない・No								
プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation 実施内容 ／Incorporate presentation	実施しない・No								
反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	実施しない・No								

	実施内容 ／Incorporate flip teaching	実施しない・No
	グループワークの実施 ／Incorporate group work	
	実施内容 ／Incorporate group work	実施しない・No
	実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork	
	実施内容 ／Incorporate practical training or fieldwork	実施する・Yes
	実技、実験の実施 ／Incorporate practice or experiment	
	実施内容 ／Incorporate practice or experiment	コンピュータを用いて、マルチメディアデータを取り扱う仕組み、インターネットにおける通信の仕組みについて実践的な作業を行う。
使用言語 ／Language	日本語 / Japanese	
その他 ／Note	この授業はオンデマンド型（非同期型）の「メディアを高度に利用した授業」です。 授業の開示方法については、学習管理システムを確認してください。 開示された教材は、開示後1週間のうち、都合の良い時間に受講し、指定された期日までにフィードバックを提出してください。 授業受講には、PC等の機器および通信環境が必要です。	

閉じる

授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

N o.	回 (日時) /Time (date and time)	主題と内容 /Subjects and contents	学習方法 /Methods	備考 /Notes	授業方法 /Class format
1	第1回 / Class 1	オリエンテーション (その1) 通信の歴史、インターネットの歴史、国際標準化について学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
2	第2回 / Class 2	オリエンテーション (その2) 通信の歴史、インターネットの歴史、国際標準化について学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
3	第3回 / Class 3	コンピュータにおける情報表現 (その1) データとは何か、データのデジタル化、2進数と16進数による表現方法、情報の単位について理解する。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
4	第4回 / Class 4	社会におけるインターネット (その1) 電子書籍とその普及のプロセスについて学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
5	第5回 / Class 5	コンピュータにおける情報表現 (その2) コンピュータにおける数値の表現について学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
6	第6回 / Class 6	コンピュータにおける情報表現 (その3) コンピュータにおける文字情報の表現について学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
7	第7回 / Class 7	コンピュータネットワーク (その1) インターネットにおける接続回線、TCP/IP、ドメイン名とIPアドレス、電子メールの仕組み、WWWの仕組み、HTTPなどのインターネットで使われるプロトコル (通信規約) について学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
8	第8回 / Class 8	コンピュータネットワーク (その2) インターネットにおける接続回線、TCP/IP、ドメイン名とIPアドレス、電子メールの仕組み、WWWの仕組み、HTTPなどのインターネットで使われるプロトコル (通信規約) について学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
9	第9回 / Class 9	コンピュータネットワーク (その3) インターネットの構造、IPv6、有線および無線通信技術 (無線LAN) の概要、インターネットセキュリティ、パケット解析について学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
10	第10回 / Class 10	コンピュータネットワーク (その4) インターネットの構造、IPv6、有線および無線通信技術 (無線LAN) の概要、インターネットセキュリティ、パケット解析について学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
11	第11回 / Class 11	コンピュータにおける情報表現 (その4) コンピュータにおける文書情報の表現 (構造化文書) とWebブラウザ、そのインターネットにおける活用について学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
12	第12回 / Class 12	社会におけるインターネット (その2) インターネットが多くの人にとってより使い易いものとするためのWebのユーザビリティとアクセシビリティの考え方について学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
13	第13回 / Class 13	コンピュータにおける情報表現 (その5) アナログとデジタルの差異とコンピュータにおける音の表現について学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
14	第14回 / Class 14	社会におけるインターネット (その3) 音楽データの情報圧縮とインターネットにおける音楽コンテンツについて学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
15	第15回 / Class 15	コンピュータにおける情報表現 (その6) コンピュータにおける画像情報 (静止画、動画) の表現、インターネットにおける動画コンテンツについて学ぶ。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes
16	第16回 / Class 16	社会におけるインターネット (その4) ソーシャルメディアの仕組みと社会にもたらす影響について学ぶ。 まとめ インターネットの今後の技術的課題、社会的課題について議論し、講義全体をまとめる。			非同時双方向型授業 (オンデマンド授業) /on-demand classes



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

- 基本情報／Basic Information
- 詳細情報／Detailed Information
- 授業計画詳細情報／Class Schedule Details

基本情報／Basic Information

開講科目名 ／Course	プログラミング実践／Advanced Programming		
時間割コード ／Course Code	24R03		
ナンバリングコード ／Numbering Code	IFM2034		
開講所属 ／Course Offered by	総合政策学部／College of Policy Studies		
ターム・学期 ／Term・Semester	2024年度／Academic Year 第4ターム／T4		
曜限 ／Day, Period	火／Tue 4, 火／Tue 5		
開講区分 ／semester offered	第4ターム／T4		
単位数 ／Credits	2.0		
学年 ／Year	2,3,4		
主担当教員 ／Main Instructor	小舘 亮之／KODATE AKIHISA		
科目区分 ／Course Group	選択科目 基幹科目：専門科目／ELECTIVE SUBJECTS 基幹科目：専門科目		
教室 ／Classroom	SA207／SA207		

担当教員情報／Instructor Information

教員名 ／Instructor	教員所属名 ／Affiliation
小舘 亮之／KODATE AKIHISA	総合政策学科

閉じる

授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information		詳細情報／Detailed Information	授業計画詳細情報／Class Schedule Details
講義の目的と内容 ／Course Purpose and Content	本講義の目的は、「プログラミング基礎」において習得したプログラミングの基礎スキルを発展させ、実践的な課題に対して効果的かつ創造的にプログラミングを活用できるようにすることである。 プログラミングとは、コンピュータにおける処理手順（アルゴリズム）を正確に表現することであり、コンピュータとのコミュニケーションに不可欠なスキルである。その重要性・汎用性の高さから一般教養として見なされるようになり、2020年からは日本でも義務教育化されている。プログラミングでは論理的かつ客観的にプロセスを記述する必要があるため、プログラミング的思考を身に着けることで問題解決能力を養うことができる。 本講義では、「プログラミング基礎」において習得したプログラミングの基礎スキルを発展させ、実践的な課題に対して効果的かつ創造的にプログラミングを活用できるようにすることである。画像や文章の処理、ウェブデータの収集など、普段利用しているシステムの簡易的なものを自分で実際にプログラミングすることで、情報システムのメカニズムについての理解も深める。 また、実践的なプログラミングを習得することで、近年注目されているAIやデータサイエンスの活用の幅を広げることも可能となる。簡易的なAIを用いた分析についても扱う。		
	本学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に以下の2つの力 ・データを活用して、社会の実態や諸課題に対する客観的な調査・分析・評価をおこなう能力 ・分析によって得られた社会的課題の要点やその解決案を適切かつ論理的に提示し、伝達する能力 ・社会的な課題に対して具体的な解決策を構想する力と、それを実現するための行動力の基礎力を身につけることを目標に、下記の事項を着実に達成することを目指す。 1. コンピュータの仕組みと役割について理解を深めること 2. 実践的なプログラミングを通してプログラミング言語について理解を深めること 3. 実践的なプログラムのアルゴリズムの理解を通して、課題解決に向けた論理的思考を養うこと 4. 社会で活用されているアルゴリズムの概要の理解を通して、社会的課題の解決にむけた実践力を身につけること 5. プログラミングの活用事例について学習し、柔軟なデータ活用の方法を習得すること		
テキスト ／Textbooks	教科書は使用しない。 講義資料を配布する。		
参考書 ／Reference Books	【Scratchの入門書】 中植正剛 太田和志 鴨谷真知子 著, Scratchで学ぶプログラミングとアルゴリズムの基本, 日経BP社, 2015年 【Pythonの入門書】 大澤文孝 著, いちばんやさしいPython入門教室, ソーテック社, 2017年 コーリー・アルソフ 著, 独学プログラマー Python言語の基本から仕事のやり方まで, 日経BP社, 2018年 その他、必要に応じて授業内で紹介する		
準備学習（予習・復習等）の内容 ／Supplementary Individual Study	課題に取り組むことが次週の講義の準備学習につながるため、課題に取り組むとともに、十分に復習をしていくこと。 ・実施した授業内容についての復習（90分） ・授業内で課す課題についての作業（270分）		
評価方法・基準 ／Evaluation Method	1. 講義・演習における平常点: 10% 2. 演習課題（原則として全ての課題を提出する）: 60% 3. 最終課題: 30% ※出席は原則として全体の3分の2以上必要である。 演習課題はオンラインでの提出とする。 また、課題を遅刻で提出した場合は減点対象とする。		
課題に対するフィードバック ／Task Feedback	授業中に、適宜フィードバックを行うほか、最終授業において全体に対するフィードバックを行う。		
オフィスアワー ／Office Hours	原則として、以下の通りとする。 時間：毎週水曜日お昼休み(12:15-12:45) 場所：アリス・メイベル・ペーコン記念館 5 階研究室またはこれに相当するオンライン環境 (メールで事前予約のこと)		
授業の特色 ／Characteristics of Class	PBLの実施 ／PBL implementation	実施する・Yes	
	実施内容 ／Incorporate PBL	各回、与えられたテーマについてプログラミングによる課題解決方法を検討する。	
	ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate discussion or debate		
	プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate presentation		
	反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	実施しない・No	
	実施内容 ／Incorporate flip teaching		

	グループワークの実施 ／Incorporate group work	実施しない・N o
	実施内容 ／Incorporate group work	
	実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical tra ining or fieldwork	実施しない・N o
	実施内容 ／Incorporate practical tra ining or fieldwork	
	実技、実験の実施 ／Incorporate practice or experiment	実施する・Y e s
	実施内容 ／Incorporate practice or experiment	授業内で取り上げる例題や課題のプログラミングを各自で行う。
使用言語 ／Language	日本語 / Japanese	
その他 ／Note	ノートPCを利用するので、毎回必ず用意すること。 第3タームに開講される「プログラミング基礎」との継続履修を薦める。 また、3年次の「アプリケーション開発」「経営情報システム」などの関連科目を履修することで継続的に学習を深めるこ とを期待する。	

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

N o.	回（日時） ／Time (date and time)	主題と内容 ／Subjects and contents	学習方法 ／Methods	備考 ／Notes	授業方法 ／Class format
1	第1回 / Class 1	概要説明			非同時双方向型授業（オンデマンド授業）/on-demand classes
2	第2回 / Class 2	アルゴリズムの理解、プログラミング的思考について コンピュータの環境設定			非同時双方向型授業（オンデマンド授業）/on-demand classes
3	第3回 / Class 3	プログラミングの代表的な処理：繰り返しと条件分岐			対面授業/Face-to-face classes
4	第4回 / Class 4	プログラミングの代表的な処理：繰り返しと条件分岐処理の実装			対面授業/Face-to-face classes
5	第5回 / Class 5	関数とクラス、変数形式			対面授業/Face-to-face classes
6	第6回 / Class 6	さまざまな形式の変数を用いたプログラムの実装			対面授業/Face-to-face classes
7	第7回 / Class 7	ウェブプログラミングの紹介			対面授業/Face-to-face classes
8	第8回 / Class 8	ウェブプログラミングの実践			対面授業/Face-to-face classes
9	第9回 / Class 9	機械学習とは			対面授業/Face-to-face classes
10	第10回 / Class 10	形態素解析と自然言語処理			対面授業/Face-to-face classes
11	第11回 / Class 11	画像やテキストなどの扱い方の紹介			対面授業/Face-to-face classes
12	第12回 / Class 12	画像やテキスト処理の実装			対面授業/Face-to-face classes
13	第13回 / Class 13	プログラミングの応用範囲について			対面授業/Face-to-face classes
14	第14回 / Class 14	AIやデータサイエンスとプログラミング ディープラーニング			対面授業/Face-to-face classes
15	第15回 / Class 15	まとめ			対面授業/Face-to-face classes
16	第16回 / Class 16	最終課題演習			対面授業/Face-to-face classes

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

- 基本情報／Basic Information
- 詳細情報／Detailed Information
- 授業計画詳細情報／Class Schedule Details

基本情報／Basic Information

開講科目名 ／Course	★経済分析／Quantitative Analysis for Economics
時間割コード ／Course Code	14A02
ナンバリングコード ／Numbering Code	IFM2033
開講所属 ／Course Offered by	総合政策学部／College of Policy Studies
ターム・学期 ／Term・Semester	2024年度／Academic Year 第1ターム／T1
曜限 ／Day, Period	月／Mon 4, 月／Mon 5
開講区分 ／semester offered	第1ターム／T1
単位数 ／Credits	2.0
学年 ／Year	2,3,4
主担当教員 ／Main Instructor	新海 尚子／SHINKAI NAOKO
科目区分 ／Course Group	選択科目 基幹科目：データ・サイエンス／ELECTIVE SUBJECTS 基幹科目：データ・サイエンス
教室 ／Classroom	---／---

担当教員情報／Instructor Information

教員名 ／Instructor	教員所属名 ／Affiliation
新海 尚子／SHINKAI NAOKO	総合政策学科

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information		詳細情報／Detailed Information	授業計画詳細情報／Class Schedule Details
講義の目的と内容 ／Course Purpose and Content	計量経済学とは何か?また、どのような問題を取り扱うのか?データ分析に必要なとなる統計の基礎知識から始まり、合計特殊出生率、教育水準、労働時間、インターネットアクセス率、貧困率、国内総生産、輸出量、実質経済成長率、物価上昇率、失業率など国内外の様々な社会科学データをを用いながら、社会経済的 이슈の吟味、また政策の効果を統計的に分析する際に必要とされる社会経済的なデータを分析するための基本的なツールを身につけることを目指す。扱うデータとしては、クロスセクションデータ、時系列データ、カテゴリカルデータ、それらを統合したパネルデータなどを用いて、それぞれデータの性質と主な分析手法について学ぶ。方法としては、講義のみでなく、演習も取り入れ、グループで、社会経済的データを収集して整理し、分析し発表するグループワークも活用する。分析ツールとしては、Excel、Rを用いる。 ※この授業は「メディアを高度に利用した授業」です。シラバスに記載されている、授業方法等を確認のうえ受講してください。		
	現代社会の中には、様々なデータが存在するが、そのデータの持つ性質はさまざまで、その性質にあった取り扱い方法が求められる。また、同じ社会経済的イシューを分析するにあたって、適したデータとあまり適していないデータがあり、使用するデータの選択も大事である。 本講義では、経済分析に必要なとなる統計の基礎から、ミクロデータ、マクロデータを使い分析するにあたって、経済、社会科学データの使用に慣れ、イシュー別に適切なデータを選択し、必要なデータ整理をし、社会経済的イシューの分析ができる能力を身に付けることを目指す。 また個々の事例を通じて、社会的な課題の解決に実践的に取り組むことができる力や、課題に取り組むことにより、分析によって得られた社会的課題の要点を適切に提示し、伝達する能力も身に付けることを目指す。		
	1.上藤 一郎、森本 栄一、常包 昌宏、田浦 元(2013)『調査と分析のための統計 第2版 ー社会・経済のデー タサイエンス』丸善出版。 2.山本 拓、竹内 明香(2024)『入門計量経済学 第2版：Excelによる実証分析へのガイド』 新世社。 注)一部講義、またデータおよびグループワークについては講義内で資料を配布		
	1.廣松 毅、高木 新太郎、佐藤 明彦、木村 正一 (2006)『経済統計』 新世社。 2.Wooldridge, Jeffrey M. (2015) Introductory Econometrics: A Modern Approach, 6th ed., South-Western Pu b. 3.山本 拓 (1995)『計量経済学』 新世社。		
	準備学習（予習・復習等）の内容 ／Supplementary Individual Study テキストの該当箇所を読み、配布された講義内容のスライド、説明などに従って、理解すること（150分）。また理解した内容をもとに、演習例題、課題に取り組むこと。また、例題を復習し、理解を深めること（150分）。		
	評価方法・基準 ／Evaluation Method クイズ提出(70%) 期末課題レポート(30%)を勘案し、総合的に判断する。		
	課題に対するフィードバック ／Task Feedback クイズ（課題）へのフィードバックは、返却時になされる。提出された練習問題に対し、間違いが多かった箇所については追加的に解説し共有する		
	オフィスアワー ／Office Hours 水曜日 12：00－12：50にオンラインで面談します。面談ご希望の方は、メールによる事前のAppointmentをとって下さい。		
	授業の特色 ／Characteristics of Class		
	PBLの実施 ／PBL implementation	実施する・Yes	
	実施内容 ／Incorporate PBL	課題についてグループワークを取り入れます。	
	ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate	実施する・Yes	
	実施内容 ／Incorporate discussion or debate	毎回の講義で出される例題や課題について、個人、またグループで取り組みます。各々グループに分かれて取り組む際、3,4人1組のグループで、データの取り扱いやイシュー、分析方法について話し合います。	
	プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation	実施する・Yes	
	実施内容 ／Incorporate presentation	最後のグループ課題については、授業の進み具合に応じ、プレゼンテーションを取り入れます。	
	反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	実施する・Yes	
	実施内容 ／Incorporate flip teaching	履修生は、毎週オンデマンドの講義内容を各自確認し、クイズに取り組み提出します。クイズについては、返却時にフィードバックをします。提出されたクイズに対し、間違いが多かった箇所については追加的に解説し共有します。	
	グループワークの実施 ／Incorporate group work	実施する・Yes	
	実施内容 ／Incorporate group work	後半ではまとめとして、グループに分かれて頂き、グループごとに期末課題に取り組んでもらいます。期末課題を実施するにあたり、データ収集および整理、分析、発表等、グループで取り組んでもらいます。	
	実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork	実施する・Yes	

	実施内容 ／Incorporate practical training or fieldwork	演習課題について、Excel、Rによる実習を取り入れます。 実施しない・No
	実技、実験の実施 ／Incorporate practice or experiment	
	実施内容 ／Incorporate practice or experiment	
使用言語 ／Language	日本語 / Japanese	
その他 ／Note	講義内では、さまざまなデータを取り扱う予定です。本講義では、主にExcelを用いるため、講義初めまでに、Excelなどに前もって触れておくことが望ましいです。また、受講にあたって、1年次履修科目の「経済の仕組み」「統計」等の講義内容を復習しておくことが望ましいです。 なお、授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる可能性があります。 授業受講に際して、PC等の機器および通信環境が必要になります。	

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information		詳細情報／Detailed Information	授業計画詳細情報／Class Schedule Details
講義の目的と内容 ／Course Purpose and Content	計量経済学とは何か?また、どのような問題を取り扱うのか?データ分析に必要なとなる統計の基礎知識から始まり、合計特殊出生率、教育水準、労働時間、インターネットアクセス率、貧困率、国内総生産、輸出量、実質経済成長率、物価上昇率、失業率など国内外の様々な社会科学データをを用いながら、社会経済的イシューの吟味、また政策の効果を統計的に分析する際に必要とされる社会経済的なデータを分析するための基本的なツールを身につけることを目指す。扱うデータとしては、クロスセクションデータ、時系列データ、カテゴリカルデータ、それらを統合したパネルデータなどを用いて、それぞれデータの性質と主な分析手法について学ぶ。方法としては、講義のみでなく、演習も取り入れ、グループで、社会経済的データを収集して整理し、分析し発表するグループワークも活用する。分析ツールとしては、Excel、Rを用いる。 ※この授業は「メディアを高度に利用した授業」です。シラバスに記載されている、授業方法等を確認のうえ受講してください。		
	現代社会の中には、様々なデータが存在するが、そのデータの持つ性質はさまざまで、その性質にあった取り扱い方法が求められる。また、同じ社会経済的イシューを分析するにあたって、適したデータとあまり適していないデータがあり、使用するデータの選択も大事である。 本講義では、経済分析に必要なとなる統計の基礎から、ミクロデータ、マクロデータを使い分析するにあたって、経済、社会科学データの使用に慣れ、イシュー別に適切なデータを選択し、必要なデータ整理をし、社会経済的イシューの分析ができる能力を身に付けることを目指す。 また個々の事例を通じて、社会的な課題の解決に実践的に取り組むことができる力や、課題に取り組むことにより、分析によって得られた社会的課題の要点を適切に提示し、伝達する能力も身に付けることを目指す。		
	1.上藤 一郎、森本 栄一、常包 昌宏、田浦 元(2013)『調査と分析のための統計 第2版 ―社会・経済のデータサイエンス』丸善出版。 2.山本 拓、竹内 明香(2024)『入門計量経済学 第2版：Excelによる実証分析へのガイド』新世社。 注)一部講義、またデータおよびグループワークについては講義内で資料を配布		
	1.廣松 毅、高木 新太郎、佐藤 明彦、木村 正一 (2006)『経済統計』新世社。 2.Wooldridge, Jeffrey M. (2015) Introductory Econometrics: A Modern Approach, 6th ed., South-Western Pub. 3.山本 拓 (1995)『計量経済学』新世社。		
	準備学習（予習・復習等）の内容 ／Supplementary Individual Study テキストの該当箇所を読み、配布された講義内容のスライド、説明などに従って、理解すること（150分）。また理解した内容をもとに、演習例題、課題に取り組むこと。また、例題を復習し、理解を深めること（150分）。		
	評価方法・基準 ／Evaluation Method クイズ提出(70%) 期末課題レポート(30%)を勘案し、総合的に判断する。		
	課題に対するフィードバック ／Task Feedback クイズ（課題）へのフィードバックは、返却時になされる。提出された練習問題に対し、間違いが多かった箇所については追加的に解説し共有する		
	オフィスアワー ／Office Hours 水曜日 12：00－12：50にオンラインで面談します。面談ご希望の方は、メールによる事前のAppointmentメントをとって下さい。		
	授業の特色 ／Characteristics of Class	PBLの実施 ／PBL implementation	実施する・Yes
		実施内容 ／Incorporate PBL	課題についてグループワークを取り入れます。
		ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate	実施する・Yes
		実施内容 ／Incorporate discussion or debate	毎回の講義で出される例題や課題について、個人、またグループで取り組みます。各々グループに分かれて取り組む際、3,4人1組のグループで、データの取り扱いやイシュー、分析方法について話し合います。
		プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation	実施する・Yes
		実施内容 ／Incorporate presentation	最後のグループ課題については、授業の進み具合に応じ、プレゼンテーションを取り入れます。
		反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	実施する・Yes
		実施内容 ／Incorporate flip teaching	履修生は、毎週オンデマンドの講義内容を各自確認し、クイズに取り組み提出します。クイズについては、返却時にフィードバックをします。提出されたクイズに対し、間違いが多かった箇所については追加的に解説し共有します。
		グループワークの実施 ／Incorporate group work	実施する・Yes
		実施内容 ／Incorporate group work	後半ではまとめとして、グループに分かれて頂き、グループごとに期末課題に取り組んでもらいます。期末課題を実施するにあたり、データ収集および整理、分析、発表等、グループで取り組んでもらいます。
		実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork	実施する・Yes

	実施内容 ／Incorporate practical training or fieldwork	演習課題について、Excel、Rによる実習を取り入れます。 実施しない・No
	実技、実験の実施 ／Incorporate practice or experiment	
	実施内容 ／Incorporate practice or experiment	
使用言語 ／Language	日本語 / Japanese	
その他 ／Note	講義内では、さまざまなデータを取り扱う予定です。本講義では、主にExcelを用いるため、講義初めまでに、Excelなどに前もって触れておくことが望ましいです。また、受講にあたって、1年次履修科目の「経済の仕組み」「統計」等の講義内容を復習しておくことが望ましいです。 なお、授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる可能性があります。 授業受講に際して、PC等の機器および通信環境が必要になります。	

閉じる

授業情報 / Class Information

2024/06/25 現在

- 基本情報 / Basic Information
- 詳細情報 / Detailed Information
- 授業計画詳細情報 / Class Schedule Details

基本情報 / Basic Information

開講科目名 / Course	多変量解析と公的統計 / Multivariate Analysis and Official Statistics		
時間割コード / Course Code	24A02		
ナンバリングコード / Numbering Code	IFM3019		
開講所属 / Course Offered by	総合政策学部 / College of Policy Studies		
ターム・学期 / Term・Semester	2024年度 / Academic Year 第1ターム / T1		
曜限 / Day, Period	火 / Tue 4, 火 / Tue 5		
開講区分 / semester offered	第1ターム / T1		
単位数 / Credits	2.0		
学年 / Year	3,4		
主担当教員 / Main Instructor	村田 一郎 / MURATA ICHIRO		
科目区分 / Course Group	選択科目 基幹科目：専門科目 / ELECTIVE SUBJECTS 基幹科目：専門科目		
教室 / Classroom	SA201 / SA201		

担当教員情報 / Instructor Information

教員名 / Instructor	教員所属名 / Affiliation
村田 一郎 / MURATA ICHIRO	総合政策学科
和田 かず美 / WADA KAZUMI	総合政策学科

閉じる

授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

講義の目的と内容 ／Course Purpose and Content	21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増すいわゆる「知識基盤社会」(knowledge-based society)の時代であるといわれます。このグローバル化、情報化などの急速な社会変化の時代に対応するために、様々な課題の解決を牽引できるデジタル推進人材が求められ、国や地方公共団体等の政策立案の現場でも近年、証拠に基づく政策立案(EBPM: Evidence Based Policy Making)の推進に伴い、行政課題の解決に向けた統計的な思考力などのデータ・リテラシーがより一層求められています。 情報通信技術の発展に伴ってデータの取得は以前よりも容易になりましたが、大量のデータは、分析により何らかの知見を引き出すことによって初めて価値を持ちます。さらに、データを取得したとしてもそれが誤情報・偽情報であるリスクが急速に高まっている中で、信頼できる情報源として国や地方公共団体が作成する公的統計はその重要性を大きく増しています。 本科目では、公的統計の作成や政府統計の総合窓口(e-Stat)の整備・運用に携わる総務省や独立行政法人統計センター等に所属する講師が、公的統計を用いたデータ分析を中心に統計の利活用について講義します。また、データから価値を引き出すことを目指したデータ分析演習を、統計解析ソフトRを用いて実践的に行います。																								
授業の到達目標 ／Learning Objectives	- 公的統計について理解を深め、目的に応じたデータを選択し、入手することができる - 必要なデータの加工や分析を行うためのRのプログラミングスキルを身につける - 様々な多変量解析手法について理解する - 課題やデータに応じて適切な多変量解析手法を選ぶことができる - 分析結果を適切に解釈し、説明することができる																								
テキスト ／Textbooks	教科書は使用せず、授業ごとに資料を配付する。																								
参考書 ／Reference Books	永田 靖、棟近 正彦(2001)「多変量解析法入門」サイエンス社 外山 信夫、辻谷 将明(2015)「実践R統計分析」オーム社 舟尾 暢男(2016)「The R Tips 第3版 データ解析環境Rの基本技・グラフィックス活用集」オーム社 Hadley Wickham, Mine Çetinkaya-Rundel, and Garrett Golemund 「R for Data Science」(2nd edition) http://r4ds.hadley.nz/																								
準備学習(予習・復習等)の内容 ／Supplementary Individual Study	最初の講義の前にRの使い方についての資料を配付するのでひととおり確認すること(120分程度)。講義はその内容は理解している前提で進めます。 毎回の講義と演習は前回の内容を前提に行われるため、復習(60分)のうえ疑問点などあれば質問等により解決するようにしてください。																								
評価方法・基準 ／Evaluation Method	出席及びコメントシートが1/3、前半のグループ課題が1/3、最終課題を1/3とします。 ※ コメントシートは期限を過ぎても受け付けますが、分析課題のレポートは提出期限を厳守してください。																								
課題に対するフィードバック ／Task Feedback	基本的には授業内で解説しますが、必要に応じメールなどでのフィードバックも行います。																								
オフィスアワー ／Office Hours	授業の前後、もしくはメールで質問を受け付けます。(メールアドレスは初回の授業時にお知らせします)必要に応じてオンラインでも対応します。																								
授業の特色 ／Characteristics of Class	<table border="1"> <tr> <td>PBLの実施 ／PBL implementation</td><td>実施する・Yes</td></tr> <tr> <td>実施内容 ／Incorporate PBL</td><td>講義後半の課題では、学生自身が課題を設定し、課題解決に必要なデータを収集・分析を行い、その結果をとりまとめて最終日に発表会を行います。</td></tr> <tr> <td>ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate</td><td>実施しない・No</td></tr> <tr> <td>実施内容 ／Incorporate discussion or debate</td><td></td></tr> <tr> <td>プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation</td><td>実施する・Yes</td></tr> <tr> <td>実施内容 ／Incorporate presentation</td><td>講義後半に取り組み課題について、最終講義日に課題の分析結果についての発表会を行います。 ※ 履修者数により発表が全員ではなくなる可能性があります。</td></tr> <tr> <td>反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching</td><td>実施する・Yes</td></tr> <tr> <td>実施内容 ／Incorporate flip teaching</td><td>科目冒頭のRの復習については、事前に提示した資料について予習を行っていることを前提として、講義内では疑問点の解決など、質疑応答を中心に進めます。</td></tr> <tr> <td>グループワークの実施 ／Incorporate group work</td><td>実施する・Yes</td></tr> <tr> <td>実施内容 ／Incorporate group work</td><td>受講人数により変更の可能性があります。科目の前半にグループ分析課題を予定しています。グループ分けは講師が指定します。</td></tr> <tr> <td>実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork</td><td>実施しない・No</td></tr> <tr> <td>実施内容 ／Incorporate practical training or fieldwork</td><td></td></tr> </table>	PBLの実施 ／PBL implementation	実施する・Yes	実施内容 ／Incorporate PBL	講義後半の課題では、学生自身が課題を設定し、課題解決に必要なデータを収集・分析を行い、その結果をとりまとめて最終日に発表会を行います。	ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate	実施しない・No	実施内容 ／Incorporate discussion or debate		プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation	実施する・Yes	実施内容 ／Incorporate presentation	講義後半に取り組み課題について、最終講義日に課題の分析結果についての発表会を行います。 ※ 履修者数により発表が全員ではなくなる可能性があります。	反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	実施する・Yes	実施内容 ／Incorporate flip teaching	科目冒頭のRの復習については、事前に提示した資料について予習を行っていることを前提として、講義内では疑問点の解決など、質疑応答を中心に進めます。	グループワークの実施 ／Incorporate group work	実施する・Yes	実施内容 ／Incorporate group work	受講人数により変更の可能性があります。科目の前半にグループ分析課題を予定しています。グループ分けは講師が指定します。	実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork	実施しない・No	実施内容 ／Incorporate practical training or fieldwork	
PBLの実施 ／PBL implementation	実施する・Yes																								
実施内容 ／Incorporate PBL	講義後半の課題では、学生自身が課題を設定し、課題解決に必要なデータを収集・分析を行い、その結果をとりまとめて最終日に発表会を行います。																								
ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate	実施しない・No																								
実施内容 ／Incorporate discussion or debate																									
プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation	実施する・Yes																								
実施内容 ／Incorporate presentation	講義後半に取り組み課題について、最終講義日に課題の分析結果についての発表会を行います。 ※ 履修者数により発表が全員ではなくなる可能性があります。																								
反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	実施する・Yes																								
実施内容 ／Incorporate flip teaching	科目冒頭のRの復習については、事前に提示した資料について予習を行っていることを前提として、講義内では疑問点の解決など、質疑応答を中心に進めます。																								
グループワークの実施 ／Incorporate group work	実施する・Yes																								
実施内容 ／Incorporate group work	受講人数により変更の可能性があります。科目の前半にグループ分析課題を予定しています。グループ分けは講師が指定します。																								
実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork	実施しない・No																								
実施内容 ／Incorporate practical training or fieldwork																									

	実技、実験の実施 ／Incorporate practice or experiment	実施する・Y e s
	実施内容 ／Incorporate practice or experiment	
使用言語 ／Language	日本語 / Japanese	
その他 ／Note	- 講義は主に演習を中心に行うため、ノートPCを持参してください。 - 受講にあたり、2年次必須科目の「統計II」の内容と統計解析ソフトRについて復習しておくことが望ましいです。 - この科目ではRの利用を前提に授業を進めますが、より使い慣れた他言語がある場合、そちらを使用しても構いません。 R言語であれば、演習課題などの際に解決できないエラー等がある場合に講師がサポートします。	

閉じる

授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

N o.	回 (日時) /Time (date and time)	主題と内容 /Subjects and contents	学習方法 /Methods	備考 /Notes	授業方法 /Class format
1	第1回 / Class 1	- 科目についてのガイダンス - 講義の構成と担当講師について - 提出課題とその評価について - 公的統計とデータサイエンス - 公的統計について - 今求められるデータサイエンスとは			対面授業/Face-to-face classes
2	第2回 / Class 2	- Rの復習 - 次のような内容の教材を事前配布し、予習済みであることを前提に、講義中はよくわからなかったところなどの質疑対応を中心に進める。 - 必要な基礎知識全般 - 主な変数の種類と構造について - 基本的な構文について - パッケージのインストールとその利用 - 基本的な可視化方法 - 行列の計算			対面授業/Face-to-face classes
3	第3回 / Class 3	- 教育用標準データセット(SSDSE)の紹介 データ分析のための汎用素材として、独立行政法人統計センターが作成・公開している統計データであるSSDSEについて紹介する。 - SSDSEを用いた分析事例紹介 実際にSSDSEを用いた分析の事例について紹介する。			対面授業/Face-to-face classes
4	第4回 / Class 4	SSDSEを用いた分析課題 SSDSEを用いた分析課題についてグループで取り組む。			対面授業/Face-to-face classes
5	第5回 / Class 5	データ加工と要約のためのRコーディング(1) Rパッケージ群のtidyverseを用いたデータの加工や要約について、その設計思想を説明し、直感的に理解しやすいコーディングが可能となることについて紹介する。			対面授業/Face-to-face classes
6	第6回 / Class 6	データ加工と要約のためのRコーディング(2) tidyverseを用いたデータの加工や要約について、SSDSEを用いた分析の事例を紹介する。			対面授業/Face-to-face classes
7	第7回 / Class 7	分析事例紹介(1) 多変量解析手法の解説及び利用例の紹介			対面授業/Face-to-face classes
8	第8回 / Class 8	分析事例紹介(2) 多変量解析手法の解説及び利用例の紹介			対面授業/Face-to-face classes
9	第9回 / Class 9	分析事例紹介(3) 多変量解析手法の解説及び利用例の紹介			対面授業/Face-to-face classes
10	第10回 / Class 10	分析事例紹介(4) 多変量解析手法の解説及び利用例の紹介			対面授業/Face-to-face classes
11	第11回 / Class 11	- SSDSEを用いた分析課題の講評 - グループレポートの返却 - 課題の解説と模範解答 - レポートの講評			対面授業/Face-to-face classes
12	第12回 / Class 12	- 最終課題への取り組み(1) - 最終課題の説明 - テーマ設定 (各人) - データ収集 (各人)			対面授業/Face-to-face classes
13	第13回 / Class 13	- 最終課題への取り組み(2) - データ分析作業 (各人) - 必要に応じて講師への個別相談			対面授業/Face-to-face classes
14	第14回 / Class 14	- 最終課題への取り組み(3) - データ分析作業 (各人) - 分析結果のとりまとめ (各人) - 必要に応じて講師への個別相談			対面授業/Face-to-face classes
15	第15回 / Class 15	- 最終課題への取り組み(4) - 発表スライド作成 (各人) - 必要に応じて講師への個別相談			対面授業/Face-to-face classes
16	第16回 / Class 16	- 最終課題への取り組み(5) - 発表スライド作成と提出 (各人) - 必要に応じて講師への個別相談			対面授業/Face-to-face classes

17	第17回 / Class 17	・ 最終課題発表会(1) （「試験・フィードバック等」） ※ 履修者数により結果の発表は全員ではなくなる可能性もあります			対面授業/Face-to-face classes
18	第18回 / Class 18	・ 最終課題発表会(2) （「試験・フィードバック等」） ※ 履修者数により結果の発表は全員ではなくなる可能性もあります			対面授業/Face-to-face classes

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

- 基本情報／Basic Information
- 詳細情報／Detailed Information
- 授業計画詳細情報／Class Schedule Details

基本情報／Basic Information

開講科目名 ／Course	アプリケーション開発／Developing Applications		
時間割コード ／Course Code	33N03		
ナンバリングコード ／Numbering Code	IFM3020		
開講所属 ／Course Offered by	総合政策学部／College of Policy Studies		
ターム・学期 ／Term・Semester	2024年度／Academic Year 第3ターム／T3		
曜限 ／Day, Period	水／Wed 3, 水／Wed 4		
開講区分 ／semester offered	第3ターム／T3		
単位数 ／Credits	2.0		
学年 ／Year	3,4		
主担当教員 ／Main Instructor	天野 学／AMANO GAKU		
科目区分 ／Course Group	選択科目 基幹科目：専門科目／ELECTIVE SUBJECTS 基幹科目：専門科目		
教室 ／Classroom	SA202／SA202		

担当教員情報／Instructor Information

教員名 ／Instructor	教員所属名 ／Affiliation
天野 学／AMANO GAKU	総合政策学科
小野田 瑛／ONODA AKIRA	総合政策学科

閉じる

授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

講義の目的と内容 ／Course Purpose and Content	アプリケーションは、特定の目的を達成するために設計されたソフトウェアである。スマートフォンやタブレット端末といったモバイルデバイスの普及によって、アプリケーションの用途やユーザー層が拡がり、利用が飛躍的に拡大している。また昨今では、IoTやAIの活用により、アプリケーションのさらなる進展が予想される。 本講義の目的は、アプリケーション開発プロセスを理解することである。そのためにも、単なる開発だけに留まらず、ユーザーニーズを想定し、上流設計から開発、テスト迄の一連のプロセスを経験できるように配慮する。また、アプリケーションの実装を体験するために、データベースの構築、UI/UXやデザイン、API(Application Programming Interface)を活用した簡単なプログラミングを行う。	
授業の到達目標 ／Learning Objectives	1. アプリケーション開発における開発プロセスを理解すること 2. アプリケーションの構成や事例について理解すること 3. ユーザーニーズを元にどのようなシステムを作成するかの要件分析について理解すること 4. データの作り方、およびデータベースの構成について理解すること 5. インタフェースのデザイン、特にUI/UXについて理解すること 6. 簡単なプログラミングを通じて、実装の可能性について理解すること 7. アプリケーションの評価方法について理解すること 8. 自身で問題を発見し、アプリケーションの着想、実装、評価、改良の実現性について説明できること	
テキスト ／Textbooks	教科書は使用せず講義資料を適宜配布する。	
参考書 ／Reference Books	授業中に適宜紹介する。	
準備学習（予習・復習等）の内容 ／Supplementary Individual Study	出題される課題に取り組むとともに、次週の講義の準備として十分な復習を行うこと。 宿題が提示される週やグループワーク期間においては、週平均で1-3時間の授業外の学習が必要になる。	
評価方法・基準 ／Evaluation Method	平常点：40% 課題：40% プレゼンテーション：20% ※期末試験は行わない。 ※課題を締切以降に提出した場合は減点対象とする。	
課題に対するフィードバック ／Task Feedback	適宜授業中にフィードバックを行うほか、最終授業において全体に対するフィードバックを行う。	
オフィスアワー ／Office Hours	水曜昼休み（事前にメールでアポイントをお願いします）	
授業の特色 ／Characteristics of Class	PBLの実施 ／PBL implementation	実施しない・No
	実施内容 ／Incorporate PBL	
	ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate	実施しない・No
	実施内容 ／Incorporate discussion or debate	
	プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation	実施する・Yes
	実施内容 ／Incorporate presentation	最終授業で提示された課題（Webアプリケーション開発）についてプレゼンテーション発表会を行う。発表はグループ単位で実施「作成要領」（想定）・資料：PowerPoint形式等・内容：①工夫したところ ②苦労したところ ③まとめ ※開発したWebアプリケーションのデモンストレーションを行うこと
	反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	実施しない・No
	実施内容 ／Incorporate flip teaching	
	グループワークの実施 ／Incorporate group work	実施する・Yes
	実施内容 ／Incorporate group work	アプリケーションの設計および開発をグループワークにて実施する。
	実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork	実施しない・No
	実施内容 ／Incorporate practical training or fieldwork	
	実技、実験の実施 ／Incorporate practice or experiment	実施しない・No

	実施内容 /Incorporate practice or experiment	
使用言語 /Language	日本語 / Japanese	
その他 /Note	毎回の講義でノートPCを利用するので、必ず持参してください。 講義時間内/前後、およびメールやコミュニケーションツール（Slack等）にて、適宜質問を受け付けます。 ★担当教員のBtoC、BtoBにおけるアプリケーション開発の実務経験を踏まえた授業です。	

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

N o.	回 (日時) ／Time (date a nd time)	主題と内容 ／Subjects and contents	学習方法 ／Methods	備考 ／Notes	授業方法 ／Class format
1	第1回 / Class 1	・ ITの過去から未来と実装の現状 (講義) 「アプリケーションとは」に対して、過去から現在に対して時系 列で移り変わりを説明する。またIoT、ビッグデータ、AIなどへ と移り変わる未来のITテクノロジーを見据えてアプリケーション の担う役割を説明する。			対面授業/Face-to-face c lasses
2	第2回 / Class 2	・ アプリケーションの構成要素／データベースの仕組み (講義) Web、スマホ関連のアプリケーション事例を交えて仕組みを説明 する。また、API (Webサービス) やデータベースの仕組みや種 類を説明する。			対面授業/Face-to-face c lasses
3	第3回 / Class 3	・ Webアプリケーション詳細：構成要素 (講義) 演習で作成するWebアプリケーションの構成要素を説明する。構 成要素について、画面側処理、サーバー側処理に分けてそれぞれの 役割・特徴を詳細に説明する。			対面授業/Face-to-face c lasses
4	第4回 / Class 4	・ HTML(UI/UX)の理解 (講義) WebアプリケーションにおけるWebブラウザの特徴および使用 される技術要素HTML,CSSの解説を行う。			対面授業/Face-to-face c lasses
5	第5回 / Class 5	・ HTML(言語)の習得 (講義／演習) HTMLおよびCSSをハンズオン形式のプログラミング体験をとお して理解を深める。			対面授業/Face-to-face c lasses
6	第6回 / Class 6	・ Webアプリケーション開発言語の理解 (講義) Webアプリケーション開発に使用するJavaScript言語について 解説を行う。			対面授業/Face-to-face c lasses
7	第7回 / Class 7	・ JavaScript言語基礎編 (講義／演習) JavaScript言語の基礎をハンズオン形式のプログラミング体験を とおして理解を深める。			対面授業/Face-to-face c lasses
8	第8回 / Class 8	・ JavaScript言語応用編 (講義／演習) JavaScript言語の応用編として、様々な場面での活用方法を解説 した後、クラウド環境を使用してハンズオン形式のプログラミン グ体験をとおして理解を深める。			対面授業/Face-to-face c lasses
9	第9回 / Class 9	・ アプリケーション設計 (講義／演習) 上流設計 (要件分析) 手法の一つである機能設計モデル、ドメイ ン分析モデルを説明し、演習題材を用いた解説および演習をとお して理解を深める。			対面授業/Face-to-face c lasses
10	第10回 / Class 10	・ リレーショナル・データベースによる設計手法 (講義) リレーショナル・データベースの詳細説明、およびデータベース 設計手法を例題を交えて説明する。			対面授業/Face-to-face c lasses
11	第11回 / Class 11	・ データベース構築および操作 (講義／演習) スキーマ定義、データ操作について解説し、クラウド環境にてハ ンズオン形式でSQL文を使用したCRUD (データの挿入、読込、 更新、削除) 操作を体験する。			対面授業/Face-to-face c lasses
12	第12回 / Class 12	・ 画面・データベース設計 (講義／演習) 機能設計モデルから画面設計、ドメイン分析からデータベース設 計の流れを演習題材を用いて解説した後、グループに分かれて実 際に機能モデル、概念モデルの作成を行う。			対面授業/Face-to-face c lasses
13	第13回 / Class 13	・ アプリケーション開発およびテスト (演習) グループに分かれ、実際に簡単なWebアプリケーションを実装す る。 ※アプリケーション設計、開発、テスト迄の一連の流れをグルー プワークにて体験する。			対面授業/Face-to-face c lasses
14	第14回 / Class 14	・ アプリケーション開発およびテスト (演習) グループに分かれ、実際に簡単なWebアプリケーションを実装す る。 ※アプリケーション設計、開発、テスト迄の一連の流れをグルー プワークにて体験する。			対面授業/Face-to-face c lasses
15	第15回 / Class 15	・ アプリケーション開発およびテスト (演習) グループに分かれ、実際に簡単なWebアプリケーションを実装す る。 ※アプリケーション設計、開発、テスト迄の一連の流れをグルー プワークにて体験する。			対面授業/Face-to-face c lasses
16	第16回 / Class 16	・ アプリケーション開発およびテスト (演習) グループに分かれ、実際に簡単なWebアプリケーションを実装す る。			対面授業/Face-to-face c lasses

		※アプリケーション設計、開発、テスト迄の一連の流れをグループワークにて体験する。			
17	第17回 / Class 17	・アプリケーションテストおよび発表準備 グループワークにて開発したアプリケーションの着想、実装、評価、改良の実現性について説明できるようなプレゼンテーション資料と提示用デモを作成する。			対面授業/Face-to-face classes
18	第18回 / Class 18	・発表会およびディスカッション、講評			対面授業/Face-to-face classes

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

- 基本情報／Basic Information
- 詳細情報／Detailed Information
- 授業計画詳細情報／Class Schedule Details

基本情報／Basic Information

開講科目名 ／Course	計算社会科学／Computational Social Science		
時間割コード ／Course Code	14R06		
ナンバリングコード ／Numbering Code	IFM2029		
開講所属 ／Course Offered by	総合政策学部／College of Policy Studies		
ターム・学期 ／Term・Semester	2024年度／Academic Year 第4ターム／T4		
曜日 ／Day, Period	月／Mon 4, 月／Mon 5		
開講区分 ／semester offered	第4ターム／T4		
単位数 ／Credits	2.0		
学年 ／Year	2,3,4		
主担当教員 ／Main Instructor	鈴木 貴久／SUZUKI TAKAHISA		
科目区分 ／Course Group	選択科目 基幹科目：データ・サイエンス／ELECTIVE SUBJECTS 基幹科目：データ・サイエンス		
教室 ／Classroom	SA305／SA305		

担当教員情報／Instructor Information

教員名 ／Instructor	教員所属名 ／Affiliation
鈴木 貴久／SUZUKI TAKAHISA	総合政策学科

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information	詳細情報／Detailed Information	授業計画詳細情報／Class Schedule Details
------------------------	---------------------------	---------------------------------

講義の目的と内容 ／Course Purpose and Content	近年広がりをみせている計算社会科学は、社会科学の課題を情報工学的手法で分析する学問分野であり、オンラインのビッグデータや人の行動データを用いた分析、AIを用いた社会の予測、計算機を用いた社会シミュレーションなどを含んでいる。従来の社会科学で用いられるデータの多くはインタビューやアンケート形式の社会調査によってもたらされていたが、ソーシャルメディアによって人々の自発的な情報発信が一般的になったことや、センサーやデバイス(IoT)の普及によって多様なデータの収集が可能となっており、社会科学の課題にも適用できるようになってきている。 本科目では講義形式と演習形式の授業を交互に行いながら、計算社会科学について解説するとともに、必要なスキルの習得を目指す。講義形式の授業では計算社会科学に関する研究事例の紹介や必要な概念について解説する。演習形式の授業では、プログラミングや分析ツールを用いた実践を行う。	
授業の到達目標 ／Learning Objectives	1. 計算社会科学を活用した事例について理解すること 2. 基本的なスキルを身に付けること 3. 自分で設定した課題に対して、どのようなデータを用いたアプローチが可能か考えられるようになること	
テキスト ／Textbooks	なし	
参考書 ／Reference Books	鳥海不二夫 編, 計算社会科学入門, 丸善出版, 2021年, ISBN:978-4-621-60596-6 Salganik M. J. 著, 瀧川裕貴 訳, 常松淳 訳, 阪本拓人 訳, 大林真也 訳, ビット・バイ・ビット: デジタル社会調査入門, 有斐閣, 2019年, ISBN:978-4-641-17448-1	
準備学習 (予習・復習等) の内容 ／Supplementary Individual Study	毎回の講義と演習は、前回の内容を理解していることが前提で行われる。次の回までに講義の復習と演習中に出される課題を解いておくこと (180分)。	
評価方法・基準 ／Evaluation Method	定期課題: 60% 最終レポート: 40%	
課題に対するフィードバック ／Task Feedback	授業内で解説する	
オフィスアワー ／Office Hours	火曜昼休み (12:00~13:00) 千駄ヶ谷キャンパスSA520 オンラインでの質問や、授業後の質問も受け付ける	
授業の特色 ／Characteristics of Class	PBLの実施 ／PBL implementation	実施しない・No
	実施内容 ／Incorporate PBL	実施しない・No
	ディスカッション、ディベート、討議の実施 ／Incorporate discussion or debate	
	実施内容 ／Incorporate discussion or debate	実施しない・No
	プレゼンテーション、発表の実施 ／Incorporate presentation	
	実施内容 ／Incorporate presentation	実施しない・No
	反転授業の実施 ／Incorporate flip teaching	
	実施内容 ／Incorporate flip teaching	実施しない・No
	グループワークの実施 ／Incorporate group work	
	実施内容 ／Incorporate group work	実施しない・No
	実習、フィールドワークの実施 ／Incorporate practical training or fieldwork	
	実施内容 ／Incorporate practical training or fieldwork	実施する・Yes
	実技、実験の実施 ／Incorporate practice or experiment	
	実施内容 ／Incorporate practice or experiment	プログラミングやその他分析ツールを用いた演習を行う。
使用言語 ／Language	日本語 / Japanese	

その他
／Note

演習ではプログラミングを用いることがあるので基礎知識があると望ましい。（アルゴリズムorプログラミング基礎を履修しておくことを強く推奨します）

閉じる



授業情報／Class Information

2024/06/25 現在

基本情報／Basic Information

詳細情報／Detailed Information

授業計画詳細情報／Class Schedule Details

N o.	回 (日時) ／Time (date and time)	主題と内容 ／Subjects and contents	学習方法 ／Methods	備考 ／Notes	授業方法 ／Class format
1	第1回 / Class 1	イントロダクション：計算社会科学とは何か、これまでの社会科学との違いについて			対面授業/Face-to-face classes
2	第2回 / Class 2	演習 1：主に用いられるツールの使い方を習得する			対面授業/Face-to-face classes
3	第3回 / Class 3	ウェブ上のデータ収集：APIを用いて収集できるデータの種類や活用事例			対面授業/Face-to-face classes
4	第4回 / Class 4	演習 2：APIを用いたデータ収集を行う			対面授業/Face-to-face classes
5	第5回 / Class 5	テキストデータの分析：目的に応じた分析の手法とその活用事例についての解説			対面授業/Face-to-face classes
6	第6回 / Class 6	演習 3：テキストデータの分析を行う			対面授業/Face-to-face classes
7	第7回 / Class 7	社会シミュレーション：計算機を用いたシミュレーションの事例、その手法や解釈について解説する			対面授業/Face-to-face classes
8	第8回 / Class 8	演習 4：社会シミュレーション演習			対面授業/Face-to-face classes
9	第9回 / Class 9	ネットワークデータの扱い：各種指標の計算や分析手法の解説			対面授業/Face-to-face classes
10	第10回 / Class 10	演習 5：ネットワークデータの分析演習			対面授業/Face-to-face classes
11	第11回 / Class 11	機械学習による予測：色々な機械学習手法やその活用事例			対面授業/Face-to-face classes
12	第12回 / Class 12	演習 6：機械学習の演習			対面授業/Face-to-face classes
13	第13回 / Class 13	位置情報データ・移動ログの活用：政策やビジネス分野における活用事例			対面授業/Face-to-face classes
14	第14回 / Class 14	演習 7：位置情報データ・移動ログを用いた演習			対面授業/Face-to-face classes
15	第15回 / Class 15	講義のまとめ			対面授業/Face-to-face classes
16	第16回 / Class 16	演習のまとめ			対面授業/Face-to-face classes

閉じる

履 修 要 覧

2 0 2 4

訂正反映版(2025/2/6)

津 田 塾 大 学
総 合 政 策 学 部

目 次

沿革	5
calendar 2024～2025	6
2024年度 学芸学部・総合政策学部 学年暦	7
2024年度 年間スケジュール	8
2024年度 曜日別授業実施予定表 (総合政策学部)	10
基本理念	11
総合政策学部の学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	11
総合政策学部の教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	11
総合政策学部の入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	12
I 学校法人 津田塾大学 寄附行為(抜粋)	13
II 津田塾大学学則	13
III 履修について	43
1. 授業について	45
2. 単位制について	47
3. 履修登録について	47
4. 学習の評価について	49
(1) 評価基準	49
(2) 平常点	50
(3) 出席重視科目	50
(4) GPAについて	50
(5) 進級基準	51
(6) 試験	51
(7) レポート	53
(8) 卒業研究プロジェクトの提出	54
(9) 再履修	54
(10) 単位認定	54
(11) 既修得単位の認定について	55
5. 卒業の要件について	55
6. 履修に関するQ & A	55
7. Web履修登録の方法について	57
8. 科目番号(ナンバリング)について	61

IV 学籍について	63
1. 修業年限と在学期間	65
2. 休 学	65
3. 復 学	65
4. 退 学	65
5. 除 籍	65
6. 転部・転科	66
7. 留 学	66
8. 交換学生派遣(国内)	66
9. 再入学	67
10. 学費等	68
11. 経済的理由により修学が困難な私費外国人 留学生の授業料減免措置に関する規程	69
12. 学籍番号形態について	70
V 教育課程	71
1-1. 総合政策学科 (2022年度以前入学者用)	73
(1) 履修単位数	73
(2) 履修方法	73
(3) コースについて	74
(4) セミナー登録について	74
(5) 卒業研究プロジェクトについて	75
(6) 標準カリキュラム表	76
(7) 授業科目名・単位	80
1-2. 総合政策学科 (2023年度以降入学者用)	81
(1) 履修単位数	81
(2) 履修方法	81
(3) コースについて	82
(4) セミナー登録について	83
(5) 卒業研究プロジェクトについて	83
(6) 標準カリキュラム表	84
(7) 授業科目名・単位	86
2. データサイエンス・リテラシープログラム	96
(1) 授業科目名・単位	97
3. データサイエンス応用基礎プログラム	98
(1) 授業科目名・単位	99

教室配置図	100
-------	-----

沿 革

1900 (明治33)	年 7 月 9 月	私立「女子英学塾」の設立認可を受ける。 東京麹町区一番町に「女子英学塾」開塾。塾長 津田梅子。 14日開校式、塾生10名。
1904 (37)	年 3 月	専門学校令 (36年 3 月公布) による専門学校の認可を受ける。
1905 (38)	年 9 月	英語科教員無試験検定取扱の許可を受ける。
1919 (大正 8)	年 2 月	津田塾長病気のため、辻マツ塾長代理となる。
1923 (12)	年 9 月	関東大震災により、校舎全焼。10月15日より女子学院の一部を借り授業開始。
1924 (13)	年 1 月	焼跡に仮校舎を建築。
1925 (14)	年 3 月	塾長代理辻マツ退任。星野あいその後を継ぐ。
1929 (昭和 4)	年 8 月 9 月	16日津田塾長、鎌倉の別荘にて逝去。 星野あい、塾長となる。
1931 (6)	年 9 月	東京府下北多摩郡小平村に新校舎成り、移転。
1933 (8)	年 7 月	校名「女子英学塾」を「津田英学塾」と改称。
1943 (18)	年 1 月	理科増設。数学科、物理化学科を置く。校名「津田英学塾」を「津田塾専門学校」と改称。
1948 (23)	年 4 月	学制の改革に伴い、「津田塾大学」を設立。英文学部を置く。
1949 (24)	年 4 月	数学科を増設。学芸学部 to 英文学科、数学科を置く。
1951 (26)	年 2 月	設置者 学校法人津田塾大学となり、高木八尺理事長となる。
1952 (27)	年 3 月 4 月	星野あい、学長を退任し名誉学長となる。 粕谷よし、学長となる。
1954 (29)	年 5 月	石坂泰三、理事長となる。
1960 (35)	年 1 月	語学研究所を付設。
1962 (37)	年 3 月 4 月	粕谷よし、学長を退任。 藤田たき、学長となる。
1963 (38)	年 4 月	大学院設置。文学研究科英文学専攻修士課程及び理学研究科数学専攻修士課程を置く。
1965 (40)	年 4 月	大学院文学研究科英文学専攻博士課程設置。
1969 (44)	年 4 月	学芸学部 to 国際関係学科を増設。
1971 (46)	年 7 月 10 月	計算センターを付設。 保健センターを付設。
1972 (47)	年 4 月	大学院理学研究科数学専攻博士課程設置。
1973 (48)	年 3 月 4 月 11 月	藤田たき、学長を退任。 河野正通、学長事務取扱となる。 中島文雄、学長となる。
1974 (49)	年 1 月 4 月	横田喜三郎、理事長となる。 大学院国際関係学研究科国際関係論専攻修士課程設置。
1975 (50)	年 7 月	国際関係研究所を付設。
1976 (51)	年 4 月	大学院国際関係学研究科国際関係論専攻博士課程設置。
1980 (55)	年10月 11 月	中島文雄、学長を退任。 大東百合子、学長となる。
1985 (60)	年 4 月	語学研究所を言語文化研究所と改称。視聴覚センターを付設。
1988 (63)	年 4 月 10 月 11 月	数学・計算機科学研究所を付設。 大東百合子、学長を退任。 天満美智子、学長となる。
1993 (平成 5)	年 7 月	彌永昌吉、理事長となる。
1995 (7)	年10月	石坂一義、理事長となる。
1996 (8)	年 4 月 10 月 11 月	数学科を情報数理科学科と改称。 保健センターをウェルネス・センターと改称。 天満美智子、学長を退任。 志村尚子、学長となる。
2000 (12)	年10月	津田梅子記念交流館を付設。
2001 (13)	年 4 月	国際センターを付設。
2004 (16)	年10月 11 月	志村尚子、学長を退任。 飯野正子、学長となる。
2006 (18)	年 4 月	情報数理科学科を改組し、数学科と情報科学科を新設。 イングリッシュ・コーディネーション・センターを付設。
2006 (18)	年 7 月	服部禮次郎、理事長となる。
2008 (20)	年 4 月	千駄ヶ谷キャンパス開設。
2010 (22)	年 4 月	大学院理学研究科情報科学専攻修士課程設置。
2012 (24)	年 4 月 10 月 11 月	大学院理学研究科情報科学専攻後期博士課程設置。 飯野正子、学長を退任。 飯野正子、理事長となる。 國枝マリ、学長となる。
2013 (25)	年 4 月	島田精一、理事長となる。
2016 (28)	年 3 月 4 月	國枝マリ、学長を退任。 高橋裕子、学長となる。
2017 (29)	年 4 月	総合政策学部総合政策学科設置。総合政策研究所を付設。
2019 (31)	年 4 月	学芸学部 to 多文化・国際協力学科を増設。 学芸学部英文学科を学芸学部英語英文学科と改称。

Calendar 2024 ~ 2025

2024

4							5							6						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6				1	2	③	④							1
7	8	9	10	11	12	13	⑤	⑥	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
28	⑳	30					26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
														30						
7							8							9						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
14	⑮	16	17	18	19	20	⑪	⑫	13	14	15	16	17	15	⑯	17	18	19	20	21
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	⑳	㉑	24	25	26	27	28
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31	29	30					
10							11							12						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2	1	2	3	4	5	6	7
6	7	8	9	10	11	12	③	④	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
13	⑭	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	㉓	22	23	24	25	26	27	28
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				

2025

1							2							3						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			①	2	3	4							1							1
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8
12	⑬	14	15	16	17	18	9	10	⑪	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	⑳	21	22
26	27	28	29	30	31		㉓	㉔	25	26	27	28		23	24	25	26	27	28	29
														30	31					

4月29日	昭和の日	10月14日	スポーツの日
5月3日	憲法記念日	11月3日	文化の日
5月4日	みどりの日	11月4日	振替休日
5月5日	こどもの日	11月23日	勤労感謝の日
5月6日	振替休日	1月1日	元日
7月15日	海の日	1月13日	成人の日
8月11日	山の日	2月11日	建国記念の日
8月12日	振替休日	2月23日	天皇誕生日
9月16日	敬老の日	2月24日	振替休日
9月22日	秋分の日	3月20日	春分の日
9月23日	振替休日		

**2024年度 学芸学部・総合政策学部
学 年 暦**

月	日	曜	行 事
2024年 4月	3 4・5、8～12 5、8～11 15	水 木・金、月～金 金、月～木 月	入学式 新入生オリエンテーション 定期健康診断 第1ターム授業開始
6月	11・12 13 18～21、24、29	火・水 木 火～金、月、土	補講 休業日 【学芸学部】第1ターム最終授業期間 【総合政策学部】第1ターム試験期間
7月	25 29 15 29 30	火 土 月（海の日） 月 火	第2ターム授業開始 第1ターム授業終了 平常授業実施 第2ターム授業終了 夏期休暇開始
8月	16 22 23 26 28	金 木 金 月 水	津田梅子命日 休業日 休業日 休業日 第1・第2ターム追試験開始
9月	1 2 14	日 月 土	夏期休暇終了 第3ターム授業開始 創立記念日
10月	16 13 14 18 19・20 21 29～31	月（敬老の日） 日 月（スポーツの日） 金 土・日 月 火～木	平常授業実施 津田梅子記念会 平常授業実施 休講日・津田塾祭準備 津田塾祭 休講日・津田塾祭後始末 補講
11月	4 5～8、11・12	月（文化の日振替休日） 火～金、月・火	平常授業実施 【学芸学部】第3ターム最終授業期間 【総合政策学部】第3ターム試験期間
12月	12 13・14 15 22 23・24 11 25 27 28	火 水・木 金 金 土・日 水 水 金 土	休講日・第3ターム授業終了 休講日 第4ターム授業開始 休講日・津田ヶ谷祭準備 津田ヶ谷祭 クリスマス礼拝 休業日 12月授業終了 冬期休暇開始
2025年 1月	5 6 17 21・23 27～31	日 月 金 火・木 月～金	冬期休暇終了 第4ターム授業再開 休講日 補講
2月	1 1 20	土 土 木	【学芸学部】第4ターム最終授業期間 【総合政策学部】第4ターム試験期間 第4ターム授業終了
3月	3 18 19	月 火 水	第3・第4ターム追試験開始（4年生のみ） 第3・第4ターム追試験開始（3年生以下） 卒業礼拝 卒業式

【学芸学部・総合政策学部】授業は原則として各ターム授業期間の土日祝日を除いて行う。

【学芸学部】試験は原則として各タームの最終授業期間に行う。

2024年度 年間スケジュール

		行 事 日 程		履修等スケジュール
4 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	3日 4日 5日 15日	入学式 午後各種ガイダンス（予定） 新入生オリエンテーション（4・5・8～12日） 健康診断（5・8～11日） 第1ターム授業開始	2日 4日 10日 11日 13日 上旬 中旬	予備登録科目募集期間（～7日） 第二外国語履修申込受付（～8日） 予備登録科目抽選結果発表 予備登録科目追加募集 履修登録（～22日） 履修登録説明会 夏期語学研修説明会 協定校留学説明会
5 日 月 火 水 木 金 土 1 2 ③ ④ ⑤ ⑥ 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	中旬	避難訓練	上旬 9日 30日	レポートの書き方講座（オンデマンド公開） 履修放棄（～10日） 予備登録科目追加募集（～31日）
6 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	11・12日 13日 18日 25日 29日	補講 7月15日振替休業日 第1ターム試験期間（～21・24・29日） 第2ターム授業開始 第1ターム授業終了	6日 上旬 中旬 下旬	履修登録（～13日） 第1ターム試験時間割発表 4年生卒業単位確認 転部・転科試験概要発表
7 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 ⑮ 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	15日 29日 30日	平常授業日 第2ターム授業終了 夏期休暇開始	2日 上旬 下旬	履修放棄（～3日） 夏期語学研修開始 夏期語学研修終了 第1ターム成績発表
8 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ⑪ ⑫ 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	16日 22日 23日 26日 28日	津田梅子命日 9月16日振替休業日 10月14日振替休業日 11月4日振替休業日 第1・第2ターム追試験開始	7日 20日 下旬	帰学・復学学生対象クラス指定科目登録確認期間（～14日） 予備登録科目追加募集（～21日） 第2ターム成績発表
9 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 ⑯ 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1日 2日 14日 16日	夏期休暇終了 第3ターム授業開始 創立記念日 平常授業日	2日 24日	履修登録（～9日） 履修放棄（～25日）

■ 授業期間、__ 補講日、■ 試験期間、△ 休業日、○ 祝日

		行 事 日 程		履修等スケジュール
10 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	13日 14日 18日 19日 21日 29~31日	津田梅子記念会 平常授業日 休講日・津田塾祭準備 津田塾祭（～20日） 休講日・津田塾祭後始末補講	中旬 21日	第3ターム試験時間割発表 春期語学研修説明会 予備登録科目追加募集（～22日）
11 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	4日 5日 12日 13・14日 15日 22日 23日	平常授業日 第3ターム試験期間（～8・11・12日） 休講日・第3ターム授業終了 休講日 第4ターム授業開始 休講日・津田ヶ谷祭準備 津田ヶ谷祭（～24日）	15日 下旬	履修登録（～25日） 新2・3年セミナー登録
12 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	11日 25日 27日 28日	クリスマス礼拝 休業日 12月授業終了 冬期休暇開始	9日 上旬 12日 中旬	履修放棄（～10日） 新2・3年セミナークラス発表 卒業研究プロジェクト提出締切（15：00） 第3ターム成績発表
1 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	5日 6日 17日 21・23日 27日	冬期休暇終了 第4ターム授業再開 休講日 補講 第4ターム試験期間（～2月1日）	6日 上旬	卒業研究プロジェクト報告会（～24日） 第4ターム試験時間割発表
2 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	1日 20日	第4ターム授業終了 第3・第4ターム追試験／再試験開始（4年生）	上旬 中旬 下旬	春期語学研修開始 第4ターム成績発表（4年生） 春期語学研修終了
3 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	3日 18日 19日	第3・第4ターム追試験開始（3年生以下） 卒業礼拝 卒業式	上旬	第4ターム成績発表（3年生以下）

※日程が変更になる場合や、ここに記載されていない予定もありますので、詳細はTsudaNetや掲示で確認してください。

2024年度 曜日別授業実施予定表（総合政策学部）

※ は祝日授業日

【第1ターム】

	Mon.	Tues.	Wed.	Thurs.	Fri.
第1週	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19
第2週	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26
第3週	5/13	4/30	5/1	5/2	5/10
第4週	5/20	5/7	5/8	5/9	5/17
第5週	5/27	5/14	5/15	5/16	5/24
第6週	6/3	5/21	5/22	5/23	5/31
第7週	6/10	5/28	5/29	5/30	6/7
第8週	6/17	6/4	6/5	6/6	6/14
第9週	6/24	6/18	6/19	6/20	6/21

第1ターム補講日：6/11（火）、6/12（水）／第1ターム第9週予備日：6/29（土）

【第2ターム】

	Mon.	Tues.	Wed.	Thurs.	Fri.
第1週	7/1	6/25	6/26	6/27	6/28
第2週	7/8	7/2	7/3	7/4	7/5
第3週	7/15	7/9	7/10	7/11	7/12
第4週	7/22	7/16	7/17	7/18	7/19
第5週	7/29	7/23	7/24	7/25	7/26

【第3ターム】

	Mon.	Tues.	Wed.	Thurs.	Fri.
第1週	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6
第2週	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13
第3週	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20
第4週	9/30	9/24	9/25	9/26	9/27
第5週	10/7	10/1	10/2	10/3	10/4
第6週	10/14	10/8	10/9	10/10	10/11
第7週	10/28	10/15	10/16	10/17	10/25
第8週	11/4	10/22	10/23	10/24	11/1
第9週	11/11	11/5	11/6	11/7	11/8

第3ターム補講日：10/29（火）、10/30（水）、10/31（木）／第3ターム第9週予備日：11/12（火）

【第4ターム】

	Mon.	Tues.	Wed.	Thurs.	Fri.
第1週	11/18	11/19	11/20	11/21	11/15
第2週	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29
第3週	12/2	12/3	12/4	12/5	12/6
第4週	12/9	12/10	12/11	12/12	12/13
第5週	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20
第6週	12/23	12/24	1/8	12/26	12/27
第7週	1/6	1/7	1/15	1/9	1/10
第8週	1/20	1/14	1/22	1/16	1/24
第9週	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31

第4ターム補講日：1/21（火）、1/23（木）／第4ターム第9週予備日：2/1（土）

試験期間に気象警報発表による休講があった場合は、そのタームの第9週予備日に試験日を移動します。

【授業時間（通常）】

1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	6限目
8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30

【授業時間（第1、3、4ターム試験期間）】

1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	6限目
8:50～10:20	10:40～12:10	13:00～14:30	14:50～16:20	16:40～18:10	18:30～20:00

基本理念

津田塾大学は、キリスト教精神に則って、女性に幅広い教養と高度な専門的学術を教授し、国際的視野を備え、さまざまな地球的課題に対してイニシアティブを発揮して、地域社会と国際社会の双方に貢献できるオールラウンドな女性を育成する。

この目的のため、高度な英語力を含む言葉の力の習得、リベラル・アーツ教育に基づく教養および専門の学術の探求、現代社会が抱える諸問題に対する総合的な課題解決力の獲得を目指し、少人数教育を重視した教育課程を編成する。

本学の創設者、津田梅子の建学の理念である、自由で自立した個人としての女性、すなわち自分自身で考え、行動する力を備えた女性の社会参画を促す高等教育を今後とも展開し、これまでに築かれた本学の特色ある歴史と伝統を基盤に、先進的な女性の育成を通して社会的な使命を果たしていく。

総合政策学部学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

津田塾大学は、キリスト教精神に則って、女性に幅広い教養と専門的学術を教授し、国際的視野を備え、さまざまな地球的課題に対してイニシアティブを発揮して、地域社会と国際社会の双方に貢献できるオールラウンドな女性を育成します。このため、すべての各学部・学科に共通する「7つの力」すなわち、幅広い教養、批判的思考力・洞察力、高度な英語力、コミュニケーション能力、情報処理・活用能力、社会への幅広い関心、問題に対して自分自身で考え、行動して課題解決へ導く力の育成を含む教育課程を、各学部・学科において編成し、各学部・学科が定める教育課程における所定の単位を修得した者に学位を授与します。

【総合政策学部総合政策学科】

総合政策学部は、現代社会が抱える諸課題の解決に取り組み、より良い社会の仕組みをつくりだすことのできる、リーダーシップを備えた女性を育成することを目的とし、本学学則に定める卒業要件に必要な単位を修得することで次のような能力を身に付けた者に学位「学士（総合政策学）」を授与します。

- ・多様な価値観をもつ他者とのあいだで合意を形成し、共通のルールをつくりだすことのできる実践的な英語力と高度なコミュニケーション能力
- ・社会科学の基礎的な知識にもとづいて、社会を成り立たせている基本的な仕組みを理解し、社会の諸相を多角的に把握することで、現代社会が抱えるさまざまな課題を的確に抽出する能力
- ・データを活用して、社会の実態や諸課題に対する客観的な調査・分析・評価をおこなう能力
- ・フィールドワークや事例研究をつうじて、社会的な課題の解決に実践的・主体的に取り組むことができる力
- ・分析によって得られた社会的課題の要点やその解決案を適切かつ論理的に提示し、伝達する能力
- ・社会的な課題に対して具体的な解決策を構想する力と、それを実現するための行動力
- ・社会的な課題に対してよりよい解決を導くために、既存の知や社会通念を批判的に検証する思考力
- ・人類社会についての深い理解に基づいて課題解決に取り組むための幅広い教養

総合政策学部の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

【総合政策学部総合政策学科】

本学部本学科は以下の方針のもとで教育課程を設けています。

1. 課題解決のための総合的な実践力を養う場として、本学科での学びの拠点となるセミナーを、必修科目として各年次に置く。
2. 現代社会が抱える諸課題の解決と学問研究との関係ならびに、本学部本学科での学びと卒業後のキャリア形成との関係について理解させるオリエンテーション講義「総合政策概論」を必修科目として初年次に置く。
3. 現代社会の抱える諸課題を把握し、課題解決に取り組むために必要な基礎学力として、実践的な英語力、社会の仕組みに対する基礎的な知識と理解力、データ解析力の修得のため、英語、ソーシャル・サイエンス、データ・サイエンスの3つの分野における基礎科目を必修科目として置く。
4. 基礎科目の発展として専門科目を選択必修科目として置く。
5. 課題解決のための学問知を実践的に習得する場として、4つの課題領域のもとに課題解決関連科目を選択必修科目として置く。
6. 教養教育のための総合科目を選択科目として設置する。

総合政策学部の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

【総合政策学部総合政策学科】

津田塾大学総合政策学部総合政策学科は、現代社会が抱える課題の解決に取り組み、より良い社会の仕組みをつくりだすことのできる、リーダーシップを備えた女性を育成することを目指しています。とりわけそこで重視されるのは、社会の諸相を正確に把握し、問題の所在や解決すべき課題を的確に抽出できる認識力と分析力、根拠や条件に基づいて現実的な課題解決方法をねばり強く探求していく思考力、主体的に課題解決に取り組みその解決策を実行するための行動力、他者とのあいだで合意を形成し共通のルールをつくりだすことのできる実践的な英語力と高度なコミュニケーション能力、です。こうした能力を養うために、総合政策学部総合政策学科では次のような意欲と学力をもった入学者を求めます。

- ・現代社会が抱えるさまざまな課題への関心と、それを解決しようとする意欲
- ・旺盛な知的好奇心と行動力
- ・自らの能力を高めるために主体的に学び続ける意志
- ・論理的に考え、表現する力
- ・英語で聞き、話し、読み、書くための語彙・文法の基礎力、並びにそれに基づく英語コミュニケーション力
- ・自らの生きる社会や時代のありようを理解するための歴史的・地理的・文化的知識
- ・データ分析の土台となる基礎的な数理的思考力



学校法人津田塾大学寄附行為（抜粋）



津田塾大学学則

I 学校法人津田塾大学寄附行為(抜粋)

第1章 総 則

第1条 (名称) この法人は、学校法人津田塾大学と称する。

第2条 (事務所の所在地) この法人は、その事務所を東京都小平市津田町2丁目1番1号に置く。

第3条 (目的) この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、キリスト教精神に基づく女子の大学を設置することを目的とする。

第4条 (設置する学校) この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる大学を設置する。

津田塾大学

大学院	文学研究科	理学研究科	国際関係学研究科
学芸学部	英語英文学科	国際関係学科	多文化・国際協力量科
総合政策学部	総合政策学科	数学科	情報科学科

II 津田塾大学学則

第1章 総 則

第1条 この大学は女子に広く高度な教養を授けるとともに、専門の学術を教授研究し、キリスト教精神により、堅実円満にして自発的かつ奉仕的な人物を養成することを目的とする。

第2条 本学に学芸学部および総合政策学部を置く。

2 学芸学部は英語英文学科、国際関係学科、多文化・国際協力量科、数学科および情報科学科を置く。

3 総合政策学部は総合政策学科を置く。

第3条 学芸学部英語英文学科は、言語や文化を総合的な視点でとらえ、英語を通じて異なる文化的背景を探究する考察力と人間を洞察する力量を培い、高度な英語力を基盤とした専門的学識と広い視野をかね備えた、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

2 学芸学部国際関係学科は、政治・法、経済、文化、社会、地域などの多様な視点から、英語と第二外国語を基盤として、現代世界の諸問題を国際的かつ学際的に考察し、広い視野と独自の洞察力をもって国際社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

3 学芸学部多文化・国際協力量科は、社会構造や文化の違いが引き起こしている問題、国際協力・国際援助が抱える問題に向き合い、より良い「共生型」社会の実現に向けての新しいアプローチを提案でき、国内外問わず「今ある状況」をよりよくするためにはどうすれば良いのか、それぞれの場で変革を担う人材の育成を目的とする。

4 学芸学部数学科は、数学の学習・研究を通じ、高度な分析力や論理的思考力および問題解決能力を養成するとともに、情報処理技術を身につけ、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

5 学芸学部情報科学科は、情報科学の専門知識とコミュニケーション能力を身につけ、最新のコンピュータや通信技術を駆使して、IT関連のさまざまな問題を創造的に解決できる情報科学のプロフェッショナルとして、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

6 総合政策学部総合政策学科は、社会の諸相を的確に把握する認識力と分析力、英語を用いた高度なコミュニケーション能力を養い、現代社会が直面する諸課題の解決を通じて新しい社会の仕組みを作り出すことのできるリーダーシップを備えた、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

第4条 第2条第2項の学科の収容定員は、次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
英語英文学科	220人	880人
国際関係学科	200人	800人
多文化・国際協力量科	70人	280人
数学科	45人	180人
情報科学科	45人	180人

2 第2条第3項の学科の収容定員は、次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
総合政策学科	110人	440人

第5条 本学各学部は、4年とする。

2 本学各学部に在学できる年数は、通算して8年を限度とする。ただし、休学期間はこれに含めない。

第6条 本学に大学院を置く。

2 大学院の学則は別にこれを定める。

第2章 学年・学期・休業日

第7条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学期の区分・期間および呼称は、学部ごとに学長が定める。

第8条 休業日は、次のとおりとする。ただし、第3号から第5号の休業日は、学部ごと、毎年度、学長が定める。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に定める休日
- (3) 夏期休業日
- (4) 冬期休業日
- (5) 春期休業日

2 前項の規定にかかわらず、学長は臨時に休業日を定め、または臨時に休業日を変更することができる。

第3章 教育課程および履修方法

第9条 本学学芸学部の各学科および総合政策学部総合政策学科の教育課程および履修方法は、別表Iのとおりとする。

第10条 本学において開設する授業科目の名称および単位数は、別に定める。

2 前項のほか、学長は臨時に授業科目を開設することができる。

第11条 本学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究を実施するものとする。

第12条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、その授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号に掲げる基準によるものとする。

- (1) 講義および演習については、15時間から30時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習および実技等については、30時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を与えることが適切と学長から認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることがある。

3 本学では、文部科学大臣が別に定めるところによって、前項に規定する講義、演習、実験、実習または実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第12条の2 授業科目を履修し、その授業に所定の授業時間を出席し、かつ合格の評価を得た者には、学長が学期末に所定の単位を与える。

2 第12条第3項に定める授業の方法により修得した単位数は、60単位を超えて卒業に必要な単位として算入することができない。

第13条 学芸学部において教育職員免許状を取得しようとする者は、第9条に規定する教育課程および履修方法によるほか、教育職員免許法および同法施行規則の関係規定に基づく所定の科目を履修し、単位を修得しなければならない。

2 中学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、前項の規定によるほか、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」および同法施行規則に定める介護等の体験を行わなければならない。

3 本学において取得することができる教育職員免許状の種類は、高等学校教諭一種免許状および中学校教諭一種免許状とし、それらの免許教科は、学芸学部の各学科によりそれぞれ次のとおりとする。

英語英文学科	外国語（英語）
国際関係学科	外国語（英語）または中学校（社会）・高等学校（地理歴史、公民）
数 学 科	数学または高等学校（情報）
情 報 科 学 科	数学または高等学校（情報）

第13条の2 日本語教員養成のために必要な授業科目および単位数は、別に定める。

2 所定の単位を修得した者には修了証明書を授与する。

第14条 学長が、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学または短期大学の授業科目を履修することを認めることがある。

2 学生が前項の他の大学または短期大学の授業科目を履修しようとするときは、あらかじめ学長の許可を受けなければならない。

3 前項の規定に基づき学生が履修し、修得した他の大学または短期大学の授業科目についての単位は、学長が30単位を超えない範囲で、本学で履修し、修得したものとみなすことがある。

4 前2項の規定は、第27条第1項の規定により、学生が外国の大学または短期大学に留学する場合に準用する。

第15条 学長が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。

2 前項の規定により与えることができる単位数は、前条第3項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

第15条の2 学長が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学または短期大学もしくは外国の大学等において履修した授業科目について修得した単位（大学設置基準第31条に規定する科目等履修生等として修得した単位を含む）を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

2 学長が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、または与えることができる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて30単位を超えないものとする。

第15条の3 第14条、第15条および第15条の2により修得した単位は合わせて60単位を超えないものとする。

第16条 学生は、毎学年の始めに履修する科目を選択し、所定の期日までに事務局教務課へ届け出なければならない。

第4章 教職員組織

第17条 本学に学長を置く。

2 学長は、本学を統括しこれを代表する。

第18条 本学に副学長を置く。

2 副学長は、学長を助け、その命を受けて校務をつかさどる。

第18条の2 各学部に学部長を置く。

2 学部長は、所属学部の校務をつかさどる。

第19条 本学に教授、准教授、講師、助教、助手および事務職員を置く。

2 教授、准教授、講師、助教、助手および事務職員の定員は別にこれを定める。

第19条の2 本学の大学運営に関する重要事項を審議するため、学長の下に大学運営会議を置く。

2 大学運営会議は、学長、副学長、各学部長、学部から選出する者各1名、大学院委員会が選出する者1名および事務局長をもって構成し、学長が議長となる。

3 大学運営会議は、次の事項について審議する。

- (1) 学則その他の教育研究に関する重要な規則の制定・改廃に関する事項
- (2) 本学の事業計画に関する事項
- (3) 教員人事に関する事項
- (4) 教育課程編成の方針に関する事項
- (5) 学生の厚生補導に関する事項
- (6) 学生の入学や学位授与等の方針に関する事項
- (7) 教育、研究、組織及び運営の状況についての自己点検、評価に関する事項
- (8) その他本学の運営に関する重要事項

第20条 各学部に、教授会を置く。

2 学部長、専任の教授、准教授、講師を以て教授会を組織する。

3 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。

第21条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) 前号までに掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長および学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する次の事項について審議する。また、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- (1) 留学、休学、復学、転部、転科、退学、および除籍に関する事項

- (2) 試験および単位認定に関する事項
- (3) 委託生、交換学生、科目等履修生、聴講生、外国人留学生に関する事項
- (4) 学生の賞罰に関する事項
- (5) 専任以外の教員の選考に関する事項
- (6) 教授会の設置する委員会に関する事項
- (7) 学長等の諮問する事項

第5章 入学・留学・休学・復学・編入学・転部・転科・退学・再入学および除籍

第22条 入学の時期は、毎学年の始めとする。

第23条 入学を志願することができる者は、女子で次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験（旧大検）に合格した者
- (7) 本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

第24条 入学志願者に対しては、入学検定を行う。

第25条 入学を許可された者は、別に定める入学手続き要項により、保証人連署の保証書その他必要な入学書類を添えて、指定の期日までに手続きをしなければならない。

第26条 保証人は、独立の生計を営む親族または縁故者で確実に保証人の責を負い得る者でなければならない。

2 保証人が前項の条件を欠いた場合には、直ちに保証人を選定して届け出なければならない。

3 保証人は、保証人の身分、住所等に異動が生じた場合には、直ちにその旨を届け出なければならない。

第27条 外国の大学に留学しようとする者は、所定の手続きを経て学長の承認を得なければならない。

2 留学に関する細則は別にこれを定める。

第28条 病気その他やむを得ない理由により休学しようとする者は、所定の様式による休学願にその理由を記し、保証人連署の上、願い出なければならない。

2 休学期間は、1年または半年とする。ただし特別の事情のある場合は、学長は引き続き休学を許可することがある。

3 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

第29条 休学中の者が復学を希望するときは、所定の様式による復学願を（病気の場合は医師の診断書を添え）提出しなければならない。

第30条 次の各号の一に該当する女子で本学への編入学を願い出た者には、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業した者、または退学した者
- (2) 短期大学、高等専門学校を卒業した者
- (3) 本学において、第1号および前号と同等以上の学力があると学長が認めた者

2 前項の規定により入学を許可された者については、学長は、既に修得した授業科目、単位数および在学年数を本学における授業科目、単位数および在学年数として認定換算することを許可できる。

3 編入学に関する細則は別にこれを定める。

第31条 転部、転科を願い出た者には、事情を考慮した上で、学長がこれを許可することがある。

2 転部、転科に関する細則は別にこれを定める。

第32条 退学しようとする者は、所定の様式による退学願にその理由を記し、保証人連署の上、願い出なければならない。

2 退学に関する細則は別にこれを定める。

第33条 退学者が再入学を願い出たときは、事情を考慮した上で、学長がこれを許可することがある。

2 再入学に関する細則は別にこれを定める。

第34条 次の各号の一に該当する者は除籍する。

- (1) 定められた期日までに履修登録を行わない者
- (2) 授業料等諸料金の納付を怠り督促を受けてもなお納めない者
- (3) 第28条第2項に定める休学期間を超えてなお復学または退学しない者
- (4) 第5条第2項に定める在学年限を超えてなお退学しない者
- (5) 許可なくして3ヶ月以上欠席した者

2 除籍に関する細則は別にこれを定める。

第6章 評価・卒業・学位

第35条 すべての授業科目は、その履修終了時において学習の評価を行う。

2 学習の評価は、試験その他の方法によって行う。

3 学習の評価は、原則としてA, B, C, D, Fで評価し、A, B, C, Dを合格とする。

第36条 病気または正当な理由により試験を受けることができなかった者は、願い出により、学長から追試験の受験を許可されることがある。

2 追試験に関する細則は別にこれを定める。

第37条 合格点を取得しなかった者は、願い出により、学長から再試験の受験を許可されることがある。

2 再試験に関する細則は別にこれを定める

第38条 本学に4年以上（編入学者の場合を除く）在学し、第9条の定めに従って、所定の単位数を修得した者には、学長は、卒業を認め、学士の学位を授与する。

第39条 本学において授与される学士の学位は次のとおりとする。

学芸学部

英語英文学科 学士（英文学）

国際関係学科 学士（国際関係学）

多文化・国際協力学科 学士（多文化・国際協力学）

数学科 学士（理学）

情報科学科 学士（理学）

総合政策学部

総合政策学科 学士（総合政策学）

第7章 入学検定料・入学金・授業料・試験料等

第40条 入学を志願する者は、志願と同時に入学検定料を納入しなければならない。

2 入学検定料の額は、別表Ⅱの定めるところによる。

第41条 入学を許可された者は、入学金、その期の授業料、施設設備費その他の所定の料金を指定の期日までに納入しなければならない。

2 前項の規定は、再入学および編入学の場合にも準用する。

3 入学金の額は、別表Ⅲの定めるところによる。

第42条 授業料および施設設備費は、年額を2期に分け、前期にあつては5月31日、後期にあつては10月31日までに納入しなければならない。

2 第1項の規定にかかわらず、学生の申し出があつたときは、事情を考慮した上で、前期分の授業料および施設設備費にあつては9月5日まで、後期分の授業料および施設設備費にあつては翌年の2月10日まで、納入を延期することができる。

3 特別の事情がある場合には、前項の規定により9月5日まで延期した前期分の授業料および施設設備費の納入を翌年の2月10日まで延期することができる。

4 授業料および施設設備費の年額は、別表Ⅳの定めるところによる。

第43条 追試験または再試験を受ける者は、試験料を前納しなければならない。

2 追試験料および再試験料の額は、別にこれを定める。

第44条 既に納入した諸料金は、事情の如何にかかわらずこれを返却しない。

第45条 休学中については、授業料、施設設備費を免除し、在籍料を納入するものとする。

2 留学中については、授業料、施設設備費を在籍料相当額に減免する。ただし、交換留学協定校への留学については別に定める。

3 在籍料の年額は別表Ⅴの定めるところによる。

4 休学中および留学中の授業料、施設設備費に関する規則は、別にこれを定める。

第46条 途中で退学する者もその学期分の授業料、施設設備費は納入しなければならない。

第47条 各学期分の授業料等諸料金未納者（第42条第3項および第4項の規定により授業料及び施設設備費の納入の延期を認められた者を除く。）は、その学期に実施される定期試験の受験資格を失うものとする。

第8章 委託生・交換学生・科目等履修生・聴講生

第48条 特定の機関または団体等から研修科目を定め、本学の修学を委託される場合には、教育および研究に妨げのない限り、選考の上、学長から委託生として受け入れを許可されることがある。

2 委託生は、本人の希望により試験を受けることができる。また試験に合格した者には、本人の請求により成績証明書を交付する。

3 委託生に関する細則は別にこれを定める。

第49条 他の大学または短期大学との協定に基づいて本学の授業を履修し、単位を修得しようとする者、もしくは本学と協定のある外国の大学の学生で本学の授業科目の履修を希望する者は、当該大学の推薦のもとに、学長から交換学生として入学を許可されることがある。

2 交換学生は、履修した授業科目につき試験を受けなければならない。また試験に合格した者には本人の請求により成績証明書を交付する。

3 交換学生に関する細則は別にこれを定める。

第50条 本学において、単位の修得を目的として特定の授業科目の履修を希望する者があるときは、学生の履修に妨げのない限り、選考の上、学長から科目等履修生として入学を許可されることがある。

2 科目等履修生が履修した授業科目の試験に合格したときは、その授業科目の所定の単位を与える。

3 科目等履修生に関する細則は別に定める。

第50条の2 本学において一または複数の授業科目の聴講を希望する者があるときは、学生の履修に妨げのない限り、選考の上、学長から聴講生として入学を許可されることがある。

2 聴講生の入学資格は、第23条各号の一に該当する者とする。

3 聴講生に関する細則は別に定める。

第51条 委託生、交換学生、科目等履修生および聴講生は定員外とする。

第9章 外国人留学生

第52条 外国人で本学において教育を受ける目的をもって入国し、第23条第3号および第7号の規定する要件をみたして入学を願ひ出た者は、選考の上、学長から外国人留学生として入学を許可されることがある。

2 前項の外国人留学生が日本語および日本事情に関連する科目を履修し、所定の単位を修得した場合には、26単位を限度として共通科目、外国語科目および健康余暇科学科目の単位に代えることができる。

3 外国人留学生には本学則その他本学の定める諸規定を準用する。

第10章 公開講座

第53条 本学に公開講座を設けることができる。

第11章 賞 罰

第54条 本学の規則命令に背き、または学生の本分に反する行為をした者は、学長がこれを懲戒する。

2 懲戒は訓告、停学および退学とする。

3 懲戒に関する規程は別に定める。

第54条の2 学生として、表彰に値する行為があったものは、学長がこれを表彰することができる。

2 表彰に関する規程は別に定める。

第12章 付属施設

第55条 本学に図書館、言語文化研究所、国際関係研究所、数学・計算機科学研究所、総合政策研究所、計算センター、ウェルネス・センター、視聴覚センター、国際センター、イングリッシュ・コーディネーション・センター、津田梅子記念交流館、津田梅子資料室、女性研究者支援センター、ライティングセンター、学外学修・キャリアセンター、連携推進センター、オープンユニバーシティおよび大学ホールを付設する。

2 付属施設に関する細則は別にこれを定める。

第56条 本学に寮を付設する。

2 寮に関する細則は別にこれを定める。

第13章 自己点検・評価

第57条 本学は第1条の目的を達成するため、自らの点検・評価を行う。

2 点検項目および実施体制については別に定める。

附 則

1. この学則は、昭和23年（1948年）4月1日から施行する。
（昭和24年（1949年）4月1日施行から平成13年（2001年）4月1日施行まで省略）
2. この学則は、平成16年（2004年）4月1日から施行する。
3. この学則は、平成18年（2006年）4月1日から施行する。
4. 学芸学部情報数理科学科は、改正後の第2条第2項、第4条、第13条第3項及び第39条の規定にかかわらず、平成18年（2006年）3月31日に情報数理科学科に在学する者がその学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
5. この学則は、平成19年（2007年）4月1日から施行する。
6. この学則は、平成20年（2008年）4月1日から施行する。
7. この学則は、平成21年（2009年）4月1日から施行する。
8. この学則は、平成22年（2010年）4月1日から施行する。
9. この学則は、平成23年（2011年）4月1日から施行する。
10. この学則は、平成24年（2012年）4月1日から施行する。
11. この学則は、平成26年（2014年）4月1日から施行する。
12. 平成25年（2013年）度以前の入学者については、改正後の学則第46条は適用せず、休学および留学中の授業料、施設設備費は、学期分の半額を納入するものとする。ただし、交換留学協定校への留学の場合には、当該大学との協定に定めるところとする。平成25年（2013年）度以前の入学者の休学および留学中の授業料、施設設備費に関する規則は別に定める。この措置は平成25年（2013年）度以前の入学者が在学しなくなるまで、存続するものとする。
13. この学則は、平成26年（2014年）4月16日から施行する。
14. この学則は、平成27年（2015年）4月1日から施行する。
15. この学則は、平成27年（2015年）7月24日から施行する。
16. この学則は、平成28年（2016年）4月1日から施行する。
17. この学則は、平成29年（2017年）4月1日から施行する。
18. この学則は、平成29年（2017年）10月1日から施行する。
19. この学則は、平成31年（2019年）4月1日から施行する。
20. この学則は、令和4年（2022年）4月1日から施行する。
21. この学則は、2023年（令和5年）4月1日から施行する。
22. この学則は、2024年（令和6年）4月1日から改正、施行する。

別 表

別表Ⅰ 教育課程および履修方法

本学学芸学部の各学科、総合政策学部総合政策学科の教育課程および履修方法は次のとおりとし、入学年度を学則年度と定めて適用する。科目群の詳細や各種条件については別に定める。

(1) 学芸学部英語英文学科（多文化・国際協力コースを除く）

授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、以下に定める必要単位数を修得しなければならない。

必修科目		50単位
選択科目	共通科目	15単位
	基幹科目	15単位
	発展科目	18単位
	外国語科目	12単位
自由科目		18単位
合計		128単位

(2) 学芸学部英語英文学科 多文化・国際協力コース

授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、以下に定める必要単位数を修得しなければならない。

必修科目		59単位
選択科目	基本科目 a	6 単位
	基本科目 b	8 単位
	コア科目 a	6 単位
	コア科目 b	12単位
	発展科目	12単位
	地域言語	12単位
自由科目		13単位
合計		128単位

(3) 学芸学部国際関係学科

授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、以下に定める必要単位数を修得しなければならない。

必修科目	セミナーおよび卒業論文	18単位	67単位
	基本科目	6 単位	
	外国語科目（英語）	24単位	
	外国語科目（第2外国語）	12単位	
	外国語Ⅲ	3 単位	
	健康余暇科学科目	4 単位	
選択科目	共通科目	12単位	42単位
	基幹科目	12単位	
	地域・展開科目	18単位	
自由科目			15単位
合計			124単位

(4) 学芸学部多文化・国際協力学科

授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、以下に定める必要単位数を修得しなければならない。

必修科目	セミナーおよび卒業論文	18単位	58単位
	基本科目	9単位	
	外国語科目（英語）	27単位	
	健康余暇科学科目	4単位	
選択科目	外国語科目（第2外国語）	15単位	54単位
	共通科目	12単位	
	基幹科目	15単位	
	発展科目	12単位	
自由科目			12単位
合計			124単位

(5) 学芸学部数学科

授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、以下に定める必要単位数を修得しなければならない。

必修科目		60単位
選択科目		36単位
自由科目		28単位
合計		124単位

(6) 学芸学部情報科学科

授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、以下に定める必要単位数を修得しなければならない。

必修科目		72単位
選択科目	選択必修科目	13単位
	選択科目	24単位
自由科目		21単位
合計		130単位

(7) 総合政策学部総合政策学科

授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、以下に定める必要単位数を修得しなければならない。

(2022年度以前入学者)

必修科目	基礎科目	64単位	74単位
	応用科目	10単位	
選択科目	基幹科目		32単位
自由科目	総合科目		24単位
合計			130単位

(2023年度以降入学者)

必修科目	基礎科目	50単位	60単位
	応用科目	10単位	
選択科目	基幹科目		37単位
自由科目	総合科目		27単位
合計			124単位

別表Ⅱ 入学検定料

金 額	
A方式による入学試験	35,000円
B方式	25,000円
C方式	15,000円

別表Ⅲ 入学金

金 額
200,000円

別表Ⅳ 2024年度の授業料・施設設備費

学芸学部

(単位：円)

入学年度	期間	英語英文学科／国際関係学科			多文化・国際協力学科			数学科／情報科学科		
		授業料	施設設備費	合 計	授業料	施設設備費	合 計	授業料	施設設備費	合 計
2021年度	半期	390,000	129,500	519,500	415,000	144,500	559,500	430,000	144,500	574,500
	年額	780,000	259,000	1,039,000	830,000	289,000	1,119,000	860,000	289,000	1,149,000
2022年度	半期	385,000	128,000	513,000	410,000	143,000	553,000	425,000	143,000	568,000
	年額	770,000	256,000	1,026,000	820,000	286,000	1,106,000	850,000	286,000	1,136,000
2023年度	半期	380,000	126,500	506,500	405,000	141,500	546,500	420,000	141,500	561,500
	年額	760,000	253,000	1,013,000	810,000	283,000	1,093,000	840,000	283,000	1,123,000
2024年度	半期	375,000	125,000	500,000	400,000	140,000	540,000	415,000	140,000	555,000
	年額	750,000	250,000	1,000,000	800,000	280,000	1,080,000	830,000	280,000	1,110,000

※2020年度以前の入学者も漸増方式を適用し、授業料：年10,000円増、施設設備費：年3,000円増

総合政策学部

(単位：円)

入学年度	期間	総合政策学科		
		授業料	施設設備費	合 計
2021年度	半期	415,000	144,500	559,500
	年額	830,000	289,000	1,119,000
2022年度	半期	410,000	143,000	553,000
	年額	820,000	286,000	1,106,000
2023年度	半期	405,000	141,500	546,500
	年額	810,000	283,000	1,093,000
2024年度	半期	400,000	140,000	540,000
	年額	800,000	280,000	1,080,000

※2020年度以前の入学者も漸増方式を適用し、授業料：年10,000円増、施設設備費：年3,000円増

納入期限 前期分：5月31日
後期分：10月31日

別表Ⅴ 在籍料

金 額
年額 200,000円

学則第27条が規定する「留学に関する細則」

第1条 本学との間に事前に相互交流の協定があるか、または正規の高等教育機関で学士号以上の学位授与権を有する外国の大学への留学を希望する学生が、別に定める条件に基づき、その承認を得た場合は、1年を限度として、その留学期間を本学における修業年限に算入できる。

2 学籍上の留学期間は、実際の留学期間により、本学の前期、後期または通年とする。

3 上記に関わらず、語学研修と留学が同一大学で行われ、受入れ先大学からの受入れ通知に「語学研修付き留学」と明記されている場合、語学研修期間も含め留学の学籍とする。

第2条 留学先の大学において修得した単位のうち、適当と認められるものは、30単位を限度として、本学の卒業に必要な単位としての認定を受けることができる。

第3条 外国の大学に留学を希望する学生は、所属学科セミナー指導教員に申し出てその指導を受けた後、定められた期日（後期から留学する場合：6月末日、前期から留学する場合：1月末日）までに入学許可証を添えて留学願および所定書類を教務課に提出しなければならない。

第4条 留学の出願者は、本学に少なくとも1年以上在学し、前年度までに30単位以上の科目を修得した者に限る。

第5条 留学期間は最長2年間とする。そのうちの1年までは修業年限、残りの1年は在学期間とする。

第6条 後期より留学する者が、帰国後通年科目の継続履修を希望する場合は、留学前に教務課で所定の手続をしなければならない。

第7条 単位認定を受ける予定のある者は、留学先の大学では、本学で開講されている授業科目に該当する科目を履修するよう努めなければならない。

第8条 留学先大学での修得単位の認定を受けるためには、下記の書類を添付して、単位認定願を教務課に提出しなければならない。

- ① 留学先大学カタログ
- ② 成績証明書
- ③ 履修科目講義内容説明書

第9条 この細則により留学した者が、引き続き次年度も留学する場合は、1年目終了の1ヶ月前までに所定の手続を取り、許可を得なければならない。

第10条 休学の学籍で留学した者の単位認定は、原則として行われない。

第11条 学籍上の留学期間には、本学において科目履修はできない。

附 則

1 この細則は、2013年（平成25年）4月1日から施行する。

2 この細則は、2017年（平成29年）4月1日から施行する。

3 総合政策学部においては、本細則第3条、第6条および第8条の「教務課」を「千駄ヶ谷キャンパス事務室」に読み替える。

4 この細則は、2017年（平成29年）5月17日から施行する。

（参考：留学に関する細則第1条第1項に規定する留学先の条件）

1. 単位修得を目的とした留学であること。
2. 留学期間については、以下のように定める。
受入先が2学期制をとる場合には1学期以上、3学期制ないし4学期制をとる場合には2学期以上であること
3. 上記にかかわらず、本学が協定を結んだ外国の大学に、協定に基づいて留学する場合の条件は別途定める。

学則第31条が規定する「転部・転科に関する細則」

(趣 旨)

第1条 この細則は、津田塾大学学則第31条に規定する転部、転科の取り扱いについて定めるものとする。

(転部、転科の募集)

第2条 学部、学科においては、定員に余裕がある場合、転部、転科を希望する学生を募集する場合がある。

(転部、転科の出願資格)

第3条 転部、転科の出願ができる学生は次の通りとする。

- 1) 本学の学部・学科に在籍している者
- 2) 転部、転科を許可された場合、当該学部・学科に最低2年以上在籍することが可能である者
- 2 学校推薦型選抜(指定校制)、学校推薦型選抜(公募制)、および総合型選抜で入学した者は転部・転科の出願はできない。但し、2017年度以前の数学科および情報科学科の公募制推薦入試で入学した者はこれによらない。
- 3 学則年度が2016年度以前の者は、転部できない。

(転部、転科の時期)

第4条 転部、転科の時期は、学年の始めとする。

(転部、転科の出願)

第5条 転部、転科の出願手続きは次の通りとする。

- 1 6月下旬に次年度転部・転科募集について、教務課が告知を行う。
- 2 転部・転科を希望する学生は、所定の期日までに転部・転科願に学部、学科ごとに求める必要書類を添えて、教務課に提出する。

(転部、転科の選考)

第6条 転部・転科を願い出た者に対しては、希望する転部・転科先にて選考を行い、当該教授会が適当と認めた者につき学長が新学年より転部・転科を許可する。

- 2 転部・転科希望者の選考は、書類審査、面接および筆記試験とする。筆記試験は省略されることがある。

(細則の改廃)

第7条 本規程の改廃は、全学教務委員会、学芸学部教授会および総合政策学部教授会、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附 則

- 1 この細則は、2017年(平成29年)6月29日から施行する。
「転科に関する細則」は廃止する。
- 2 この細則は、2022年(令和4年)4月1日から改正、施行する。
2020年度入学者までは第3条第2項の学校推薦型選抜(指定校制)を推薦入試(指定校制)、学校推薦型選抜(公募制)を推薦入試(公募制)、および総合型選抜をAO入試または特別入試(AO方式)と読み替えるものとする。
- 3 この細則は、2023年(令和5年)4月1日から改正、施行する。

学則第32条が規定する「退学に関する細則」

退学しようとする者は、所定の様式による退学願を、教務課に提出すること。

退学を願い出る者が授業料等諸料金を滞納している場合の取扱い及び退学を許可された者の退学日については以下のとおりとする。

- (1) 授業料等諸料金を滞納している者が退学を願い出る場合には、次項に定める退学日が属する学期までの滞納額を納入していること。
- (2) 願い出て退学が許可された者の退学日は、原則として年度末日（3月31日）または前期末日（9月30日）とする。
- (3) 退学願は、願い出る退学日以前に提出するものとする。
- (4) 特別の事情がある場合には、次の期限内に限って、退学願にその事情を記した文書を添えて、退学日を遡って願い出ることを認める。
 - ① 前年度末日（3月31日）に遡っての退学願 5月31日
 - ② 当該年度前期末日に遡っての退学願 10月31日
- (5) 授業料等諸料金の納付を怠り督促を受けてもなお納めない者は、除籍する。

附 則

- 1 この細則は、平成22年（2010年）10月1日から施行する。
- 2 総合政策学部においては、本細則の「教務課」を「千駄ヶ谷キャンパス事務室」に読み替える。

学則第34条が規定する「除籍に関する細則」

除籍の取扱いは次のようになります。

- イ. (1) および(5)の事由による場合は、その事由が発生した日付をもって除籍する。
- ロ. (2)の事由による場合は、授業料等諸料金の納付を完納した前期または後期の末日（3月31日または9月30日）付けをもって除籍する。
- ハ. (3) および(4)の事由による場合は、9月30日または3月31日付をもって除籍する。
- ニ. (1)、(2) および(5)の事由により除籍となった者が、再入学を願い出たときは、教授会の議を経て許可することがある。
- ホ. (2)の事由により除籍となった者が、除籍通知発送後2週間以内に滞納した諸料金を納入し、許可願を提出したときは、除籍を取り消すことができる。

附 則

この細則は、平成22年（2010年）10月1日から施行する。

学則第36条及び第37条が規定する「追試験及び再試験に関する細則」

第1章 総 則

第1条 この細則は津田塾大学学則第36条及び第37条に基づき、追試験および再試験について必要な事項を定めるものとする。

第2章 追試験

（追試験の定義）

第2条 次の各号の事由により試験を受けることができない学生は、願い出により、教授会の承認を経て学長が許可した場合に限り追試験を受けることができる。

- (1) 病気
- (2) 二親等以内の親族の死亡による忌引き
- (3) 交通機関の事故
- (4) 交通事故等不慮の事故や火災等の災害
- (5) 教育実習および介護等体験の実習
- (6) 公務員試験、教員採用試験の試験日

- (7) 裁判員制度に基づき裁判員候補者として裁判所へ出頭する場合及び裁判員として職務に従事する場合
- (8) 教務委員会で許可された研修
- (9) その他特別の事情により教務委員会で正当な理由と認められる場合

2 追試験の受験許可は、教務委員会、教授会の審議を経て学長が行う。

(追試験の申請)

第3条 第2条により追試験の申請を行おうとする学生は、所定の期間内に教務課に申し出たうえで、別に定める期日までに診断書その他の証明書類を添えて、所定の追試験願を教務課に提出しなければならない。

2 病気等による特別な事情がある場合には、代理人による申請を認める。代理人は学生からの委任状と公的な身分証明書を持参のうえ、教務課で手続きを本人に代わって行うことができる。

(追試験料の納入)

第4条 追試験の許可を得た学生は、所定の期日までに所定の追試験料を納入する。

2 追試験料は別に定める。

3 前項に関わらず、第2条第1項(3)、(4)、(5)および(7)の事由により追試験が許可された場合には、追試験料を免除する。

(追試験の試験日)

第5条 追試験は学年暦に定める日程で行う。

2 前項に関わらず、4年次生の追試験は別に定める期日に実施する。

3 追試験に対する追試験は実施しない。

(追試験の評価)

第6条 追試験の評価については、期末試験とは別の評価基準で行う。

2 評価基準については別に定める。

(追試験の資格の喪失)

第7条 次のいずれかの項目に相当する場合、学生は追試験の資格を喪失する。

- (1) 期日までに授業料、試験料等所定の料金を納入していない場合
- (2) 期日までに申請書類が提出されない場合
- (3) 虚偽の申告があった場合

第3章 再試験

(再試験の定義)

第8条 卒業年次に履修した授業科目の評価が不合格(F)となったことにより、次の科目が修得単位不足となった場合には、願出により、学科および教授会審議を経て学長が許可した場合に限り再試験を受けることができる。

- (1) 卒業に必要な科目
- (2) 教育職員免許状取得に必要な科目
- (3) 日本語教員養成課程の修了に必要な科目で同課程の必修科目であるもの

2 再試験は1科目について1回のみ実施することができる。

3 再試験の運用に関しては別に定める。

(再試験の申請)

第9条 第8条により再試験の申請を行おうとする学生は、所定の期日までに所定の再試験願を教務課に提出しなければならない。

2 病気等による特別な事情がある場合は、代理人による申請を認める。代理人は学生からの委任状と公的な身分証明書を持参のうえ、教務課で手続きを本人に代わって行うことができる。

(再試験料の納入)

第10条 再試験の許可を得た学生は、所定の期日までに所定の再試験料を納入する。

2 再試験料は別に定める。

(再試験の試験日)

第11条 再試験は別に定める期日に実施する。

2 再試験に対する追試験は実施しない。

(再試験の評価)

第12条 再試験の評価は、学則第35条第3項で定める5段階評価のD(合格)またはF(不合格)とする。

2 前項に関わらず、再試験を欠席した場合等には失格とする。

(再試験の資格の喪失)

第13条 次のいずれかの項目に相当する場合、学生は再試験の資格を喪失する。

- (1) 期日までに授業料、試験料等所定の料金を納入していない場合
- (2) 期日までに申請書類が提出されない場合
- (3) 同時期に実施する再試験・追試験等において不正行為が行われた場合
- (4) 虚偽の申告があった場合

第4章 細則の改廃および公示

(細則の改廃)

第14条 本細則の改廃は教授会の審議を経て、学長が行う。

(細則の公示)

第15条 本細則の改正が行われた場合には、直ちに学生に公示する。

附 則

- 1 この規程は、平成27年(2015年)4月1日から施行する。
- 2 総合政策学部においては、本細則第2条第1項8号および9号の「教務委員会」を「教授会」に、第3条第1項および第2項、第9条第1項および第2項の「教務課」を「千駄ヶ谷キャンパス事務室」に読み替える。第2条第2項の「教務委員会」を削除する。
- 3 この規程は、2019年(平成31年)4月1日より施行する。
- 4 この規程は、2022年(令和4年)4月1日より施行する。

学則第45条が規定する「休学・留学の期間中における学費減免措置に関する細則」

(目 的)

第1条 この細則は、「津田塾大学学則」第45条に基づき、休学・留学の期間中における学費減免措置について必要な事項を定める。

(学費の範囲)

第2条 この細則で定める学費とは、授業料および施設設備費をいう。

(減免の金額)

第3条 休学願の申請書を次の期間に提出し、許可された学生については、所定の期間中の学費を免除し、「津田塾大学学則」の別表Vに定める在籍料を納入するものとする。学費の免除と在籍料の納入は学期分を単位として行う。

2 留学願の申請書を次の期間に提出し、許可された学生については、所定の期間中の学費を在籍料相当額に減免する。学費の減免は学期分を単位として行う。

- (1) 通年または前期分学費の場合 当該年度の5月31日まで
- (2) 後期分学費の場合 当該年度の10月31日まで

(休学または留学時の減免の開始時期)

第4条 休学または留学を4月1日から開始する場合は、前期分学費から減免し、10月1日から開始する場合は、後期分学費を減免する。

2 新入生のうち、4月入学の場合は前項の「4月1日」を「入学式当日」と読み替えるものとする。

(休学または留学時の減免の期間)

第5条 休学または留学の許可された期間により、次のとおり学費を減免する。

- イ. 6カ月以上12カ月未満 1学期分の学費を減免する。
- ロ. 12カ月 通算1年分の学費を減免する。

(適用除外)

第6条 交換留学協定校への留学の場合は、当該大学との協定によるものとする。

ただし、留学期間中の本学への学費納入額が当該期間の在籍料を超える場合は、該当期間の在籍料を納入するものとする。

(改廃)

第7条 本規程の改廃は、財務・事業計画会議の審議を経て、学長が行う。

附 則

- 1 この細則は、平成元年（1989年）4月1日より施行する。
- 2 この細則は、平成2年（1990年）4月1日より改正、施行する。
(中 略)
- 8 この細則は、平成24年（2012年）4月1日より改正、施行する。
- 9 この細則は、2014年（平成26年）4月1日より改正、施行する。
- 10 この細則は、2022年（令和4年）4月1日より改正、施行する。

学則第54条が規定する「学生懲戒規程」

(目 的)

第1条 この規程は、津田塾大学学則（以下「学則」という。）第54条第3項に規定する懲戒に関する基準および手続きについて定めることを目的とする。

2 前項につき、別に規程が定められている場合、その規程にしたがう。

(懲戒の対象とする者)

第2条 この規程において懲戒の対象とする者とは、津田塾大学（以下「本学」という。）の学芸学部学生および総合政策学部学生（以下「学生」という。）のことをいう。

2 委託生、交換学生、科目等履修生、聴講生、外国人留学生の取扱いは本学の学生に準ずるものとする。

(懲戒の考え方)

第3条 懲戒は、学生が第5条にある懲戒の対象となる行為を行った場合、学校教育法および学校教育法施行規則に基づいて、教育機関としての大学の教育目的の達成と規律の維持のために行う。

2 懲戒は、懲戒の対象となる行為の様態、結果等を総合的に検討し、教育的配慮に基づいて行う。

3 懲戒により学生に課す不利益は、懲戒目的を達成するため、必要最小限にとどめなければならない。

(懲戒の対象とする期間)

第4条 懲戒の対象とする期間は、本学の学籍を有する期間とする。

(懲戒の対象とする行為)

第5条 懲戒の対象とする行為は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 犯罪行為及びそれに準ずる社会的諸秩序を侵害する行為
- (2) 論文等の作成における学問的倫理に反する行為
- (3) 試験等における不正行為
- (4) コンピュータ及びネットワークに係る情報倫理に反する行為
- (5) 本学の規則に違反する行為
- (6) そのほか、本学の秩序を乱し、本学の名誉を毀損する行為

(懲戒の種類)

第6条 学則第54条に定める懲戒は、次のとおりとする。

- (1) 退学は、学生としての身分を剥奪するものとする。
- (2) 停学は、一定期間、学生教育課程の履修および課外活動等を停止するものとする。
- (3) 訓告は、学生の行った行為の責任を確認し、将来にわたってそのようなことのないよう、口頭および書面をもって戒めるものとする。

(懲戒の量定)

第7条 懲戒処分の量定は、第3条に基づき、懲戒の標準例（以下「標準例」という。）についての「別紙」を参考にし、次に掲げる事項を基礎に、行為者の状態等並びに行為の悪質性及び重大性を、個々の事案の事情に即し、総合的に判断して行う。

- (1) 非違行為の動機、態様及び結果
 - (2) 故意又は過失の別及びその程度
 - (3) 過去の非違行為の有無
 - (4) 日常における生活態度及び非違行為後の対応
- 2 前項での標準例にかかわらず、人命にかかわる重大事案においては、標準例に掲げる処分の種類以外とすることがある。また、標準例に掲げられていない非違行為についても、標準例に照らして判断し、相当の懲戒処分を行うことがある。

(停学の期間)

第8条 停学の期間は、無期または1か月以上6か月以下の有期とする。

- 2 無期の停学は、当該学生の反省の度合い等を勘案の上、当該停学の解除の時期を決定する。
- 3 無期停学解除の時期および停学解除の手続きについては、第19条に定める。
- 4 停学の期間は、修業年限4年に含めないが、在学年数8年に含める。

(停学に付帯する措置)

第9条 停学期間中の措置は、次のとおりとする。

- (1) 無期停学の処分および1か月以上の停学処分があった場合には、当該停学の効力が開始した日を含む当該タームに履修中のすべての授業科目の履修登録を取り消す。
- (2) 有期停学の期間中、当該学生に対し有期停学期間終了後の履修に関し履修登録を認める。
- (3) 停学処分の決定後または停学中の場合は、休学の願い出を受理しない。
- (4) 休学中の学生が停学処分となった場合は、当該学生の停学期間中の休学許可を取り消す。
- (5) 停学期間中の授業料及び施設設備費は納付しなければならない。
- (6) 停学期間中は、試験等の受験は認めない。
- (7) 停学期間中は、登校、大学の施設利用および本学学生としての活動を制限する。

(停学期間中の教育的指導)

第10条 停学期間中は、教育的指導を定期的に行う。

- 2 学生への面談等の教育的指導は、学部長が行うものとする。ただし、他の教員に委任することができる。
- 3 学部長または教育的指導を委任された教員は、教育的指導に必要と判断される場合、学生の施設利用を認めることができる。

(懲戒事案の報告)

第11条 学部長は、所属する学部の学生が懲戒対象行為を行った場合、または、行った疑いのある場合は、直ちに学長に報告するものとする。

(事実関係の調査)

第12条 学長は、前条の報告を受け、当該学生の行為が懲戒事由に該当し、懲戒の必要があると思料されるとき、全学学生委員会または別に定められた規程による委員会（以下、「当該委員会」という。）に、当該事案について、調査および審議を付託する。

2 当該委員会は、必要に応じて本学専任教職員に調査を委託することができる。

3 当該委員会は、必要に応じて弁護士等、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

4 当該委員会は、必要に応じて本学教職員、学生および事案に関係する者から事情聴取を行い、資料の提出を求めることができる。

5 当該委員会は、遅滞なく保護者または保証人に当該学生が懲戒の対象となる可能性がある旨を通知するとともに、当該学生に対する事情聴取等の調査を行い、事実関係を確認する。

6 前項の調査にあたり、当該委員会は、事前に当該学生に対して、事情聴取を行う期日、場所及び非違行為と目される事実の概要を口頭または文書で告知し、当該事実に関する弁明の機会を与えなければならない。ただし、弁明の機会が与えられたにもかかわらず、当該学生が、正当な理由なく欠席し又は弁明書を提出しなかったときは、この権利を放棄したものとみなす。

7 事情聴取を行う際、当該学生は1名の付添人を伴うことができるものとし、必要に応じて文書若しくは代理人による弁明を認めるものとする。

8 第5項の規定にかかわらず、連絡先不明、その他やむを得ない事由により、当該学生に通知および弁明の機会を与えることができないときは、これを行わないことがある。

9 当該委員会は、事情聴取終了後すみやかに、次に掲げる事項を記載した調査報告書を作成し、学長に提出しなければならない。

(1) 非違行為と目される事実に対する学生の意見陳述の内容

(2) 非違行為と目される事実に対する学生の意見陳述の内容に理由があるかどうかについての当該委員会の意見

(3) 当該事案に関しての懲戒処分の量定に関わる審議内容

(4) 学生への妥当と考えられる処分の案又は処分を不要とする案

10 学長は、調査報告書の内容に疑義があるときは、再調査を指示することができる。

(自宅待機)

第13条 学長は、調査報告書が提出されてから、第15条により処分を決定するまでの期間に、学生に対し自宅待機を命ずることができる。学長はその旨を当該学生が所属する学部の教授会（以下教授会）に報告する。

2 学長は、自宅待機を命じた学生に、授業科目の履修、大学施設の利用及び課外活動への参加を制限することができる。

3 自宅待機中の者が停学処分となった場合は、自宅待機の期間を処分期間に含めるものとする。

(謹慎)

第14条 学長は、調査報告書により、学生の行為が退学または停学となり得る行為として明らかであると判断した場合、懲戒処分を決定する前に2か月を超えない範囲で学生に対し、謹慎を命ずることができる。学長はその旨を教授会に報告する。

2 前項の謹慎期間中は、第8条第4項、第9条第2号から第7号まで、第10条の規定を準用する。

3 謹慎期間は停学期間に含まれるものとする。

(懲戒決定の手続き)

第15条 当該委員会は、調査報告書において、懲戒が相当と判断した場合、第6条に定める懲戒のうち相当と判断される処分を学長に提案する。

2 懲戒は、教授会および大学運営会議の審議を経て、学長が決定し、処分を行う。

(懲戒の発効および期間)

第16条 懲戒は、学生に対して懲戒の内容を文書で発信した日から発効する。

2 懲戒の期間は、効力が発生した日の翌日から起算し、暦日計算による。

(学生への通告および保証人への通知)

第17条 当該委員会は、学生に対し懲戒の内容および理由を学長名の文書により通告する。

2 当該委員会は、学生の保証人に対し前項に定める内容を学長名の文書により通知する。

3 第1項の通告および前項の通知を受領すべき学生あるいは保証人の所在を知ることができないときは、公示、送達、その他適切な方法により、その発信をもって代えることができる。

(公 示)

第18条 当該委員会は、懲戒を行った場合、遅滞なく学長名で公示を行う。

2 公示する事項は、学科、学年、懲戒理由、懲戒の種類とその適用条文とする。

3 公示の期間は2週間とする。

4 特段の事情がある場合、当該委員会と調整のうえ、教授会、大学運営会議の議を経て、当該公示の一部又は全部を公示しないことができる。

(停学の解除)

第19条 無期停学は、懲戒の発効日の翌日から6か月を経過した後でなければ解除できない。

2 無期停学の解除は、学部長の解除申請に基づき、当該委員会が無期停学の解除が適当であると判断した場合、教授会および大学運営会議の審議を経て、学長が行う。ただし、解除の時期は、当該停学の効力が発生した日の翌日から起算して6か月を超え1年以内とする。

3 学長は、停学処分が終了するとき、又は停学処分を解除するときは、当該学生から誓約の意思を書面で提出させる。

4 無期停学解除の学生への通告および保証人への通知は、文書で行う。

(不服申立て)

第20条 懲戒を課せられた学生は、懲戒の発効日の翌日から2週間以内にその懲戒に対する不服申し立てを行うことができる。ただし、この期間内に不服申し立てをすることができない正当な理由が認められる場合は、その理由が消滅した日から起算して2週間以内に不服申し立てを行うことができる。

2 前項の申立ては、学長宛に文書をもって当該委員会に提出しなければならない。

(不服申立の審査)

第21条 前条により不服申立てがあった場合、学長は当該委員会に、不服申立ての当否について審査を付託する。

2 前項の審査にあたっては、第12条第2項から第7項までの規定を準用する。

3 当該委員会は、すみやかに事情聴取を行い、不服申立ての当否について審査報告書を作成し、学長に提出しなければならない。

(不服申立ての採否の決定)

第22条 学長は、審査報告書に基づき、教授会および大学運営会議の審議を経て、処分の変更又は不服申立ての棄却を決定する。

2 前項の決定についての当該学生への通告および保証人への通知については、第17条の規定を準用し、その公示については、第18条の規定を準用する。

(懲戒処分の取消・変更)

第23条 学長は、第15条により懲戒処分を決定告知した後、第20条に定める不服申し立てが無い場合においても、処分決定時に存在しながら考慮できなかった事情が新たに判明した結果、告知した懲戒処分を維持することが相当でないと判断したときは、教授会および大学運営会議の議を経て、これを取消または変更することができる。

(懲戒に関する記録)

第24条 懲戒の事実学籍簿に記録する。

2 成績証明書、その他本人の成績及び修学状況に関する書類で、大学関係者以外の者が閲覧する可能性のある書類の作成にあたっては、懲戒を受けた旨の記載をしない。

(懲戒対象者の退学又は休学の申し出の取扱い)

第25条 学長は、調査報告書が提出されてから第15条による懲戒が決定される前に、当該学生から退学又は休学の申し出があった場合、懲戒が決定するまでこの申し出を受理しない。

- 2 停学期間中は、休学することを認めない。
- 3 懲戒処分決定後に退学の申し出があった場合は、退学を許可することがある。
- 4 前項により退学した者の再入学は認めない。

(嚴重注意)

第26条 学長または当該委員会委員長は、懲戒に相当しない場合でも、教育的指導の下に文書または口頭により当該学生に嚴重注意を行うことができる。

- 2 嚴重注意は、行為の問題性を自覚させ反省を促すものとする。

(守秘義務)

第27条 この規程の運用に当たっては、学生の基本的人権を尊重するよう留意し、関係者は知り得た情報に関する守秘義務を負う。

(逮捕・拘留時の取扱い)

第28条 学生が逮捕・拘留され、大学が本人に接見することができない状況であっても懲戒処分が妥当であると判断した場合は、懲戒処分を行うことができる。

(補 則)

第29条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施にあたって必要な事項は、別にこれを定める。

(改 廃)

第30条 この規程の改廃は、教授会、大学運営会議の審議を経て、学長が行う。

(規程の公示)

第31条 この規程の改正が行われた場合には、直ちに学長名で公示する。

附 則 (平成26年4月16日教授会決定)

1. この規程は、2014年4月16日から施行する。
2. この規程は、2015年7月15日から施行する。
3. この規程は、2019年4月1日より施行する。

学生懲戒規程 第7条(別紙)標準例(参考)

区 分	懲戒対象行為	懲戒処分の目安
(1)犯罪行為及びそれに準ずる社会的諸秩序を侵害する行為 1)刑法犯・特別刑法犯	殺人、強盗、放火、誘拐、傷害等の凶悪な犯罪の既遂又は未遂の行為	退学
	窃盗、詐欺、恐喝、脅迫、強要、わいせつ行為等の犯罪の既遂又は未遂、重大な過失により死亡・傷害の結果を惹起する犯罪行為	退学又は停学
	賭博、住居・建造物侵入、他人を傷害するに至らない暴行、万引等の行為であって、刑罰法規に該当する行為	停学又は訓告
	盗撮行為、盗聴行為、のぞき見行為、その他の迷惑行為等であって、刑法、軽犯罪法、青少年保護条例、迷惑防止条例等に違反する行為	停学又は訓告
	麻薬、大麻、あへん、覚せい剤、向精神薬の不法所持、不正使用、売買、仲介等の行為	退学又は停学
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
2)交通事犯	飲酒運転(酒酔い運転・酒気帯び運転を含む。以下同じ。)、無免許運転、重大な制限速度違反運転(制限速度時速30km以上の超過)等の悪質な運転により、被害者を死亡させ、又は高度後遺障害等を負わせる重大な人身事故を起こす行為	退学
	ひき逃げ、あて逃げ、飲酒運転、無免許運転、暴走運転、重大な過失等により、上記以外の人身事故を起こす行為	退学又は停学
	人身事故を伴わない飲酒運転、無免許運転、暴走運転等の悪質な交通法規違反の行為	停学又は訓告

	物損事故等の交通事故又は交通法規違反の行為 ただし、反則金（交通反則通告制度に基づき行政処分として課される過料）に該当する場合で、軽微な道路交通法違反については、懲戒処分の対象としない。	訓告又は厳重注意
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
(2)論文等の作成における学問的倫理に反する行為	論文等の盗作、盗用、そのほか研究成果作成の際に論文やデータのねつ造を行う行為のうち、きわめて悪質なものの	退学又は停学
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
(3)コンピュータ及びネットワークに係る情報倫理に反する行為	コンピュータ又はネットワークの不正使用に関する、きわめて悪質な犯罪行為	退学
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
(4)本学の規則に違反する行為	本学の規則に違反する行為のうち、きわめて悪質な行為	退学又は停学
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
(5)そのほか、本学の秩序を乱し、本学の名誉を毀損する行為 1)学習・研究・教育活動を妨害する行為	学生の学習・研究活動、教職員の教育・研究活動、業務等の正当な活動を、暴行、威力、偽計等の不当な手段によって妨害する行為のうち、きわめて悪質な犯罪行為	退学又は停学
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
2)建造物等を損壊する行為等	本学が管理する建造物、施設、設備、器物を損壊し、汚損し、不法に改築する行為のうち、きわめて悪質な犯罪行為	退学又は停学
	上記以外の不正行為	停学又は訓告
3)そのほか	本学の学生、教職員に対する暴力行為、威嚇、拘禁、拘束等の行為	退学、停学又は訓告
	未成年者に対する飲酒、喫煙を強要し又は助長する行為	停学又は訓告
	未成年者であるにもかかわらず飲酒し又は喫煙する行為	停学又は訓告
	本学の秩序を乱し、本学の名誉を毀損する行為のうち、きわめて悪質なものの	退学又は停学
	上記以外の、本学の秩序を乱し、本学の名誉を毀損する行為	停学又は訓告

学則第54条が規定する「学生表彰規程」

(趣 旨)

第1条 この規程は、津田塾大学学則第54条の2第2項に規定する学生の表彰に関し必要な事項を定める。

2 前項につき、別に規程が定められている場合、その規程にしたがう。

(表 彰)

第2条 学生の表彰は、次の各号のいずれかに該当する個人または団体に対して行う。

- (1) 学術研究活動において、特に顕著な業績を挙げたと認められるもの
- (2) 本学における課外活動の成果が特に顕著であり、かつ、本学の課外活動の発展に功績があったと認められるもの。
- (3) 社会活動において優れた評価を受け、本学の名誉を著しく高めたと認められるもの。
- (4) その他前3号と同等の表彰に値すると認められるもの。

(被表彰者等の推薦)

第3条 学部長、学芸学部学生委員長、総合政策学部学生生活責任者は、前条各号のいずれかに該当すると認められるものがあるとき、学長に推薦することができる。

2 前項の推薦に当たっては、被表彰者の属する学部の教授会または全学学生委員会の議を経なければならない。

(選考委員会)

第4条 前条で推薦された被表彰者等の選考を行うため、選考委員会を置く。

(組 織)

第5条 選考委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長（広報・学生担当）

- (2) 推薦された被表彰者の属する学部の学部長
- (3) 全学学生委員
- (4) その他、学長が必要と認める者若干名

2 前項第4号に規定する委員は、学長が任命する。

(委員長)

第6条 選考委員会に委員長を置き、副学長（広報・学生担当）をもって充てる。

2 委員長は、選考委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代行する。

(関係者からの意見聴取)

第7条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の関係者を出席させて説明または意見を聴くことができる。

(表彰の決定)

第8条 表彰の決定は、選考委員会の意見を聴き、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

(表彰の方法)

第9条 表彰は、学長が別紙様式による表彰状を授与することにより行う。

2 前項の表彰状にあわせて、記念品を贈呈することができる。

(表彰の時期)

第10条 表彰の時期は、原則として卒業式の日とし、随時行うことができる。

(公 表)

第11条 被表彰者は学内に公表する。

(事 務)

第12条 学生の表彰に関する事務は、学生生活課において処理する。

(補 則)

第13条 この規程に定めるもののほか、学生の表彰に関し必要な事項は、別にこれを定める。

(改 廃)

第14条 この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

(規程の公示)

第15条 本規程の改正が行われた場合には、直ちに学生に公示する。

附 則

1. この規程は、2015年（平成27年）4月1日から施行する。
2. この規程は、2017年（平成29年）4月1日から改正、施行する。

別紙様式

学 長 賞	
氏名(団体名)	
あなた(もしくは団体名)は、〇〇〇〇において(理由) 本学の栄誉を高めました よってここに功績をたたえ表彰します	
年	月 日
津田塾大学 学長 氏 名 印	

備考：表彰の事由によって、表彰状の本文を変更することができるものとする。

津田塾大学 試験における不正行為および懲戒に関する規程

第1章 総 則

(趣 旨)

第1条 この規程は、津田塾大学学則(以下「学則」という。)第54条に基づき、試験および単位修得に関わる学習評価の方法において、不正行為を行った者の懲戒に関する事項を定める。

第2章 不正行為の対象

(不正行為による懲戒の対象となる試験)

第2条 学則第35条第2項に定める学習評価に関わる試験および全ての考查方法を対象とする。

(不正行為に該当する行為)

第3条 次の各号に該当する行為は、不正行為とする。

- (1) 他人の身代わりとなって受験すること、または他人を自己の身代わりとして受験させること
 - (2) 他人の答案を見ること、または他人に自分の答案をみせること
 - (3) 私語、動作その他の手段により解答の伝達または受信を行うこと
 - (4) 使用が許可されていない教科書、参考書、ノート、その他を参照すること
 - (5) 使用の許可によらず、試験時間中に教科書、参考書、ノート、その他を貸借すること
 - (6) 所持品、机、身体、その他に問題に関する内容を書込み、それを参照できる状態で受験すること
 - (7) 他人と答案を交換すること、答案への偽名の記入、および答案の破棄や答案を提出しないこと
 - (8) 持込みを許可されていない所持品を持ちこむこと
 - (9) 試験監督の指示に反すること等、試験の公正を害する行為を行うこと
 - (10) 試験、レポート、卒業論文等における剽窃行為
 - (11) その他 教務委員会および教授会が不正行為と認めた行為
- 2 不正行為を発見した場合には、速やかに教務課または教務委員に連絡する。

第3章 不正行為に対する懲戒処分、成績評価

(懲戒処分の決定)

第4条 第3条第1項に該当する不正行為が行われたことが確認された場合、教授会の議を経て学長が処分を行う。

- 2 処分は不正行為を行った者に文書にて通知する。
- 3 不正行為を行った者の保証人には処分を通知するものとする。

(懲戒処分の内容)

第5条 不正行為を行った者の懲戒は、訓告、停学、退学とする。

- 2 上記に関わらず、不正行為が軽微であると教務委員会が認めた場合(レポートにおける1回目の剽窃行為等)には、次の対応とする。

①当該科目は失格

②担当教員は教務委員同席の下、当該学生の指導を行い適切な改善策を取る。

3 不正行為を再度行った場合には、原則として前回以上の処分とする。

(成績評価および学籍簿への記録)

第6条 不正行為の行われた授業科目は成績評価を失格とし、不正行為による評価であることを学籍簿に記録する。

2 不正行為を行った者は、二度と不正行為を繰り返さないことを誓約する反省文を学長に速やかに提出しなくてはならない。

(懲戒の公示)

第7条 不正行為の懲戒については、学長名で公示するものとする。

2 公示する内容は処分学生の学科、学年、授業科目名および処分内容とする。ただし行為が悪質な場合には学生氏名の公示を行う。

(不服申し立て)

第8条 不正行為の懲戒に関して、学生は文書にて教務委員会に不服申し立てができるものとする。

2 不服申し立てへの細則は学生懲戒規程に準ずる。

第4章 規程の改廃、規程の公示

(規程の改廃)

第9条 本規程の改廃は教授会の議を経て、学長が行う。

(規程の公示)

第10条 本規程の改正が行われた場合には、直ちに学生に公示する。

附 則

1. 本細則は2014年6月18日教授会で決定し、同日から施行する。

2. 本細則は2017年4月1日から施行する。

3. 総合政策学部においては、第5条第2項、第8条の「教務委員会」を「教授会」に、第3条第2項の「教務課」を「千駄ヶ谷キャンパス事務室」に、第3条第2項、第5条第2項の「教務委員」を「教務責任者」に読み替える。
第3条第1項11号の「教務委員会」を削除する。

学則第7条2項が規定する学期の区分等に関する定め

学芸学部、総合政策学部では、学年を2期に分け、4月1日から9月30日までを前期、10月1日から翌年3月31日までを後期とする。

授業は1年を4期に分け実施するものとし、各期をタームと呼ぶものとする。

各タームの開始日および終了日は学部ごとに別に定める。

夏期休暇終了後から始まるタームは後期に属するものとする。

2017年4月1日

津田塾大学学長決定

津田塾大学総合政策学部 授業科目および単位数に関する定め

津田塾大学総合政策学部授業科目および単位数は、次のとおりとする。

この定めは、2024年（令和6年）4月1日から施行する。

（１）総合政策学部総合政策学科

	授 業 科 目	単位		授 業 科 目	単位
必修科目・基礎科目	1年セミナーA	1	必修科目	Discussion: NGOs and Social Activism II C	1
	1年セミナーB	1		Critical Thinking and Reading II A	1
	1年セミナーC	1		Critical Thinking and Reading II B	1
	2年セミナーA	1		Critical Thinking and Reading II C	1
	2年セミナーB	1		Critical Thinking and Writing II A	1
	2年セミナーC	1		Critical Thinking and Writing II B	1
必修科目・応用科目	3年セミナーA	1	基礎科目	Critical Thinking and Writing II C	1
	3年セミナーB	1		Discussion: Population Issues III A	1
	3年セミナーC	1		Discussion: Politics and Society III B	1
	4年セミナーA	1		Discussion: Policy-Making III C	1
	4年セミナーB	1		Problem Solution in Academic Writing III A	1
	4年セミナーC	1		Problem Solution in Academic Writing III B	1
	卒業研究プロジェクト	4		Problem Solution in Academic Writing III C	1
必修科目・基礎科目	Communication: Public Speaking I A	1	基礎科目	政治とは何か	2
	Communication: Interpersonal Communication I B	1		経済の仕組み	2
	Communication: Advanced Presentation Skills I C	1		法からみた社会	2
	Discussion: Critical Thinking I A	1		データ・サイエンス入門	2
	Discussion: Education I B	1		統計A	2
	Discussion: Gender and Family I C	1		統計B	2
	Content-based Reading I A	1		総合政策概論A	1
	Content-based Reading I B	1		総合政策概論B	1
	Content-based Reading I C	1		計算社会科学	2
	Content-based Writing I A	1		プログラミング基礎	2
	Content-based Writing I B	1		経済分析	2
	Content-based Writing I C	1		Introduction to International Relations A	1
	Communication: Leadership and Teamwork II A	1		Introduction to International Relations B	1
	Communication: Career Development II B	1		Introduction to International Relations C	1
	Communication: Project Management II C	1		Politics and Development A	1
	Discussion: The Mass Media II A	1		Politics and Development B	1
	Discussion: Global Problems II B	1		Politics and Development C	1
				Political Communication A	1
				Political Communication B	1
				Political Communication C	1

	授 業 科 目	単位		授 業 科 目	単位
基 幹 科 目 ・ 専 門 科 目 (英 語 で 行 う 科 目)	Social Values A	1	基 幹 科 目 ・ 課 題 解 決 関 連 科 目	平和構築	2
	Social Values B	1		プロパガンダとアドボカシー	2
	Social Values C	1		文化交流論	2
	Culture and Society A	1		市民社会における安全保障	2
	Culture and Society B	1		法制度設計	2
	Culture and Society C	1		統治システム論	2
	Language Analysis A	1		環境政策論	2
	Language Analysis B	1		国際標準化論	2
	Language Analysis C	1		企業の社会的責任	2
	Language and Communication A	1		雇用経済論	2
	Language and Communication B	1		マーケティング戦略	2
	Language and Communication C	1		イノベーションと社会	2
	Language and Culture A	1		多国籍企業論	2
	Language and Culture B	1		知的財産法	2
	Language and Culture C	1		世界の開発と貧困問題	2
	Introduction to Language and Linguistics A	1		医療・介護の経済分析	2
	Introduction to Language and Linguistics B	1		経済政策論	2
	Introduction to Language and Linguistics C	1		情報通信技術と社会	2
	Foundation Discussion Skills A	1		インターネット概論	2
	Foundation Discussion Skills B	1		映像コミュニケーションデザイン	2
	Foundation Discussion Skills C	1		Web情報システム論	2
	Communicative Grammar A	1		情報セキュリティ論	2
	Communicative Grammar B	1		メディア産業論	2
	Communicative Grammar C	1		スマートコミュニティ論	2
	Genre-based Reading A	1		データ政策科学	2
	Genre-based Reading B	1		情報通信政策	2
	Genre-based Reading C	1		経営情報システム	2
	Advanced Reading A	1		健康医療情報システム	2
	Advanced Reading B	1		社会実践の諸相	2
	Advanced Reading C	1		コミュニティスタディ	2
	Thesis Writing in English A	1		女性のキャリア開発	2
	Thesis Writing in English B	1		地域ケア論	2
	Business Project & Presentation	1		少子高齢化の進展と社会保障の持続可能性	2
基 幹 科 目 ・ 課 題 解 決 関 連 科 目	分配のポリティクス	2		ソーシャル・インクルージョン論	2
	グローバルゼーション論	2		ジェンダーと社会変動	2
	公共政策論	2		子どもの貧困と教育格差	2
	地域政策論	2		人の国際移動と社会の多文化化	2
	政治参加	2		ダイバーシティ社会論	2

	授 業 科 目	単位		授 業 科 目	単位
開講科目 選択科目 必修科目 基 幹 科 目 ・ 専 門 科 目 総 合 科 目	ソーシャル・ヘルス・マネジメント	2	総 合 科 目	日本語ライティングB	1
	政治制度論	2		日本語ライティングC	1
	法と公共政策	2		インターンシップ	1～4
	経済活動のための法	2		語学研修	2
	行政学	2		International Training Course A	1
	日本政治史	2		International Training Course B	1
	公共哲学	2		事業戦略とイノベーション	1
	ミクロ・マクロ経済分析	2		データ分析実践	1
	日本の財政・金融	2		ブランディング実践	1
	現代経営論	2		データで読み解く世界	1
	社会調査入門	2		デザイン思考による地域創生学	1
	質的調査法	2			
	プログラミング実践	2			
	プロジェクト・マネジメント	2			
	共生社会と法	2			
	社会学概論	2			
	福祉政策論	2			
	社会階層論	2			
	家族社会学	2			
	グローバル・ポリティクス論	2			
	実証政治理論	2			
	行動経済分析	2			
	貿易政策論	2			
	多変量解析と公的統計	2			
	アプリケーション開発	2			
	能力開発論	2			
	現代社会論	2			
	政策過程論	2			
	クリティカル・シンキング	2	総 合 科 目		
	世界の宗教と社会	2			
	ソーシャル・デザイン論	2			
	経済人類学	2			
	科学技術と文明	2			
	歴史入門	2			
	キャリア入門A	1			
	キャリア入門B	1			
	キャリア入門C	1			
	日本語ライティングA	1			

(2) データサイエンス・リテラシープログラム

	授 業 科 目	単 位
必修科目	データ・サイエンス入門	2
	情報通信技術と社会	2

(3) データサイエンス応用基礎プログラム

	授 業 科 目	単 位
必修科目	データ・サイエンス入門	2
	統計Ⅰ/統計A	2
	アルゴリズム/プログラミング基礎	2
	統計Ⅱ/統計B	2
	経営情報システム	2
選択科目	データ政策科学	2
	インターネット概論	2
	プログラミング入門/プログラミング実践	2
	経済分析	2
	多変量解析と公的統計	2
	アプリケーション開発	2



履修について

Ⅲ 履修について

この章では、授業や試験など、履修に関する各種制度を掲載しています。掲載内容に変更が生じたり、追加のお知らせが生じた場合は、原則、TsudaNetにて連絡します。

学生個人への連絡は、原則、TsudaNetにて行いますが、副次的にeメールによる連絡を行う場合があります。大学から付与されたeメールアドレスについて、適宜受信メールを確認するようにしてください。

履修その他の質問は、要覧をよく確認した上で、千駄ヶ谷キャンパス事務室窓口で行ってください。

1. 授業について

■授業期間

授業期間は第1ターム～第4タームの4期とし、第1、3、4タームは9週（うち1週試験）、第2タームは5週とします。

第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
4月15日～6月29日	6月25日～7月29日	9月2日～11月12日	11月15日～2月1日

【第2タームについて】

本学では、第2タームと夏期休暇期間を合わせてギャップタームと称し、この期間を学外学修に充てることを推奨しています。学外学修については、学外学修・キャリアセンターの情報を確認してください。

また、第1、3、4タームとは異なり、学内では、主に5週の間に原則9回の授業を行う科目を開講します。時間割をよく確認してください。

■授業時間

各週は月曜日より金曜日まで毎日午前8時50分から午後7時30分までを6時限に分けて授業時間とします。土曜日は通例自習日ですが、特別講義、見学、実験、補講、試験等を行うことがあります。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30

ただし、第1、3、4タームの試験期間については、次の時間割で行います。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
8:50～10:20	10:40～12:10	13:00～14:30	14:50～16:20	16:40～18:10	18:30～20:00

■メディアを高度に利用した授業

2023年度より、本学の授業実施方法として、対面授業の他に「メディアを高度に利用した授業」を追加しています。

「メディアを高度に利用した授業」とは、オンライン型、オンデマンド型、そしてそれらと対面授業等を組み合わせたブレンド型という方法で実施される授業です。

「メディアを高度に利用した授業」で修得した単位は、60単位を上限として卒業に必要な単位に算入できます。

「メディアを高度に利用した授業」の一覧は、教務課からのお知らせ（<https://sites.google.com/tsuda.ac.jp/kyoumu>）に掲載します。

■休講 「電話照会には応じません。」

教員の校務、学会出席、病気等により授業が休講になる場合には、担当教員から連絡があり次第、TsudaNetでのお知らせに加え、「千駄ヶ谷キャンパス事務室からのお知らせ」（<https://sites.google.com/tsuda.ac.jp/sc-office>）の「休講情報」に掲示します。

休講の連絡がなく、始業時刻より30分以上経過しても授業が始まらない場合は、千駄ヶ谷キャンパス事務室に問い合わせる指示を受けてください。

緊急時については、以下に記載したとおりになります。ただし、授業の継続が困難と大学が判断した場合は、授業を中止することがあります。集中講義や定期試験についてもこれらに準じます。

緊急時の休講は大学ホームページおよびTsudaNetで発表します。電話照会には応じません。

【気象警報発表の場合の休講措置について】

各キャンパスの対象地域に、気象庁より以下の警報が発表された場合、休講となります。

状況を確認のうえ、詳細は大学ホームページおよびTsudaNetにてお知らせいたします。

〔休講となる気象警報〕

すべての特別警報、暴風警報、暴風雪警報、大雪警報

〔対象となる地域〕

千駄ヶ谷キャンパス	東京都全域または東京都23区西部全域または渋谷区
小平キャンパス	東京都全域または多摩北部全域または小平市

なお、他の地域に警報が発表された場合は、通常どおり授業を行います。その影響により授業に出席できなかった場合は、メールまたは次回の授業時に授業担当者へ申し出てください。

発表された警報が解除された場合、その時間帯によって授業の実施は以下のとおりになります。

（千駄ヶ谷キャンパス）

イ. 午前6時までに解除された場合	通常どおり1時限目から授業を実施
ロ. 午前6時現在発令中で、午前10時までに解除された場合	午前中は休講となり、3時限目から授業を開始
ハ. 午前10時を過ぎても解除されない場合	3・4時限目も休講となり、5時限目から授業を開始
ニ. 午後0時を過ぎても解除されない場合	5・6時限目も休講（1日休講）

※上記気象警報が授業開始後に発令された場合、原則としてその時限の授業は平常どおり実施し、次の時限以降の授業は上記ロ、ハ、ニに準じます。

※文学研究科英語教育実践研究及び英語教育研究コースにおいては、午後5時を過ぎても解除されない場合、7時限目も休講となります。

（小平キャンパス）

イ. 午前6時までに解除された場合	通常どおり1時限目から授業を実施
ロ. 午前6時現在発令中で、午前10時までに解除された場合	午前中は休講となり、3時限目から授業を開始
ハ. 午前10時を過ぎても解除されない場合	午後も休講（1日休講）

※上記気象警報が授業開始後に発令された場合、原則としてその時限の授業は平常どおり実施し、次の時限以降の授業は上記ロ、ハに準じます。

*上記に該当しない場合でも、大学の判断により休講とする場合がありますので、大学ホームページで確認してください。

【地震等災害発生時の休講措置について】

大学の指示に従ってください。

緊急事態発生時の心得

地震が発生した場合

1. あわてて飛び出さず、机の下などで落下物を避ける。
2. 非常放送や教職員の指示に従い、落ち着いて避難する。
3. 小平キャンパスの一時避難場所はグラウンド、千駄ヶ谷キャンパスの一時避難場所は梅公園とする。建物から外へ出る際は落下物に注意する。

火災が発生した場合

1. 火災報知器により周囲に知らせるとともに、守衛所または教職員に状況を通報する。
2. 非常放送や教職員の指示に従い、落ち着いて避難する。
3. 避難を最優先し、初期消火は安全が確認できる範囲で行う。

【鉄道会社のストライキによる休講措置】

以下に該当する鉄道会社がストライキを行った場合、休講となります。

状況を確認のうえ、詳細は大学ホームページおよびTsudaNetにてお知らせいたします。

千駄ヶ谷キャンパス	JR東日本
小平キャンパス	JR東日本および西武鉄道

ストライキが解除された時間によって、授業開始時間が次のように異なります。

(1) ストライキ実施当日午前0時までに、ストライキが解除された場合	平常どおり授業実施
(2) ストライキ実施当日午前6時までに、ストライキが解除された場合	午後から授業実施

なお、他の鉄道会社がストライキを行う場合は、平常どおり授業を行います。利用者がストライキのために授業に出席できなかった場合は、メールまたは次回の授業時に授業担当者へ申し出てください。

2. 単位制について

単位制とは、授業科目ごとに一定の基準で定められている単位を修得する制度のことです。単位は学則第12条の2に定めたとおり、その授業に所定の授業時間出席し、かつ合格の評価を得た者に与えられます。講義科目と演習科目は、15時間から30時間までの授業をもって1単位が与えられます。ただし、授業は、いずれも45時間の学修を標準とする内容で構成されています。つまり、授業のみに参加すれば良いという訳ではなく、その2倍以上の授業時間外での学習が求められます。例えば、1タームで完結する講義科目の授業時間は合計でおよそ15時間ですが、授業時間外で30時間程度の予習や復習を求める内容を取り扱います。履修登録を行う際は、この点に留意し、過剰な登録とならないよう気を付けてください。

3. 履修登録について

大学における学習は、自己の責任において受講したい授業科目を選んで履修計画を立て、卒業に必要な単位を満たしていきます。

■注意事項

履修登録は修学意志の表明です。履修登録を期日までに行わない場合、修学意志がないものとして除籍となります。計画的に履修登録を行ってください。

- (1) 履修する科目は、各学科の履修方法と授業時間割によって決定し、4月の履修登録期間に第1～4タームすべての履修登録を行います。必要に応じて第2ターム開始前、第3タームおよび第4ターム開始後の履修登録期間に履修登録の追加を行います。
- (2) 履修する全ての科目は履修登録をしなければ単位を修得することはできません。
- (3) 同一時間に2科目以上を重複して登録することはできません。
- (4) 原則として、一度合格の評価を得た科目を再度履修することはできません。
- (5) 原則として、同年度内に同じ科目を複数回履修することはできません。
- (6) 履修希望者が10人以下の場合は開講を取り止めることがあります。また科目によっては受講者数を制限するものがあります（p.48 ■予備登録科目参照）。
- (7) 登録した授業科目については、登録した開講ターム・曜日・時限・担当者以外のクラスには出席はできません。
- (8) 履修登録期間・履修放棄期間以外は、登録内容の変更が一切認められません。事前にシラバスを読み、講義内容をよく理解したうえで、登録してください。

■履修登録制限

年間で履修登録できる授業科目の単位数には、上限が定められています。

	単位数
1年生	42単位
2年生	42単位
3年生	42単位
4年生	42単位

※認定された科目の単位は除きます。

※インターンシップや認定された科目の単位（語学研修など）は除きます。

※今年度の卒業を希望する卒業年次生に限り、学科で審議のうえ必要最低限の単位数のみ履修登録上限数を超える履修登録を認めることがあります。

■履修登録

指定された履修登録期間にWeb履修登録を行うことによって、正式にその科目が登録されることになります。ただし、クラスを指定された科目および予備登録科目は、最初の授業から出席しなければなりません。

【履修登録日程】

第1～4タームすべての科目について、4月に履修登録を行います。

必要に応じて、第2ターム開始前、第3タームおよび第4ターム開始後の履修登録期間に履修登録の追加を行います。（詳細はp.57「7. Web履修登録の方法について」参照）

登録期間	対 象
4月13日(土) 9:00～4月22日(月) 16:30	すべての科目
6月6日(木) 9:00～6月13日(木) 16:30	第2ターム以降に開始される科目
9月2日(月) 9:00～9月9日(月) 16:30	第3ターム以降に開始される科目
11月15日(金) 9:00～11月25日(月) 16:30	第4ターム開講科目

■登録延期

履修登録期間に病気その他やむを得ない理由で履修登録ができない場合は、事前に千駄ヶ谷キャンパス事務室に連絡し、許可された場合のみ、履修登録を延期することができます（期限外登録）。

この場合、登録延期願（大学所定用紙）と理由を証明する書類の提出が必要です。

病気の事由……………医師の診断書

その他の事由……………保証人からの事由を説明する書類（書式自由）

■期限外登録

履修登録期限外の登録は、原則として認められません。例外として認められた場合は、1科目につき500円の期限外登録手数料を証明書自動発行機で納入し、所定の用紙に記入して千駄ヶ谷キャンパス事務室に提出してください。

■履修制約科目

履修制約科目とは、一定の条件を満たさない履修できない科目のことです。履修制約科目は下表のとおりです。

総合政策学科
3・4年セミナーは原則として同時履修することができません。

■予備登録科目

予備登録科目は、受講者数の定員を決めて行われる授業科目です。事前に申込みを行い、抽選の結果によって履修が確定します。全タームの科目について4月に抽選・選考を行います。募集は「TsudaNet（Web履修成績）」で行います。

※ 定員に満たない場合、追加募集を行います。日程は年間スケジュール（履修要覧p.8～9）を確認してください。

【募集期間・結果発表】

募集期間	4月2日(火) 8:30～4月7日(日) 23:59
結果発表	4月10日(水) 12:00

※ 抽選結果発表は、TsudaNet(Web履修成績)で行います。

【対象科目】 以下の科目は授業開始前に抽選を行います。

日本語ライティングA/B/C、キャリア入門A、コミュニティスタディ、International Training Course B、プランディング実践、Introduction to International Relations A/B/C、Politics and Development A/B/C、Political Communication A/B/C、Social Values A/B/C、Culture and Society A/B/C、Language Analysis A/B/C、Language and Communication A/B/C、Language and Culture A/B/C、Introduction to Language and Linguistics A/B/C、Foundation Discussion Skills A/B/C、Communicative Grammar A/B/C、Genre-based Reading A/B/C、Advanced Reading A/B/C、Thesis Writing in English A/B、Business Project & Presentation

■履修科目の放棄

やむを得ない事情で履修科目を放棄する場合は、指定の期間に手続きを行うことで履修を取り止めることができます。Webシステムの画面から「履修放棄」申請を行ってください。

【放棄期間】

	放棄期間	対 象
第1ターム	5月9日(木) 9:00～5月10日(金) 16:30	第1～第4タームすべての科目
第2ターム	7月2日(火) 9:00～7月3日(水) 16:30	第1タームまでに完結していない科目
第3ターム	9月24日(火) 9:00～9月25日(水) 16:30	第3・第4ターム科目
第4ターム	12月9日(月) 9:00～12月10日(火) 16:30	第4ターム科目

- ※ 必修科目、その他クラス指定科目の放棄は認められません。
- ※ 予備登録科目は、開講されるタームの前の履修放棄期間までであれば放棄可能です。
例：第2ターム開講の予備登録科目は、第1ターム履修放棄期間までであれば放棄可。
- ※ 4年生は放棄することで、卒業単位が不足しないように注意してください。
- ※ 履修放棄期間後に初回授業が行われる第2ターム開講科目については、別途履修放棄期間を設けます。

■評価が不合格、失格だった科目の再履修

評価が不合格、または失格により単位が修得できなかった場合は、翌年度以降に再度その授業科目を履修し単位を修得することができます。

■聴講について

聴講とは単位の修得を目的としない履修の仕方です。ただし、原則として他学部の必修科目および人数を制限する科目は聴講できません。聴講を希望する場合は、科目担当者に確認後、各履修登録期間中に、千駄ヶ谷キャンパス事務室窓口に聴講願を提出してください。

4. 学習の評価について

(1) 評価基準

	合 格					不合格	失 格	認 定
評 価	A	B	C	D	P	F	X	N
評 点	100～90	89～80	79～70	69～60	合 格	59～0	—	—
評 価 内 容	特に優れた成績を表します。	優れた成績を表します。	妥当と認められる成績を表します。	合格と認められる最低限の成績を表します。	合格と認められる成績を表します。	合格と認められる最低限の成績に達していないことを表します。	欠席超過、試験欠席等のため、評価ができないことを表します。	編入学や留学などにより他大学等で修得した科目を本学の単位として認定したことを表します。
Grade Point	4.0	3.0	2.0	1.0	対象外	0.0	0.0	対象外
成績通知書	A	B	C	D	P	F	X	N
成績証明書	A	B	C	D	P	表示されない	表示されない	*

単位認定された科目は評価にNが付きます（証明書は*で表示されます）。
単位が付与される時期およびGPA確定は各学期末（9月末・3月末）です。

■失格「X」について

次のいずれかに該当する場合、評価は失格「X」となります。

- (1) 成績評価を行うために科目担当者が定めた要件を、試験の不受験、レポート等の課題の未提出、出席不足などにより満たさない場合。
- (2) 出席重視科目において、授業時間の3分の1より多く欠席した場合。
- (3) 平常点の科目において、授業時間の3分の1より多く欠席した場合、もしくは要求された課題で提出しないも

のがあった場合（平常点については、p.50を参照）。

(4) 試験、レポートもしくは卒業論文において不正行為があったと認められた場合。

■評価保留「I」について

提出物が不足していたり、提出物や発表内容が合格点に達せず追加課題を出されその提出や発表がまだ行われていない等の場合には、成績評価ができないため、評価保留「I」となります。

保留の理由が不明な場合は必要に応じ科目担当者または千駄ヶ谷キャンパス事務室へ確認すること（注意：確認・質問期間は成績公開日から1週間です）。

必要な対応がなされない場合、成績評価は「不合格」または「失格」となります。評価は原則として第1・第2タームに完結する科目の場合は9月末日、第3・第4タームに完結する科目の場合には3月初旬までに確定します。

(2) 平常点

平常点の科目では評価を受けるに当たり次の条件を満たす必要があります。

イ. 授業時間数の3分の2以上に出席している。

ロ. 要求された課題等をすべて提出している。

* 平常点で評価される科目についてはシラバス等の評価方法を参照のこと。

(3) 出席重視科目

2024年度の出席重視科目は下記のとおりです。授業時間の3分の2以上出席しなければ、受講資格・受験資格ともに失います。ただし、ここに掲げる以外の科目でも、出席が重視されることがあります。

総合政策学科	1年セミナーA・B・C	2年セミナーA・B・C
	3年セミナーA・B・C	4年セミナーA・B・C
	Communication: Public Speaking I A	
	Communication: Interpersonal Communication I B	
	Communication: Advanced Presentation Skills I C	
	Discussion: Critical Thinking I A	
	Discussion: Education I B	
	Discussion: Gender and Family I C	
	Content-based Reading I A・I B・I C	
	Content-based Writing I A・I B・I C	
	Communication: Leadership and Teamwork II A	
	Communication: Career Development II B	
	Communication: Project Management II C	
	Discussion: The Mass Media II A	
	Discussion: Global Problems II B	
	Discussion: NGOs and Social Activism II C	
	Critical Thinking and Reading II A・II B・II C	
	Critical Thinking and Writing II A・II B・II C	
	Discussion: Population Issues III A	
	Discussion: Politics and Society III B	
	Discussion: Policy-Making III C	
	Problem Solution in Academic Writing III A・III B・III C	
	データ・サイエンス入門	統計A
	統計B	計算社会科学
	プログラミング基礎	経済分析
	専門科目（英語で行う科目）	

(4) GPAについて

GPAは、Grade Point Averageの略で、大学で修得した単位の成績評価の平均（1単位あたりのポイント）を表すものです。成績通知書・成績証明書に記載されます。

GPAは下表に従い計算し、それに各単位数を掛けて足した合計点を総単位数で割ってスコア化します。

算出方法：

$$\frac{4 \times A \text{の修得単位数} + 3 \times B \text{の修得単位数} + 2 \times C \text{の修得単位数} + 1 \times D \text{の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（F「不合格」とX「失格」の単位数を含む）}}$$

	合格					不合格	失格
評価	A	B	C	D	P・N	F	X
ポイント	4	3	2	1	対象外	0	0

- ・放棄した科目は履修しなかったものとみなし、カウントされません。
- ・評価がP（合格のみの科目）とN（認定された科目）は対象外となり、カウントされません。

★学年末の成績評価の結果、年間GPAが1.0に満たない場合には、セミナー担当者等が面談を行い、学習方法の改善等のアドバイスをを行います。

（5）進級基準

1年次から2年次までの修得総単位数が32単位に満たない者は、3年次に進級できません。学年は2年生に留まるので、程度Ⅲ以上の科目は履修できません。

★上記の進級基準を満たさず、かつ年間GPAが1.0に満たない学生には、面談を行い、学習方法の改善や進路変更（退学勧告を含む）等のアドバイスをを行います。

（6）試験

■定期試験

第1・3・4タームの試験期間は、試験の実施に対応した時間割と教室配置になります。試験については授業内で教員が指示します。時間割・教室についてはTsudaNetで告知します。

【受験資格】

- イ. 履修科目の登録をしている。
- ロ. 授業料、その他の諸料金を納入している。
- ハ. 出席重視科目（p.50参照）については、授業時間数の3分の2以上出席している。

【試験時間割・試験時間】

試験時間割は、TsudaNet等で告知します。試験会場は平常授業の教室と異なる場合がありますので注意してください。また、第1・3・4ターム試験期間の授業時間は下表のとおり平常時と異なります。試験時間や試験会場を間違えて受験できなかった場合、追試験は受けられません。試験時間割に変更、訂正、追加などが生じた場合の修正はTsudaNet等で告知します。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
8:50～10:20	10:40～12:10	13:00～14:30	14:50～16:20	16:40～18:10	18:30～20:00

※ 第2ターム最終週は平常時と同じ授業時間となります。

【受験上の注意】

- イ. 受験に際しては、必ず学生証を携行すること。
- ロ. 答案用紙には必ず学籍番号・氏名を記入すること。
- ハ. 答案は鉛筆またはボールペンで書くこと（別途指示がある場合を除く）。
- ニ. 筆記用具以外の所持品は自席に置かないこと（参照物として許可されたものを除く）。
- ホ. 携帯電話、スマートフォン、計算機能付き時計、スマートウォッチ等ウェアラブル端末は、試験実施時の時計として利用することはできない。
- ヘ. 「自筆ノート参照可」の場合、ノートのコピーは自筆ノートとは認めない。
- ト. 答案はたとえ無回答でも、学籍番号・氏名を記入し退室の際に提出すること。
- チ. 試験監督者は、原則として試験問題について説明せず、また質問にも応じない。
- リ. 入室は試験時間の2分の1までとする。退室は試験開始後、試験時間の2分の1を過ぎてからとする。

■不正行為〔学則第54条・学生懲戒規程・試験における不正行為および懲戒に関する規程〕

試験で不正行為ありと認められた場合、その科目は失格となり不正行為者は学則に従って訓告、停学または退学に処され、学内に告示されます。

なお、卒業論文およびレポート等すべての考査方法において、不正行為（盗用等）ありと認められた場合は、上記に

準じます。

＜剽窃（盗用）について＞

他人の文章(全部もしくは一部)を勝手に使用し、引用元を明らかにせず自分の文章として使うことを「剽窃」と言います。引用を行う場合も、引用元を明らかにするだけではなく、本文と引用部分を明確に区別する、必要最低限の長さにとどめるなどのルールがあります。字句通りの引用だけではなく、他人の考え・意見・収集したデータ・分析・結論などを出典注なしで言い換えて使った場合も、剽窃とみなされます。剽窃は、他人の物を盗むのと同じように悪いことです。他人の物を盗んだ場合に、謝ったり、盗品を返したりするだけではないのと同じで、知的財産の盗用も、謝罪、書き直しですむ問題ではありません。「履修要覧」にあるとおり、卒業論文やレポートに関して、不正行為（剽窃等）ありと認められた場合、定期試験における不正行為と同様の処罰が下されます。十分注意をしてください。

■追試験【学則第36条】

病気またはやむを得ぬ事情で試験当日に受験できない場合は、教授会の議を経て学長が許可した者に限り追試験を受けることができます。

欠 席 理 由	証 明 書 類
病気	医師の診断書またはこれに代わる証明書
忌引（2親等以内の親族の死亡）	死亡に関する公的証明書
交通機関の事故	遅延証明等交通機関の証明書
不慮の事故（交通事故等）・災害（火災等）	理由書または証明書
公務員試験	受験証明書
裁判員制度に基づき裁判員候補者として裁判所へ出頭する場合及び裁判員として職務に従事する場合	裁判所発行の証明書
教授会で許可された研修	審議願、参加許可証
その他特別な事情*により正当な理由と認める場合	理由書または証明書

*就職活動における面接の場合、企業・機関が発行する証明書（社印等の押印があり、面接の場所・日時が明記されているもの）を提出する必要があります。

【追試験受験の手続き】

届け出 所定の期間内に千駄ヶ谷キャンパス事務室に届け出る。緊急の場合は電話連絡も可。
↓ ※ この時点で追試験料（1科目2,000円）の支払義務が発生します。
追試験願提出 定められた期日までに、追試験料を証明書自動発行機で納入し、追試験願（所定用紙）と欠席理由の証明書等を千駄ヶ谷キャンパス事務室に提出（手続きが期日までに完了しなければ受験できません）。
↓
追試験受験 試験時間割発表は追試験開始1週間前（電話照会には応じません）。
時間割発表日から試験開始前までに受験票を千駄ヶ谷キャンパス事務室で受け取る（試験会場で受験票の提出が必要）。

【実施時期】

第1・第2タームに行われた定期試験の追試験	8月28日(水)～
第3・第4タームに行われた定期試験の追試験	2月20日(木)～(4年生のみ) 3月3日(月)～(3年生以下)

【成績評価】 追試験の成績評価は、定期試験とは別の評価基準で行われます。

■再試験【学則第37条】

卒業年次に履修した科目の評価が不合格である場合、次のいずれかに該当する科目のみ、教授会の議を経て学長が許可した場合に限り、各科目1回にかぎり再試験（レポートや卒業論文に対する再審査を含む）を受験することができます。なお、評価が失格である場合は、その科目の再試験を受験することはできません。

(1) 卒業に必要な科目

※ 再試験については、内規があります。詳細は、千駄ヶ谷キャンパス事務室に確認してください。

【再試験受験の手続き】

再試験を受けようとする者は、定められた期日までに再試験料を証明書自動発行機で納入し、所定の再試験願を記入

して千駄ヶ谷キャンパス事務室に提出しなければなりません。再試験料1科目2,000円。

【実施時期】

科目の開講期によらず、卒業確定者発表日の翌日から開始します。

【成績評価】

再試験の成績評価はD、またはFとします。

【再試験対象外科目】

学外での実習をもとに成績評価を行う以下の科目は再試験対象外となります。

総合政策学部：「語学研修」、「インターンシップ」

(7) レポート

レポートは、担当教員の指示に従い、指定の期日までに指定の方法で提出してください。提出方法としては、授業内で担当教員に提出するほか、TsudaNetやメール添付での提出、千駄ヶ谷キャンパス事務室へ提出するなどがあります。いずれの場合も、インターネットなどからの明らかな剽窃は不正行為として、学則第54条に基づき処分されますので注意してください。

千駄ヶ谷キャンパス事務室提出ではないレポートの期日や提出方法等の情報は千駄ヶ谷キャンパス事務室では把握していませんので、直接担当教員に確認してください。また、それらのレポート提出を千駄ヶ谷キャンパス事務室で代行することはありません。

■千駄ヶ谷キャンパス事務室提出レポート

千駄ヶ谷キャンパス事務室提出レポートが課されている科目、及び提出締切日等はTsudaNet等にてお知らせします。受付は締切日の15：00までです。締切後に提出されたレポートは、いかなる理由であっても受理しません。

【提出の流れ】

- | | |
|---------|--|
| 提出前準備 | ①指定の表紙をつける。表紙は「津田塾大学 教務課からのお知らせ」よりダウンロード可能です(https://sites.google.com/tsuda.ac.jp/kyoumu)。生協で販売していた大学所定の表紙でも構いません。 |
| ↓ | ②表紙に黒のペン（消せるペンは除く）で必要事項を記入し、レポート本体にホチキス留めする。 |
| 日付印押印 | ③千駄ヶ谷キャンパス事務室にあるスタンプ台で表紙の指定2箇所の日付印を押印する。日付印の日付は、15：00を過ぎると翌日扱いとなります。 |
| ↓ | ※ 押印がないレポートは受理しません。 |
| 受領票切り離し | ④表紙下部の「受領票」を切り離す。※ 受領票は成績評価が出るまで大切に保管してください。 |
| ↓ | |
| 提出 | ⑤千駄ヶ谷キャンパス事務室にある指定の提出ボックスに投函する。 |
| | ※ 一度提出したレポートの修正は一切認めません。 |
| | ※ 誤った提出ボックスに投函してしまった場合は、その場で千駄ヶ谷キャンパス事務室に申し出てください。 |

【注意事項】

- イ. 表紙がついていないレポートは受理しません。授業内で担当教員より表紙は不要と指示があった場合でも、必ず指定の表紙をつけてください。
- ロ. 郵送での提出も可能です。上記【提出の流れ】の①～②までを完了させ、千駄ヶ谷キャンパス事務室宛てに郵送してください。③以降の手続きは千駄ヶ谷キャンパス事務室が代行しますが、後日、千駄ヶ谷キャンパス事務室で受領票を受け取ってください。日付印の日付は、当該レポートが大学に到着した時刻により、当日もしくは翌日となります。いかなる理由であっても締切後に大学に届いたレポートは受理しません。締切日当日着ではなく必ず締切日前日（土日等休業日を含まない）までに大学に到着する方法で郵送してください。郵便事情は考慮しません。また、レポートの到着状況の照会には応じませんので、必要に応じ配達確認ができる方法で郵送してください。
- ハ. 千駄ヶ谷キャンパス事務室提出レポートを担当教員に直接提出もしくは郵送することは認めません。
- ニ. 表紙や押印の不備、締切後の提出等、受理できないレポートは返却します。連絡を受けたら千駄ヶ谷キャンパス事務室まで受け取りに来てください。原則、この連絡は締切後に行いますので再提出はできません。
- ホ. 第4ターム末に提出するレポートは、4年生と3年生以下の締切日が異なる場合があります。学年が4年生である学生は、その年度に卒業する・しないにかかわらず、必ず4年生の締切日までに提出してください。

【レポートの追審査】

長期の病気等で所定の日時までに提出できない場合に限り、追試験と同様の手続きをし、教授会の議を経て学長が許可した場合に限り、追審査を受けることができます。成績評価は追試験の場合に準じます。追審査料1科目2,000円。

■レポートの再審査

卒業年次の履修科目で、卒業に必要な科目のレポートが不合格の場合は、再試験と同様の手続きをし、教授会の議を経て学長が許可した場合に限り、再審査を受けることができます。成績評価は再試験の場合に準じます。再審査料1科目2,000円。

(8) 卒業研究プロジェクトの提出

卒業研究プロジェクトは学科規定の様式に従って作成し、指定の日時までに指定された方法で提出してください。期限後の提出は受け付けません。

ただし、病気等の理由で指定の日時までに提出できない場合は追審査を願い出ることができます。また、審査の結果が不合格の場合は、教授会の議を経て学長が許可した場合に限り、再審査を受けることができます。(追・再審査願提出先：千駄ヶ谷キャンパス事務室) 追・再審査料2,000円。

(9) 再履修

必修科目の成績評価が不合格または失格の場合は、翌年度にその科目を再履修しなければなりません。

(10) 単位認定

認定単位総数の上限は、学則第14条、第15条、第27条が規定する「留学に関する細則」に定める単位を合計して30単位です。

■留学先等で修得した単位の認定【学則第27条が規定する「留学に関する細則」】

本学入学後に、留学先で修得した単位は、本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定することがあります。(p.66 IV学籍について 7. 留学)

■他の大学・短期大学で修得した単位の認定【学則第14条】

学長が教育上有益と認めるときは、他の大学または短期大学の授業科目の履修を認めることがあり、修得した単位を本学で履修し、修得したものとみなすことがあります。

これを希望する場合は、事前に指導教員からの指導を受け、千駄ヶ谷キャンパス事務室へ「他大学科目履修許可願」を提出する必要があります。

■他の短期大学・高等専門学校での学修の認定【学則第15条】

学長が教育上有益と認めるときは、短期大学または高等専門学校の専門科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがあります。

■語学研修プログラムの単位認定

夏期休暇期間および春期休暇期間を利用して、海外の大学で英語を学ぶ本学主催の語学研修プログラムは、単位認定が可能です。

語学研修プログラムの単位認定については、次のとおりです。

科目名：語学研修
単位数：2単位 ※この単位は履修登録制限（p.47）の対象外です。
分類：総合科目
評価：P（合格）あるいはF（不合格）

詳細はシラバスや国際センターのホームページを確認してください。

※社会情勢等により、プログラムの催行を中止する場合があります。あらかじめご了承ください。

■インターンシップの単位認定

主に第2ターム及び夏期休暇期間（ギャップターム）もしくは2月～3月に行う計5日間実働35時間以上の国内外でのインターンシップ及び事前・事後学習に参加した学生に対し審査のうえ単位を付与します。1年間の認定上限単位数はありませんが、卒業に必要な単位として含まれるのは4単位が上限です。（4単位以上修得した場合、随意科目に分類されます。）

科目名：インターンシップ（総合政策学部）
 単位数：1～4単位（活動時間数・内容によって1～4単位に認定されます。）
 ※この単位は履修登録制限（p.47）の対象外です。
 分類：総合科目
 評価：P（合格）あるいはF（不合格）

詳細はシラバスや学外学修・キャリアセンターの情報、千駄ヶ谷キャンパス事務室に確認してください。

■単位互換制度〔学則第14条〕

- ・一橋大学との単位互換制度
- ・多摩アカデミックコンソーシアム（TAC）単位互換制度：国際基督教大学、国立音楽大学、東京経済大学、武蔵野美術大学、東京外国語大学
- ・沖縄大学との単位互換制度
- ・東京外国語大学との単位互換制度
- ・電気通信大学との単位互換制度

これらの制度を利用し、他大学の学科目の履修を希望する学生は、それぞれの実施要項に定められた所定の手続きを行います。受講料は、無料です。この制度により修得した単位は、卒業に必要な単位として30単位を上限として認定されます。

実施要項は、2～3月に単位互換制度申請手続きのホームページ（<https://sites.google.com/tsuda.ac.jp/tanigokan>）に掲載しますので注意してください。

(11) 既修得単位の認定について

他大学、短期大学、および高等専門学校を卒業または中途退学し、新たに本学に編入学または第1年次に入学した場合、前校での既修得単位の認定を願い出ることができます。本学の修得単位に相当すると認められた場合は卒業に必要な単位として認定されます。

編入学、転入学等の場合を除き、学則第15条の2に定める認定単位総数の上限は30単位です。

■編入学の場合〔学則第30条〕

認定される単位数に上限はありません。すべての科目について認定を願い出ることができます。

■第1年次に入学した場合〔学則第15条の2〕

教育上有益と認められた場合で、30単位を上限として認定されます。

5. 卒業の要件について

- (1) 本学を卒業するためには4年の修業年限を満たし（編入者を除く）所定の単位を修得しなければなりません。卒業に必要な単位の修得は8年を限度とします。ただし、休学期間を除きます。
- (2) 学科の所定の単位を修得した者には学士の学位が授与されます。
- (3) 卒業に必要な最低の単位数は、教育課程のページを参照してください。

6. 履修に関するQ&A

千駄ヶ谷キャンパス事務室に質問する前に該当する質問・回答がないか確認してください。

Q 病気や忌引などの理由で授業を欠席する場合、連絡はどうするのですか？ また、忌引は公欠になりますか？

A 学校保健安全法に定められた疾病による欠席（①）は大学指定の登校許可証明書、入院・病気等による2週間を超える欠席（②）は、医師の診断書（入院・療養期間の記載のあるもの）を添えて千駄ヶ谷キャンパス事務室に申し出てください。数日程度の病欠や忌引（③）の場合、千駄ヶ谷キャンパス事務室への連絡は不要ですが、担当教員に申し出ておくとよいでしょう。ただし、②と③は公欠として取り扱われるものではありません。なお、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）やインフルエンザに罹患した場合は、その他の学校保健安全法に定められた疾病とは提出書類が異なりますので、大学のWebサイト「健康サポート（ウェルネス・センター）」のページの「感染症について」（<https://www.tsuda.ac.jp/student-life/support/wellness.html>）にて詳細を確認してください。所定の手続きを踏めば、欠席扱いとはなりません。

試験の欠席はこれと取り扱いが異なりますので、追試験の欄を参照してください（p.52）。

Q 裁判員候補者として裁判所へ出頭する場合、欠席連絡はどうすればよいですか？

A 裁判所へ出頭するために授業に出席できない、あるいは試験を受験できない場合は、その間の取り扱いについて、「選任手続期日のお知らせ(呼出状)」を持参し、千駄ヶ谷キャンパス事務室で手続きを行うことで、特別に配慮します。対象となる方は、法律により学生であることを理由に、裁判員の辞退を申し出ることができます。
(参照：https://www.saibanin.courts.go.jp/)

Q 4月に42単位分の科目を履修登録しました。2単位不合格となったので、2単位分の科目を追加で登録できますか？

A できません。不合格や失格は、「登録」した科目の結果なので、登録単位数が変わるわけではありません。

Q 昨年度履修した科目の中で、もう一度履修したい科目があるのですが、再度の履修は可能ですか？

A 過去に履修した科目でも、評価が不合格、失格または放棄したために単位を修得できなかった場合は、再履修して単位修得することができます。しかし、合格して単位を修得した科目は、原則として2度目の履修（再度履修）はできません。

Q 「語学研修」や「インターンシップ」、他大学で履修している科目は登録上限単位数（42単位）に含まれますか？

A 含まれません。

Q 「インデペンデントスタディ」・「サービ斯拉ーニング」・「1、2年生のための就職基礎講座」などは修得したら自由科目に算入されますか？ また、登録上限単位数（42単位）に含まれますか？

A 学芸学部履修要覧p.391随意科目の対象科目は、卒業要件において必要な単位として算入されません。登録上限単位数（42単位）にも含まれません。

Q 他学部（学芸学部）の科目で履修できない科目や、履修の制限のある科目について教えてください。

A 本学Webサイトで学芸学部履修要覧（千駄ヶ谷キャンパス事務室で閲覧可能）を参照するか、千駄ヶ谷キャンパス事務室にお問い合わせください。

Q 総合政策学部の学生は、教員免許を取得できますか？

A 総合政策学部在籍している学生は、本学で教員免許を取得することはできません。
教職に関する科目の履修については、学芸学部履修要覧p.89～90に掲載されているとおりです。
ただし、キャンパス間移動を伴う履修の場合は注意事項がありますので、この下の項目も確認してください。

Q 千駄ヶ谷キャンパスから小平キャンパスへ移動して学芸学部の選択科目を履修する場合、制限はありますか？

A キャンパス間移動を伴う授業を履修する場合、間に1時限分（90分）の空き時間が確保されていないと、履修登録をしようとしてもエラーとなります（例：2時限目に千駄ヶ谷での授業を履修した場合、その次の3時限目に小平での授業を履修することはできません）。

Q 今年「C」という評価を得た科目があったのですが、修得した単位を放棄して、もう一度その科目を取り直すことは可能ですか？

A 一度評価の出た科目については、理由の如何にかかわらず、その成績を放棄することはできません。

Q 年度末（3月）に届いた成績通知書を失くしてしまったのでもう1枚もらえますか？

A 成績通知書は、千駄ヶ谷キャンパス事務室にて再発行できます（再発行手数料300円が必要です）。

Q 半年休学または半年留学した場合、学年はどうなりますか？

A 半年間在学しているので、学年は進級します。但し、進級基準（p.51参照）を満たさなければ3年次に進級できません。

Q 後期から帰学／復学するのですが、授業は第3ターム初回から参加できますか？

A 授業には第3ターム初回から出席してください。学籍上は10月1日から帰学／復学となりますが、夏期休暇終了後から始まるタームは、後期に属するものと定められています。

Q 転部について教えてください。

A 次年度より他学部へ学籍を変更することを転部といいます。転部は、所定の選考試験に合格し、教授会の承認を得た者のみ許可されます。転部を許可された場合、最低2年以上当該学部または学科に在籍しなくてはなりません。なお、学校推薦型選抜や総合型選抜など、入学の方式によって転部が認められない場合があります。詳細は、6月下旬にTsudaNetにてお知らせします（p.66参照）。

7. Web履修登録の方法について

4月の履修登録期間に、年間全ての科目について履修登録を行います。

履修登録はWebシステムにて行い、必要に応じて「履修修正願」を千駄ヶ谷キャンパス事務室へ提出します。

履修登録の日程は以下のとおりです。

※履修登録を行っていないと、休講情報などがTsudaNetから配信されません。登録は早めに行ってください。

※履修登録期間の初日と最終日はアクセスが集中し、動作が重くなることがあります。

日程（Web登録）	対象学科	備 考
4月13日（土）9：00～4月22日（月）16：30	総合政策学科	「履修修正願」の提出締切 4月22日（月）16：30

■履修登録の手順

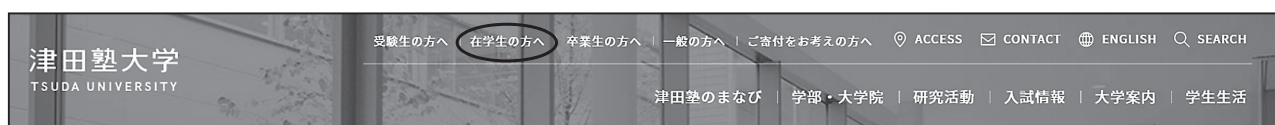
1. 履修科目の決定

履修要覧、シラバス、時間割等を参照し、履修する科目を決定します。

時間割は、「千駄ヶ谷キャンパスからのお知らせ」（<https://tinyurl.com/2enlcvu3>）を参照してください。

シラバスへは、津田塾大学公式Webサイトよりアクセスしてください。

（「在学生の方へ」⇒「シラバス・履修要覧」）



2. TsudaNetへログイン

以下のURLよりTsudaNetにアクセスし、ログインします。

<https://tc-portal.tsuda.ac.jp/>



3. Web履修成績画面へ遷移

外部連携システム ⇒ Web履修成績をクリックします。

4. 履修登録および確認

「履修」メニュー内の「履修申請」をクリックします。

※ 年度内はじめての履修登録期間（通常は第1ターム）においては、「住所情報確認・変更」「希望資格申請」「コース申請」を先に行う必要があります。

※ 第1ターム履修登録期間においては、「住所情報確認・変更」「コース申請」を先に行う必要があります。

※ 「コース申請」について

コース申請を行うと、成績通知書などに修得状況等の集計表が表示されるようになります。

- 1、2年生は、コース申請時「コース未登録」を選択してください。
- 3年生以上は、該当するコースを選択してください。

科目を選択し、登録します。

The screenshot shows the '履修登録・修正/確認' (Registration/Correction/Confirmation) page on TsudaNet. The page includes a header with the university logo and name, and a sidebar with navigation links. The main content area is titled '履修' (Registration) and contains a form for entering student information (Name, Student ID, Year, Semester) and a table of available courses. The table has columns for '科目' (Subject), '月' (Month), '火' (Tuesday), '水' (Wednesday), '木' (Thursday), '金' (Friday), '土' (Saturday), and '他' (Other). The table lists several courses, including '11G11 1年 3単位' (Pronunciation I (英)), '12N02 1年 1単位' (経済学(3)), and '12R02 1年 1単位' (経済学(4)). The page also features a '科目の選択方法' (Subject Selection Method) section with a dropdown menu and a '科目を表示' (Show Subjects) button. Callouts provide instructions: ① Click the tab for the day the subject is held; ② Check the box for the subject to be registered; ③ Check all boxes for subjects to be registered and click the '登録' (Register) button; ④ After registration is complete, click the '登録確認表' (Registration Confirmation Table) button to confirm the registration content.

以上の登録作業が終わったら、「登録確認表」をクリックします。

「履修登録確認表」が出力されるので、必ず以下を確認してください。

- すべての科目が正しく登録できているか（科目名だけでなく教員名も確認）
- エラーが表示されていないか

上記を確認し、問題がなければ履修登録は完了です。

※ 履修登録期間中であれば、「登録」ボタンを押した後も、登録内容を何度でも修正できます。

※ 学芸学部科目履修を希望する場合、画面上部の「科目の選択方法」で「他学科の科目から選ぶ」を選択してください。

5. 履修エラーが表示された場合

「エラーがあります!」と表示された場合、ボタンを押してエラー内容を確認してください。

エラーの原因が表示されますので、修正のうえ再度「登録」ボタンを押し、エラー解消されたことを確認してください。



- ※ どうしてもエラーが解消できない場合は、千駄ヶ谷キャンパス事務室へ「履修修正願」を提出してください。
- ※ 千駄ヶ谷キャンパス事務室からの督促に応じずエラーを解消しない場合、履修登録が削除されます。

6. 「履修修正願」の提出（該当者のみ）

以下のように、Webでの登録ができなかった場合、千駄ヶ谷キャンパス事務室にて「履修修正願」を提出してください。

- 科目の配当年次の程度を超えて履修することを許可された場合（編入生などで特別に許可された場合など）
- 自身では解除できないエラーが表示された場合
- サブゼミの履修を許可された場合
- その他、登録できるはずの科目が画面上に表示されない場合等

※ 「履修修正願」も、履修登録期限までに提出する必要がありますので注意してください。

■注意事項

事由によらず、登録されていない科目の授業に出席し、試験を受けたとしても、単位にはなりませんので注意してください。

「登録したつもりだったができていなかった」という場合も、履修登録期間後に修正はできません。

登録内容については、履修登録確認表で入念に確認してください。

- 事前に登録されているクラス指定科目は変更できません。
- 当選し、既に授業が開始されている予備登録科目も変更できません。
- 聴講する科目はWeb登録せず、「聴講願」を提出してください。Web登録した場合、通常の履修登録科目として扱われます。

8. 科目番号（ナンバリング）について

授業科目には、それぞれ科目番号（ナンバリング）がついています。この番号には次のような意味があります。各科目番号はシラバスに記載されています（履修登録に用いられる時間割コードとは異なります）。

■科目番号の意味

科目番号（ナンバリング）とは、その科目が取り扱う学問分野や推奨レベルを表すものです。これを参考に、学修計画にあった体系的な科目選択を行ってください。

■科目番号の構造

A B C	1	2 3 4	① 学問分野	授業で取り扱う主な学問分野を示します
①	②	③	② 推奨レベル	授業で取り扱う内容のレベルを示します
			③ 整理番号	科目ごとの区分番号です

① 学問分野コード一覧

LIT	文学	Literature
AS	地域研究	Area Studies
LNG	言語学	Linguistics
COM	コミュニケーション学	Communication Studies
PL	政治学・法学	Political Studies(POL) / Law(LAW)
ECO	経済学	Economics
SOC	社会学	Sociology
MAT	数学	Mathematics
CS	情報科学	Computer Science
DM	デジタル・メディア	Digital Media
HPE	健康・スポーツ科学	Health and Physical Education
LAN	語学	Languages
EDU	教育学	Education
IFM	情報学	Informatics
GEH	その他人文分野	General Human Science
GES	その他社会分野	General Social Science
GEN	その他自然分野	General Natural Science
GEX	その他学際領域	Interdisciplinary Studies
XE	その他（英語英文学科／文学研究科）	
XIC	その他（国際関係学科／国際関係学研究科）	
XM	その他（数学科／理学研究科数学専攻）	
CSX	その他（情報科学科／理学研究科情報科学専攻）	
XMC	その他（理学研究科）	
XMI	その他（多文化・国際協力量科／多文化・国際協力コース）	
XPS	その他（総合政策学科）	

② 推奨レベル一覧

- 0 大学入学前に修得すべき内容を扱う科目
- 1 入門的な知識を修得する科目、幅広い視野を得ることを目的とした科目
- 2 基礎的な知識をもとに専門における基本的な知識を修得する科目
- 3 専門知識を修得する科目
- 4 学士課程で学修する最終段階の水準の科目
- 5 修士レベルの科目（大学院）
- 6 博士レベルの科目（大学院）

IV

学籍について

Ⅳ 学籍について

1. 修業年限と在学期間

【学則第5条】

修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な期間で4年です。それに対して在学期間とは、本学において学生の身分を有している期間で休学期間を除き8年と定めています。

2. 休 学

【学則第28条】

病気その他やむを得ない理由により休学しようとする者は、「休学願」（所定用紙）にその理由を記し、保証人連署の上、千駄ヶ谷キャンパス事務室に提出し、教授会の議を経て学長の許可を受けなければなりません。なお、病気の場合は医師の診断書を添付してください。

〔休学期間〕

- (1) 休学期間は、1年または半年とする。ただし特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することがある。
- (2) 休学期間は、通算して4年を超えることはできない。
- (3) 休学期間は、修業年限および在学期間に算入されない。＊休学した学期分、卒業が延期になります。

3. 復 学

【学則第29条】

- (1) 休学の理由がなくなり復学しようとする者は、「復学願」（所定用紙）を千駄ヶ谷キャンパス事務室に提出し、教授会の議を経て学長の許可を受けなければなりません。
- (2) 病気の理由により休学した者が復学を願い出るときは、校医または主治医の診断書を添付しなければなりません。
- (3) 学期途中の復学はできません。

復 学 願 提 出 期 限		
後期より復学する場合	当該年度	8月31日まで
新年度より復学する場合	前年度	3月1日まで

※提出期限が土日祝日にあたる場合、前営業日が提出期限となります。

4. 退 学

【学則第32条および細則】

【学則第46条】

退学しようとする者は、「退学願」（所定用紙）にその理由を記し、保証人連署の上、千駄ヶ谷キャンパス事務室に提出し、教授会の議を経て学長の許可を受けなければなりません。なお、退学を願い出る時期までの授業料および寮費等を未納のまま退学することは許可されません。

当該義務を怠って登校しない者は除籍となります。

5. 除 籍

【学則第34条および細則】

次のいずれかに該当する者は、所定の手続きを経て除籍されます。

- (1) 定められた期限までに履修科目登録を行わない者
- (2) 授業料等諸料金の納付を怠り督促を受けてもなお納めない者
- (3) 学則第28条第2項に定める休学期間を超えてなお復学または退学しない者
- (4) 学則第5条第2項に定める在学年限を超えてなお退学しない者
- (5) 許可なくして3ヶ月以上欠席した者

〔除籍の取扱い〕

除籍の取扱いは次のようになります。

- イ. (1) および (5) の事由による場合は、その事由が発生した日付をもって除籍し、(2)、(3) および (4) の事由による場合は、9月30日または3月31日付をもって除籍する。
- ロ. (1)、(2) および (5) の事由により除籍となった者が、再入学を願い出たときは、教授会の議を経て学長が許可することがある。
- ハ. (2) の事由により除籍となった者が、除籍通知発送後2週間以内に滞納した諸料金を納入し、除籍取消許可願を提出したときは、除籍を取り消すことができる。

6. 転部・転科

〔学則第31条および細則〕

本学学生で転部・転科を希望する者は、所定の期日までに転部・転科願に必要書類を添えて教務課に提出してください。なお、転部・転科の取扱いについては以下のとおりです。

- (1) 毎年6月下旬に次年度転部・転科希望の募集について教務課が告知を行う。
- (2) 転部・転科を希望する者は、所定の期日までに転部・転科願に必要書類を添えて教務課に提出する。期日及び必要書類については別に定める。
- (3) 転部・転科を願い出た者に対しては、当該学科で選考の上、教授会が適当と認めた者につき学長が新学年より転部・転科を許可する。
- (4) 転部・転科希望者の選考は、書類審査、面接および筆記試験とする。筆記試験は省略されることがある。
- (5) 転部・転科を許可された者は、当該学科に最低2年以上在籍しなければならない。
- (6) 学校推薦型選抜（指定校制）、学校推薦型選抜（公募制）、および総合型選抜で入学した者は転部・転科できない。但し、2017年度以前の数学科および情報科学科の公募制推薦入試で入学した者はこれによらない。
- (7) 学則年度が2016年度以前の者は、転部できない。

7. 留 学

〔学則第27条および細則〕

外国の大学に留学をしようとする者は、所属学科セミナー指導教員に申し出てその指導を受けた後、定められた期日（後期から留学する場合：6月末日、翌年度の前期から留学する場合：1月末日）までに入学許可通知を添えて留学願および所定書類を千駄ヶ谷キャンパス事務室に提出し、教授会の議を経て学長の許可を受けなければなりません。なお、留学期間については以下のとおりです。

受入先が2学期制をとる場合には1学期以上、3学期制ないし4学期制をとる場合には2学期以上であること。

8. 交換学生派遣（国内）

〔学則第14条〕

本学学生で、本学との間に相互交流の協定がある国内の大学または短期大学に留学しようとする者に関する細則は以下のとおりです。

- (1) 本学学生で、本学との間に相互交流の協定がある国内の大学または短期大学における授業科目の履修をする者を交換学生と呼ぶ。
- (2) 交換学生は、本学が教育上有益と判断した場合に限り、本学選考機関の審査を経て、学長がこれを決定する。
- (3) 交換学生は、本学に在籍のまま1年を限度として、委託先の大学での学修を許可され、当該大学で修得した単位のうち適当と認められるものは、30単位を限度として、本学の卒業に必要な単位としての認定を受けることができる。
- (4) 委託先での修学期間は、本学における修業年限に算入できる。
- (5) 交換学生の出願者は、本学に少なくとも1年以上在学し、前年度までに30単位以上の科目を修得した者に限る。
- (6) 委託先での身分は、当該大学の定めによる聴講生とし、その間当該大学の学則および指示決定に従う義務を負う。
- (7) 交換学生は、原則として、その期間本学の学費を全額納入するものとする。
- (8) 交換学生に関する費用は、協定の定めによるものとする。
- (9) その他の事項については、協定校との協議に基づいて別に定めるものとする。

9. 再入学

〔学則第33条〕

退学者が再入学を願い出たときは、事情を考慮した上で学長がこれを許可することがある。

- (1) 再入学願は原則として入学希望の前年度10月末日までに提出しなければならない。
- (2) 前項により、再入学を許可する者についての入学金は当該年度の半額とし、授業料、施設設備費は当該年度の額を適用する。
- (3) 再入学は年度の始めからとする。
- (4) 再入学前に本学で修得した単位は、原則として本学の卒業に必要な単位として認定する。

■学籍異動手続きの流れ 休学・留学・退学・復学・帰学

千駄ヶ谷キャンパス事務室に下記の書類を提出

	休 学	留 学	交換留学・派遣留学	退 学	復学・帰学
所定用紙	①休学願 (②海外滞在計画書) (③課外活動届)	①留学願 ②海外滞在計画書 ③留学許可願	①留学願 ②海外滞在計画書	①退学願	①復学願または帰学届
添付書類	(1) 事由が病気の場合、診断書。 (2) 事由が留学または語学研修の場合、②及び入学許可通知のコピー。 (3) 事由がインターンシップまたはボランティア活動等の場合、③課外活動届。	(1) 入学許可通知のコピー。 ※③は本人が記入し、セミナー担当者等に面接を依頼する。署名捺印されたものを千駄ヶ谷キャンパス事務室に提出。セミナー担当者が非常勤講師の場合は、学科主任に依頼する。	(1) 入学許可通知のコピー。	(1) 事由が病気の場合、診断書。	(1) 休学の事由が病気の場合、診断書。
提出期限	(1) 第1タームからの休学の場合：当該年度の5月末日 (2) 第3タームからの休学の場合：当該年度の10月末日	(1) 第1タームからの留学の場合：前年度の1月末日 (2) 第3タームからの留学の場合：当該年度の6月末日 ※渡航前に余裕をもってご提出ください。		(1) 9月30日付退学の場合：当該年度の10月末日 (2) 3月31日付退学の場合：次年度の5月末日	(1) 第1タームからの帰学・復学の場合：前年度の3月1日 (2) 第3タームからの帰学・復学の場合：当該年度の8月31日

所属学科および教授会での審議

学長許可

休学・留学（交換留学・派遣留学）・退学・復学は大学より保証人及び学生宛に審議結果を通知

（帰学は千駄ヶ谷キャンパス事務室より本人住所宛に審議結果を通知）

※休学願・留学願・退学願を提出期限までにご提出いただいた場合には学費減免措置が適用されます。

※学費減免措置を受けるためには所定の期日までに学籍異動書類の提出が必要です。

通年または前期分学費：当該年度の5月31日まで 後期分学費：当該年度の10月31日まで

※提出期限が土日祝日にあたる場合、前営業日が提出期限となります。

※休学中の者が復学を希望する場合、復学の手続きが必要となります。

第3タームから帰学・復学する場合は、授業には第3ターム初回から出席してください。

※留学・交換留学・派遣留学中の者が帰学する場合、帰学の手続きが必要となります。

※学籍上の休学・留学期間の開始日は、4月1日と10月1日です。

※海外渡航を伴う休学・留学の場合は「津田塾生のための留学ハンドブック2023-2024」を併せてご参照ください。

※学籍異動手続の詳細は千駄ヶ谷キャンパス事務室からのお知らせサイト内「学籍」をご参照ください。

「学籍」



休学・留学期間中の学費減免措置が適用される場合は、教授会での審議、学長許可後、経理課より詳細を記した書類が送付されます。願い出の時期等により学費納入方法が異なりますので、決定後送付された書類に従ってください。

10. 学費等

〔学則第41条、第42条、第50条〕

総合政策学部

(単位：円)

入学年度	期間	総合政策学科		
		授業料	施設設備費	合 計
2021年度	半期	415,000	144,500	559,500
	年額	830,000	289,000	1,119,000
2022年度	半期	410,000	143,000	553,000
	年額	820,000	286,000	1,106,000
2023年度	半期	405,000	141,500	546,500
	年額	810,000	283,000	1,093,000
2024年度	半期	400,000	140,000	540,000
	年額	800,000	280,000	1,080,000

※2020年度以前の入学者も漸増方式を適用し、授業料：年10,000円増、施設設備費：年3,000円増

授業料・施設設備費および寮舎費（ただし、在寮生のみ）の納入については、次のとおりです。

(1) 納入期限（納入期限が金融機関休業日のときは翌営業日とします。）

イ. 前期分については5月31日までに、後期分については10月31日までに納入してください。

(2) 納入方法

イ. 学費は前期分は5月下旬、後期分は10月下旬に口座振替（引落し）にて納入いただきます。

ロ. 寮舎費は納入期限までに指定口座へお振込みください。

ハ. 新入生については、前期分は入学手続時に納入済みですので、9月初旬に後期分納入書を保証人宛に郵送します。

2024年度 入 学 金

金 額	備 考
200,000円	下記以外の者
100,000円	再入学者

■科目等履修生・聴講生・委託生

(単位：円)

	出身校	選考料	在籍料	
科目等履修生	本学以外	3,500	30,000	履修料 1 単位 15,000
	本学	0	0	
聴講生	本学以外	3,500	30,000	聴講料 1 単位分の授業聴講につき 10,000
	本学	0	0	
委託生			30,000	履修料 1 単位 15,000

11. 経済的理由により修学が困難な私費外国人留学生の授業料減免措置に関する規程

(目 的)

第1条 この規程は、経済的理由により修学が困難な私費外国人留学生に対する授業料減免措置について必要な事項を定める。

(資 格)

第2条 私費外国人留学生とは、津田塾大学及び津田塾大学大学院の正規の課程（以下「本学の正規課程」という。）に在学し、かつ、出入国管理及び難民認定法別表第1に定める「留学」の在留資格（年度途中に、「家族滞在」等から「留学」に変わる者を含む。）を有する者とし、国費外国人留学生制度に定める国費外国人留学生及び外国政府の派遣する留学生以外の者を対象とする。

(減免者の選考)

第3条 本規程により授業料減免措置を受ける者の選考は、減免の申請に基づき、国際センター運営委員会が本人の経済的理由に加え、学業成績並びに学問研究への熱意等を考慮して行う。

2 申請書類、選考基準については別に定める。

(減免額)

第4条 前条により選考された私費外国人留学生については授業料の半額を減免する。

(適用除外)

第5条 第1条の私費外国人留学生が休学または留学をする場合は、休学・留学期間中の学費減免措置を適用し、本規程を重複して適用しないものとする。

(期 間)

第6条 第1条の私費外国人留学生が本制度の対象となる期間は、当該学生の修業年限を上限とする。

2 但し当該学生が留学した場合、審議のうえ1年間を限度として対象期間の延長を認めることができる。

(改 廃)

第7条 本規程の改廃は国際センター運営委員会、財務・事業計画会議および大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成24年（2012年）4月1日から施行する。

この規程は、2014年（平成26年）4月1日から施行する。

この規程は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。

この規程は、2019年（平成31年）4月1日から改正、施行する。

12. 学籍番号形態について

学籍番号の見方……例)

P
↓
学科等を表すアルファベット
24
↓
入学・編／再入学年度
001
↓
識別番号

学科等を表すアルファベット一覧

				アルファベット
正 規 学 生	学 部	学芸学部	英語英文学科	A
			国際関係学科	B
			多文化・国際協力学科	H
			数学科	F
			情報科学科	G
		総合政策学部	総合政策学科	P
	大学院	文学研究科修士課程		EM
		文学研究科後期博士課程		ED
		国際関係学研究科修士課程		IM
		国際関係学研究科後期博士課程		ID
		理学研究科修士課程		MM
		理学研究科後期博士課程		MD
正 規 外 学 生	学 部	科目等履修生		ZS
				ZK
		聴講生		ZJ
		委託聴講生	(特別聴講学生) 電気通信大学	ZE
			一橋大学	ZH
			東京外国語大学	ZL
			(単位互換履修生) TAC	ZA
		交換留学生		ZR
				ZP
		沖縄大学		
	大学院	科目等履修生		ZT
		聴講生		ZU
		特別聴講学生		ZY
		交換留学生		ZV
		研究生		ZX
		特別研究学生		ZZ
		委託生		ZW

※上表は2020年度より適用



教 育 課 程

1. 総合政策学科

V 教育課程

原則として程度Ⅰは第1、2年次に、Ⅱは第2、3年次に、Ⅲは第3、4年次に、Ⅳは第4年次において履修します。

1-1. 総合政策学科 (2022年度以前入学者用)

(1) 履修単位数

卒業に必要な最小限単位数は以下のとおりです。

必修科目	
基礎科目：セミナー	6単位
基礎科目：英語	36単位
基礎科目：ソーシャル・サイエンス	8単位
基礎科目：データ・サイエンス	12単位
基礎科目：概論	2単位
応用科目（3・4年セミナーおよび卒業研究プロジェクト）	10単位
選択科目	
基幹科目：課題解決関連科目	16単位
基幹科目：専門科目	16単位
自由科目	24単位
合 計	
130単位	

(2) 履修方法

イ. 基礎科目：セミナー、応用科目

セミナーは課題解決のための総合的な実践力を養う場となるだけでなく、セミナー担当教員や他の学生と密にコミュニケーションをとる場として各年次に配置されています。

・1年セミナー

1年セミナーでは、課題解決にあたるための初歩的なリサーチ能力、分析能力、アウトプット能力の習得を目指します。ライティングの基礎的スキルの習得も1年セミナーでおこないます。

・2年セミナー

2年セミナーはインディペンデント・スタディの場です。具体的には、学生が担当教員と議論を重ねながら自ら取り組むべき課題を設定し、その課題のもとでインターンシップやボランティア、フィールドワーク等をおこないます。

・3年セミナー・4年セミナー

3年セミナー・4年セミナーは卒業研究プロジェクトに向けての学びの場です。3年セミナー、4年セミナーでは、原則として2年間同一セミナーに所属し、セミナー担当教員の専門のもとで自ら課題を設定し、解決する研究を進めます。その研究を本学科での学びの集大成として卒業研究プロジェクトにまとめていきます。

ロ. 基礎科目：英語

多様な価値観をもつ他者とのあいだで合意を形成することができる実践的な英語力を養います。

ハ. 基礎科目：ソーシャル・サイエンス

社会を成り立たせている基本的な仕組みを、政治、経済、法の観点から理解し、社会の諸相を的確に把握する認識力を養います。

ニ. 基礎科目：データ・サイエンス

講義と演習が合わせておこなわれ、データの収集・分析方法やその適切な表現方法についての理解を深め、課題解決のためにそれらを活用できる実践能力を習得します。

ホ. 基礎科目：概論

現代社会が抱える諸課題の解決と学問研究との関係ならびに、本学科での学びと卒業後のキャリア形成との関係について理解するオリエンテーション講義の役割を担っています。

ヘ. 基幹科目：課題解決関連科目

4つの課題領域はそれぞれ、現代社会における特徴的な課題の領域を指し示していると同時に、現代社会のさまざまな課題を解決するためのアプローチ方法をもあらわしています。現代社会のさまざまな課題を解決するためのアプローチ方法を学びつつ、それぞれの課題の特徴や固有性を理解し、課題解決のための学問知を実践的に習得します。

所属する3年セミナーが位置付けられる課題領域から課題解決関連科目を8単位以上修得しなければなりません。(1、2年次に履修した課題解決関連科目もその8単位のなかに含めることができます。)

課題解決関連科目は、この8単位を含め、卒業要件として16単位を修得する必要があります。16単位を超えて修得した分は、自由科目へ算入されます。

ト. 基幹科目：専門科目

ソーシャル・サイエンスやデータ・サイエンスの基礎科目で修得した、課題解決に取り組むための基礎学力をさらに発展させ、学術的専門性を高めます。

卒業要件として16単位を修得する必要があります。16単位を超えて修得した分は、自由科目へ算入されます。

チ. 自由科目

卒業要件として24単位以上修得する必要があります。自由科目には、以下の単位を含めることができます。

- ・選択科目のうち、卒業要件単位数を超えて修得した単位
- ・学芸学部ならびに他大学の授業科目のうち、本学部が認めた単位

※ただし、成績通知書およびTsudaNetの成績照会画面では、選択科目から自由科目へ算入した単位数も選択科目として表示されます。

(3) コースについて

本学科では4つの課題領域が「コース」として設定されています。3年次にあがるときに3年セミナーを選択することで、同時にそのセミナーが位置付けられている課題領域を「コース」として選択することになります。

【パブリック・ポリシー】：社会のルールを定める公共的な「決定」そのものの仕組みや根拠を考えることで諸課題を解決し、新たな制度設計の可能性を追究しようとするアプローチ。ただし、公共の意思決定における主体は、狭い意味での政府に限られず、市民や地域、団体、企業も含まれる。

【エコノミック・ポリシー】：希少性のある資源や富の創造（Wealth Creation）を、人びとの幸福の達成のために、どのように個人や社会において利用し、配分するかを考えることで諸課題を解決しようとするアプローチ。ここでいう富（Wealth）は、経済学で伝統的に定義される物質的・財的な富に限定されるものではなく、社会的資本や人間関係など、個人や社会にとって「価値あるもの」も含む。

【ソーシャル・アーキテクチャ】：社会を、人びとの活動がそのもとで展開され、それによって規定される多様な「プラットフォーム」の集合ととらえ、それをどう設計するかという問いをつうじて課題を解決しようとするアプローチ。とりわけ、現代社会のなかでますます重要性を増しているICT（情報通信技術）とこれによって実現されるシステムやサービスに着目し、社会が直面している諸課題の効果的な解決方法を探求する。

【ヒューマン・ディベロップメント】：諸個人の能力に焦点をあてて、それを向上させる社会的な仕組みを考えることで諸課題を解決しようとするアプローチ。また、貧困やジェンダーにもとづく格差、宗教や文化を異にするものへの偏見など、人びとの活動や能力の発展をさまたげる社会的な要因をいかに取り除くかという課題も対象とする。

(4) セミナー登録について

総合政策学科では、各学年のセミナーは必修科目です。次年度に2年生以上のセミナーを履修する際には、後期に登録を行う必要があります。

2年セミナー

- ・後期に、次年度の「2年セミナー」担当教員との相談会を実施する予定です。

登録方法・期間などの詳細は「1年セミナー」授業時の説明やTsudaNetから配信されるお知らせを確認してください。

3年セミナー

- ・後期に、次年度の「3年セミナー」担当教員との相談会を実施する予定です。

登録方法・期間などの詳細は「2年セミナー」授業時の説明やTsudaNetから配信されるお知らせを確認してください。

4年セミナー

- ・4年セミナーは原則として3年セミナーを継続します。
- ・4年次進級に際してセミナーの変更を希望する場合、千駄ヶ谷キャンパス事務室に相談してください。
ただし、クラスの人数が定員を超えている場合など希望通りにならないことがあります。

セミナーの再履修について

- ・2～4年セミナーの再履修が決まった学生（成績評価が不合格または失格の場合）は、直ちに千駄ヶ谷キャンパス事務室へ連絡してください。

(5) 卒業研究プロジェクトについて

卒業年次には4年間の学びの集大成として、現代社会の諸問題における課題解決のための「卒業研究プロジェクト」を提出します。

論題登録

指定された時期に、卒業研究プロジェクトのタイトル（日本語および英語）の登録を行います。

中間報告

第3タームの指定された時期に、各指導教員の指示する要領において中間報告（口頭発表）を行います。

卒業研究プロジェクト提出

第4タームの指定された時期に、規定の体裁を満たした卒業研究プロジェクトおよび論文票を提出します。

卒業研究プロジェクト報告会

第4タームの指定された時期に、卒業研究プロジェクト報告会を行います。卒業研究の成果を発表する場であり、論文の内容に対する口頭試問の機会です。

卒業研究プロジェクトの合否

審査の結果、卒業研究プロジェクトが不合格となった場合は、所定の要件を満たせば再審査を受けることができます。
(p.54「(8) 卒業研究プロジェクトの提出」参照)

※各項目の具体的な案内については、TsudaNetでお知らせします。

※卒業研究プロジェクトの詳細は、TsudaNet情報掲示板の「卒業研究プロジェクトにおける論文執筆の手引き」にて詳しく記載しています。

1-1. 総合政策学科 (2022年度以前入学者用)

(6) 総合政策学部 総合政策学科 2021年度以前入学者用 標準カリキュラム表

	1 年 次				2 年 次			
	授 業 科 目	程度	単位	週時	授 業 科 目	程度	単位	週時
V 教育課程／1 総合政策学科	基礎科目：セミナー〔6単位〕							
	1年セミナーA	I	1	2	2年セミナーA	II	1	2
	1年セミナーB	I	1	2	2年セミナーB	II	1	2
	1年セミナーC	I	1	2	2年セミナーC	II	1	2
	基礎科目：英語〔36単位〕							
	Basics of Interpersonal Communication for Problem Solving I A	I	1	2	Negotiation Communication for Problem Solving II A	II	1	2
	Interpersonal Communication for Problem Solving I B	I	1	2	Conflict Resolution Communication for Problem Solving II B	II	1	2
	Compassionate Communication for Problem Solving I C	I	1	2	Mediation Communication for Problem Solving II C	II	1	2
	Content-based Listening and Discussion I A	I	1	2	Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion II A	II	1	2
	Content-based Listening and Discussion I B	I	1	2	Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion II B	II	1	2
	Content-based Listening and Discussion I C	I	1	2	Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion II C	II	1	2
	Content-based Reading I A	I	1	2	Critical Thinking in Content-based Reading II A	II	1	2
	Content-based Reading I B	I	1	2	Critical Thinking in Content-based Reading II B	II	1	2
	Content-based Reading I C	I	1	2	Critical Thinking in Content-based Reading II C	II	1	2
	Content-based Writing I A	I	1	2	Content-based Process Writing II A	II	1	2
	Content-based Writing I B	I	1	2	Content-based Process Writing II B	II	1	2
	Content-based Writing I C	I	1	2	Content-based Process Writing II C	II	1	2
	基礎科目：ソーシャル・サイエンス〔8単位〕							
	政治とは何か	I	2	4				
	経済の仕組み	I	2	4				
	法からみた社会	I	2	4				
	計量経済の基礎	I	2	4				
	基礎科目：データ・サイエンス〔12単位〕							
	データ・サイエンス入門	I	2	4	経済分析	II	2	4
	統計 I	I	2	4	アルゴリズム	II	2	4
	会計	I	2	4	統計 II	II	2	4
	基礎科目：概論〔2単位〕							
	総合政策概論A	I	1	2				
	総合政策概論B	I	1	2				
選 択 科 目	基幹科目：課題解決関連科目							
	所属する課題領域に関連する科目を8単位以上修得すること。							
	パブリック・ポリシー							
	分配のポリティクス、グローバリゼーション論、地域政策論*、公共政策論							
	平和構築、政治参加、プロパガンダとアドボカシー、文化交							
	エコノミック・ポリシー							
	企業の社会的責任、雇用経済論							
	多国籍企業論、イノベーションと社会、マーケティング戦略							
	ソーシャル・アーキテクチャ							
	インターネット概論、情報通信技術と社会、映像コミュニケーションデザイン							
	Web情報システム論、情報セキュリティ論、メディア産業論							
	ヒューマン・ディベロップメント							
	社会実践の諸相、女性のキャリア開発、地域ケア論、コミュニティスタディ							
	少子高齢化の進展と社会保障の持続可能性、子どもの貧困と							
自 由 科 目	基幹科目：専門科目							
	政治制度論、法と公共政策、日本政治史、公共哲学、ミクロ・プログラミング入門、プログラミング実践、家族社会学、福							
	総合科目							
	クリティカル・シンキング、世界の宗教と社会、ソーシャル・デザイン論、経済人類学、科学技術と文明、歴史入門、キャリア入門A、キャリア入門B、キャリア International Training Course B、事業戦略とイノベーション、ダイバーシティと情報通信、データ分析実践、北欧から見える世界、Math Camp、Pre-Study- デザイン思考による地域創生学、Introduction to International Relations A/B/C、Politics and Development A/B/C、Political Communication A/B/C、Social Introduction to Language and Linguistics A/B/C、Foundation Discussion Skills A/B/C、Communicative Grammar A/B/C、Genre-based Reading A/B/C、							
	基幹科目のうち、卒業要件単位数を超えて修得した科目と合わせて24単位以上修得すること。なお、学芸学部ならびに他大							
	地域政策論*：2022年度より程度Ⅱの科目です。							

3 年 次				4 年 次				計
授 業 科 目	程度	単位	週時	授 業 科 目	程度	単位	週時	
応用科目〔10単位〕								16
3 年セミナー A	Ⅲ	1	2	4 年セミナー A	Ⅳ	1	2	
3 年セミナー B	Ⅲ	1	2	4 年セミナー B	Ⅳ	1	2	
3 年セミナー C	Ⅲ	1	2	4 年セミナー C	Ⅳ	1	2	
				卒業研究プロジェクト	Ⅳ	4		58
Leadership Communication for Problem Solving Ⅲ A								
Management Communication for Problem Solving Ⅲ B								
Skills Integration in Communication for Problem Solving Ⅲ C								
Basics of Content-based Presentation Skills Ⅲ A								
Delivering Competency in Content-based Presentation Skills Ⅲ B								
Interactive Competency in Content-based Presentation Skills Ⅲ C								
Economics-oriented Advanced Reading Ⅲ A								
Law-oriented Advanced Reading Ⅲ B								
Politics-oriented Advanced Reading Ⅲ C								
Basics of Academic Writing Ⅲ A								
Research for Academic Writing Ⅲ B								
Problem-solution in Academic Writing Ⅲ C								

(6) 総合政策学部 総合政策学科 2022年度入学者用 標準カリキュラム表

	1 年 次				2 年 次				
	授 業 科 目	程度	単位	週時	授 業 科 目	程度	単位	週時	
必修科目	基礎科目：セミナー〔6単位〕								
	1年セミナーA	I	1	2	2年セミナーA	II	1	2	
	1年セミナーB	I	1	2	2年セミナーB	II	1	2	
	1年セミナーC	I	1	2	2年セミナーC	II	1	2	
	基礎科目：英語〔36単位〕								
	Basics of Interpersonal Communication for Problem Solving I A	I	1	2	Negotiation Communication for Problem Solving II A	II	1	2	
	Interpersonal Communication for Problem Solving I B	I	1	2	Conflict Resolution Communication for Problem Solving II B	II	1	2	
	Compassionate Communication for Problem Solving I C	I	1	2	Mediation Communication for Problem Solving II C	II	1	2	
	Content-based Listening and Discussion I A	I	1	2	Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion II A	II	1	2	
	Content-based Listening and Discussion I B	I	1	2	Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion II B	II	1	2	
	Content-based Listening and Discussion I C	I	1	2	Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion II C	II	1	2	
	Content-based Reading I A	I	1	2	Critical Thinking in Content-based Reading II A	II	1	2	
	Content-based Reading I B	I	1	2	Critical Thinking in Content-based Reading II B	II	1	2	
	Content-based Reading I C	I	1	2	Critical Thinking in Content-based Reading II C	II	1	2	
	Content-based Writing I A	I	1	2	Content-based Process Writing II A	II	1	2	
	Content-based Writing I B	I	1	2	Content-based Process Writing II B	II	1	2	
	Content-based Writing I C	I	1	2	Content-based Process Writing II C	II	1	2	
	基礎科目：ソーシャル・サイエンス〔8単位〕								
	政治とは何か	I	2	4					
	経済の仕組み	I	2	4					
	法からみた社会	I	2	4					
	計量経済の基礎	I	2	4					
	基礎科目：データ・サイエンス〔12単位〕								
	データ・サイエンス入門	I	2	4	経済分析	II	2	4	
	統計Ⅰ	I	2	4	アルゴリズム	II	2	4	
	会計	I	2	4	統計Ⅱ	II	2	4	
	基礎科目：概論〔2単位〕								
	総合政策概論A	I	1	2					
	総合政策概論B	I	1	2					
選択科目	基幹科目：課題解決関連科目								
	所属する課題領域に関連する科目を8単位以上修得すること。								
	パブリック・ポリシー				平和構築、政治参加、プロパガンダとアドボカシー、文化交				
	分配のポリティクス、グローバリゼーション論、公共政策論								
	エコノミック・ポリシー				多国籍企業論、イノベーションと社会、マーケティング戦略				
	企業の社会的責任、雇用経済論								
	ソーシャル・アーキテクチャ				Web情報システム論、情報セキュリティ論、メディア産業論				
	インターネット概論、情報通信技術と社会、映像コミュニケーションデザイン								
	ヒューマン・ディベロップメント				少子高齢化の進展と社会保障の持続可能性、子どもの貧困と				
	社会実践の諸相、女性のキャリア開発、地域ケア論、コミュニティスタディ								
	基幹科目：専門科目								
					政治制度論、法と公共政策、日本政治史、公共哲学、ミクロ・プログラミング入門、プログラミング実践、家族社会学、福				
	自由科目	総合科目							
		クリティカル・シンキング、世界の宗教と社会、ソーシャル・デザイン論、経済人類学、科学技術と文明、歴史入門、キャリア入門A、キャリア International Training Course A、International Training Course B、事業戦略とイノベーション、データ分析実践、映像コミュニケーションデザ Introduction to International Relations A/B/C、Politics and Development A/B/C、Political Communication A/B/C、Social Values A/B/C、 Introduction to Language and Linguistics A/B/C、Foundation Discussion Skills A/B/C、Communicative Grammar A/B/C、Genre-based							
基幹科目のうち、卒業要件単位数を超過して修得した科目と合わせて24単位以上修得すること。なお、学芸学部ならびに他大									

3年次				4年次				計
授業科目	程度	単位	週時	授業科目	程度	単位	週時	
応用科目〔10単位〕								16
3年セミナーA	Ⅲ	1	2	4年セミナーA	Ⅳ	1	2	
3年セミナーB	Ⅲ	1	2	4年セミナーB	Ⅳ	1	2	
3年セミナーC	Ⅲ	1	2	4年セミナーC	Ⅳ	1	2	
				卒業研究プロジェクト	Ⅳ	4		58
Leadership Communication for Problem Solving ⅢA	Ⅲ	1	2					
Management Communication for Problem Solving ⅢB	Ⅲ	1	2					
Skills Integration in Communication for Problem Solving ⅢC	Ⅲ	1	2					
Basics of Content-based Presentation Skills ⅢA	Ⅲ	1	2					
Delivering Competency in Content-based Presentation Skills ⅢB	Ⅲ	1	2					
Interactive Competency in Content-based Presentation Skills ⅢC	Ⅲ	1	2					
Economics-oriented Advanced Reading ⅢA	Ⅲ	1	2					
Law-oriented Advanced Reading ⅢB	Ⅲ	1	2					
Politics-oriented Advanced Reading ⅢC	Ⅲ	1	2					
Basics of Academic Writing ⅢA	Ⅲ	1	2					
Research for Academic Writing ⅢB	Ⅲ	1	2					
Problem-solution in Academic Writing ⅢC	Ⅲ	1	2					
								16
流論、地域政策論								
市民社会における安全保障、法制度設計、統治システム論、環境政策論、国際標準化論								
世界の開発と貧困問題、知的財産法、医療・介護の経済分析、経済政策論								
スマートコミュニティ論、データ政策科学、健康医療情報システム、情報通信政策、経営情報システム、技術経営論								16
教育格差、人の国際移動と社会の多文化化、ジェンダーと社会変動、ソーシャル・インクルージョン論								
ダイバーシティ社会論、ソーシャル・ヘルス・マネジメント								
マクロ経済分析、現代経営論、社会学概論、日本の財政・金融、社会調査入門、プロジェクト・マネジメント、社政策論、共生社会と法、経済活動のための法、行政学、質的調査法、社会階層論								16
グローバル・ポリティクス論、行動経済分析、実証政治理論、貿易政策論、アプリケーション開発、能力開発論、多変量解析と公的統計、現代社会論、政策過程論								
ア入門B、キャリア入門C、日本語ライティングA、日本語ライティングB、日本語ライティングC、インターンシップ、語学研修、イン基礎、International Peace Studies、ブランディング実践、データで読み解く世界、デザイン思考による地域創生学、 Culture and Society A/B/C、Language Analysis A/B/C、Language and Communication A/B/C、Language and Culture A/B/C、Reading A/B/C、Advanced Reading A/B/C 、Thesis Writing in English A/B、Business Project & Presentation、計算社会科学								24
学の授業科目のうち、本学部が認めた単位を含むことができる。								
						最低修得必要単位数		130

(7) 授業科目名・単位

授業科目名・単位 授業科目名・単位については、1-2.(7) (p.86~95) をご覧ください。

※履修の際は、「千駄ヶ谷キャンパスからのお知らせ」 (<https://tinyurl.com/2enlcvu3>) に載せている

「2023年度カリキュラム変更に伴う履修の手引き」も参照してください。



1-2. 総合政策学科 (2023年度以降入学用)

(1) 履修単位数

卒業に必要な最小限単位数は以下のとおりです。

必修科目

基礎科目：セミナー	6単位
基礎科目：英語	30単位
基礎科目：ソーシャル・サイエンス	6単位
基礎科目：データ・サイエンス	6単位
基礎科目：概論	2単位
応用科目（3・4年セミナーおよび卒業研究プロジェクト）	10単位

選択科目

基幹科目：データ・サイエンス	2単位
基幹科目：専門科目（英語で行う科目）	3単位
基幹科目：課題解決関連科目	16単位
基幹科目：専門科目	16単位
自由科目	27単位

合 計 124単位

(2) 履修方法

イ. 基礎科目：セミナー、応用科目

セミナーは課題解決のための総合的な実践力を養う場となるだけでなく、セミナー担当教員や他の学生と密にコミュニケーションをとる場として各年次に配置されています。

・1年セミナー

1年セミナーでは、課題解決にあたるための初歩的なリサーチ能力、分析能力、アウトプット能力の習得を目指します。ライティングの基礎的スキルの習得も1年セミナーでおこないます。

・2年セミナー

2年セミナーはインディペンデント・スタディの場です。具体的には、学生が担当教員と議論を重ねながら自ら取り組むべき課題を設定し、その課題のもとでインターンシップやボランティア、フィールドワーク等をおこないます。

・3年セミナー・4年セミナー

3年セミナー・4年セミナーは卒業研究プロジェクトに向けての学びの場です。3年セミナー、4年セミナーでは、原則として2年間同一セミナーに所属し、セミナー担当教員の専門のもとで自ら課題を設定し、解決する研究を進めます。その研究を本学科での学びの集大成として卒業研究プロジェクトにまとめていきます。

ロ. 基礎科目：英語

多様な価値観をもつ他者とのあいだで合意を形成することができる実践的な英語力を養います。

ハ. 基礎科目：ソーシャル・サイエンス

社会を成り立たせている基本的な仕組みを、政治、経済、法の観点から理解し、社会の諸相を的確に把握する認識力を養います。

ニ. 基礎科目：データ・サイエンス

講義と演習が合わせておこなわれ、データの収集・分析方法やその適切な表現方法についての理解を深め、実践的な課題解決に向けた基礎力を養います。

ホ. 基礎科目：概論

現代社会が抱える諸課題の解決と学問研究との関係ならびに、本学科での学びと卒業後のキャリア形成との関係について理解するオリエンテーション講義の役割を担っています。

1-2. 総合政策学科 (2023年度以降入学者用)

ヘ. 基幹科目：データ・サイエンス

講義と演習が合わせておこなわれ、現代社会における課題解決に必要な専門的なデータの処理や分析方法について習得し、具体的なテーマに基づいて分析を実践します。

卒業要件として2単位を修得する必要があります。2単位を超えて修得した分は、自由科目へ算入されます。

ト. 基幹科目：専門科目（英語で行う科目）

基礎英語科目で培った実践的な英語力を基盤として、コアとなる英語力をさらに磨く科目や、政治・文化・言語・テクノロジーなどの専門分野を英語で発展的に学ぶ科目から選択して履修します。

卒業要件として3単位を修得する必要があります。3単位を超えて修得した分は、自由科目へ算入されます。

チ. 基幹科目：課題解決関連科目

4つの課題領域はそれぞれ、現代社会における特徴的な課題の領域を指し示していると同時に、現代社会のさまざまな課題を解決するためのアプローチ方法をもあらわしています。現代社会のさまざまな課題を解決するためのアプローチ方法を学びつつ、それぞれの課題の特徴や固有性を理解し、課題解決のための学問知を実践的に習得します。

所属する3年セミナーが位置付けられる課題領域から課題解決関連科目を8単位以上修得しなければなりません。（1、2年次に履修した課題解決関連科目もその8単位のなかに含めることができます。）

課題解決関連科目は、この8単位を含め、卒業要件として16単位を修得する必要があります。16単位を超えて修得した分は、自由科目へ算入されます。

リ. 基幹科目：専門科目

ソーシャル・サイエンスやデータ・サイエンスの基礎科目で修得した、課題解決に取り組むための基礎学力をさらに発展させ、学術的専門性を高めます。

卒業要件として16単位を修得する必要があります。16単位を超えて修得した分は、自由科目へ算入されます。

ヌ. 自由科目

卒業要件として27単位以上修得する必要があります。自由科目には、以下の単位を含めることができます。

- ・選択科目のうち、卒業要件単位数を超えて修得した単位
- ・学芸学部ならびに他大学の授業科目のうち、本学部が認めた単位

※ただし、成績通知書およびTsudaNetの成績照会画面では、選択科目から自由科目へ算入した単位数も選択科目として表示されます。

(3) コースについて

本学科では4つの課題領域が「コース」として設定されています。3年次にあがるときに3年セミナーを選択することで、同時にそのセミナーが位置付けられている課題領域を「コース」として選択することになります。

【パブリック・ポリシー】：社会のルールを定める公共的な「決定」そのものの仕組みや根拠を考えることで諸課題を解決し、新たな制度設計の可能性を追究しようとするアプローチ。ただし、公共的意思決定における主体は、狭い意味での政府に限られず、市民や地域、団体、企業も含まれる。

【エコノミック・ポリシー】：希少性のある資源や富の創造（Wealth Creation）を、人びとの幸福の達成のために、どのように個人や社会において利用し、配分するかを考えることで諸課題を解決しようとするアプローチ。ここでいう富（Wealth）は、経済学で伝統的に定義される物質的・財的な富に限定されるものではなく、社会的資本や人間関係など、個人や社会にとって「価値あるもの」も含む。

【ソーシャル・アーキテクチャ】：社会を、人びとの活動がそのもとで展開され、それによって規定される多様な「プラットフォーム」の集合ととらえ、それをどう設計するかという問いをつうじて課題を解決しようとするアプローチ。とりわけ、現代社会のなかでますます重要性を増しているICT（情報通信技術）とこれによって実現されるシステムやサービスに着目し、社会が直面している諸課題の効果的な解決方法を探求する。

【ヒューマン・ディベロップメント】：諸個人の能力に焦点をあてて、それを向上させる社会的な仕組みを考えることで諸課題を解決しようとするアプローチ。また、貧困やジェンダーにもとづく格差、宗教や文化を異にするものの偏見など、人びとの活動や能力の発展をさまたげる社会的な要因をいかに取り除くかという課題も対象とする。

(4) セミナー登録について

総合政策学科では、各学年のセミナーは必修科目です。次年度に2年生以上のセミナーを履修する際には、後期に登録を行う必要があります。

2年セミナー

- 後期に、次年度の「2年セミナー」担当教員との相談会を実施する予定です。
登録方法・期間などの詳細は「1年セミナー」授業時の説明やTsudaNetから配信されるお知らせを確認してください。

3年セミナー

- 後期に、次年度の「3年セミナー」担当教員との相談会を実施する予定です。
登録方法・期間などの詳細は「2年セミナー」授業時の説明やTsudaNetから配信されるお知らせを確認してください。

4年セミナー

- 4年セミナーは原則として3年セミナーを継続します。
- 4年次進級に際してセミナーの変更を希望する場合、千駄ヶ谷キャンパス事務室に相談してください。
ただし、クラスの人数が定員を超えている場合など希望通りにならないことがあります。

セミナーの再履修について

- 2～4年セミナーの再履修が決まった学生（成績評価が不合格または失格の場合）は、直ちに千駄ヶ谷キャンパス事務室へ連絡してください。

(5) 卒業研究プロジェクトについて

卒業年次には4年間の学びの集大成として、現代社会の諸問題における課題解決のための「卒業研究プロジェクト」を提出します。

論題登録

指定された時期に、卒業研究プロジェクトのタイトル（日本語および英語）の登録を行います。

中間報告

第3タームの指定された時期に、各指導教員の指示する要領において中間報告（口頭発表）を行います。

卒業研究プロジェクト提出

第4タームの指定された時期に、規定の体裁を満たした卒業研究プロジェクトおよび論文票を提出します。

卒業研究プロジェクト報告会

第4タームの指定された時期に、卒業研究プロジェクト報告会を行います。卒業研究の成果を発表する場であり、論文の内容に対する口頭試問の機会です。

卒業研究プロジェクトの合否

審査の結果、卒業研究プロジェクトが不合格となった場合は、所定の要件を満たせば再審査を受けることができます。
(p.54「(8) 卒業研究プロジェクトの提出」参照)

※各項目の具体的な案内については、TsudaNetでお知らせします。

※卒業研究プロジェクトの詳細は、TsudaNet情報掲示板の「卒業研究プロジェクトにおける論文執筆の手引き」にて詳しく記載しています。

1-2. 総合政策学科（2023年度以降入学者用）

(6) 総合政策学部 総合政策学科 2023年度以降入学者用 標準カリキュラム表

	1 年 次				2 年 次			
	授 業 科 目	程 度	単 位	週 時	授 業 科 目	程 度	単 位	週 時
必修科目	基礎科目：セミナー〔6単位〕							
	1年セミナーA	I	1	2	2年セミナーA	II	1	2
	1年セミナーB	I	1	2	2年セミナーB	II	1	2
	1年セミナーC	I	1	2	2年セミナーC	II	1	2
	基礎科目：英語〔30単位〕							
	Communication: Public Speaking I A	I	1	2	Communication: Leadership and Teamwork II A	II	1	2
	Communication: Interpersonal Communication I B	I	1	2	Communication: Career Development II B	II	1	2
	Communication: Advanced Presentation Skills I C	I	1	2	Communication: Project Management II C	II	1	2
	Discussion: Critical Thinking I A	I	1	2	Discussion: The Mass Media II A	II	1	2
	Discussion: Education I B	I	1	2	Discussion: Global Problems II B	II	1	2
	Discussion: Gender and Family I C	I	1	2	Discussion: NGOs and Social Activism II C	II	1	2
	Content-based Reading I A	I	1	2	Critical Thinking and Reading II A	II	1	2
	Content-based Reading I B	I	1	2	Critical Thinking and Reading II B	II	1	2
	Content-based Reading I C	I	1	2	Critical Thinking and Reading II C	II	1	2
	Content-based Writing I A	I	1	2	Critical Thinking and Writing II A	II	1	2
	Content-based Writing I B	I	1	2	Critical Thinking and Writing II B	II	1	2
	Content-based Writing I C	I	1	2	Critical Thinking and Writing II C	II	1	2
	基礎科目：ソーシャル・サイエンス〔6単位〕							
	政治とは何か	I	2	4				
	経済の仕組み	I	2	4				
	法からみた社会	I	2	4				
	基礎科目：データ・サイエンス〔6単位〕							
	データ・サイエンス入門	I	2	4				
	統計A	I	2	4				
	統計B	I	2	4				
	基礎科目：概論〔2単位〕							
	総合政策概論A	I	1	2				
	総合政策概論B	I	1	2				
選択科目	基幹科目：データ・サイエンス				計算社会科学 プログラミング基礎 経済分析			
	基幹科目：専門科目（英語で行う科目）				Introduction to International Relations A Introduction to International Relations B Introduction to International Relations C Politics and Development A Politics and Development B Politics and Development C Political Communication A Political Communication B Political Communication C Social Values A Social Values B Social Values C Culture and Society A Culture and Society B Culture and Society C			
	基幹科目：課題解決関連科目							
	所属する課題領域に関連する科目を8単位以上修得すること。							
	パブリック・ポリシー				平和構築、政治参加、プロパガンダとアドボカシー、文化交流論、地域政策論			
	分配のポリティクス、グローバリゼーション論、公共政策論							
	エコノミック・ポリシー				多国籍企業論、イノベーションと社会、マーケティング戦略			
	企業の社会的責任、雇用経済論							
	ソーシャル・アーキテクチャ				Web情報システム論、情報セキュリティ論、メディア産業論			
	インターネット概論、情報通信技術と社会、映像コミュニケーションデザイン							
	ヒューマン・ディベロップメント				少子高齢化の進展と社会保障の持続可能性、子どもの貧困と教育格差、人の国際			
	社会実践の諸相、女性のキャリア開発、地域ケア論、コミュニティスタディ							
	基幹科目：専門科目				政治制度論、法と公共政策、日本政治史、公共哲学、ミクロ・マクロ経済分析、共生社会と法、経済活動のための法、行政学、質的調査法、社会階層論			
	総合科目							
	クリティカル・シンキング、世界の宗教と社会、ソーシャル・デザイン論、経済人類学、科学技術と文明、歴史入門、キャリア入門A、キャリア入門B、キャリアInternational Training Course B、事業戦略とイノベーション、データ分析実践、ブランディング実践、データで読み解く世界、デザイン思考による地域創生学							
	基幹科目のうち、卒業要件単位数を超過して修得した科目と合わせて27単位以上修得すること。なお、学芸学部ならびに他大学の授業科目のうち、本学部が認めた単							
自由科目								

3 年 次				4 年 次				計
授 業 科 目	程度	単位	週時	授 業 科 目	程度	単位	週時	
応用科目〔10単位〕								
3 年セミナーA	Ⅲ	1	2	4 年セミナーA	Ⅳ	1	2	16
3 年セミナーB	Ⅲ	1	2	4 年セミナーB	Ⅳ	1	2	
3 年セミナーC	Ⅲ	1	2	4 年セミナーC	Ⅳ	1	2	
				卒業研究プロジェクト	Ⅳ	4		
Discussion: Population Issues ⅢA	Ⅲ	1	2					44
Discussion: Politics and Society ⅢB	Ⅲ	1	2					
Discussion: Policy-Making ⅢC	Ⅲ	1	2					
Problem Solution in Academic Writing ⅢA	Ⅲ	1	2					
Problem Solution in Academic Writing ⅢB	Ⅲ	1	2					
Problem Solution in Academic Writing ⅢC	Ⅲ	1	2					
								2
Language Analysis A				Communicative Grammar A				3
Language Analysis B				Communicative Grammar B				
Language Analysis C				Communicative Grammar C				
Language and Communication A				Genre-based Reading A				
Language and Communication B				Genre-based Reading B				
Language and Communication C				Genre-based Reading C				
Language and Culture A				Advanced Reading A				
Language and Culture B				Advanced Reading B				
Language and Culture C				Advanced Reading C				
Introduction to Language and Linguistics A				Thesis Writing in English A				
Introduction to Language and Linguistics B				Thesis Writing in English B				
Introduction to Language and Linguistics C				Business Project & Presentation				
Foundation Discussion Skills A								
Foundation Discussion Skills B								
Foundation Discussion Skills C								
市民社会における安全保障、法制度設計、統治システム論、環境政策論、国際標準化論								
世界の開発と貧困問題、知的財産法、医療・介護の経済分析、経済政策論								
スマートコミュニティ論、データ政策科学、健康医療情報システム、情報通信政策、経営情報システム								
移動と社会の多文化化、ジェンダーと社会変動、ソーシャル・インクルージョン論								
ダイバーシティ社会論、ソーシャル・ヘルス・マネジメント								
現代経営論、社会学概論、日本の財政・金融、社会調査入門、プロジェクト・マネジメント、プログラミング実践、家族社会学、福祉政策論、								
グローバル・ポリティクス論、行動経済分析、実証政治理論、貿易政策論、アプリケーション開発、能力開発論、								
多変量解析と公的統計、現代社会論、政策過程論								
入門C、日本語ライティングA、日本語ライティングB、日本語ライティングC、インターンシップ、語学研修、International Training Course A、								
位を含むことができる。								
						最低修得必要単位数		124

1. 総合政策学科

(7) 授業科目名・単位

授 業 科 目	程度	ターム	単位	週時	担 当 者	備 考
【必修科目】						
[基礎科目：セミナー]						
1 年セミナー A	I	1	1	2	深谷 健 伊藤由希子 萱野 稔人 小館 亮之 中條 美和 大西 淳也 大島 美穂 佐々木尚之 新海 尚子 鈴木 貴久	
1 年セミナー B	I	3	1	2	稲垣 浩 伊藤由希子 萱野 稔人 小館 亮之 中條 美和 大西 淳也 大島 美穂 佐々木尚之 新海 尚子 鈴木 貴久	
1 年セミナー C	I	4	1	2	稲垣 浩 伊藤由希子 萱野 稔人 小館 亮之 中條 美和 大西 淳也 大島 美穂 佐々木尚之 新海 尚子 鈴木 貴久	
2 年セミナー A	II	1	1	2	深谷 健 伊藤由希子 萱野 稔人 Lim Dongwoo 森川 美絵 中條 美和 大西 淳也 大島 美穂 佐々木尚之 新海 尚子 鈴木 貴久	
2 年セミナー B	II	3	1	2	池田 峻 伊藤由希子 萱野 稔人 Lim Dongwoo 森川 美絵 中條 美和 大西 淳也 大島 美穂 佐々木尚之 新海 尚子 鈴木 貴久	

授 業 科 目	程度	ターム	単位	週時	担 当 者	備 考
2年セミナーC	Ⅱ	4	1	2	池田 峻 伊藤由希子 萱野 稔人 Lim Dongwoo 森川 美絵 中條 美和 大西 淳也 大島 美穂 佐々木尚之 新海 尚子 鈴木 貴久	
[応用科目]						
3年セミナーA	Ⅲ	1	1	2	深谷 健 伊藤由希子 萱野 稔人 小館 亮之 森川 美絵 中條 美和 大西 淳也 大島 美穂 佐々木尚之 新海 尚子 鈴木 貴久	
3年セミナーB	Ⅲ	3	1	2	伊藤由希子 萱野 稔人 小館 亮之 森川 美絵 森川 想 中條 美和 大西 淳也 大島 美穂 佐々木尚之 新海 尚子 鈴木 貴久	
3年セミナーC	Ⅲ	4	1	2	伊藤由希子 萱野 稔人 小館 亮之 森川 美絵 森川 想 中條 美和 大西 淳也 大島 美穂 佐々木尚之 新海 尚子 鈴木 貴久	
4年セミナーA	Ⅳ	1	1	2	深谷 健 伊藤由希子 萱野 稔人 小館 亮之 森川 美絵 中條 美和 大島 美穂 佐々木尚之 新海 尚子 鈴木 貴久 津曲 俊英	

1. 総合政策学科

授 業 科 目	程度	ターム	単位	週時	担 当 者	備 考
4年セミナーB	Ⅳ	3	1	2	深谷 健 伊藤由希子 萱野 稔人 小舘 亮之 森川 美絵 中條 美和 大島 美穂 佐々木尚之 新海 尚子 鈴木 貴久 津曲 俊英	
4年セミナーC	Ⅳ	4	1	2	深谷 健 伊藤由希子 萱野 稔人 小舘 亮之 森川 美絵 中條 美和 大島 美穂 佐々木尚之 新海 尚子 鈴木 貴久 津曲 俊英	
卒業研究プロジェクト	Ⅳ	4	4		深谷 健 伊藤由希子 萱野 稔人 小舘 亮之 森川 美絵 中條 美和 大島 美穂 佐々木尚之 新海 尚子 鈴木 貴久 津曲 俊英	
[基礎科目：英語]						
Communication: Public Speaking I A	I	1	1	2	Thomas George Meyer Carey Mamiko Nakata Laura-Anca Parepa David James Pinkney Kurosh James Shadmand/ Robert Spivak Richard King Tai	2022年度までの 「Basics of Interpersonal Communication for Problem Solving I A」 Simon Raymond Potter
Communication: Interpersonal Communication I B	I	3	1	2	Thomas George Meyer Carey Mamiko Nakata Laura-Anca Parepa David James Pinkney Simon Raymond Potter Robert Spivak Richard King Tai	2022年度までの 「Interpersonal Communication for Problem Solving I B」
Communication: Advanced Presentation Skills I C	I	4	1	2	Thomas George Meyer Carey Mamiko Nakata Laura-Anca Parepa David James Pinkney Simon Raymond Potter Robert Spivak Richard King Tai	2022年度までの 「Compassionate Communication for Problem Solving I C」
Discussion: Critical Thinking I A	I	1	1	2	Gavan Patrick Gray William Alexander Hay Thomas George Meyer David Michael Ockert David James Pinkney Keiko Shimizu Richard King Tai	2022年度までの 「Content-based Listening and Discussion I A」

授 業 科 目	程度	ターム	単位	週時	担 当 者	備 考
Discussion: Education I B	I	3	1	2	Gavan Patrick Gray William Alexander Hay Thomas George Meyer David Michael Ockert David James Pinkney Keiko Shimizu Richard King Tai	2022年度までの 「Content-based Listening and Discussion I B」
Discussion: Gender and Family I C	I	4	1	2	Gavan Patrick Gray William Alexander Hay Thomas George Meyer David Michael Ockert David James Pinkney Keiko Shimizu Richard King Tai	2022年度までの 「Content-based Listening and Discussion I C」
Content-based Reading I A	I	1	1	2	船林 麻理 廣田 尚美 目黒 一生 盛田 有貴 奥脇奈津美 高橋ゆかり 津島 玲子	
Content-based Reading I B	I	3	1	2	船林 麻理 廣田 尚美 目黒 一生 盛田 有貴 奥脇奈津美 高橋ゆかり 鶴田 一恵 津島 玲子	
Content-based Reading I C	I	4	1	2	船林 麻理 廣田 尚美 目黒 一生 盛田 有貴 奥脇奈津美 高橋ゆかり 鶴田 一恵 津島 玲子	
Content-based Writing I A	I	1	1	2	船林 麻理 廣田 尚美 目黒 一生 盛田 有貴 奥脇奈津美 高橋ゆかり 津島 玲子	
Content-based Writing I B	I	3	1	2	船林 麻理 廣田 尚美 目黒 一生 盛田 有貴 奥脇奈津美 高橋ゆかり 鶴田 一恵 津島 玲子	
Content-based Writing I C	I	4	1	2	船林 麻理 廣田 尚美 目黒 一生 盛田 有貴 奥脇奈津美 高橋ゆかり 鶴田 一恵 津島 玲子	
Communication: Leadership and Teamwork II A	II	1	1	2	Gavan Patrick Gray Thomas George Meyer Carey Mamiko Nakata Laura-Anca Parepa David James Pinkney Robert Spivak Richard King Tai	2022年度までの 「Negotiation Communication for Problem Solving II A」

1. 総合政策学科

授 業 科 目	程 度	ターム	単 位	週 時	担 当 者	備 考
Communication: Career Development II B	II	3	1	2	Gavan Patrick Gray Thomas George Meyer Carey Mamiko Nakata Laura-Anca Parepa David James Pinkney Robert Spivak Richard King Tai	2022年度までの 「Conflict Resolution Communication for Problem Solving II B」
Communication: Project Management II C	II	4	1	2	Gavan Patrick Gray Thomas George Meyer Carey Mamiko Nakata Laura-Anca Parepa David James Pinkney Robert Spivak Richard King Tai	2022年度までの 「Mediation Communication for Problem Solving II C」
Discussion: The Mass Media II A	II	1	1	2	Gavan Patrick Gray William Alexander Hay Thomas George Meyer David Michael Ockert David James Pinkney Keiko Shimizu Richard King Tai	2022年度までの 「Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion II A」
Discussion: Global Problems II B	II	3	1	2	Gavan Patrick Gray William Alexander Hay Thomas George Meyer David Michael Ockert David James Pinkney Keiko Shimizu Richard King Tai	2022年度までの 「Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion II B」
Discussion: NGOs and Social Activism II C	II	4	1	2	Gavan Patrick Gray William Alexander Hay Thomas George Meyer David Michael Ockert David James Pinkney Keiko Shimizu Richard King Tai	2022年度までの 「Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion II C」
Critical Thinking and Reading II A	II	1	1	2	今村 紅子 駒形 知彦 町田 晶子 目黒 一生 盛田 有貴 高橋 奈緒子 津島 玲子	2022年度までの 「Critical Thinking in Content-based Reading II A」
Critical Thinking and Reading II B	II	3	1	2	今村 紅子 駒形 知彦 町田 晶子 目黒 一生 盛田 有貴 高橋 奈緒子 津島 玲子	2022年度までの 「Critical Thinking in Content-based Reading II B」
Critical Thinking and Reading II C	II	4	1	2	今村 紅子 駒形 知彦 町田 晶子 目黒 一生 盛田 有貴 高橋 奈緒子 津島 玲子	2022年度までの 「Critical Thinking in Content-based Reading II C」
Critical Thinking and Writing II A	II	1	1	2	今村 紅子 駒形 知彦 町田 晶子 目黒 一生 盛田 有貴 高橋 奈緒子 津島 玲子	2022年度までの 「Content-based Process Writing II A」

授 業 科 目	程度	ターム	単位	週時	担 当 者	備 考
Critical Thinking and Writing II B	Ⅱ	3	1	2	今村 紅子 駒形 知彦 町田 晶子 目黒 一生 盛田 有貴 高橋 奈緒子 津島 玲子	2022年度までの 「Content-based Process Writing II B」
Critical Thinking and Writing II C	Ⅱ	4	1	2	今村 紅子 駒形 知彦 町田 晶子 目黒 一生 盛田 有貴 高橋 奈緒子 津島 玲子	2022年度までの 「Content-based Process Writing II C」
Discussion: Population Issues III A	Ⅲ	1	1	2	Blair William Barton Barr Gavan Patrick Gray William Alexander Hay Thomas George Meyer David Michael Ockert David James Pinkney Keiko Shimizu Richard King Tai	2022年度までの 「Basics of Content-based Presentation Skills III A」
Discussion: Politics and Society III B	Ⅲ	3	1	2	Blair William Barton Barr Gavan Patrick Gray William Alexander Hay Thomas George Meyer David Michael Ockert David James Pinkney Keiko Shimizu Richard King Tai	2022年度までの 「Delivering Competency in Content-based Presentation Skills III B」
Discussion: Policy-Making III C	Ⅲ	4	1	2	Blair William Barton Barr Gavan Patrick Gray William Alexander Hay Thomas George Meyer David Michael Ockert David James Pinkney Keiko Shimizu Richard King Tai	2022年度までの 「Interactive Competency in Content-based Presentation Skills III C」
Problem Solution in Academic Writing III A	Ⅲ	1	1	2	石黒 真理子 小西 正恵 目黒 一生 盛田 有貴 村野 緑 成田 眞澄 清水 可奈子 高橋 奈緒子	2022年度までの 「Basics of Academic Writing III A」
Problem Solution in Academic Writing III B	Ⅲ	3	1	2	石黒 真理子 小西 正恵 目黒 一生 盛田 有貴 村野 緑 成田 眞澄 清水 可奈子 高橋 奈緒子	2022年度までの 「Research for Academic Writing III B」
Problem Solution in Academic Writing III C	Ⅲ	4	1	2	石黒 真理子 小西 正恵 目黒 一生 盛田 有貴 村野 緑 成田 眞澄 清水 可奈子 高橋 奈緒子	2022年度までの 「Problem-solution in Academic Writing III C」

1. 総合政策学科

授 業 科 目	程度	ターム	単位	週時	担 当 者	備 考
[基礎科目：ソーシャル・サイエンス]						
政治とは何か	I	1	2	4	萱野 稔人	
経済の仕組み	I	3	2	4	伊藤由希子	
法からみた社会	I	4	2	4	大西 淳也	
[基礎科目：データ・サイエンス]						
データ・サイエンス入門	I	1	2	4	小館 亮之	
統計 A	I	3	2	4	鈴木 貴久	2022年度までの「統計 I」
統計 B	I	4	2	4	鈴木 貴久	2023年度までの「統計 II」
[基礎科目：概論]						
総合政策概論 A	I	1	1	2	萱野 稔人	
総合政策概論 B	I	3	1	2	萱野 稔人	
[選択科目]						
[基幹科目：データ・サイエンス]						
計算社会科学	II	4	2	4	鈴木 貴久	
プログラミング基礎	II	3	2	4	小館 亮之	「アルゴリズム」を修得済の場合は履修できない。
経済分析	II	1	2	4	新海 尚子	必修科目の「経済分析」を修得済の場合は履修できない。
[基幹科目：専門科目（英語で行う科目）]						
Introduction to International Relations A	II～IV	1	1	2	Gavan Patrick Gray	2022年度以前入学者で「Leadership Communication for Problem Solving III A」、「Management Communication for Problem Solving III B」、「Skills Integration in Communication for Problem Solving III C」、のうちいずれかを未修得の場合は、履修の手引きに則り履修する。
Introduction to International Relations B	II～IV	3	1	2	Gavan Patrick Gray	
Introduction to International Relations C	II～IV	4	1	2	Gavan Patrick Gray	
Politics and Development A	II～IV	1	1	2	Gavan Patrick Gray	
Politics and Development B	II～IV	3	1	2	Gavan Patrick Gray	
Politics and Development C	II～IV	4	1	2	Gavan Patrick Gray	
Political Communication A	II～IV	1	1	2	Laura-Anca Parepa	
Political Communication B	II～IV	3	1	2	Laura-Anca Parepa	
Political Communication C	II～IV	4	1	2	Laura-Anca Parepa	
Social Values A	II～IV	1	1	2	Thomas George Meyer	
Social Values B	II～IV	3	1	2	Thomas George Meyer	
Social Values C	II～IV	4	1	2	Thomas George Meyer	
Culture and Society A	II～IV	1	1	2	Kurosh James Shadmand/	
Culture and Society B	II～IV	3	1	2	Simon Raymond Potter	
Culture and Society C	II～IV	4	1	2	Simon Raymond Potter	

授 業 科 目	程度	ターム	単位	週時	担 当 者	備 考
Language Analysis A	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	成田 眞澄	2022年度以前入学者で 「Economics-oriented Advanced Reading Ⅲ A」、 「Law-oriented Advanced Reading Ⅲ B」、 「Politics-oriented Advanced Reading Ⅲ C」のうちいずれかを未修得の場合は、履修の手引きに則り履修する。
Language Analysis B	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	成田 眞澄	
Language Analysis C	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	成田 眞澄	
Language and Communication A	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	盛田 有貴	
Language and Communication B	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	盛田 有貴	
Language and Communication C	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	盛田 有貴	
Language and Culture A	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	奥脇奈津美	
Language and Culture B	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	奥脇奈津美	
Language and Culture C	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	奥脇奈津美	
Introduction to Language and Linguistics A	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	奥脇奈津美	
Introduction to Language and Linguistics B	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	奥脇奈津美	2022年度以前入学者で 「Leadership Communication for Problem Solving Ⅲ A」、 「Management Communication for Problem Solving Ⅲ B」、 「Skills Integration in Communication for Problem Solving Ⅲ C」、 のうちいずれかを未修得の場合は、履修の手引きに則り履修する。
Introduction to Language and Linguistics C	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	奥脇奈津美	
Foundation Discussion Skills A	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Richard King Tai	
Foundation Discussion Skills B	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	Richard King Tai	2022年度以前入学者で 「Economics-oriented Advanced Reading Ⅲ A」、 「Law-oriented Advanced Reading Ⅲ B」、 「Politics-oriented Advanced Reading Ⅲ C」のうちいずれかを未修得の場合は、履修の手引きに則り履修する。
Foundation Discussion Skills C	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	Richard King Tai	
Communicative Grammar A	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	村野 緑	
Communicative Grammar B	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	村野 緑	
Communicative Grammar C	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	村野 緑	
Genre-based Reading A	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	目黒 一生	
Genre-based Reading B	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	目黒 一生	
Genre-based Reading C	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	目黒 一生	
Advanced Reading A	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	保科 伸子	
Advanced Reading B	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	保科 伸子	
Advanced Reading C	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	保科 伸子	2022年度以前入学者で 「Economics-oriented Advanced Reading Ⅲ A」、 「Law-oriented Advanced Reading Ⅲ B」、 「Politics-oriented Advanced Reading Ⅲ C」のうちいずれかを未修得の場合は、履修の手引きに則り履修する。
Thesis Writing in English A	Ⅱ～Ⅳ	1	1	2	Carey Mamiko Nakata	
Thesis Writing in English B	Ⅱ～Ⅳ	3	1	2	Carey Mamiko Nakata	
Business Project & Presentation	Ⅱ～Ⅳ	4	1	2	Carey Mamiko Nakata	
[基幹科目：課題解決関連科目・パブリック・ポリシー]						
分配のポリティクス	Ⅰ～Ⅳ	3	2	4	松田 和樹	
グローバリゼーション論	Ⅰ～Ⅳ	3	2	4	大島 美穂	
公共政策論	Ⅰ～Ⅳ	1	2	4	深谷 健	
地域政策論	Ⅱ～Ⅳ	3	2	4	松井 望	
政治参加	Ⅱ～Ⅳ	2	2	4	中條 美和	
平和構築	Ⅱ～Ⅳ	2	2	4	Laura-Anca Parepa	
プロパガンダとアドボカシー	Ⅱ～Ⅳ	1	2	14	近藤 牧子	
文化交流論	Ⅱ～Ⅳ	4	2	4	山田 朋美	
市民社会における安全保障	Ⅲ～Ⅳ	1	2	4	大島 美穂	
法制度設計	Ⅲ～Ⅳ	1	2	4	西村 善嗣	
統治システム論	Ⅲ～Ⅳ	3	2	4	津曲 俊英	
環境政策論	Ⅲ～Ⅳ	4	2	4	眞田 康弘	
国際標準化論	Ⅲ～Ⅳ	4	2	4	今中 秀郎	

1. 総合政策学科

授 業 科 目	程度	ターム	単位	週時	担 当 者	備 考
[基幹科目：課題解決関連科目 エコノミック・ポリシー]						
企業の社会的責任	I～IV	1	2	4	館 健太郎	
雇用経済論	I～IV	4	2	4	中川 まり	
マーケティング戦略	II～IV	1	2	4	加藤 拓	
イノベーションと社会	II～IV	3	2	4	中村 豪	
多国籍企業論	II～IV	4	2	4	Song Pingting	
知的財産法	III～IV	2	2	4	桑野雄一郎	
世界の開発と貧困問題	III～IV	2	2	4	新海 尚子	
医療・介護の経済分析	III～IV	4	2	4	渡邊 雄一	
経済政策論	III～IV	3	2	4	大西 淳也	
[基幹科目：課題解決関連科目 ソーシャル・アーキテクチャ]						
情報通信技術と社会	I～IV	3	2	4	曾根原 登	
インターネット概論	I～IV	1	2	4	小館 亮之	
映像コミュニケーションデザイン	I～IV	4	2	4	佐藤 洋輔	
Web情報システム論	II～IV	1	2	4	Lim Dongwoo	
情報セキュリティ論	II～IV	3	2	4	森木 俊臣	
メディア産業論	II～IV	4	2	4	雨森 拓児	
スマートコミュニティ論	III～IV	1	2	4	村上 文洋	
データ政策科学	III～IV	4	2	4	曾根原 登	
情報通信政策	III～IV	3	2	4	高嶋 幹夫	
経営情報システム	III～IV	3	2	4	五月女雄一 宮浦 恭弘 三浦 真樹 笈田 佳彰 佳山こうせつ 田中 秀和 伊藤みなみ	
健康医療情報システム	III～IV	4	2	4	福重 秀文	
[基幹科目：課題解決関連科目 ヒューマン・ディベロップメント]						
社会実践の諸相	I～IV	1	2	4	木村 恭子	
コミュニティスタディ	I～IV	4	2	4	鄭 康烈	
女性のキャリア開発	I～IV	3	2	4	加瀬 典子	
地域ケア論	I～IV	4	2	4	森川 美絵	
少子高齢化の進展と 社会保障の持続可能性	II～IV	1	2	4	泉田 信行	
ソーシャル・インクルージ ョン論	II～IV	2	2	4	柴田 邦臣	
ジェンダーと社会変動	II～IV	1	2	4	佐々木尚之	
子どもの貧困と教育格差	II～IV	3	2	4	佐々木尚之	
人の国際移動と社会の多文 化化	II～IV	4	2	4	村上 一基	
ダイバーシティ社会論	III～IV	1	2	4	村上 一基	
ソーシャル・ヘルス・マネ ジメント	III～IV	4	2	4	猪股 久美	
[基幹科目：専門科目]						
政治制度論	II～IV	1	2	4	中條 美和	
法と公共政策	II～IV	1	2	4	岸本 浩	
経済活動のための法	II～IV	3	2	4	高畑 正子	
行政学	II～IV	1	2	4	深谷 健	
日本政治史	II～IV	4	2	4	松本 洵	
公共哲学	II～IV	4	2	4	萱野 稔人	
ミクロ・マクロ経済分析	II～IV	4	2	4	張 政軼	2022年度以前入学者で「計量経済の基礎」を未修得の場合は、履修の手引きに則り履修する。
日本の財政・金融	II～IV	1	2	4	大西 淳也	
現代経営論	II～IV	4	2	4	山口みどり	2022年度以前入学者で「会計」を未修得の場合は、履修の手引きに則り履修する。
社会調査入門	II～IV	1	2	4	吉見 憲二	
質的調査法	II～IV	3	2	4	森脇由紀子	

授 業 科 目	程度	ターム	単位	週時	担 当 者	備 考
プログラミング実践	Ⅱ～Ⅳ	4	2	4	小館 亮之	「プログラミング入門」を修得済の場合は履修できない。
プロジェクト・マネジメント	Ⅱ～Ⅳ	4	2	4	下村 道夫	
共生社会と法	Ⅱ～Ⅳ	1	2	4	永石 尚也	
社会学概論	Ⅱ～Ⅳ	1	2	4	牛腸 政孝	
福祉政策論	Ⅱ～Ⅳ	3	2	4	森川 美絵	
社会階層論	Ⅱ～Ⅳ	4	2	4	斉藤 知洋	
家族社会学	Ⅱ～Ⅳ	4	2	4	佐々木尚之	
グローバル・ポリティクス論	Ⅲ～Ⅳ	1	2	4	大島 美穂	
実証政治理論	Ⅲ～Ⅳ	3	2	4	中條 美和	
行動経済分析	Ⅲ～Ⅳ	1	2	4	栗田 匡相	
貿易政策論	Ⅲ～Ⅳ	3	2	4	新海 尚子	
多変量解析と公的統計	Ⅲ～Ⅳ	1	2	4	村田 一郎 和田かず美	
アプリケーション開発	Ⅲ～Ⅳ	3	2	4	天野 学 小野田 瑛	
能力開発論	Ⅲ～Ⅳ	1	2	4	森川 美絵	
現代社会論	Ⅲ～Ⅳ	4	2	4	松下 優一	
政策過程論	Ⅲ～Ⅳ	4	2	4	森川 想	
[総合科目]						
クリティカル・シンキング	Ⅰ～Ⅳ	1	2	4	浅野 将秀	
世界の宗教と社会	Ⅰ～Ⅳ	1	2	4	高尾賢一郎	
ソーシャル・デザイン論	Ⅰ～Ⅳ	3	2	4	藤井多希子	
経済人類学	Ⅰ～Ⅳ	3	2	4	戸田美佳子	
科学技術と文明	Ⅰ～Ⅳ	4	2	4	野澤 聡	
歴史入門	Ⅰ～Ⅳ	4	2	4	木村 真	
キャリア入門A	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	原田 朱美	
キャリア入門B	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	飯野 朋美	
キャリア入門C	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	飯野 朋美	
日本語ライティングA	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	大原 悦子	「日本語ライティングB/C」を修得済の場合は履修できない。また、「日本語ライティングB/C」を同時に履修できない。
日本語ライティングB	Ⅰ～Ⅳ	3	1	2	大原 悦子	「日本語ライティングA/C」を修得済の場合は履修できない。また、「日本語ライティングA/C」を同時に履修できない。
日本語ライティングC	Ⅰ～Ⅳ	4	1	2	大原 悦子	「日本語ライティングA/B」を修得済の場合は履修できない。また、「日本語ライティングA/B」を同時に履修できない。
インターンシップ	Ⅰ～Ⅳ	—	1～4	—	伊藤由希子	
語学研修	Ⅰ～Ⅳ	—	2	—	鈴木 貴久	
International Training Course A	Ⅰ～Ⅳ	2	1	2	Laura-Anca Parepa	
International Training Course B	Ⅰ～Ⅳ	2	1	2	Richard King Tai	
事業戦略とイノベーション	Ⅰ～Ⅳ	1	1	2	鈴木 秀紀	
データ分析実践	Ⅰ～Ⅳ	2	1	2	打尾 賢一	寄附講座
ブランディング実践	Ⅰ～Ⅳ	2	1	2	竹内 春海	実験的講座
データで読み解く世界	Ⅰ～Ⅳ	2	1	2	木村 恭子	寄附講座
デザイン思考による地域創生学	Ⅰ～Ⅳ	2	1	2	神田 亮 八重樫理人 石塚 昭彦	実験的講座

2. データサイエンス・リテラシープログラム

Society5.0が提唱されている現代社会の中で、数理・データサイエンス・AIは、社会のさまざまな分野で活用されています。そこで、それらに対応し、適切に数理・データサイエンス・AIを理解し活用する基礎的な能力を修得することを目的として、全学生を対象にデータサイエンス・リテラシープログラムを提供しています。

<このプログラムで身につけることができる知識、能力>

AI、データサイエンスに関する情報科学、社会科学に関する基礎知識や、第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会に至る情報処理、情報通信技術と関係する社会制度についての基礎知識を修得し、社会的な課題に関するデータの収集および分析方法とその結果をわかりやすく表現する能力を身に付けます。

<修了要件>

このプログラムを修了するには、学科ごとに定められた要件を満たす必要があります。

学 科	科 目 名	単位数	修了要件(単位数)
総合政策学科	データ・サイエンス入門	2	4
	情報通信技術と社会	2	

■注意

1. データサイエンス・リテラシープログラムを受講するための登録手続きはありません。定められた科目の単位を修得してください。
2. 所属学科のデータサイエンス・リテラシープログラムの修了要件を満たした学生には、修了証明書を発行します。
3. 他学部・他学科のプログラムの要件を満たしても、修了証明書は発行できません。

(1) 授業科目名・単位

授 業 科 目	程度	ターム	単位	週時	担 当 者	備 考
データ・サイエンス入門	I	1	2	4	小舘 亮之	
情報通信技術と社会	I～IV	3	2	4	曾根原 登	

3. データサイエンス応用基礎プログラム

本学では、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心の高まりに対応し、適切に理解し活用する基礎的な能力を修得することを目的として、「データサイエンス・リテラシープログラム」を提供していますが、総合政策学部ではより実践的な力を修得することを目的として、「総合政策学部データサイエンス応用基礎プログラム」を提供しています。

<このプログラムで身につけることができる知識、能力>

- 政策やビジネス場面での課題解決におけるデータサイエンスの利活用方法について実践的に修得することで、データを用いた課題解決を考案し、実施する能力を身につけます。
- 統計分析や機械学習の基礎数理やプログラミング理論の学習と合わせて、統計解析ソフトRやプログラミング言語pythonを用いた実践力も身につけます。
- 実際に社会で活用されている事例を用いた解説も交えることで、各自が設定した課題に対してデータサイエンスを活用した解決策やビジネスモデルの提案や実践までを行う人材を育成します。

<修了要件>

このプログラムを修了するには、定められた要件を満たす必要があります。

学 科	科 目 名	単位数	修了要件(単位数)
必修科目	データ・サイエンス入門	2	10
	統計Ⅰ/統計A	2	
	アルゴリズム/プログラミング基礎	2	
	統計Ⅱ/統計B	2	
	経営情報システム	2	
選択科目	データ政策科学	2	2 以上
	インターネット概論	2	
	プログラミング入門/プログラミング実践	2	
	経済分析	2	
	多変量解析と公的統計	2	
	アプリケーション開発	2	
	計算社会科学	2	

■注意

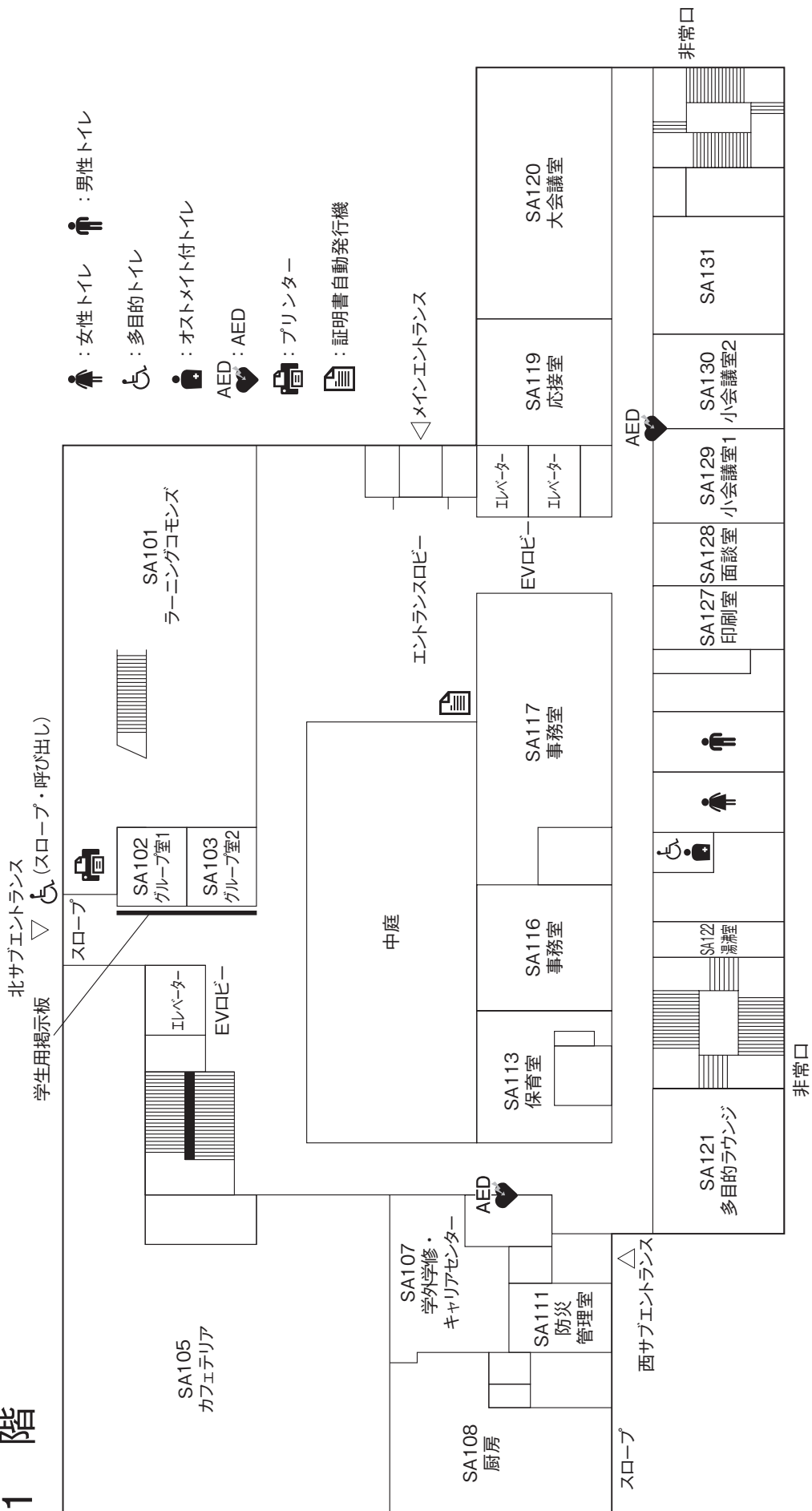
- データサイエンス応用基礎プログラムを受講するための登録手続きはありません。定められた科目の単位を修得してください。
- データサイエンス応用基礎プログラムの修了要件を満たした学生には、修了証明書を発行します。

(1) データサイエンス応用基礎プログラム

授 業 科 目	程度	ターム	単位	週時	担 当 者	備 考
データ・サイエンス入門	I	1	2	4	小館 亮之	
統計A	I	3	2	4	鈴木 貴久	
プログラミング基礎	II	3	2	4	小館 亮之	
統計B	I	4	2	4	鈴木 貴久	
経営情報システム	III～IV	3	2	4	五月女雄一 宮浦 恭弘 三浦 真樹 笈田 佳彰 佳山こうせつ 田中 秀和 伊藤みなみ	
データ政策科学	III～IV	4	2	4	曾根原 登	
インターネット概論	I～IV	1	2	4	小館 亮之	
プログラミング実践	II～IV	4	2	4	小館 亮之	
経済分析	II	1	2	4	新海 尚子	
多変量解析と公的統計	III～IV	1	2	4	和田かず美 村田 一郎	
アプリケーション開発	III～IV	3	2	4	天野 学 小野田 瑛	
計算社会科学	II	4	2	4	鈴木 貴久	

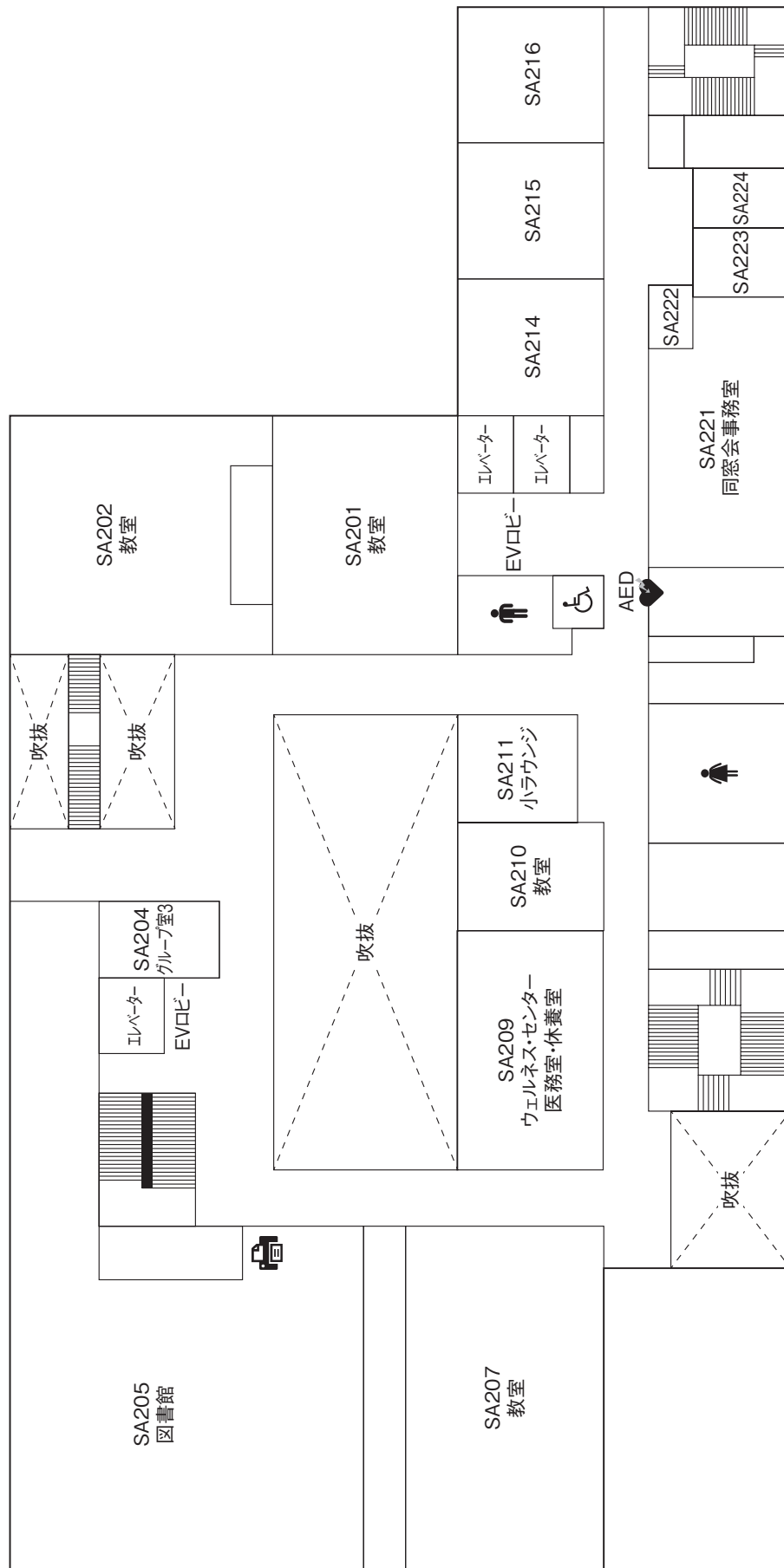
千駄ヶ谷キャンパス教室配置図

1 階



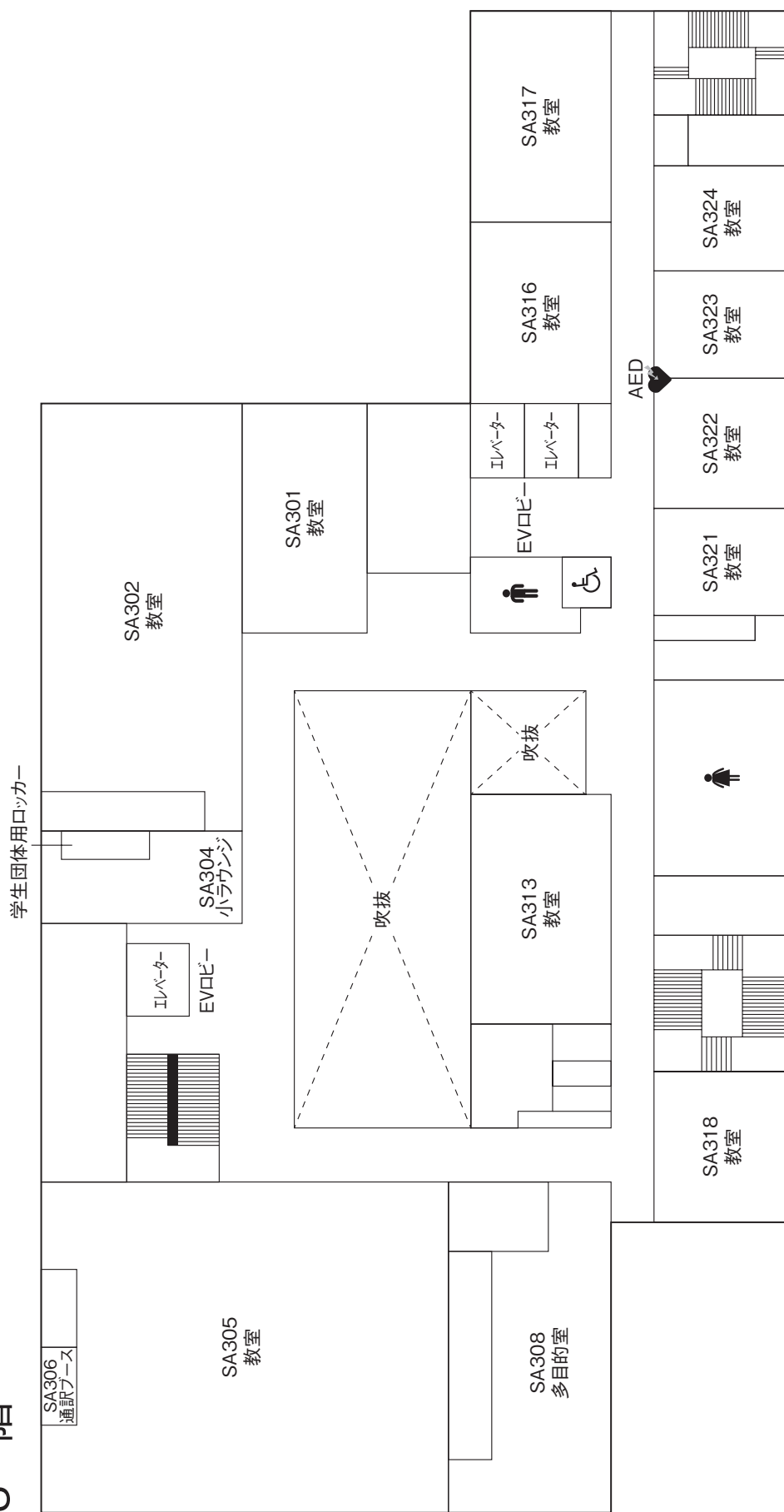
千駄ヶ谷キャンパス

階 2



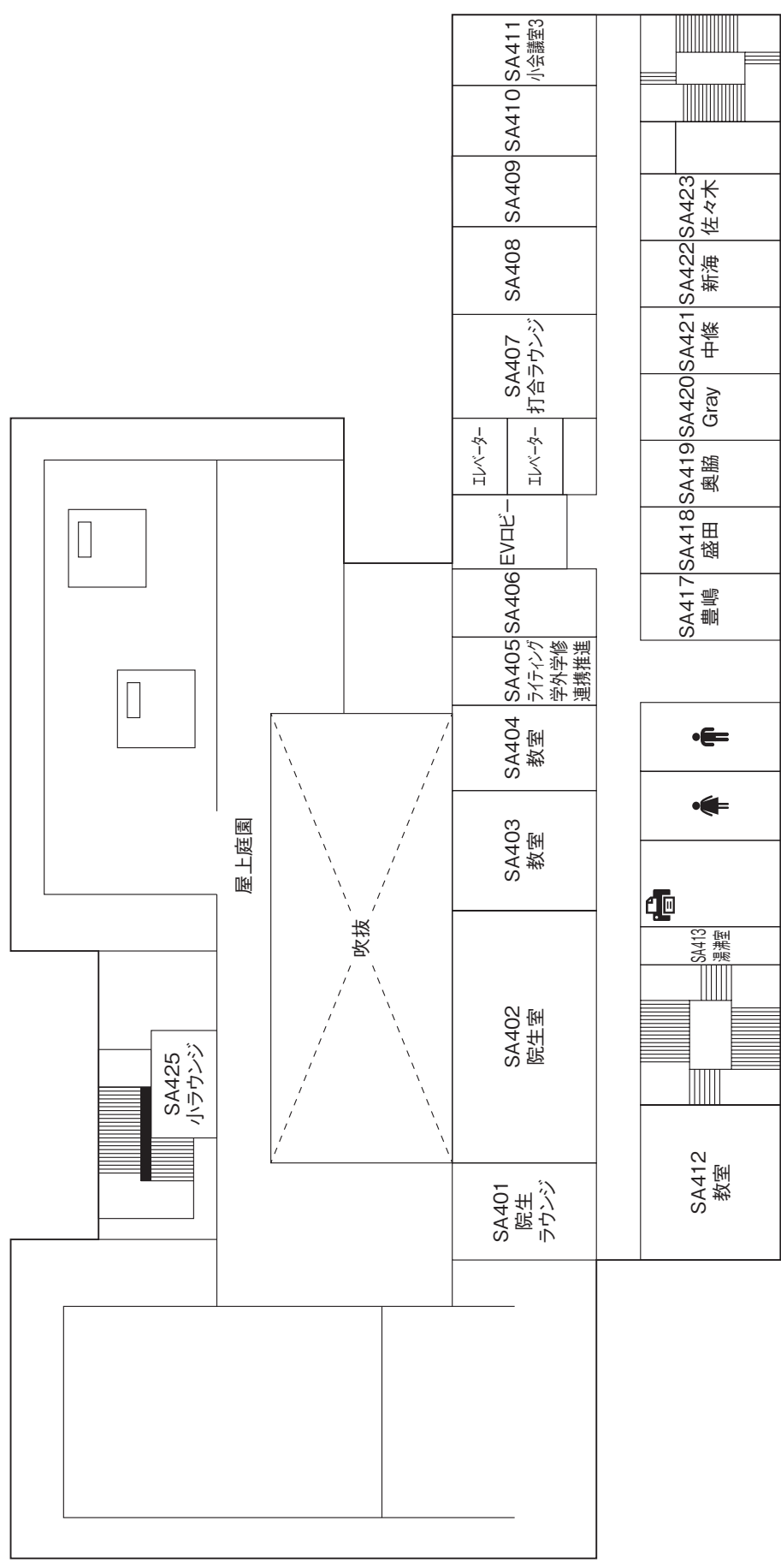
千駄ヶ谷キャンパス

3 階



千駄ヶ谷キャンパス

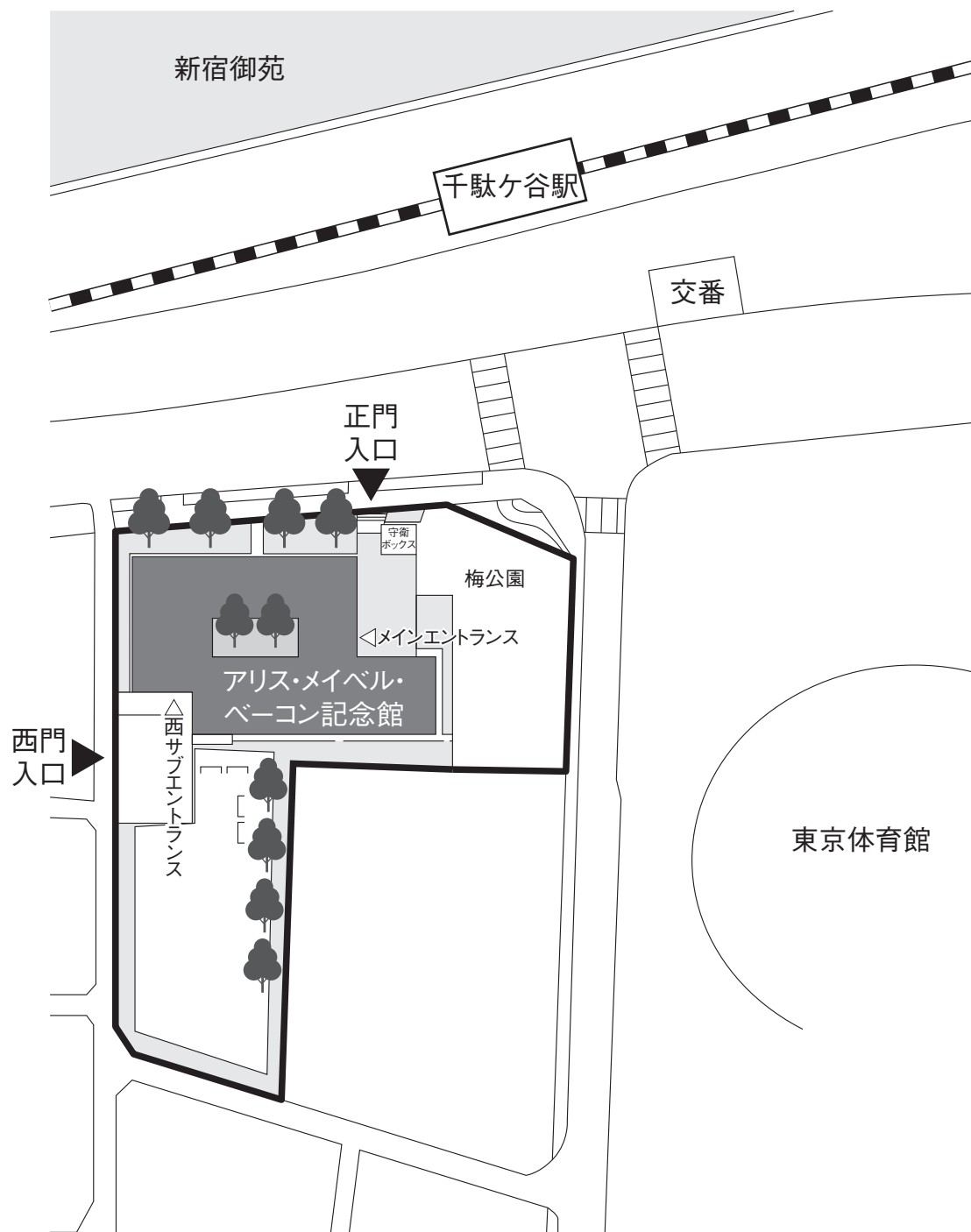
4 階



千駄ヶ谷キャンパス

SA501 教室	SA502 教室	SA503 教室	SA504 教室	SA505 非常勤講師室	テラス3	EVロビー	エレベーター エレベーター	吹抜 SA506 打合ラウンジ	SA507 総合政策 研究所I	SA508 小館	SA509 深谷	SA510 総合政策 研究所II
SA511 教室	SA512 講義室	SA516 大島	SA517 伊藤	SA518 大西	SA519 森川	SA520 鈴木	SA521 Lim	SA522 菅野				

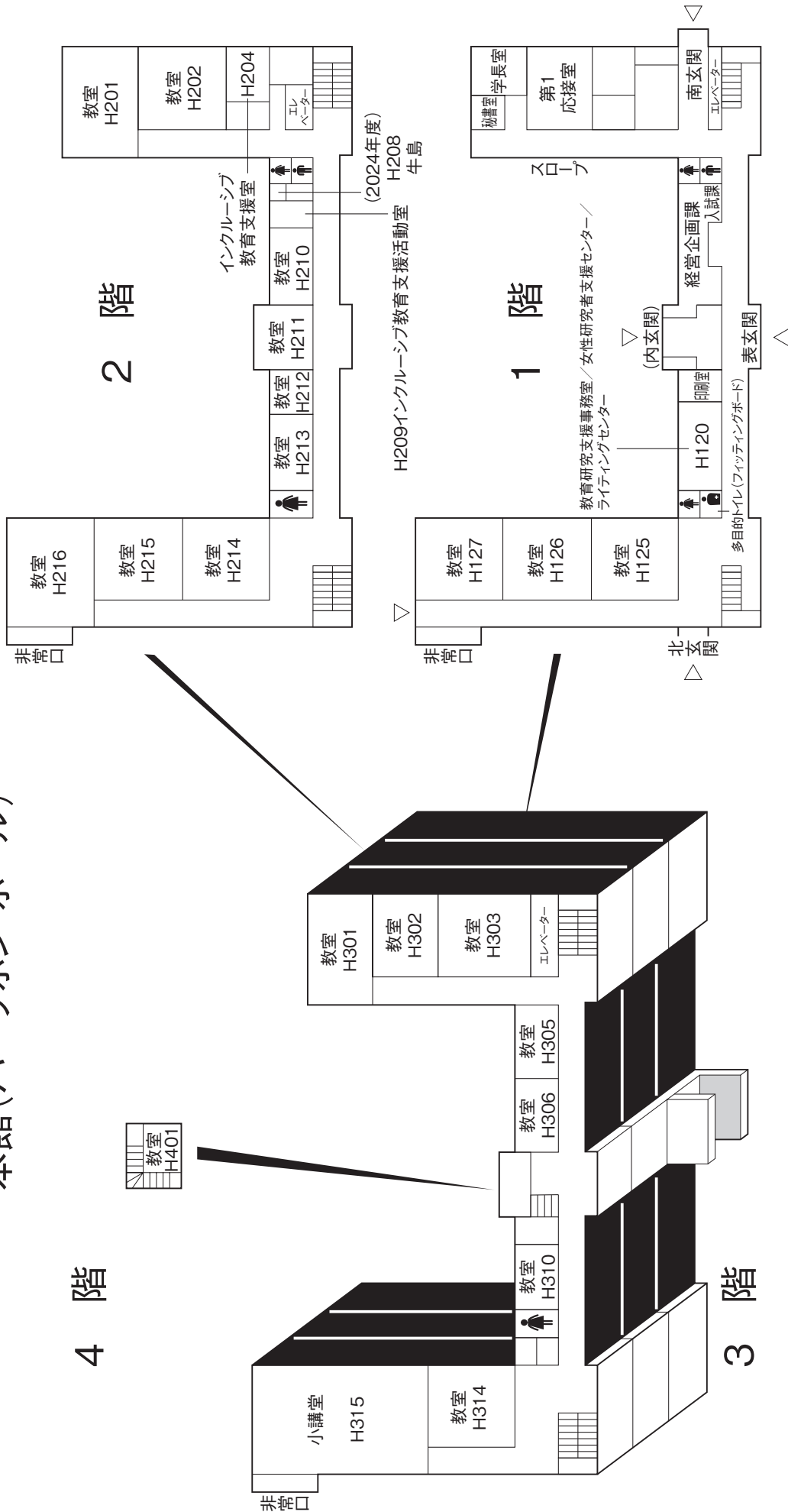
キャンパス周辺マップ (千駄ヶ谷キャンパス)



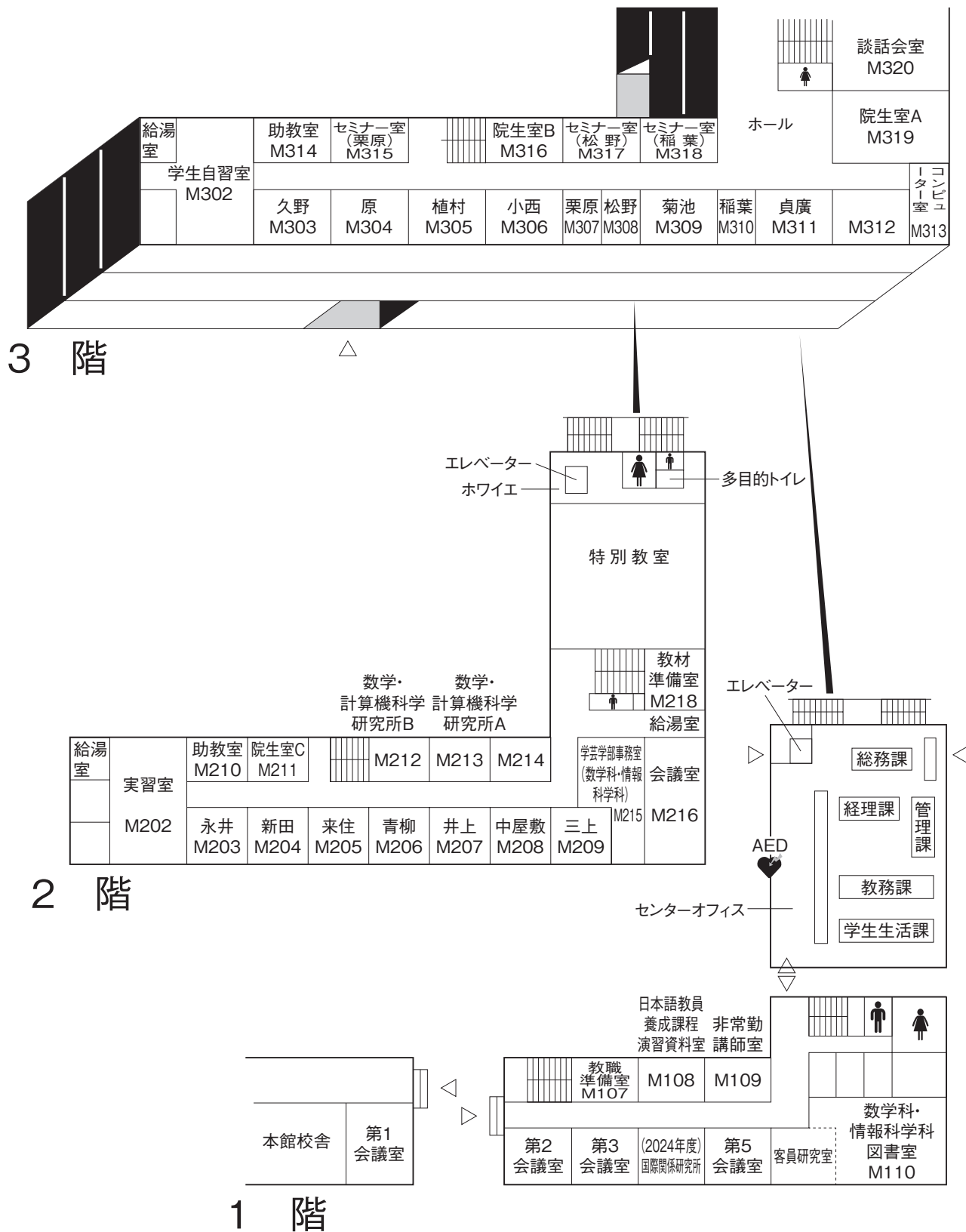
小平キャンパス教室配置図

本館(ハーツホン・ホール)

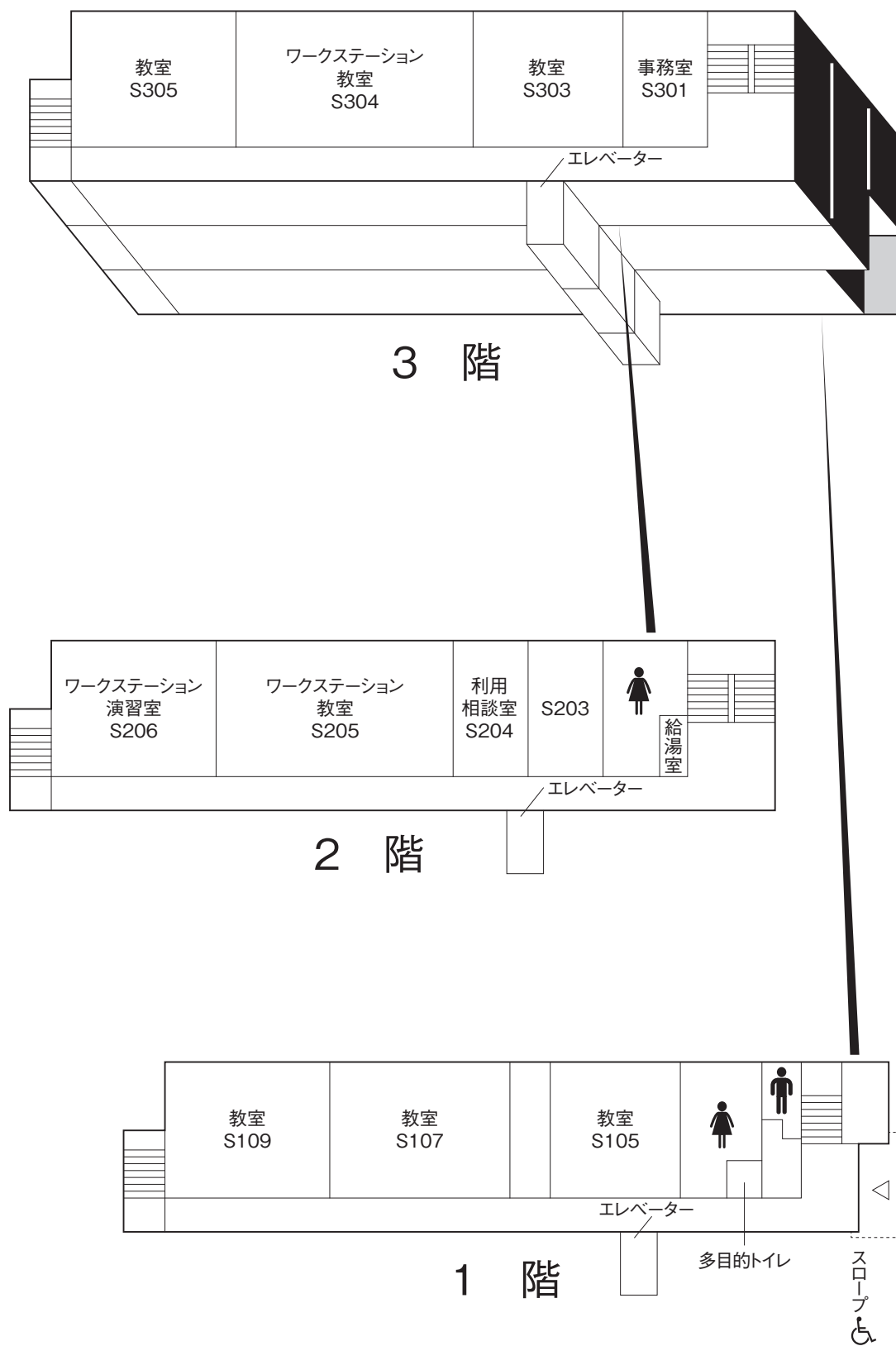
 : 女性トイレ
 : 男性トイレ
 : AED
 : AED
 : オストメイト付トイレ



小平キャンパス 新館校舎

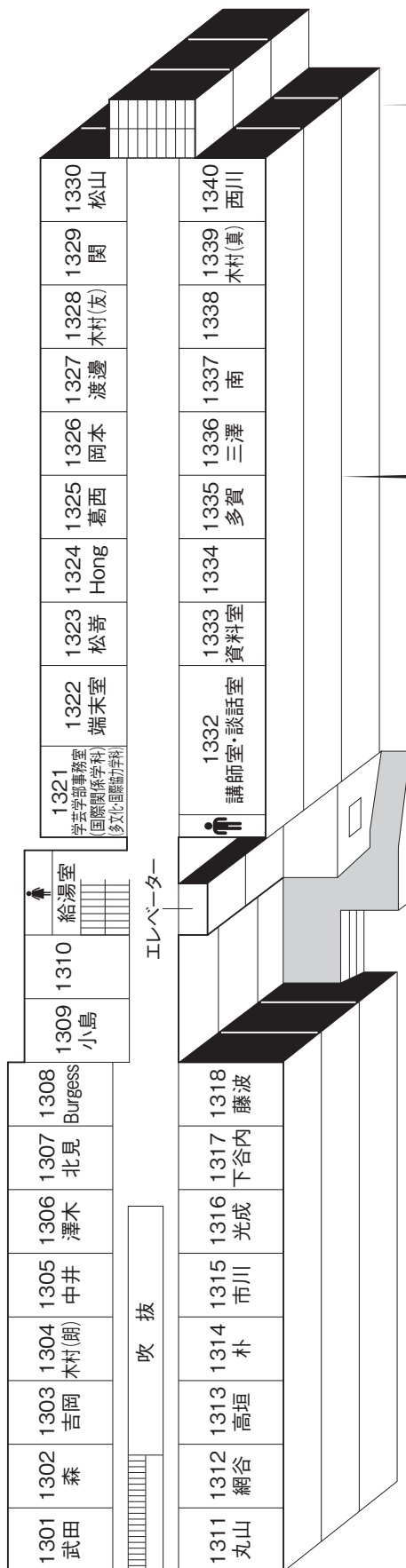


小平キャンパス 南校舎

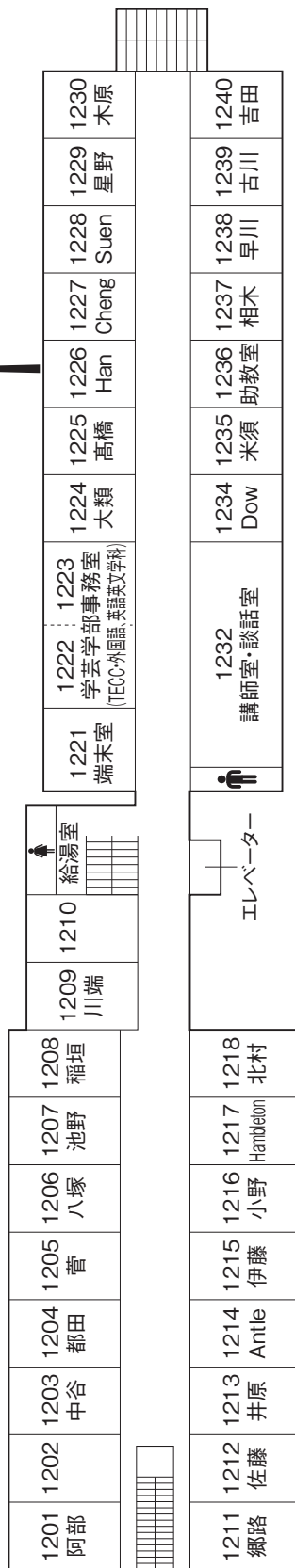


小平キャンパス 1号館

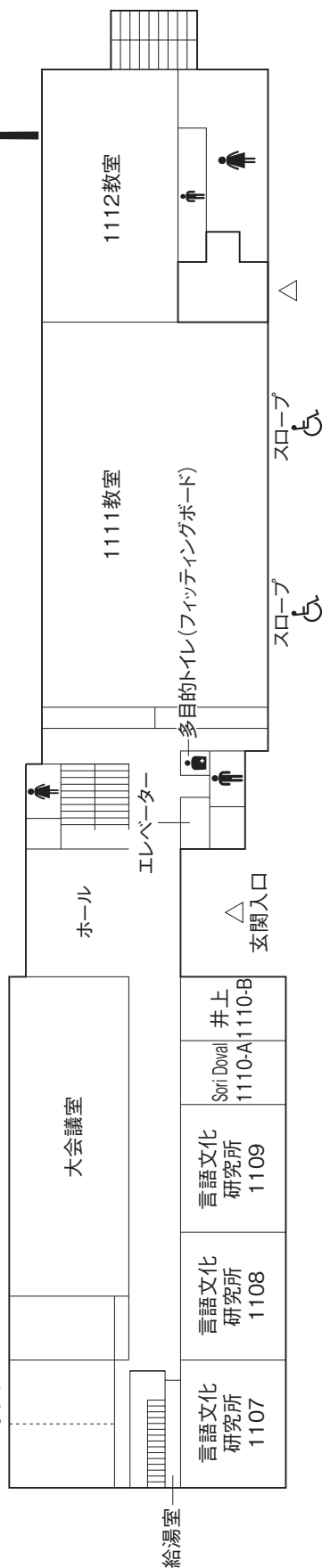
3階



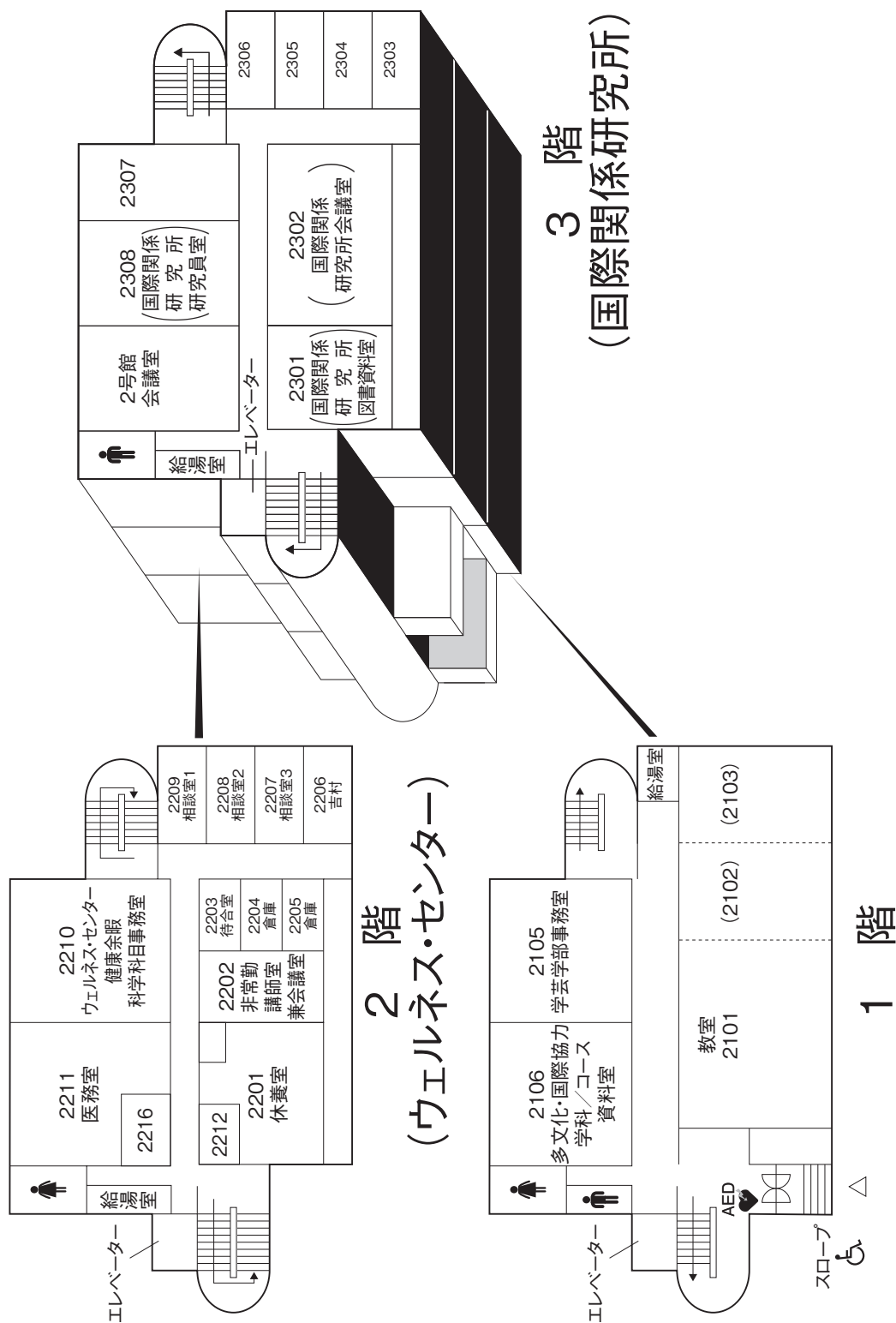
2階



1階

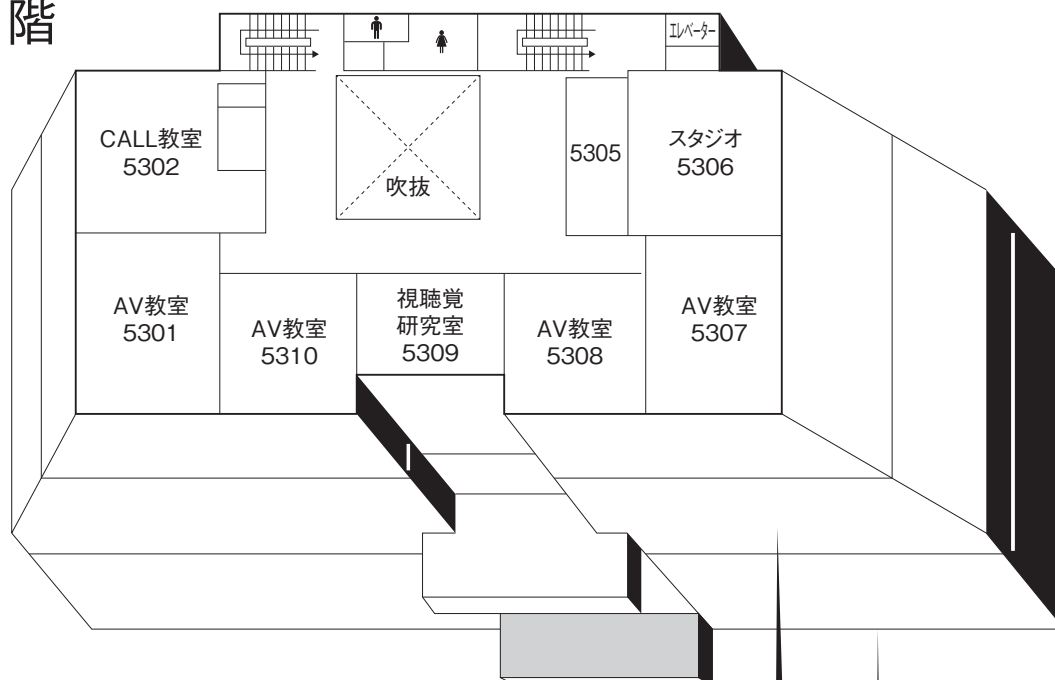


小平キャンパス 2号館

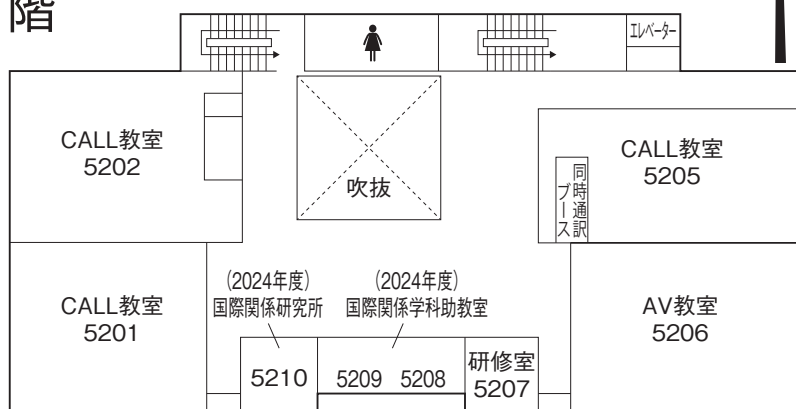


小平キャンパス 5号館(AVセンター)

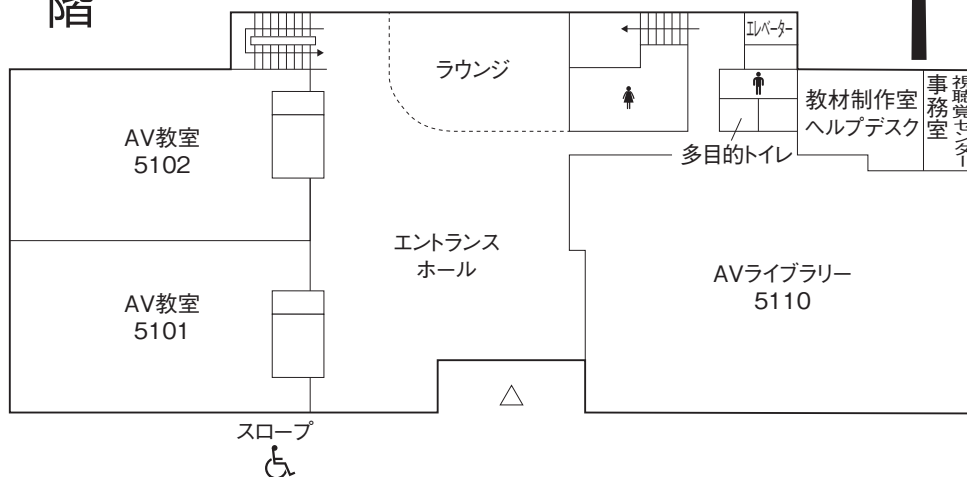
3 階



2 階

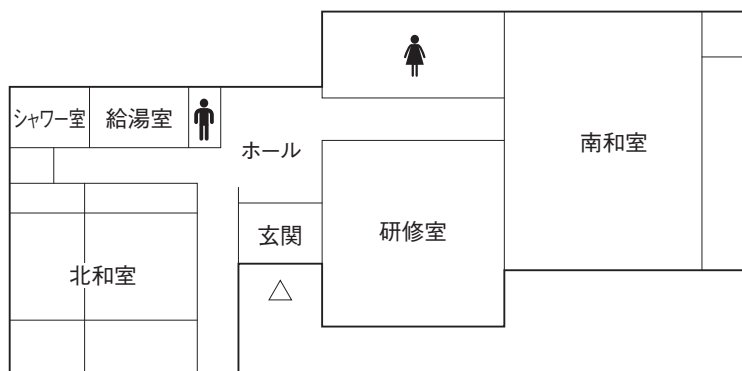


1 階



小平キャンパス

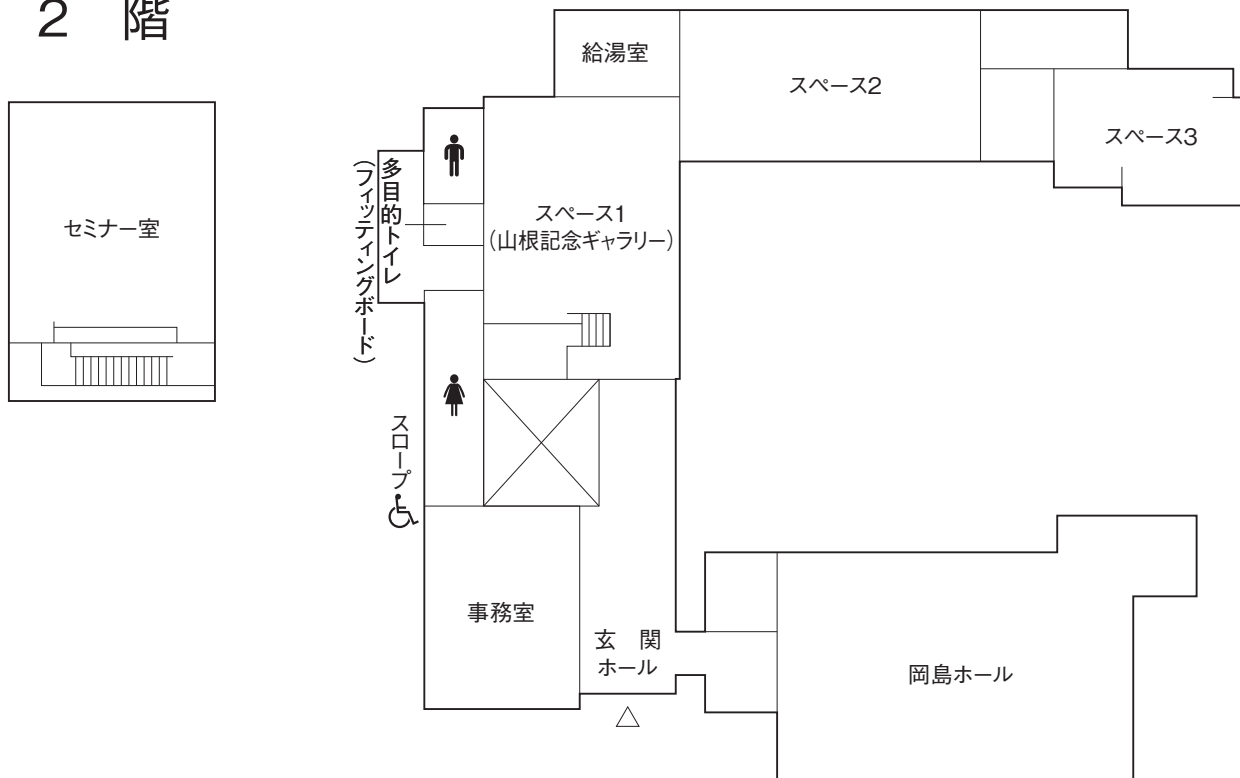
6号館



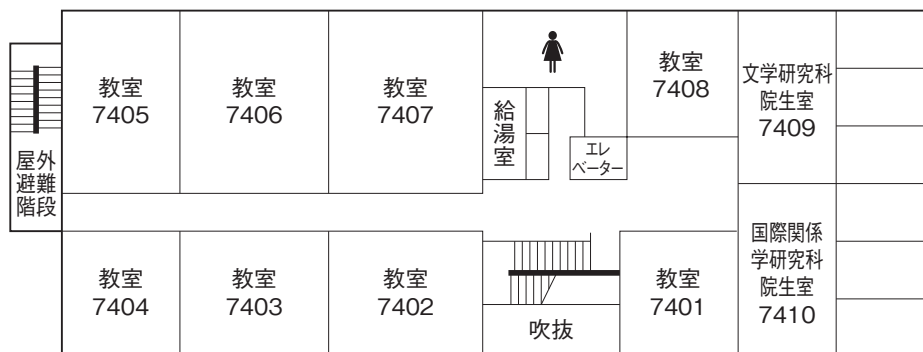
交流館

1階

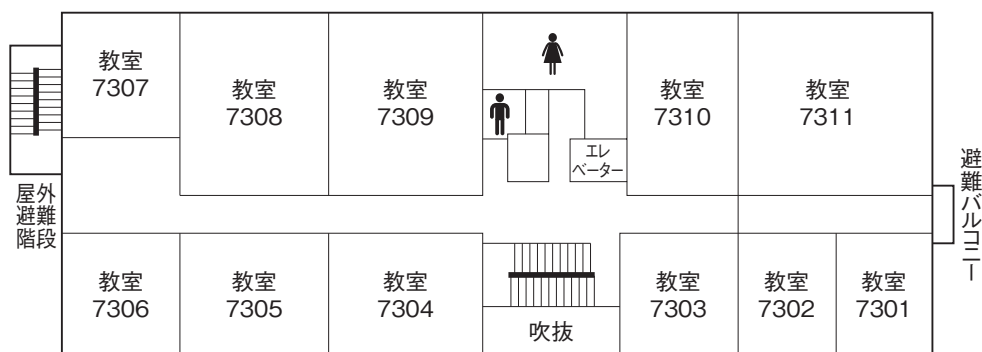
2階



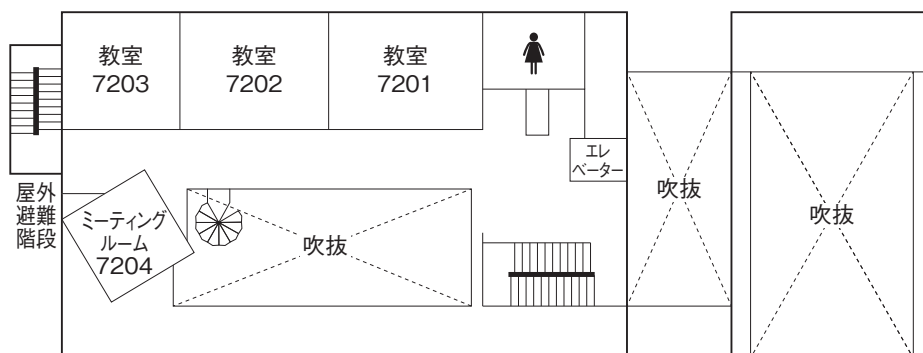
小平キャンパス 7号館



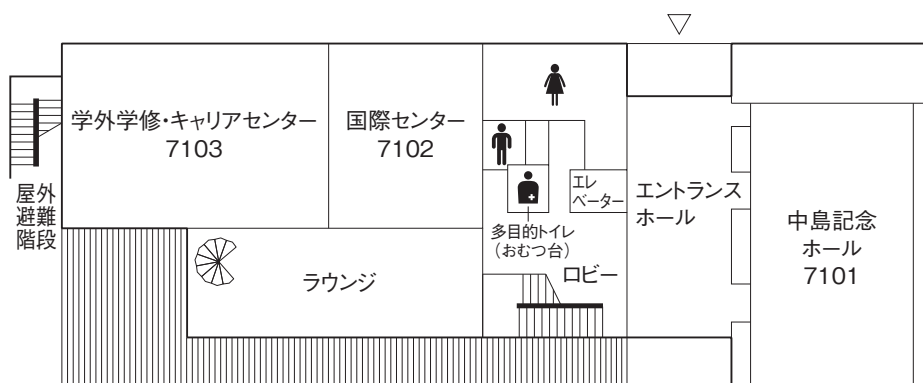
4 階



3 階

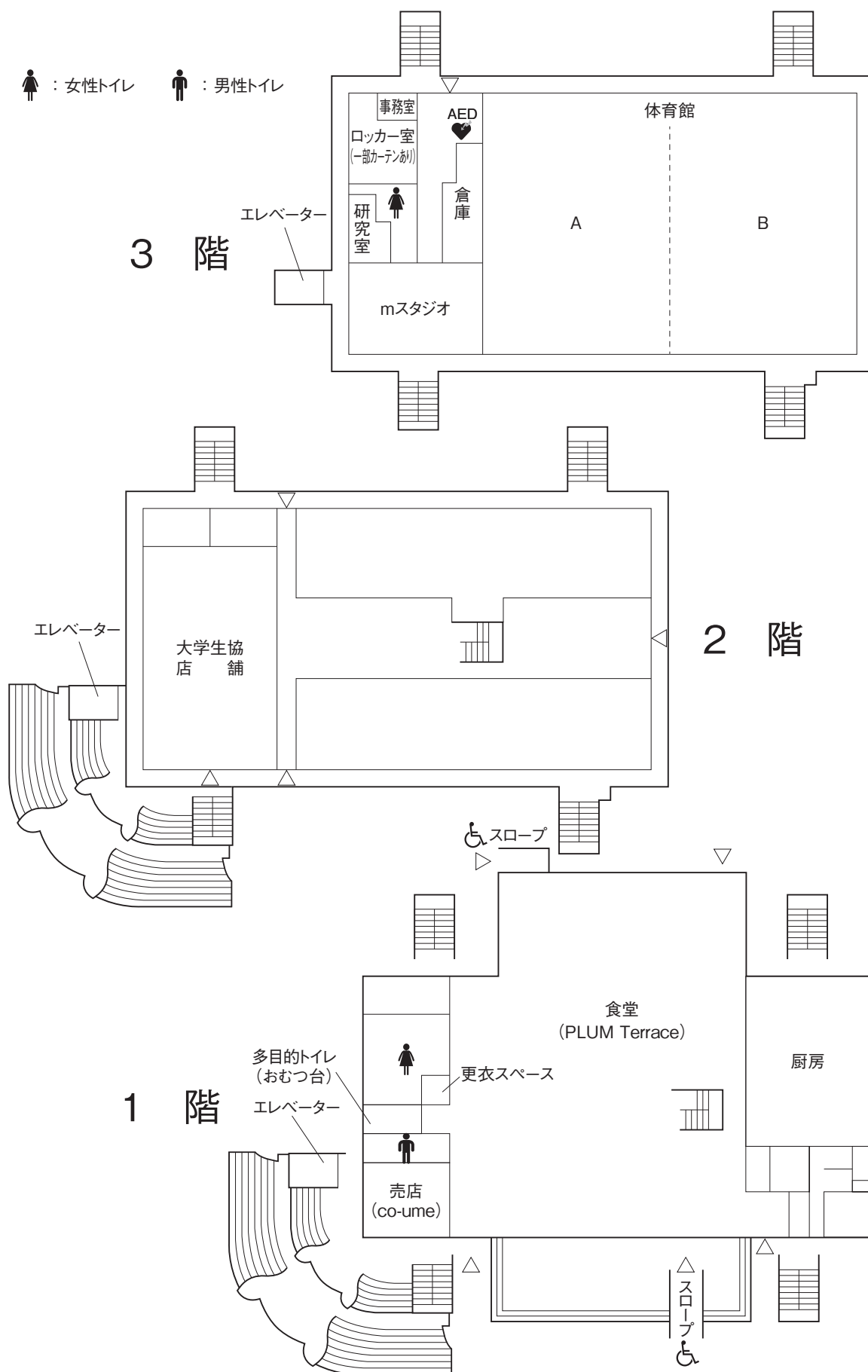


2 階



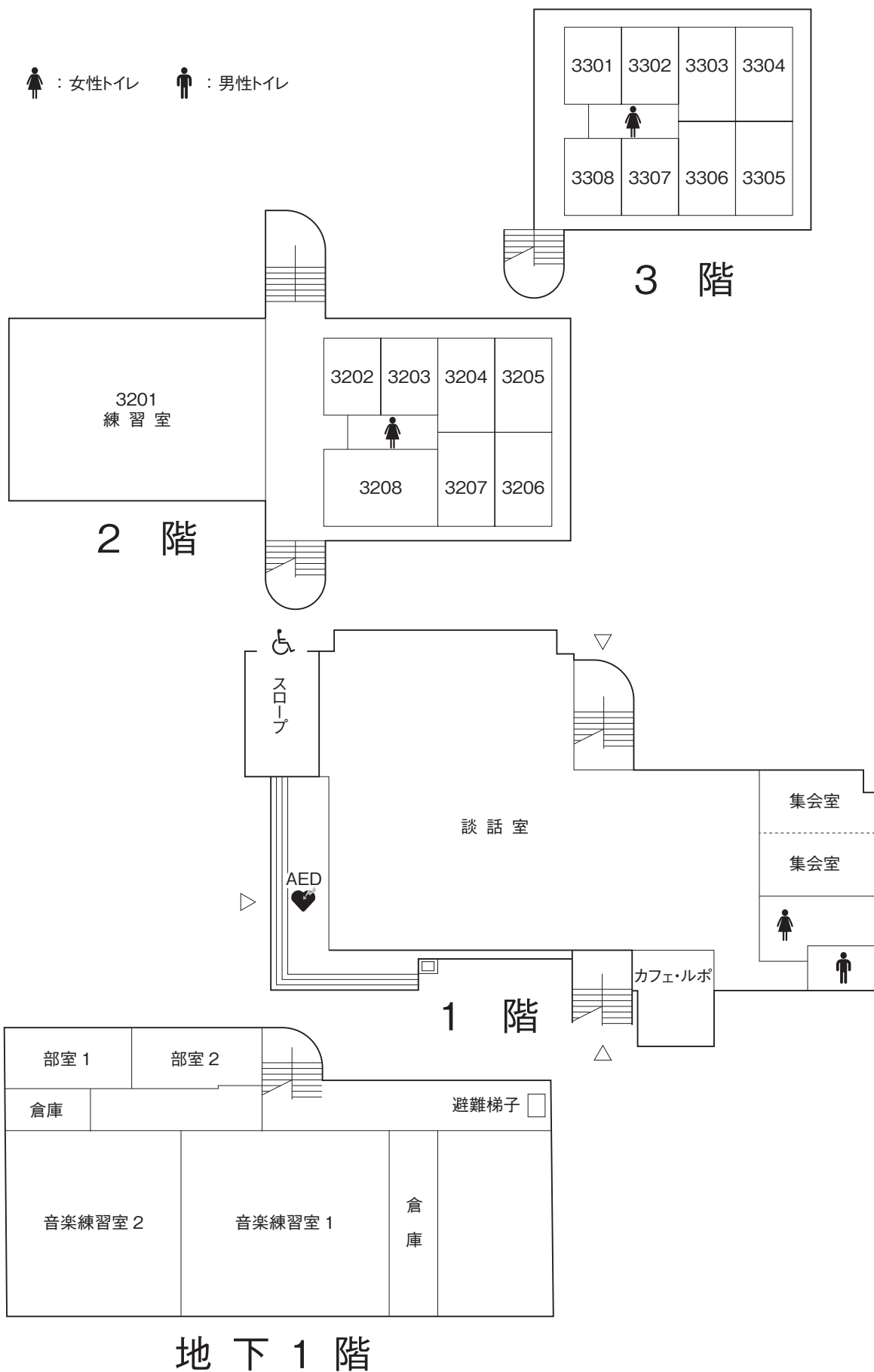
1 階

小平キャンパス 記念館

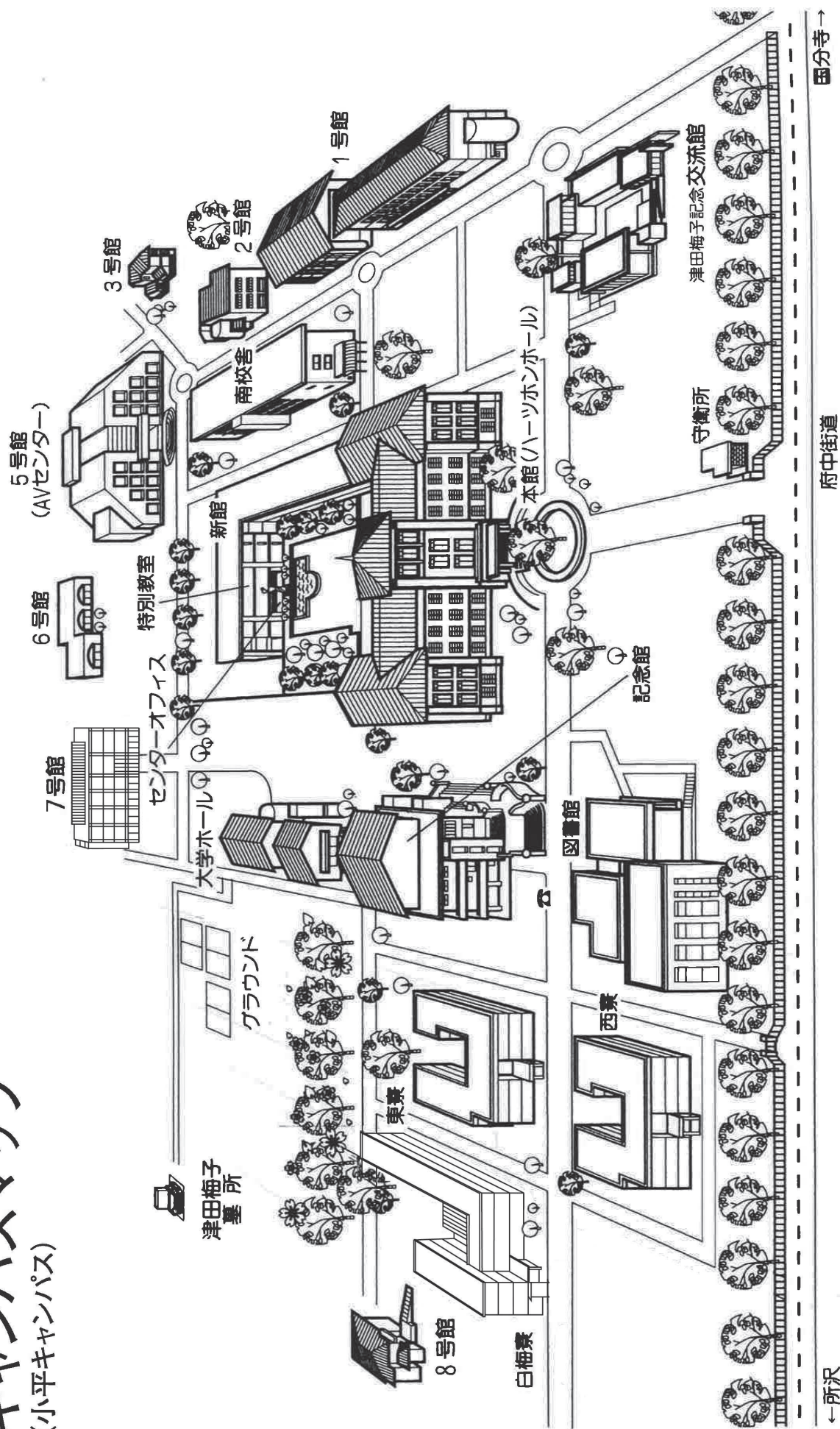


小平キャンパス 大学ホール

 : 女性トイレ
  : 男性トイレ



キャンパスマップ (小平キャンパス)



	1 8:50～10:20	2 10:30～12:00	3 13:00～14:30	4 14:40～16:10	5 16:20～17:50	6 18:00～19:30
月						
火						
水						
木						
金						



津田塾大学総合政策学部 データサイエンス応用基礎レベルプログラム

現代社会にはあらゆる課題が山積している。これからの時代に求められるのは、こうした課題を解決する力であることから、総合政策学部では課題解決能力を培う土台として「英語」「ソーシャル・サイエンス」「データ・サイエンス」を必修とし、PBL（課題解決型学習）の手法を活用しながら、学生自ら課題を発見し、その解決に向けて調査・研究を行うといった主体的な学びを展開している。

2022年度から総合政策学部データリテラシー応用基礎レベルプログラムとして、数理・データサイエンス・AIに関する内容を体系化すると共に認定プログラムとして提供する。

実施体制

■実施機関

総合政策学部データサイエンス応用基礎プログラムワーキンググループ
メンバー：総合政策学部総合政策学科主任
総合政策学部総合政策学科専任教員3名

■評価機関

全学情報教育点検評価委員会
委員長：学長
副委員長：副学長
委員：専任教員2名、学長が指名する者
事務局代表
※産業界から教育プログラム内容・手法等への意見等を適宜頂戴し、プログラムの改善に務める。

教育プログラムの構成

総合政策学部ではデータリテラシーに関わる基礎科目として、1・2年次にデータサイエンス、統計、経済分析の科目を設置し必修として全学生に単位の修得を求めている。さらに、学びの柱となる4つの課題領域の一つであるソーシャル・アーキテクチャの基幹科目、総合科目において、データサイエンス応用基礎レベルの内容を提供している。

総合政策学部データサイエンス応用基礎レベルの教育課程における必修・選択状況

必修科目	単位数	選択必修科目	単位数
データ・サイエンス入門	2	データ政策科学	2
統計A	2	インターネット概論	2
プログラミング基礎	2	プログラミング実践	2
統計B	2	計算社会科学	2
経営情報システム	2	経済分析	2
上記5科目を必修	合計 10単位	多変量解析と公的統計	2
		アプリケーション開発	2
		上記7科目より1科目2単位以上を修得	2

プログラム内容・特色

■課題解決のための実践的なデータサイエンスの利用方法について学ぶ

- 政策やビジネス場面での課題解決におけるデータサイエンスの利活用方法について実践的に習得することで、データを用いた課題解決を考案し、実施する能力を身につける。
- 統計分析や機械学習の基礎数理やプログラミング理論の学習と合わせて、統計解析ソフトRやプログラミング言語pythonを用いた実践力も身につける。
- 実際に社会で活用されている事例を用いた解説も交えることで、各自が設定した課題に対してデータサイエンスを活用した解決策やビジネスモデルの提案や実践までを行う人材を育成する。

応用基礎レベルの要素と科目の対応表

	授業に含まれている 内容・要素	データ・サイエンス 入門	統計A	プログラミング 基礎	統計B	計算社会科 学	経営情報 システム	データ政策 科学	インターネット 概論	プログラミング実 践	経済分析	アプリケーション 開発	多変量解析と 公的統計
I. データ表現と アルゴリズム	1-6. 数学基礎 (※)		○	○	○								
	1-7. アルゴリズム (※)			○						○			
	2-2. データ表現 (☆)								○	○			
	2-7. プログラミング基礎 (※)			○						○			
II. AI・データ サイエンス基礎	1-1. データ駆動型社会と データサイエンス(☆)					○	○	○					
	1-2. 分析設計 (☆)	○	○		○	○					○		
	2-1. ビッグデータとデータ エンジニアリング(☆)					○	○	○				○	
	3-1. AIの歴史と応用分野 (☆)	○		○		○	○	○					
	3-2. AIと社会 (☆)	○						○					
	3-3. 機械学習の基礎と展望 (☆)	○		○	○	○	○	○		○			
	3-4. 深層学習の基礎と展望 (☆)						○			○			
III. AI・データ サイエンス実践	3-9. AIの構築と運用 (☆)						○	○					
	3-I. データエンジニアリング基礎	○	○	○	○	○						○	
	3-II. データ・AI活用 企画・実施・評価						○	○					○

☆はモデルカリキュラムのコア学修項目

※は数理・データサイエンス・AIを学ぶ上で基盤となる学修項目

学修支援と産学連携

学修支援

■ 学生へのプログラム周知

プログラムの公式Webサイトにて、教育プログラムの内容を公開するとともに、新入生オリエンテーション、公式SNS、学生向けポータルサイト（TsudaNet）により定期的に学生に向けた情報発信を行う。

■ 相談窓口の開設

演習付きの科目ではTAを配置し、授業時間の前後に授業内容や演習課題についての質問を行うことができる。また、データサイエンスに特化した上級生メンター制度も設けており、毎日相談コーナーを開催している。教員のオフィスアワーにも、相談や質問を行うことが出来るほか、LMS上のチャット機能や会議機能を用いた質問にも対応している。

■ PDCAサイクルによる情報教育内容の検証

総合政策学部データサイエンス応用基礎プログラムの改善・進化に関する検討を機動的に行うため運営ワーキンググループ(WG)を設置する。また、全学情報教育運営委員会を中心として、本プログラムを含めた全学の 情報教育の内容や教育方法等の改善を行う。

産学・社会間連携

数理・データサイエンス・AIを社会で活用することを実践的に学び、また活用できる人材として育成するため、産学・社会間連携を積極的に進める。

以下は、既に実施している内容である。

■ 産業界との連携

数理・データサイエンス・AIを活用して、課題解決や新たな価値創造に努めている産業界と連携した学修を実施。

- ・ 授業や学生向け講演会におけるゲストスピーカー
- ・ 非常勤講師としての実務家の登用

例えば「経営情報システム」の授業ではIT企業での学外実習（会社見学）を行い、AI、データ、セキュリティなどが実用化されている事例を学ぶ。

■ 社会連携

主体性をもち、ICTを活用し、自ら発信できる力を育むPBL形式の学修を実施。

- ・ 地域連携プロジェクト
- ・ 社会連携をベースとしたワークショップ科目